

2017年度前学期
静岡大学市民開放授業

授業内容（シラバス）

授業内容の見方

1 頁～1 0 頁 市民開放授業科目一覧を掲載してあります。
 1 1 頁～ 授業内容（シラバス）を掲載してあります。

例

※授業内容は学生向けに作られています。対象学年・必修選択・単位数 等は学生向けの情報です。
 2017年2月末時点の情報を掲載していますので、内容に変更がある可能性があります。最新情報は、静岡大学ウェブサイトにてご覧いただけます。(http://www.lc.shizuoka.ac.jp/class_list.html 市民開放授業)

授業の目標
学習内容
授業計画
 これらを参考に受講したい科目を探してください。

受講要件
 こちらの要件を満たしているかご確認ください。

オフィスアワー
 意味：教員が学生の質問や相談を受けるために、特定の場所で待機する時間のこと。
 会議等、特別な用事がないかぎり、ここに記された場所・時間に教員と直接会うことができます。

科目番号
 市民開放授業で開放されている科目に割り振られた番号。
受講申込書や払込取扱書に記入する番号です。

授業科目名	ドイツ語A-2				
担当教員名	静岡 太郎		所属等	人文社会科学部	
			研究室	人文A棟422	
分担教員名					
クラス	学部共通2	学期	前学期	必修選択区分	選択
対象学年	3年	単位数	2	曜日・時限	月3・4
キーワード	文法の基礎				
● 授業の目標	ドイツ文法の基礎をしっかりと学習する。テープは使用しない。				
● 学習内容	教科書に沿って行う。				
● 授業計画	1回 話法の助動詞 2回 話法の助動詞 3回 動詞の3基本形 4回 動詞の3基本形 5回 動詞の3基本形 6回 時制 7回 時制 8回 形容詞 9回 形容詞 10回 形容詞 11回 関係代名詞 12回 受動 13回 受動 14回 接続法 15回 接続法				
● 受講要件	問わない。				
テキスト	ドイツ文法18歩				
参考書	無し				
予習・復習について	辞書を丹念に引いて、予習復習を行うこと。				
成績評価の方法・基準	試験の成績のみで評価を行う。				
● オフィスアワー	火曜日7・8時限 研究室にて。 事前にメール連絡を。				
担当教員からのメッセージ	自分の勉強不足を教員になすりつけないこと。				

※シラバスは各学部で作成されていますので、多少並びが異なる場合があります。

表の見方

■No.

◇科目番号です。市民開放授業で開放されている科目に割り振られた番号で、授業内容（シラバス）の下端にある番号や、市民開放授業時間割の表の番号と一致しています。受講申込書や払込取扱票にはこの番号を記入します。

■学部等

◇授業を実施している学部等を指します。

■学期

◇この欄に「前学期（前半）」「前学期（後半）」と記載された授業については、前学期をさらに半分に分けて開講されます。「前学期（後半）」の開始時期は前学期スケジュール（P2）でご確認ください。

■時間割

◇授業時間は、次のとおりです。

時限	1・2	3・4	5・6	7・8	9・10
時間	8:40 } 10:10	10:20 } 11:50	12:45 } 14:15	14:25 } 15:55	16:05 } 17:35

■教室名

◇静岡キャンパス

- ・共＝共通教育棟、人＝人文社会科学部棟、教＝教育学部棟、理＝理学部棟、農＝農学部棟の略です。
- ・アルファベットは、それぞれの棟を表します。たとえば、「共A201」は、共通教育A棟201教室のことを指します。

◇浜松キャンパス

- ・情＝情報学部棟、総＝総合研究棟、1～8＝工学部1～8号館の略です。

※授業開始当初は、受講学生数等により教室を変更する場合がありますので、掲示に注意してください。

■受入可能人数

◇1科目につき若干名とします。

◇受講の可否については、教員の判断に委ねられますので、担当教員に確認してください。

◇正規の授業の一部を開放し、本学の学生と一緒に受講していただくため、本学の学生だけで講義室の収容人員を超える場合や、同じ科目に多数の応募があった場合には、受講できないことがあります。

■難易度

◇市民開放授業科目の難易度は、授業の内容に応じて、次の4段階に区分しています。ご自分の実力に適した授業をお選びください。

- (A) 入門的な内容で、高校卒業程度の学力を必要とします。〈大学1年次対象の授業に相当〉
- (B) より進んだ内容であり、当該専門分野についての一定の基礎知識が必要となります。〈大学2～3年次対象の授業に相当〉
- (C) 高度な内容であり、当該専門分野について系統立った学習がなされていることを前提とするものです。〈大学3～4年次対象の授業に相当〉
- (D) 専門的な知識が必要なため、受講登録にあたり担当教員と面談を行います。〈大学3～4年次対象の授業に相当〉

■受講料

◇半期全14回で9,500円が基本となっていますが、週2回開講の場合は14,700円、「前学期（前半）」「前学期（後半）」の場合は6,800円です。

科目一覧には2017年2月末時点の情報を掲載していますので、内容に変更がある可能性があります。最新情報は、静岡大学ウェブサイトにてご覧いただけます。(http://www.LC.shizuoka.ac.jp/class_list.html 市民開放授業)

2017年度 静岡大学市民開放授業科目一覧

〔静岡キャンパス〕

〈前学期〉

No.	学部等	授業科目名	(代表)担当教員名	学期	曜日・ 時限	教室名	受入可 能人数	難易度	講習料
1	全学	初修外国語(ドイツ語)入門Ⅰ	大菌 正彦	前学期	月3・4	共A403	若干名	A	9,500円
2	全学	初修外国語(フランス語)入門Ⅰ	浅野 幸生	前学期	月3・4	共P101	若干名	A	9,500円
3	全学	初修外国語(フランス語)入門Ⅰ	安永 愛	前学期	月3・4	共A102	若干名	A	9,500円
4	全学	初修外国語(現代韓国語)入門Ⅰ	南 富鎮	前学期	月3・4	共A305	若干名	B	9,500円
5	全学	初修外国語(フランス語)入門Ⅰ	安永 愛	前学期	月5・6	共A102	若干名	A	9,500円
6	全学	ことばと表現	中村 ともえ	前学期	月5・6	未定	若干名	B	9,500円
7	全学	数学の世界	山田 耕三	前学期	月5・6	未定	若干名	A	9,500円
8	全学	数学Ⅱ(線形代数A)	木村 杏子	前学期	月7・8	共A302	若干名	A	9,500円
9	全学	哲学	堂園 俊彦	前学期	火3・4	未定	若干名	A	9,500円
10	全学	心理学	須藤 智	前学期	火3・4	未定	若干名	B	9,500円
11	全学	歴史と文化	黒川 みどり	前学期	火3・4	未定	若干名	B	9,500円
12	全学	物理の世界	山崎 昌一	前学期	火3・4	未定	若干名	A	9,500円
13	全学	数理の構造	鈴木 信行	前学期	火3・4	未定	若干名	A	9,500円
14	全学	生命科学	堀池 徳祐	前学期	火3・4	未定	若干名	A	9,500円
15	全学	化学Ⅲ(有機化学)	山中 正道	前学期	水1・2	共D2	若干名	B	9,500円
16	全学	化学Ⅲ(有機化学)	山本 歩	前学期	水1・2	共A201	若干名	A	9,500円
17	全学	初修外国語(フランス語)入門Ⅱ	浅野 幸生	前学期	水5・6	共P101	若干名	A	9,500円
18	全学	地球科学Ⅰ(基礎A)	北村 晃寿	前学期	木1・2	共B301	若干名	A	9,500円
19	全学	数学Ⅰ(微分積分A)	板津 誠一	前学期	木3・4	共A202	若干名	A	9,500円
20	全学	生物学A	鳥山 優	前学期	金1・2	共D1	若干名	A	9,500円
21	全学	静岡県の防災・減災と原子力	大矢 恭久	前学期	金3・4	未定	若干名	B	9,500円
22	全学	地震防災	牛山 素行	前学期	金3・4	未定	若干名	A	9,500円
23	全学	ジェンダーからみる現代社会	跡部 千慧	前学期	金3・4	未定	若干名	C	9,500円
24	全学	公共施設デザイン論	岩田 孝仁	前学期	金3・4	未定	若干名	B	9,500円
25	全学	平和学	橋本 誠一	前学期	金3・4	未定	若干名	A	9,500円
26	全学	暮らしの中の新素材	近藤 満	前学期	金3・4	未定	若干名	A	9,500円
27	全学	人間環境と分子科学	山本 歩	前学期	金3・4	未定	若干名	A	9,500円
28	学環	実践からの防災行政論	岩田 孝仁	前学期	火3・4	ABP1	若干名	A	9,500円
29	人文社会科学部	金融論Ⅰ	鳥畑 與一	前学期	月1・2	人大講	若干名	B	9,500円
30	人文社会科学部	中国文学概論Ⅰ	埋田 重夫	前学期	月3・4	人B402	若干名	B	9,500円

No.	学部等	授業科目名	(代表)担当教員名	学期	曜日・ 時限	教室名	受入可 能人数	難易度	講習料
31	人文社会科学部	英米事情	ユーリック	前学期	月3・4	人E101	若干名	B	9,500円
32	人文社会科学部	刑法総論Ⅰ	津田 雅也	前学期	月3・4	人B301	若干名	A	9,500円
33	人文社会科学部	社会経済論Ⅰ	遠山 弘徳	前学期	月3・4	人E201	若干名	B	9,500円
34	人文社会科学部	フランス言語文化演習Ⅲ	浅野 幸生	前学期	月5・6	人B208	若干名	C	9,500円
35	人文社会科学部	社会学概論	白井 千晶	前学期	月7・8	共A301	若干名	A	9,500円
36	人文社会科学部	法学入門	横濱 竜也	前学期	月7・8	人B401	若干名	A	9,500円
37	人文社会科学部	経済数学Ⅰ	黄 愛珍	前学期	月7・8	共B401	若干名	B	9,500円
38	人文社会科学部	地域政策Ⅱ	太田 隆之	前学期	月7・8	共B501	若干名	B	9,500円
39	人文社会科学部	日本文学史Ⅲ	袴田 光康	前学期	月9・10	人B301	若干名	B	9,500円
40	人文社会科学部	会社法	西川 義晃	前学期	火1・2	人E201	若干名	C	14,700円
					金1・2	人B401			
41	人文社会科学部	仕事の社会学	吉田 崇	前学期	火3・4	人B301	若干名	B	9,500円
42	人文社会科学部	地方財政論Ⅰ	川瀬 憲子	前学期	火3・4	人E201	若干名	B	9,500円
43	人文社会科学部	哲学の歴史Ⅰ	田中 伸司	前学期	火5・6	人B403	若干名	B	9,500円
44	人文社会科学部	環境共生と地域の社会学	平岡 義和	前学期	火5・6	共A201	若干名	B	9,500円
45	人文社会科学部	日本中世文化史	貴田 潔	前学期	火5・6	人B402	若干名	C	9,500円
46	人文社会科学部	比較言語文化各論Ⅱ	熊谷 滋子	前学期	火5・6	人B205	若干名	A	9,500円
47	人文社会科学部	人権各論	根本 猛	前学期	火5・6	人B401	若干名	A	9,500円
48	人文社会科学部	倫理学基礎論	堂園 俊彦	前学期	火7・8	人B403	若干名	B	9,500円
49	人文社会科学部	人格心理学Ⅱ	笠井 仁	前学期	火7・8	人B301	若干名	B	9,500円
50	人文社会科学部	中国語コミュニケーション論	張 盛開	前学期	火7・8	人B205	若干名	B	9,500円
51	人文社会科学部	フランス語学概論Ⅰ	浅野 幸生	前学期	火9・10	人B208	若干名	B	9,500円
52	人文社会科学部	世界経済論Ⅱ	安藤 研一	前学期	水1・2	共L306	若干名	C	9,500円
53	人文社会科学部	日本語学概論Ⅰ	勝山 幸人	前学期	水3・4	人B301	5	C	9,500円
54	人文社会科学部	中国言語文化基礎講読Ⅲ	埋田 重夫	前学期	水3・4	人B206	若干名	B	9,500円
55	人文社会科学部	アメリカ文学文化基礎読解Ⅰ	レッドフォード	前学期	水3・4	人B403	若干名	B	9,500円
56	人文社会科学部	刑法各論Ⅰ	津田 雅也	前学期	水3・4	共L306	若干名	B	9,500円
57	人文社会科学部	財政学Ⅰ	高松 慶裕	前学期	水3・4	人E201	若干名	C	9,500円
58	人文社会科学部	日本思想概説	斎藤 真希	前学期	水5・6	人B303	若干名	B	9,500円
59	人文社会科学部	中国言語文化講読Ⅲ	張 盛開	前学期	水5・6	人B304	若干名	B	9,500円
60	人文社会科学部	ギリシア語Ⅰ	田中 伸司	前学期	水7・8	人C203	若干名	A	9,500円
61	人文社会科学部	異常心理学Ⅱ	田辺 肇	前学期	水7・8	人B402	若干名	B	9,500円
62	人文社会科学部	劇場・音楽堂概論	井原 麗奈	前学期	水7・8	人B201	若干名	A	9,500円
63	人文社会科学部	西洋史概説	藤井 真生	前学期	水9・10	人B402	若干名	B	9,500円
64	人文社会科学部	アジア社会史Ⅰ	戸部 健	前学期	木1・2	人B402	若干名	C	9,500円

No.	学部等	授業科目名	(代表)担当教員名	学期	曜日・ 時限	教室名	受入可 能人数	難易度	講習料
65	人文社会科学部	憲法総論・統治機構	小谷 順子	前学期	木1・2	人E201	若干名	A	9,500円
66	人文社会科学部	英米言語文化基礎論	大村 光弘	前学期	木3・4	人B401	若干名	A	9,500円
67	人文社会科学部	イギリス文学文化読解 I	久木田 直江	前学期	木3・4	人B303	2	D	9,500円
68	人文社会科学部	ミクロ経済学 I	中川 訓範	前学期	木3・4	人大講	若干名	A	9,500円
69	人文社会科学部	経済統計学	上藤 一郎	前学期	木3・4	共L303	若干名	C	9,500円
70	人文社会科学部	日本文学概論 I	小二田 誠二	前学期	金5・6	人B303	若干名	C	9,500円
71	人文社会科学部	英語学概論 II	小町 将之	前学期(後半)	金3・4	人B403	若干名	B	9,500円
					金5・6	人B403			
72	人文社会科学部	フランス文学概論 I	安永 愛	前学期	金3・4	人B304	若干名	B	9,500円
73	人文社会科学部	ドイツ言語文化基礎演習 I	大藺 正彦	前学期	金1・2	人B204	若干名	B	9,500円
74	人文社会科学部	比較文化演習IV	南 富鎮	前学期	金3・4	人B208	3	D	9,500円
75	人文社会科学部	政治思想 I	井柳 美紀	前学期	金3・4	人B401	若干名	A	9,500円
76	人文社会科学部	統計学 I	上藤 一郎	前学期	金3・4	人E201	若干名	A	9,500円
77	人文社会科学部	フランス言語文化特論 I	安永 愛	前学期	金5・6	人B203	若干名	C	9,500円
78	人文社会科学部	比較文化概論 I	大原 志麻	前学期	金5・6	人B402	3	B	9,500円
79	人文社会科学部	アジア経済論 I	朴 根好	前学期	金5・6	共L306	若干名	B	9,500円
80	人文社会科学部	刑事訴訟法 I	津田 雅也	前学期	金7・8	人B301	若干名	C	9,500円
81	人文社会科学部	法制史 I	橋本 誠一	前学期	金7・8	人E201	若干名	B	9,500円
82	人文社会科学部	比較文学文化基礎講読VI	南 富鎮	前学期	金9・10	人B402	3	A	9,500円
83	人文社会科学部	会計学 I	永田 守男	前学期	金9・10	共B301	若干名	B	9,500円
84	教育学部	線形代数学基礎	四之宮 佳彦	前学期	月1・2	教G204	若干名	A	9,500円
85	教育学部	天文学	内山 秀樹	前学期	月5・6	教B216	5名程度まで	A	6,800円
86	教育学部	書写研究	杉崎 哲子	前学期	月7・8	教A601	若干名	A	9,500円
87	教育学部	集合と論理基礎	四之宮 佳彦	前学期	火3・4	教G202	若干名	A	9,500円
88	教育学部	幾何学 I	四之宮 佳彦	前学期	火7・8	教G201	若干名	B	9,500円
89	教育学部	微分積分学基礎	大和田 智義	前学期	火9・10	教G202	若干名	A	9,500円
90	教育学部	解析学 I	大和田 智義	前学期	水1・2	教G201	若干名	B	9,500円
91	教育学部	代数学 I	谷本 龍二	前学期	水5・6	教B216	若干名	B	9,500円
92	教育学部	書写研究	杉崎 哲子	前学期	水7・8	教A601	若干名	A	9,500円
93	教育学部	書写基礎	杉崎 哲子	前学期	木1・2	教A601	若干名	A	9,500円
94	理学部	放射線計測・管理学概論	大矢 恭久	前学期	月1・2	理B202	若干名	C	9,500円
95	理学部	シミュレーション数理学 II	久村 裕憲	前学期	月3・4	理B204	若干名	C	9,500円
96	理学部	物理数学 I	嘉規 香織	前学期	月3・4	理B203	若干名	B	9,500円
97	理学部	物理光学	富田 誠	前学期(前半)	月3・4	共D1	若干名	C	6,800円
98	理学部	量子力学Ⅲ	鈴木 淳史	前学期	月3・4	理B211	若干名	C	9,500円

No.	学部等	授業科目名	(代表)担当教員名	学期	曜日・ 時限	教室名	受入可 能人数	難易度	講習料
99	理学部	有機化学Ⅲ	塚田 直史	前学期	月3・4	共D2	若干名	B	9,500円
100	理学部	発生生物学Ⅰ	徳元 俊伸	前学期	月3・4	理B202	若干名	B	9,500円
101	理学部	植物生理学	粟井 光一郎	前学期	月3・4	理B212	若干名	C	9,500円
102	理学部	生物環境科学概論Ⅰ	塚越 哲	前学期	月3・4	理B201	若干名	B	9,500円
103	理学部	多様性生物学	塚越 哲	前学期(前半)	月3・4	共C611	若干名	C	6,800円
104	理学部	構造地質学	道林 克禎	前学期(後半)	月3・4	共C611	若干名	C	6,800円
105	理学部	線型代数学Ⅰ	浅芝 秀人	前学期	月7・8	理B204	若干名	A	9,500円
106	理学部	数理論理学	依岡 輝幸	前学期	月7・8	共A103	若干名	C	9,500円
107	理学部	微分積分学Ⅲ	松本 敏隆	前学期	火1・2	理B204	若干名	B	9,500円
108	理学部	有機化学Ⅰ	坂本 健吉	前学期	火1・2	理B202	若干名	A	9,500円
109	理学部	熱化学	河合 信之輔	前学期	火1・2	共A202	若干名	B	9,500円
110	理学部	放射化学Ⅱ	矢永 誠人	前学期	火1・2	理B213	若干名	C	9,500円
111	理学部	生化学	天野 豊己	前学期	火1・2	理B212	若干名	B	9,500円
112	理学部	内分泌学	鈴木 雅一	前学期	火1・2	理B203	若干名	C	9,500円
113	理学部	層序学	北村 晃寿	前学期	火1・2	理B201	若干名	C	9,500円
114	理学部	統計処理論	板津 誠一	前学期	火3・4	理B204	若干名	C	9,500円
115	理学部	電磁気学Ⅲ	松本 正茂	前学期	火3・4	理B203	若干名	C	9,500円
116	理学部	量子化学Ⅱ	松本 剛昭	前学期	火3・4	理B213	若干名	C	9,500円
117	理学部	発生生物学Ⅱ	塩尻 信義	前学期	火3・4	理B212	若干名	C	9,500円
118	理学部	地球環境学	宗林 留美	前学期	火3・4	共C611	若干名	C	9,500円
119	理学部	線型代数学Ⅲ	毛利 出	前学期	火5・6	理B204	若干名	B	9,500円
120	理学部	生物多様性科学	粟井 光一郎	前学期	火5・6	理B212	若干名	A	9,500円
121	理学部	幾何学	久村 裕憲	前学期	火7・8	理B204	若干名	C	9,500円
122	理学部	物理数学Ⅱ	森田 健	前学期	水1・2	理B203	若干名	C	9,500円
123	理学部	基礎生化学	瓜谷 眞裕	前学期	水1・2	理B202	若干名	B	9,500円
124	理学部	有機化学Ⅴ	小林 健二	前学期	水1・2	理B213	若干名	C	9,500円
125	理学部	地球物理学	生田 領野	前学期	水1・2	理B201	若干名	C	9,500円
126	理学部	電磁気学Ⅰ	嶋田 大介	前学期	水3・4	理B203	若干名	B	9,500円
127	理学部	相対性理論	森田 健	前学期(前半)	水3・4	理B211	若干名	C	6,800円
128	理学部	溶液化学	加藤 知香	前学期	水3・4	共D2	若干名	B	9,500円
129	理学部	情報生化学	大吉 崇文	前学期	水3・4	理B213	若干名	C	9,500円
130	理学部	細胞生物学	丑丸 敬史	前学期	水3・4	理B212	若干名	C	9,500円
131	理学部	地球ダイナミクス概論Ⅰ	森下 祐一	前学期	水3・4	理B201	若干名	B	9,500円
132	理学部	堆積学	北村 晃寿	前学期(前半)	水3・4	共C611	若干名	C	6,800円
133	理学部	地球環境微生物学	木村 浩之	前学期(後半)	水3・4	共C611	若干名	C	6,800円

No.	学部等	授業科目名	(代表)担当教員名	学期	曜日・時限	教室名	受入可能人数	難易度	講習料
134	理学部	集合・位相	横山 美佐子	前学期	水5・6	理B204	若干名	B	9,500円
135	理学部	基礎物理学Ⅰ	松山 晶彦	前学期(前半)	水5・6	理B203	若干名	A	9,500円
					金3・4				
136	理学部	基礎物理学Ⅱ	松山 晶彦	前学期(後半)	水5・6	理B203	若干名	A	9,500円
					金3・4				
137	理学部	代数学	毛利 出	前学期	水7・8	理B203	若干名	C	9,500円
138	理学部	地球科学入門Ⅰ	平内 健一	前学期	木1・2	理B202	若干名	A	9,500円
139	理学部	統計力学Ⅰ	鈴木 淳史	前学期	木3・4	理B203	若干名	C	9,500円
140	理学部	構造錯体化学	近藤 満	前学期	木3・4	理B213	若干名	C	9,500円
141	理学部	植物系統分類学	徳岡 徹	前学期	木3・4	理B212	若干名	C	9,500円
142	理学部	放射線物理学概論	近田 拓未	前学期	木5・6	共B501	若干名	B	9,500円
143	理学部	量子力学Ⅰ	松本 正茂	前学期	金1・2	理B203	若干名	C	9,500円
144	理学部	無機化学Ⅱ	守谷 誠	前学期	金1・2	理B213	若干名	C	9,500円
145	理学部	生物学Ⅰ	徳元 俊伸	前学期	金1・2	共A203	若干名	A	9,500円
146	理学部	分子遺伝学	山内 清志	前学期	金1・2	理B212	若干名	C	9,500円
147	理学部	岩石学	道林 克禎	前学期	金1・2	理B202	若干名	C	9,500円
148	理学部	微分積分学Ⅱ	田中 直樹	前学期	金3・4	理B204	若干名	B	9,500円
149	理学部	解析学	田中 直樹	前学期	金5・6	理B204	若干名	C	9,500円
150	理学部	物理実験学Ⅰ	嶋田 大介	前学期	金5・6	理B203	若干名	B	9,500円
151	理学部	物理実験学Ⅱ	三重野 哲	前学期	金5・6	理B213	若干名	C	9,500円
152	理学部	地球科学入門Ⅱ	鈴木 雄太郎	前学期	金7・8	理B202	若干名	A	9,500円
153	農学部	有機化学概論	河合 真吾	前学期	月1・2	農講義室2	若干名	B	9,500円
154	農学部	細胞生物学	笹浪 知宏	前学期	月1・2	農講義室1	若干名	B	9,500円
155	農学部	基礎生態学	澤田 均	前学期	月3・4	農講義室1	若干名	B	9,500円
156	農学部	栄養化学	森田 達也	前学期	月3・4	農講義室2	若干名	B	9,500円
157	農学部	森林土木工学	近藤 恵市	前学期	月3・4	農講義室6	若干名	B	9,500円
158	農学部	土壌微生物学	鮫島 玲子	前学期	火1・2	農講義室4	若干名	B	9,500円
159	農学部	生化学A	木村 洋子	前学期	火1・2	農講義室1	若干名	B	9,500円
160	農学部	保全生物学	山下 雅幸	前学期	火1・2	農講義室7	若干名	A	9,500円
161	農学部	応用微生物学	徳山 真治	前学期	火1・2	農講義室3	若干名	B	9,500円
162	農学部	室内環境学	渡邊 拡	前学期	火5・6	農講義室7	若干名	B	9,500円
163	農学部	土壌圏科学	南雲 俊之	前学期	火5・6	農大講義室	若干名	C	9,500円
164	農学部	作物学	稲垣 栄洋	前学期	火7・8	農講義室1	若干名	A	9,500円
165	農学部	造林学	飯尾 淳弘	前学期	火7・8	農講義室6	若干名	D	9,500円
166	農学部	山地保全学	逢坂 興宏	前学期	水1・2	農講義室2	若干名	B	9,500円

No.	学部等	授業科目名	(代表)担当教員名	学期	曜日・ 時限	教室名	受入可 能人数	難易度	講習料
167	農学部	生物工学	朴 龍洙	前学期	水1・2	農講義室9	若干名	C	9,500円
168	農学部	農学基礎論	竹之内 裕文	前学期	水1・2	農大講義室	若干名	A	6,800円
169	農学部	分析化学1	森田 明雄	前学期	水3・4	農大講義室	若干名	B	9,500円
170	農学部	木質機能科学	小林 研治	前学期	水3・4	農講義室3	若干名	B	9,500円
171	農学部	食品分析化学	河岸 洋和	前学期	水3・4	農講義室4	若干名	C	9,500円
172	農学部	木質利用化学	河合 真吾	前学期	水3・4	農講義室6	若干名	C	9,500円
173	農学部	花卉園芸学	中塚 貴司	前学期	水3・4	農講義室1	若干名	B	9,500円
174	農学部	木材接着学	山田 雅章	前学期	木1・2	農講義室6	若干名	B	9,500円
175	農学部	収穫後生理学	加藤 雅也	前学期	木1・2	農大講義室	若干名	B	9,500円
176	農学部	動物生命科学	高坂 哲也	前学期	木3・4	農講義室1	若干名	B	9,500円
177	農学部	環境微生物学	小川 直人	前学期	木3・4	農講義室6	若干名	B-C	9,500円
178	農学部	材料力学	安村 基	前学期	金1・2	農講義室6	若干名	B	9,500円
179	農学部	植物栄養学	森田 明雄	前学期	金1・2	農大講義室	若干名	B	9,500円
180	農学部	分子生物学	加藤 竜也	前学期	金1・2	農講義室2	若干名	B	9,500円
181	農学部	園芸科学	鈴木 克己	前学期	金1・2	農講義室7	若干名	A	9,500円
182	農学部	木材組織学	小島 陽一	前学期	金1・2	農講義室4	若干名	A	6,800円
183	農学部	農と食の経済学	柴垣 裕司	前学期	金1・2	農講義室1	若干名	A	9,500円
184	農学部	農と食の哲学	竹之内 裕文	前学期	金3・4	農講義室3	若干名	B	9,500円

<通年>

No.	学部等	授業科目名	(代表)担当教員名	学期	曜日・ 時限	教室名	受入可 能人数	難易度	講習料
185	人文社会科学部	中国語学概論	張 盛開	通年	火5・6	人B203	若干名	B	14,700円
186	人文社会科学部	民法総論	米谷 壽代	通年	水3・4	共B501	若干名	A	14,700円

A 入門的な内容であり、高校卒業程度の学力を必要とするもの(大学1年次対象の授業)

B より進んだ内容であり、当該専門分野についての一定の基礎知識が必要となるもの(大学2～3年次対象の授業)

C 高度な内容であり、当該専門分野について系統立てた学習がなされていることを前提とするもの(大学3～4年次対象の授業)

※演習の難易度は「D」になります。

D 専門的な知識が必要なため、履修登録にあたり担当教員と面談を行う。(大学3～4年次対象の授業)

2017年度 静岡大学市民開放授業科目一覧

〔浜松キャンパス〕

〈前学期〉

No.	学部等	授業科目名	(代表)担当教員名	学期	曜日・ 時限	教室名	受入可 能人数	難易度	講習料
187	全学	生物学 I	吉田 信行	前学期	月3・4	工5-11	若干名	A	9,500円
188	全学	哲学	吉田 寛	前学期	火1・2	工8-11	若干名	B	9,500円
189	全学	化学の世界	梅本 宏信	前学期	火1・2	総21	若干名	A	9,500円
190	全学	法と社会	原田 伸一郎	前学期	火3・4	工5-24	若干名	A	9,500円
191	全学	ことばと表現	森本 隆子	前学期	火3・4	工8-11	若干名	A	9,500円
192	全学	初修外国語(フランス語)入門Ⅱ	田中 柊子	前学期	火5・6	情25	若干名	A	9,500円
193	全学	線形代数学 I および演習	中島 徹	前学期	火5・6	工5-24	若干名	A	9,500円
194	全学	線形代数学 I および演習	中島 徹	前学期	火7・8	工5-24	若干名	A	9,500円
195	全学	現代の社会	中 正樹	前学期	水3・4	工5-21	若干名	A	9,500円
196	全学	芸術論	高松 良幸	前学期	水3・4	工5-11	若干名	A	9,500円
197	全学	ことばと表現	田中 柊子	前学期	水3・4	工1-31	若干名	B	9,500円
198	全学	経済と社会	永吉 実武	前学期	水3・4	工8-21	若干名	A	9,500円
199	全学	線形代数学 I および演習	中島 徹	前学期	水5・6	総24	若干名	A	9,500円
200	全学	力学・波動 I	岡部 拓也	前学期	水5・6	工5-21	若干名	A	9,500円
201	全学	線形代数学 I および演習	中島 徹	前学期	水7・8	総24	若干名	A	9,500円
202	全学	工学基礎化学 I	植田 一正	前学期	木1・2	工5-24	若干名	A	9,500円
203	全学	工学基礎化学 I	梅本 宏信	前学期	木1・2	工6-22	若干名	A	9,500円
204	全学	工学基礎化学 I	植田 一正	前学期	木3・4	工5-24	若干名	A	9,500円
205	全学	電磁気学	岡部 拓也	前学期	金1・2	工5-21	若干名	B	9,500円
206	全学	ことば	近藤 真	前学期	金3・4	工6-22	若干名	A	9,500円
207	全学	こころの深層	太田 裕一	前学期	金3・4	工1-31	若干名	C	9,500円
208	全学	エネルギーと環境	大矢 恭久	前学期	金3・4	工5-24	若干名	B	9,500円
209	全学	科学技術と倫理を考える	清水 一男	前学期	金3・4	総31	若干名	B	9,500円
210	全学	初修外国語(フランス語)入門 I	田中 柊子	前学期	金5・6	情25	若干名	A	9,500円
211	全学	工学基礎化学 I	植田 一正	前学期	金9・10	工1-31	若干名	A	9,500円
212	工学部	塑性加工学	早川 邦夫	前学期	月1・2	総24	若干名	C	9,500円
213	工学部	基礎電子回路	猪川 洋	前学期	水1・2	工8-21	若干名	B	9,500円
214	工学部	センサ工学	坂田 肇	前学期	水3・4	工2-21	若干名	C	9,500円
215	工学部	電気電子材料工学	喜多 隆介	前学期	木3・4	工2-22	若干名	C	9,500円
216	工学部	システム基礎数学	宮崎 倫子	前学期	木3・4	工5-21	若干名	A	9,500円

No.	学部等	授業科目名	(代表)担当教員名	学期	曜日・ 時限	教室名	受入可 能人数	難易度	講習料
217	工学部	弾性力学	島村 佳伸	前学期	金1・2	総31	若干名	C	9,500円
218	情報学部	博物館概論	高松 良幸	前学期	月1・2	情22	若干名	A	9,500円
219	情報学部	人間情報処理論	竹内 勇剛	前学期	月5・6	情14	若干名	B	9,500円
220	情報学部	博物館経営論	高松 良幸	前学期	月9・10	情23	若干名	A	9,500円
221	情報学部	メディア・デザイン論	赤尾 晃一	前学期	火3・4	情24	若干名	B	9,500円
222	情報学部	ジェンダー論	笹原 恵	前学期	火9・10	情24	若干名	B	9,500円
223	情報学部	コミュニケーション・メディア史	森野 聡子	前学期	金5・6	情14	若干名	B	9,500円

A 入門的な内容であり、高校卒業程度の学力を必要とするもの(大学1年次対象の授業)

B より進んだ内容であり、当該専門分野についての一定の基礎知識が必要となるもの(大学2～3年次対象の授業)

C 高度な内容であり、当該専門分野について系統立てた学習がなされていることを前提とするもの(大学3～4年次対象の授業)

※演習の難易度は「D」になります。

D 専門的な知識が必要なため、履修登録にあたり担当教員と面談を行う。(大学3～4年次対象の授業)

授業科目名	初修外国語（ドイツ語）入門 I (Basic German I)				
担当教員名	大菌 正彦 (OZONO Masahiko)		所属等	学術院人文社会科学領域	
			研究室	人文 A 棟 4 2 3	
分担教員名					
クラス	学部共通 4	学期	前期		必修選択区分 選必
対象学年	1 年	単位数	1	曜日・時限	月 3・4
キーワード	ドイツ語、ドイツ文化、言語運用能力、多文化理解、文法				
授業の目標	読む・書く・聞く・話すという 4 技能のバランスに配慮して、ドイツ語の基礎的運用能力を身につけることが目的です。また、英語以外の外国語を学ぶことで、文化の多元的理解を目指します。				
学習内容	教科書の内容に沿って学習していきます。原則として 2 回の授業で 1 課ずつ進めます。各課は、大きく「ダイアログ」「文法説明」「練習」「補足」から成ります。授業では、個々の項目ごとに練習、小テストなどを織り交ぜながら進めていきます。また、折に触れ、さまざまなドイツ事情についても紹介します。				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 授業のオリエンテーション 2. つづりの読み方と発音 3. Lektion 1. Morgens trinkt Anna immer Kaffee. 4. 文法：動詞の人称変化 5. Lektion 2. Der Baum ist groß. 6. 文法：名詞の性・数・格 7. Lektion 3. Helga denkt, dass Japaner immer einen Kimono tragen. 8. 文法：前置詞・接続詞 9. Lektion 4. Sabine freut sich über das Geschenk. 10. 文法：人称代名詞・再帰代名詞・再帰動詞 11. Lektion 5. Herr Müller hat kein Auto. 12. 文法：冠詞類 13. Lektion 6. Der kleine Hund heißt Waldi. 14. 文法：形容詞の格変化・比較変化 15. まとめと復習 16. 期末試験 				
受講要件	クラス指定に従って履修してください。				
テキスト	大菌正彦『総合学習・異文化理解のドイツ語』朝日出版社 (2,500 円＋税)				
参考書	独和辞典は必携です。初回の授業で紹介します。				
予習・復習について	授業 1 回あたり、1 時間・1 時間半の授業外学習が前提です。				
成績評価の方法・基準	期末試験の成績 (50%) と平常点 (50%) をもとに評価します。平常点は、原則として毎回行う小テストの結果に授業への参加状況を加味して評価します。正当な理由なく 3 分の 1 以上欠席した場合は成績評価の対象外となります。				
オフィスアワー	金曜日昼休み				
担当教員からのメッセージ					

授業科目名	初修外国語（フランス語）入門 I (Basic French I)				
担当教員名	浅野 幸生 (ASANO Yukio)		所属等	学院院人文社会科学領域	
			研究室	人文 A 棟 408	
分担教員名					
クラス	学部共通 1	学期	前期		必修選択区分 選必
対象学年	1 年	単位数	1	曜日・時限	月 3・4
キーワード	着実・積極性の重視・繰り返し				
授業の目標	文法・音声の基本を固めると同時に、フランス文化についても理解を深めるようにする				
学習内容	フランス語の基礎能力を身につける				
授業計画	<p>大体以下の通りに進行する</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) フランス・フランス語全般に関して。発音や正書法の説明。 2) 名詞の性・冠詞・綴り字と発音 (1) 3) avoir, être, -er 動詞の活用、綴り字と発音 (2) 4) 挨拶・紹介等の表現、否定文・疑問文、綴り字と発音 (3) 5) 形容詞、-ir 動詞、数詞、綴り字と発音 (4) 6) 指示形容詞、指示代名詞、aller と venir、綴り字と発音 (5) 7) それ以降はテキストに沿って進行する。 				
受講要件	フランス語初学者				
テキスト	生協で購入のこと				
参考書					
予習・復習について	予習が必要				
成績評価の方法・基準	試験と平常点による				
オフィスアワー	月 14 : 20 ~ 15 : 30				
担当教員からのメッセージ					

授業科目名	初修外国語（フランス語）入門 I (Basic French I)				
担当教員名	安永 愛 (YASUNAGA Ai)		所属等	学院院人文社会科学領域	
			研究室	人文 A 棟 5 2 5	
分担教員名					
クラス	学部共通 2	学期	前期		必修選択区分 選必
対象学年	1 年	単位数	1	曜日・時限	月 3・4
キーワード	フランス語の初歩、フランス語の音とリズム、フランス語圏の文化				
授業の目標	フランス語の基礎を身につける。フランス語圏の文化に触れる。				
学習内容	「Paris-Bordeaux フランスの世界遺産と食文化を巡る旅」を教科書として、「読む」「聴く」「書く」「話す」を繰り返しながら、フランス語の基礎を習得します。また、フランス語圏に文化的背景にも少しずつ触れ、興味関心を深めていきます。				
授業計画	1 フランス語圏について、フランス語の歴史、綴り字と発音（教科書 0 課） 2 教科書第 1 課 前半 3 教科書第 1 課 後半 4 教科書第 2 課 前半 5 教科書第 2 課 後半 6 教科書第 3 課 前半 7 教科書第 3 課 後半 8 教科書第 4 課 前半 9 教科書第 4 課 後半 10 教科書第 5 課 前半 11 教科書第 5 課 後半 12 教科書第 6 課 前半 13 教科書第 6 課 後半 14 教科書第 7 課 前半 15 教科書第 7 課 後半				
受講要件					
テキスト	「Paris-Bordeaux フランスの世界遺産と食文化を巡る旅」（朝日出版社）				
参考書	仏和辞典				
予習・復習について	毎回宿題を課します。語学は反復練習が重要です。発音や聞き取りの能力を高めるため、教科書付属の CD を活用しましょう。				
成績評価の方法・基準	期末の筆記試験（聞き取り含む）の素点を基準とします。単位認定基準の 60 点に達しない場合のみ、出席点（1 回 1 点）を加算します。				
オフィスアワー	月曜 7・8 限。事前の appointments により、他の時間も対応します。（アドレス yasunaga.ai@shizuoka.ac.jp）				
担当教員からのメッセージ	まずは、フランス語の音とリズムを楽しんでください。せっかくフランス語を勉強するので、フランス語圏に目を向けてみましょう。				

授業科目名	初修外国語（現代韓国語）入門 I (Basic Modern Korean I)				
担当教員名	南 富鎮 (NAM bujin)		所属等	学術院人文社会科学領域	
			研究室	人文 A 棟 5 2 7	
分担教員名					
クラス	学部共通 1	学期	前期		必修選択区分 選必
対象学年	1 年	単位数	1	曜日・時限	月 3・4
キーワード	韓国語、韓国文化、日韓比較、異文化理解、相互理解、国際化				
授業の目標	<ul style="list-style-type: none"> ・韓国語の基礎を勉強して韓国文化への理解を目指します。 ・韓国語は日本語に類似しているので日本語・日本文化への理解も深めます。 ・国際化の大きな時代潮流のなか、相互理解の精神を学びます。 				
学習内容	<ul style="list-style-type: none"> ・韓国語に関する基礎文法を勉強します。 ・言語を通して韓国文化への理解を高めていきます。 ・日本語との比較を通して日本語と日本文化への理解も深めていきます。 				
授業計画	回 内容 1 韓国語の紹介 2 母音の発音 3 母音の発音 4 子音の発音 5 子音の発音 6 子音と母音の組み合わせ 7 複母音の発音 8 です、ます的な表現 9 指示代名詞 10 助詞 11 否定文 12 動詞の連用形 13 形容詞の連用形 14 連体形 15 総復習				
受講要件	教育学部 1 年・理学部 1 年、農学部 1 年				
テキスト	生越直樹・曹喜澈『ことばの架け橋』改訂版、白帝社、2017 年。最初の授業時にもう一度お知らせします。				
参考書	とくにありません。				
予習・復習について	その都度教員が指示します。しかし、基本的にはご自分で決めてください。				
成績評価の方法・基準	出席 40%、試験 60%。最初の授業時に詳しく説明します。				
オフィスアワー	最初の授業時にお知らせします。				
担当教員からのメッセージ	難易度 B。 韓国語は日本語にもっとも近い外国語の一つです。その類似性には皆様も驚くでしょう。そのため、日本人学習者にはわりと親しみやすく、簡単に習得できる言語で、難易度は非常に低いです。ぜひ気楽に挑戦してみてください。				

授業科目名	初修外国語（フランス語）入門 I (Basic French I)				
担当教員名	安永 愛 (YASUNAGA Ai)		所属等	学術院人文社会科学領域	
			研究室	人文 A 棟 5 2 5	
分担教員名					
クラス	人 2	学期	前期		必修選択区分
対象学年	1 年	単位数	1	曜日・時限	月 5・6
キーワード	フランス語の初歩、フランス語の音とリズム、フランス語圏の文化				
授業の目標	フランス語の基礎を身につける。フランス語圏の文化に触れる。				
学習内容	「Paris-Bordeaux フランスの世界遺産と食文化を巡る旅」を教科書として、「読む」「聴く」「書く」「話す」を繰り返しながら、フランス語の基礎を習得します。また、フランス語圏に文化的背景にも少しずつ触れ、興味関心を深めていきます。				
授業計画	1 フランス語圏について、フランス語の歴史、綴り字と発音（教科書 0 課） 2 教科書第 1 課 前半 3 教科書第 1 課 後半 4 教科書第 2 課 前半 5 教科書第 2 課 後半 6 教科書第 3 課 前半 7 教科書第 3 課 後半 8 教科書第 4 課 前半 9 教科書第 4 課 後半 10 教科書第 5 課 前半 11 教科書第 5 課 後半 12 教科書第 6 課 前半 13 教科書第 6 課 後半 14 教科書第 7 課 前半 15 教科書第 7 課 後半				
受講要件					
テキスト	仏和辞典				
参考書	「Paris-Bordeaux フランスの世界遺産と食文化を巡る旅」（朝日出版社）				
予習・復習について	毎回宿題を課します。語学は反復練習が重要です。発音や聞き取りの能力を高めるため、教科書付属の CD を活用しましょう。				
成績評価の方法・基準	期末の筆記試験（聞き取り含む）の素点を基準とします。単位認定基準の 60 点に達しない場合のみ、出席点（1 回 1 点）を加算します。				
オフィスアワー	月曜 7・8 限。事前の appointments により、他の時間も対応します。（アドレス yasunaga.ai@shizuoka.ac.jp）				
担当教員からのメッセージ	まずは、フランス語の音とリズムを楽しんでください。せっかくフランス語を勉強するので、フランス語圏に目を向けてみましょう。				

授業科目名	ことばと表現 (Language Arts)				
担当教員名	中村 ともえ (NAKAMURA Tomoe)		所属等	学術院教育学領域	
			研究室	教育学部A棟604	
分担教員名					
クラス	学部共通1	学期	前期		必修選択区分 ー
対象学年	2年	単位数	2	曜日・時限	月5・6
キーワード	小説家、戯曲、小説、演劇、古典				
授業の目標	小説家の戯曲を読み、文学と演劇の関係について考える。				
学習内容	日本の近現代の小説家たち、谷崎潤一郎・菊池寛・三島由紀夫は、演劇との関わりが深く、それぞれ多くの戯曲を制作している。この授業では、そうした小説家の戯曲を、小説や映画、下敷きにした古典を参照しつつ、分析する。				
授業計画	回 内容 1 導入 2 I 谷崎潤一郎と演劇 3 I 谷崎潤一郎『金色の死』 4 I 谷崎潤一郎『お国と五平』① 5 I 谷崎潤一郎『お国と五平』② 6 II 菊池寛『藤十郎の恋』① 7 II 菊池寛『藤十郎の恋』② 8 II 菊池寛『藤十郎の恋』③ 9 II 菊池寛『俊寛』① 10 II 菊池寛『俊寛』② 11 III 三島由紀夫『近代能楽集』より「葵上」① 12 III 三島由紀夫『近代能楽集』より「葵上」② 13 III 三島由紀夫『近代能楽集』より「班女」① 14 III 三島由紀夫『近代能楽集』より「班女」② 15 まとめ				
受講要件					
テキスト	三島由紀夫『近代能楽集』（新潮文庫 4101050147）				
参考書	谷崎潤一郎『金色の死 大正期短篇集』（講談社文芸文庫 4061983989）、菊池寛『父帰る・藤十郎の恋 菊池寛戯曲集』（岩波文庫 4003106342）、菊池寛『藤十郎の恋・恩讐の彼方に』（新潮文庫 4101028019）				
予習・復習について	指定された作品には目を通した上で授業にのぞむこと。三島由紀夫『近代能楽集』以外の本文は、事前にプリント配布します。				
成績評価の方法・基準	課題（観劇）と期末レポートによって総合的に評価する。				
オフィスアワー	金曜昼休み（前期）。				
担当教員からのメッセージ	受講者には、観劇の課題を課します。詳細については、初回に説明します。				

授業科目名	<p style="text-align: center;">数学の世界 (Introduction to Mathematics)</p>				
担当教員名	<p style="text-align: center;">山田 耕三 (YAMADA Kohzo)</p>		所属等	<p style="text-align: center;">大学院教育学領域</p>	
			研究室	<p style="text-align: center;">教育学部 I 棟 401</p>	
分担教員名					
クラス	学部共通 1	学期	前期		必修選択区分
対象学年	2年	単位数	2	曜日・時限	月 5・6
キーワード	微分、積分、関数、極限				
授業の目標	高等学校で数学 II は学習したが、数学 III の授業を受けていない（または、数学 III を受けたが落ちこぼれてしまった）学生を対象に、微分と積分の講義をします。				
学習内容	高等学校数学 III の微分積分+アルファの内容。具体的には、1変数関数（特に、分数関数、指数関数、対数関数、三角関数、逆三角関数、無理関数）の微分、平均値の定理、置換積分と部分積分、およびそれらの応用が中心。授業時間中だけでは十分な問題演習ができないので、予習・復習のための演習問題を配ります。				
授業計画	<p>回 内容</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 関数とグラフ 2 微分と微分公式 3 合成関数の微分法 4 三角関数の微分 5 逆三角関数の微分 6 指数関数、対数関数の微分 7 対数微分法 8 高次導関数 9 ☆中間テスト 10 平均値の定理と不定形の極限 11 マクローリンの定理・微分の応用 12 不定積分と定積分 13 置換積分 14 部分積分 15 定積分の応用 				
受講要件	教育学部数学教育専修の学生は、受講出来ません。高校学校の数学 II の知識を必要とします。				
テキスト	石村園子『やさしく学べる微分積分』共立出版、2000円+Tax				
参考書	授業の最初に紹介する。				
予習・復習について	数学は復習が特に大切。復習のための演習問題を配りますので、次週までにしっかり復習しておこう。				
成績評価の方法・基準	中間テスト 30%+期末試験 70%、授業への取り組み状況を加味して評価します。				
オフィスアワー	授業の最初に知らせる。				
担当教員からのメッセージ	この授業では、高等学校の数学 II の内容を使います。数学 II を学習していない学生は、授業開始までに各自で勉強しておいて下さい。 この授業だけではありませんが、休まず出席することが大切。遅刻もしないように気をつけよう。				

授業科目名	数学Ⅱ（線形代数A） (Mathematics II(Linear algebra A))				
担当教員名	木村 杏子 (KIMURA Kyouko)		所属等	学術院理学領域	
			研究室	理C604室	
分担教員名					
クラス	理PCBG2	学期	前期		必修選択区分
対象学年	1年	単位数	2	曜日・時限	月7・8
キーワード	ベクトル、行列、連立1次方程式、行列式				
授業の目標	高等学校の数学Ⅰ,ⅡBまで習得している学生(クラス3)と、高等学校の数学Ⅲ,Cまで習得している学生(クラス1,2)に分けて、3クラスで講義を行う。 行列の演算、行列式の計算および連立1次方程式の解法の修得を目標とする。				
学習内容	数および比例の高次元化である、ベクトルおよび線形写像を調べるために、比例定数の高次元化である行列や、拡大率の一般化である行列式を導入し、その性質を調べ、計算する。また、行列の基本変形を利用して連立1次方程式を解く。				
授業計画	<p>数学Ⅰ,Ⅱ,Ⅲは、各々3クラスに分けて講義をします。前期の数学Ⅱの第一回講義に試験を行い、クラスを決定します。試験を必ず受けて下さい。再履修の受講生は前年度までのクラス分けに従って受講してください。3クラスの担当教員は、</p> <p>クラス1： 数学Ⅰ 待田教員 ー数学Ⅱ 待田教員 ー数学Ⅲ 若井教員 クラス2： 数学Ⅰ 保坂教員 ー数学Ⅱ 木村教員 ー数学Ⅲ 久村教員 クラス3： 数学Ⅰ 板津教員 ー数学Ⅱ 保坂教員 ー数学Ⅲ 松本敏教員</p> <p>0章. 準備 0. 写像と集合 1章. 線形写像と行列 1. 比例の復習 2. 行列 3. 線形写像 4. 行列の積 2章. 行列式 5. 2次行列の行列式 6. 一般の行列式 7. 行列式の列変形 8. 行列式の形 9. 転置行列と行に関する性質 10. 行列式の展開と余因子行列 3章. 連立1次方程式 11. 行列表示とクラメールの公式 12. 掃き出し法 13. 基本変形と基本行列</p> <p>時間があれば、ベクトル空間や線形写像についても解説する。</p>				
受講要件					
テキスト	浅芝秀人著：「基礎課程 線形代数」(培風館) ISBN: 978-4-563-00473-6				
参考書	三宅敏恒著：「入門線形代数」(培風館) ISBN: 4-563-00216-X				
予習・復習について	教科書や参考書で予習、授業ノートや教科書で復習すること。自主的に練習問題を解くこと。理解できないところは、できるだけ早く質問に来て理解すること。				
成績評価の方法・基準	レポートなどの平常点(20%)および試験(80%)によって評価する。				
オフィスアワー	授業の質問については附属図書館「チューターズフロント」も積極的にご活用ください。				
担当教員からのメッセージ	予習復習は古来より効果的な勉強法である。自宅での自発的かつ積極的な勉強なくしては、身に付くものも少ない。大学の講義は、これを前提にしている。				

授業科目名	哲学 (Philosophy)				
担当教員名	堂 園 俊彦 (DOHZONO Toshihiko)		所属等	学術院人文社会科学領域	
			研究室	人文 A417	
分担教員名					
クラス	学部共通 1	学期	前期		必修選択区分 ー
対象学年	2 年	単位数	2	曜日・時限	火 3・4
キーワード	他人の心、自我、心身問題、自由、正義、帰納、功利主義、義務論、神、相対主義				
授業の目標	「哲学」という言葉は、往々にして「こむずかしい」「わけのわからない」ということを意味します。しかし哲学は、私たちが当然視している——しかし決して自明ではない——前提を疑う学問であり、その意味ではとても身近な学問です。この講義では、哲学者たちがどのような問題をどのように考えてきたのかを理解するとともに、批判的かつ論理的な思考力を養うことを目的とします。				
学習内容	哲学の歴史において議論されてきた基本的な立場の概要、それぞれの立場の問題点などを説明します。				
授業計画	<p>本講義では以下のようなトピックを扱います。理解を深めるために、学生同士でディスカッションを行ったり、アンケートを実施したりします。</p> <p>回 内容</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 哲学について 2 外的世界の存在 3 他人の心 4 心と身体 5 人格の同一性 6 自由と決定 7 中間まとめ 8 なぜ道徳的であるべきか 9 道徳の理論①／功利主義 10 道徳の理論②／義務論 11 分配と正義 12 生命（医療）と倫理 13 帰納の正当化 14 相対主義 15 神の存在証明 				
受講要件	受講にあたり事前に必要な科目などはありません。ただ、自分自身で（主体的に）、そして徹頭徹尾論理的に、物事を考えようとする姿勢だけは必要不可欠です。				
テキスト	特に指定しません。				
参考書	<ul style="list-style-type: none"> ・スティーブン・ロー『フィロソフィー・ジム 「考える脳」をつくる 19 の扉』、ランダムハウス講談社、2003 年。 ・トマス・ネーゲル『哲学ってどんなこと？—とっても短い哲学入門—』、昭和堂、1993 年。 ・麻生博之・城戸淳『哲学の問題群』、ナカニシヤ出版、2006 年。 ・山本信『哲学の基礎』、北樹出版、1988 年。 ・ブレンダン・ウィルソン『自分で考えてみる哲学』、東京大学出版、2004 年。 ・ナイジェル・ウォーバートン『哲学の基礎』、講談社、2010 年。 				
予習・復習について	毎回、次回扱うトピックに関連した短い文章を配布します。事前に目を通し、「自分ならこの問題に対してどのような立場をとるだろうか」ということを考えた上で、講義に参加して下さい。				
成績評価の方法・基準	テストの点数によって評価をします。ただし、テストを受けるには、講義に出席していることが必要です。（出席は毎回とります。）				
オフィスアワー	月曜昼休み（11:50-12:45）。ただし、緊急の用件で不在にする場合がありますので、必ずアポイントメントをとって下さい。また、他の時間でも、相談してもらえれば、できるだけ対応します。				
担当教員からのメッセージ					

授業科目名	心理学 (Psychology)				
担当教員名	須藤 智 (SUTO Satoru)		所属等	大学教育センター	
			研究室	共通教育A棟513 (西)	
分担教員名					
クラス	学部共通1	学期	前期		必修選択区分 —
対象学年	2年	単位数	2	曜日・時限	火3・4
キーワード	心理学、こころ				
授業の目標	私たちの生活に密着した学問である心理学の基礎的な知識を習得する。そして、それらの知識を、自らの今後の生活や研究分野にどのように生かせるのかを考えることができるようにする。授業はテキストに準拠し、パワーポイントを使ってそれぞれの内容を具体的に説明する形式をとる (配布資料有)				
学習内容	心理学の研究領域で基礎的な知識について学ぶ。実際に、心理学研究で行われた実験、調査、検査等について体験し、実践的に知識を学ぶ。				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1.科学としての心理学の歴史と方法論 2.生理心理学1 (脳の機能と役割を考える) 3.生理心理学2 (脳の機能と役割を考える) 4.感覚・知覚1 (外界と心の相互作用を考える) 5.感覚・知覚2 (外界と心の相互作用を考える) 6.学習 (学ぶということ) 7.認知1 (知のメカニズムを知る) 8.認知2 (記憶のメカニズムを知る) 9.認知3 (注意とは何か?) 10.発達1 (乳児期から児童期までの発達を知る) 11.発達2 (青年期から死までの発達を知る) 12.性格 (性格とは何か?) 13.最新のトピック1 (高齢者の心理) 14.最新のトピック2 15.まとめ 				
受講要件	特になし				
テキスト	特になし				
参考書	兵藤宗吉・緑川晶編著、心の科学—理論から現実社会へ (ナカニシヤ出版)、477950385X				
予習・復習について	予習：参考書を持っている場合は、当該箇所を一読していただくこと。所有していない場合は、図書館等で関連図書を借り、当該箇所を一読していただくこと。 復習：配布されたレジュメを一読し、整理すること。				
成績評価の方法・基準	<p>学期末レポート+α (エクストラクレジット) で評価を決定する。</p> <p>学生の受講状況によっては、レポートではなく試験を実施する場合もある。</p> <p>学期末レポートは、各回の内容の自学自習についても記入することが求められるので、日常的な事前事後学習をしていないと記入することができない。レポートだからといって軽く考えないこと。</p> <p>エクストラクレジットの詳細は授業の最初に説明する。出席点は無し、2/3以上出席すること。</p>				
オフィスアワー	静岡キャンパス 共通A棟5F513室 火曜日5,6限				
担当教員からのメッセージ	多数の学生の受講が予測されるので、厳密な点数に基づく成績評価を行う予定。また、授業中に最新の授業支援ツールを利用する予定なのでスマートフォン、携帯電話、PCの持ち込みが望ましい。				

授業科目名	歴史と文化 (History and Culture)				
担当教員名	黒川 みどり (KUROKAWA Midori)		所属等	大学院教育学領域	
			研究室	教育学部A棟508	
分担教員名					
クラス	学部共通1	学期	前期		必修選択区分 ー
対象学年	2年	単位数	2	曜日・時限	火3・4
キーワード	歴史学、近代、日本、差別、人権				
授業の目標	歴史学とは何かを、日本近代史に焦点を当てながら理解する。				
学習内容	日本の近代国民国家のなかで、差別や抑圧の対象とされてきた被差別部落、女性、沖縄、アイヌ民族などに視点を当てながら、日本の近代が内包してきた問題を考える。				
授業計画	回 内容 1 歴史学とは／戦後歴史学の歩みをとおして（1） 2 同上（2） 3 近代国家の成立と部落問題（1） 4 同上（2） 5 映画「橋のない川」（1969年、監督:今井正、原作:住井すゑ）を観る 6 部落問題—戦後～今へ 7 沖縄からの問い—近現代史をふり返って（1） 8 同上（2） 9 アイヌ民族にとっての近代—知里幸恵と遠星北斗をとおして（1） 10 同上（2） 11 関東大震災と朝鮮人虐殺 12 新しい女／農村の女性 13 映画「荷車の歌」（1959年、監督:山本薩夫、原作:山代巴）を観る（1） 14 同上（2）／ 女性の今を問う 15 まとめ—ふたたび日本の近代を問う				
受講要件	特になし。				
テキスト	なし。				
参考書	黒川みどり・藤野豊『差別の日本近現代史—包摂と排除のはざままで』（岩波全書、2015年）。				
予習・復習について	授業時に指示された文献等を読むこと。				
成績評価の方法・基準	レポートと平常点。				
オフィスアワー	火曜日お昼休み。				
担当教員からのメッセージ	私語等受講者の迷惑になる行為は厳禁。				

授業科目名	物理の世界 (Introduction to Physics)				
担当教員名	山崎 昌一 (YAMAZAKI Masahito)		所属等	電子工学研究所	
			研究室	理学部A棟410	
分担教員名					
クラス	学部共通1	学期	前期		必修選択区分
対象学年	2年	単位数	2	曜日・時限	火3・4
キーワード	生物物理学、統計熱力学、タンパク質、生体膜、生体の電気現象				
授業の目標	生物が持つ”分子機械”や”電子回路”、および”分子システムや情報システム”は、人間が人工的に作るそれらのもより精巧で高級である。また生体分子やその集団は、非周期的な構造を持ち、水の中で弱い相互作用により構造を形成するので、複雑な構造や物性を示す。このような系の特性の研究には物理的なアプローチ(生物物理学)が重要であり、この授業ではその入門を学ぶ。				
学習内容	まず、生体分子やそのシステムおよび生体の機能システムのような”複雑系”の研究に重要な役割をはたす統計熱力学の初歩を学び、現象論的思考法になれる。次に、タンパク質や生体膜の特性と、神経や細胞での情報伝達に重要な生体電気現象の基礎を学ぶ。				
授業計画	回 内容 1 Chap.1 生物物理学序論 2 Chap. 2 統計熱力学入門、2-1 生命の階層構造、ミクロとマクロの関係、マクロが起こる確率 3 2-2 熱力学第2法則とエントロピー、格子模型、拡散 4 2-3 静電場(クーロン力、電場、電位)と膜電位(拡散電位) 5 2-4 熱力学第1法則(熱、仕事、内部エネルギー)、熱とエントロピーの関係、クラウジウスの不等式 6 2-5 エンジンや熱機関の効率、カルノーサイクル、冷蔵庫やエアコン、エネルギーの質 7 2-6 自由エネルギーと化学ポテンシャル、浸透圧 8 2-7 生物の”分子機械”のエネルギー源: 電気化学ポテンシャル 9 Chap. 3 タンパク質と生体膜、3-1 タンパク質の構造、フォールディングとアンフォールディング 10 3-2 タンパク質の機能、(1) ヘモグロビン、アロステリック相互作用 11 (2) 筋肉、イオンポンプ、ATPの加水分解のエネルギー 12 3-3 生体膜の構造と形成機構、疎水性相互作用、生体膜の流動性と分子の拡散 13 3-4 生体膜の膜間相互作用; 会合と膜融合と膜分裂、ウイルスの細胞内侵入と形成 14 Chap. 4 生体の電気現象、4-1 生体膜の等価電気回路、活動電位 15 4-2 1個のイオンチャンネルタンパク質に流れる電流の特性、イオンチャンネルの機能と構造				
受講要件					
テキスト					
参考書	P.W.Atkins (米沢他訳)『エントロピーと秩序』(日経サイエンス) C.Kittel (山下他訳)『熱物理学(第2版)』(丸善) シリーズ・ニューバイオフィジックスおよび同シリーズII (共立出版)				
予習・復習について	1回の講義で、何か一つでもよいから、興味をもったり、感動したり、不思議に思ったり、疑問を感じたりしよう。講義のあとで、そのことについて考えたり、本を読んで調べたりしよう。				
成績評価の方法・基準	試験とレポート				
オフィスアワー	授業のときに説明				
担当教員からのメッセージ					

授業科目名	数理の構造 (The Structure of Mathematics)				
担当教員名	鈴木 信行 (SUZUKI Nobuyuki)		所属等	大学院理学領域	
			研究室	理学部 C 棟 601	
分担教員名					
クラス	学部共通 1	学期	前期		必修選択区分 ー
対象学年	2 年	単位数	2	曜日・時限	火 3・4
キーワード	身近な数、整数、論理的な証明、演繹的推論、一筆書き、微分・積分				
授業の目標	古典的な数学からの話題を通して、数理科学の一面に触れることを目的とする。また、数学を専攻としない学生の素養として、微分積分学や線形代数学などの基礎事項にも簡単に触れたい。				
学習内容	<p>日常の身近なところにある数学的なもの（数、図形、自然現象の数理など）を題材に、数理科学への橋渡しをしようと思う。また、その過程で現れる様々な論証や証明方法を考察し、数学的なものの考え方や論理的な推論を議論する。</p> <p>高校の数Ⅰ数Ⅱ程度の知識から出発し、諸君とともに、「大学レベルの数学」の見物に出かけたいと思う。</p>				
授業計画	<p>以下の各項目を解説していく予定であるが、学生諸君の理解の状況をみて適宜調節する。また、学生諸君の希望があれば、内容の一部変更の可能性もある。学生諸君と対話型形式をとり、議論に参加を求める場合もある。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 身近な数の話 2. 整数の話 3. 一筆書きの話（グラフ理論） 4. 論証の構造（数理論理学入門） 5. 微分と積分（微分積分学の基本定理） 6. 線形代数学の基礎 				
受講要件	なし。高校 1 年生くらいの数学（数Ⅰ数Ⅱ程度）の知識は仮定しますが、復習しながら進めます。				
テキスト	なし				
参考書	必要に応じて講義中に指示します。				
予習・復習について	予習復習は古来より効果的な学習法です。この講義では、特に復習に力を入れてください。自宅での自発的かつ積極的な学習なくしては、身に付くものも少ないですよ。				
成績評価の方法・基準	試験の得点による。（適宜、レポートや課題を加点する。十分な出席数があることが前提である。）				
オフィスアワー	最初の講義で伝える。出張・会議によって対応できない場合もあります。アポイントをとってけると確実です。				
担当教員からのメッセージ	<p>数学は「積み上げ」が大事といわれます。しかし、この講義では、再チャレンジが可能なように、いくつかのトピックスを数回ずつ話します。一度解らなくなっても諦めずに出席してください。それなりの出席数は必須です。予習復習は古来より効果的な学習法です。諸君の自宅での自発的かつ積極的な学習、特に復習を前提として講義します。大学の講義ですから、ただ出席して座っているだけで解るようなレベルの内容は講義しません。高校数学の復習ではなく、大学レベルの話をしていきます。「定理や公式を当てはめて練習問題を解く」という受験勉強のようなことは期待しないでください。</p>				

授業科目名	生命科学 (Life Science)				
担当教員名	堀池 徳祐 (HORIIKE Tokuma)		所属等	学院院農学領域	
			研究室	総合研究棟 302	
分担教員名	平田 久笑、与語 圭一郎				
クラス	学部共通 2	学期	前期		必修選択区分 ー
対象学年	2 年	単位数	2	曜日・時限	火 3・4
キーワード	遺伝子、細胞、動物、植物、微生物				
授業の目標	生命（動物、植物、微生物）についてマイクロからマクロまで様々な視点で理解すること。				
学習内容					
授業計画	1回 生物と細胞 2回 遺伝子の構造と働き 3回 遺伝 4回 変異と進化 5回 まとめ、第一回テスト（1～4 回分） 6回 動物の体と環境 7回 動物の感覚 8回 性の決定 9回 感染と免疫 10回 老いと死、レポート課題（6～10 回分）の説明 11回 私たちの生活と微生物 12回 植物と昆虫の微生物 13回 細菌とバクテリオファージ 14回 微生物の検出と同定 15回 有用微生物と病原生物（まとめ）、第二回テスト（11～15 回分）				
受講要件					
テキスト					
参考書					
予習・復習について					
成績評価の方法・基準	成績は一回目テスト(1回～4回の内容)、レポート（6回～10回の内容）、二回目テスト（11回～15回の内容）と小テストなどで評価します。				
オフィスアワー					
担当教員からのメッセージ	担当教員は3名です。1回～5回、6回～10回、11回～15回をそれぞれ担当します。				

授業科目名	化学Ⅲ（有機化学） (Chemistry III (Organic Chemistry))				
担当教員名	山中 正道 (YAMANAKA Masamichi)		所属等	学術院理学領域	
			研究室	理学部 B棟 311室	
分担教員名					
クラス	理MP	学期	前期		必修選択区分 選必
対象学年	2年	単位数	2	曜日・時限	水 1・2
キーワード	混成軌道、付加反応、置換反応、脱離反応、光学異性体、芳香族、脂肪族、官能基				
授業の目標	混成軌道など、量子化学の知識を用いて各種の有機分子の構造や性質について系統的な理解を深める。また、種々の有機化学反応の基本となる反応機構を理解し、単純な分子から複雑な分子への変換法を修得する。				
学習内容	<p>我々生命体は有機化合物の集まりであり、また、有機化合物を素材とする種々の物体に取り囲まれて生活している。これらの有機化合物を取り扱うのが有機化学であり、この理解なくして生命現象を理解することはできない。また、有機化学は実際に物質を取り扱うので、物質科学全体の基礎でもある。</p> <p>有機化合物の構造と反応は量子力学に基づいた理論によって体系化されている。本講義では、有機化合物の結合様式と分子の種類について系統的に学ぶ。さらにこれらの化合物の反応について、その反応機構を踏まえて学習する。</p>				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 原子の電子配置と共有結合・・・原子の電子配置、共有結合の成り立ち 2. 混成軌道と電子の偏り・・・混成軌道と分子の形、誘起効果と共鳴効果 3. 構造式と化合物の分類、命名・・・構造式の表記と有機化合物の分類、構造異性と命名法 4. シストランス異性と立体配座・結合回転による異性、シクロアルカン-環状炭化水素の形 5. キラル炭素と鏡像異性・・・鏡像異性体とその区別、生体分子とキラリティ 6. ベンゼンと芳香族化合物・・・ベンゼンの安定共鳴構造、「芳香族性」と多様な化合物 7. 有機化学反応の分類と進み方・・・有機化学反応のいろいろ、有機化学反応の進み方 8. アルカンのラジカル反応・・・ラジカル反応のメカニズム、いろいろなラジカル反応 9. アルケンの求電子付加反応・・・付加反応のメカニズム、カルボカチオンとハロゲンの付加 10. ベンゼンの求電子置換反応・・・置換反応のメカニズム、置換基の配向性と反応性への影響 11. ハロアルカンの求核置換反応・・・求核置換反応のメカニズム、反応の競合と脱離反応 12. カルボニル化合物の求核付加反応・求核付加反応のメカニズム、エノラートアニオンとアルドール反応 				
受講要件	化学Ⅰ・Ⅱを履修していることが望ましい。				
テキスト	川端潤著『ビギナーズ 有機化学』（化学同人）				
参考書					
予習・復習について	あらかじめ教科書を読んできること。講義後、からなず復習をすること。自主的に章末問題を解くことが望ましい。				
成績評価の方法・基準	主として試験結果をもとに評価する。				
オフィスアワー	随時				
担当教員からのメッセージ					

授業科目名	化学Ⅲ（有機化学） (Chemistry III (Organic Chemistry))				
担当教員名	山本 歩 (YAMAMOTO Ayumu)		所属等	学術院理学領域	
			研究室	理学部A棟 311	
分担教員名					
クラス	理BG	学期	前期		必修選択区分 選必
対象学年	2年	単位数	2	曜日・時限	水 1・2
キーワード	混成軌道、IUPAC命名法、付加反応、置換反応、脱離反応、ラジカル反応、光学異性体、芳香族、脂肪族、官能基				
授業の目標	混成軌道の知識を基に、分子の構造について理解し、分子の名称と異性現象についても理解を深める。有機合成は簡単な分子から反応を通じて複雑な分子へと変換することである。種々の有機反応の基本をしっかりと学ぶ。				
学習内容	我々生命体は有機化合物の集まりであり、また、有機化合物を素材とする種々の物体に取り囲まれて生活している。これらの有機化合物を取り扱うのが有機化学であり、この理解なくして生命現象を理解することはできない。有機化学は量子理論に基づいた構造論と、化学反応を支配する理論によって体系化されている。また、有機化学は物質を取り扱うので、化学全体の基礎となっている。本授業では、有機化合物の結合様式と分子の種類について、また、脂肪族化合物および芳香族化合物の基本骨格とその構造について学び、さらにこれらの化合物の基本原理に基づいた反応について学ぶ。				
授業計画	<p>教科書にそって、以下の項目を解説する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 有機化学の基礎・・・原子の電子配置 2. 化学結合と電子構造・・・共有結合の成り立ち、混成軌道と分子の形 3. 電子の動きと共鳴・・・極性結合と電子の動き、共鳴と酸塩基 4. 構造式と化合物の分類、命名・・・構造式の表記と有機化合物の分類、構造異性体と命名法 5. シーストランス異性と立体配座・結合回転による異性、シクロアルカン 6. キラル炭素と鏡像異性・・・鏡像異性体とその区別、生体分子とキラリティ 7. 有機化学反応の分類と進み方・・・有機化学反応のいろいろ、有機化学反応の進み方 8. アルカンのラジカル反応・・・ラジカル反応のメカニズム 9. ハロアルカンの求核置換反応・・・求核置換反応のメカニズム、反応の競合と脱離反応 10. アルケンの求電子付加反応・・・付加反応のメカニズム、アルキンの反応とハロゲンの付加 11. ベンゼンと芳香族化合物・・・ベンゼンと芳香族化合物、「芳香族性」と多様な化合物 12. ベンゼンの求電子置換反応・・・置換反応のメカニズム、置換基による反応性への影響 13. カルボニル化合物の求核付加反応 ・・・求核付加反応のメカニズム、エノラートアニオンとアルドール反応 				
受講要件	化学Ⅰ・Ⅱを履修していることが望ましい				
テキスト	川端潤著『ビギナーズ 有機化学』第2版（化学同人）				
参考書	適宜、授業中に紹介する。				
予習・復習について	あらかじめ教科書を読んでくること。講義後、からなず復習をすること。自主的に章末問題を解くこと。				
成績評価の方法・基準	単位の認定と成績の評価は、レポートおよび期末試験の総点で判断する。単位の認定は3分の2以上の出席を前提とする。				
オフィスアワー	空いているときはいつでも対応します。				
担当教員からのメッセージ					

授業科目名	初修外国語（フランス語）入門Ⅱ (Basic French Ⅱ)				
担当教員名	浅野 幸生 (ASANO Yukio)		所属等	学院院人文社会科学領域	
			研究室	人文 A 棟 4 0 8	
分担教員名					
クラス	人 2	学期	前期		必修選択区分 ー
対象学年	1 年	単位数	1	曜日・時限	水 5・6
キーワード	フランス言語文化				
授業の目標	文法・音声の基礎を固めると同時に、フランス文化についても理解を深めるようにする。				
学習内容	フランス語の文法を学ぶ。				
授業計画	<p>大体以下の通りに進行する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) フランス・フランス語全般に関して。学習上の諸注意・発音や正書法の説明。 2) 名詞の性・冠詞・綴り字と発音 (1) 3) avoir, être, -er 動詞の活用・綴り字と発音 (2) 4) 挨拶・紹介等の表現、否定文、疑問文、発音と綴り字 (3) 5) 形容詞、-ir 動詞、数詞、綴り字と発音 (4) 6) 指示形容詞、指示代名詞、aller と venir、綴り字と発音 (5) 7) それ以降はテキストに沿って進行する。 				
受講要件	フランス語初心者				
テキスト	生協で購入のこと				
参考書					
予習・復習について	予習が必要				
成績評価の方法・基準	平常点と試験による				
オフィスアワー	月 1 4 : 2 0 ~ 1 5 : 3 0				
担当教員からのメッセージ					

授業科目名	地球科学 I (基礎 A) (Geosciences I(Fundamentals A))				
担当教員名	北村 晃寿 (KITAMURA Akihisa)		所属等	学術院理学領域	
			研究室	共通教育 C 棟 311	
分担教員名					
クラス	理 C B	学期	前期		必修選択区分 ー
対象学年	1 年	単位数	2	曜日・時限	木 1・2
キーワード	地球の誕生、生物進化、地球環境、大量絶滅、気候変動、人類の進化、巨大地震、南海トラフ				
授業の目標	地球と生命の歴史を学び、地球上の多くの事象に潜む歴史的背景の重要性を理解する。				
学習内容	<p>温暖化、生物多様性の減少、エネルギー問題などが人類の将来に影響を落としている。私たち人類はどこに向かうのだろうか。それを考えるには、人類の歩んできた歴史を知る必要がある。なぜならば、人類の高度な文明は歴史の産物だからだ。そこで、この授業では、46 億年前の惑星「地球」の誕生から、生命の発生と進化、地球表層の環境の変遷、生命と環境の相互作用の歴史を概説する。また、静岡県以南の太平洋沿岸域は、近い将来、南海トラフの大地震の被害を受けることが確実である。この大地震へ備えるためには、過去の地震や津波の実態の理解も必要であるので、本講義で紹介する。</p> <p>講義はパワーポイントと配布資料で行う。パワーポイントで「ノート」と示した箇所は、筆記具でノートに書き込むか、PC に打ち込むか、あるいは記憶する。カメラ撮影は許可しない。</p>				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 東北地方太平洋沖地震と巨大津波、南海トラフの巨大地震について 2. 化石記録と地層 3. 初期地球の環境と生命の起源、初期火星の環境 4. 錆びる地球と凍る地球 5. エディアカラ動物群とカンブリア紀の生命大爆発 6. 古生代の生物の進化 7. 古生代後期の生物の進化と絶滅 8. 中生代の古生物ー恐竜ー 9. 中生代末の絶滅事件、哺乳類の繁栄と急激な温暖化事件 10. 気候変動の復元方法 11. 気候変動のメカニズム 12. 氷期-間氷期サイクルの原因、人類の進化 13. 日本列島の島嶼化、最終氷期の環境変動 14. 過去 1 万年間の環境変動 15. 文明と気候変動、地球温暖化問題 				
受講要件	なし				
テキスト	なし				
参考書	毎回の授業でプリントを配布する。				
予習・復習について	毎回の授業で配布するプリントで復習する。適時、レポートを課す。				
成績評価の方法・基準	出席(出席 2/3 以上を評価の対象とする)、授業態度、試験にて総合的に評価します。出席はできうる限り正確にとります。出席状況の記録は開示しません。授業中に外部との通信機能を持つ機器(例えば、携帯電話)を使用していた場合は、不正行為と見なすことがあります。				
オフィスアワー	相談内容・日時に関しては、事前にメールで連絡下さい(アドレス : kitamura.akihisa@shizuoka.ac.jp)				
担当教員からのメッセージ	歴史科学の重要性を理解して欲しい。時間厳守。				

授業科目名	数学Ⅰ（微分積分A） (Mathematics I(Infinitesimal Calculus A))				
担当教員名	板津 誠一 (ITATSU Seiichi)		所属等	学術院理学領域	
			研究室	理学部 C棟605	
分担教員名					
クラス	理PCBG3	学期	前期		必修選択区分
対象学年	1年	単位数	2	曜日・時限	木3・4
キーワード	極限、微分、積分				
授業の目標	高等学校の数学Ⅰ,ⅡBまで習得している学生(クラス3)と、高等学校の数学Ⅲ,Cまで習得している学生(クラス1,2)に分けて、3クラスで講義を行います。講義では微分および積分において数式の計算とその応用について身につけることを目標とします。				
学習内容	大学での数学は最初に微分積分と線形代数を学びますが、数学での取り組み方に分析的手法(解析)と統合的手法(代数、幾何)があります。このうち微分積分では、分析的手法の第一歩を学びます。講義では微分では極限の説明があり、また積分では区分求積法の説明で積分の定義を学びます。ノートと筆記用具を用意しておいて進めることが数学を学ぶための手段です。またレポートや演習で講義の内容を確かめます。				
授業計画	<p>数学Ⅰ,Ⅱ,Ⅲは、各々3クラスに分けて講義をします。前期の数学Ⅱの第1回講義に試験を行い、クラスを決定します。試験を必ず受けて下さい。再履修の受講生は前年度までのクラス分けに従って受講して下さい。3クラスの担当教員は、</p> <p>クラス1: 数学Ⅰ 待田教員 -数学Ⅱ 待田教員 -数学Ⅲ 若井教員 クラス2: 数学Ⅰ 保坂教員 -数学Ⅱ 木村教員 -数学Ⅲ 久村教員 クラス3: 数学Ⅰ 板津教員 -数学Ⅱ 保坂教員 -数学Ⅲ 松本敏教員</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 整式 数と文字、文字式、平方根、2次方程式 2. 実数の性質 1次関数、2次関数、不等式、三角比、三角関数、指数、対数 3. 極限 数列の極限、実数の連続性、和の記号Σと級数、優級数定理 4. 関数 関数の定義域と値域、関数の極限 5. 微分 整式の微分、導関数、積・商の微分、合成関数・逆関数の微分 6. 平均値の定理 平均値の定理、関数の増減、三角関数の微分、指数関数・対数関数の微分、ロピタルの定理 7. テイラーの定理 高階導関数、テイラーの定理 8. 積分 不定積分、置換積分、部分積分、定積分、広義積分、曲線の長さ、面積・体積 				
受講要件					
テキスト	水田義弘 著「入門微分積分」(サイエンス社),ISBN4-7819-0822-5, ISBN 978-4-7819-0822-9				
参考書	「微分積分概論」, 越 昭三 監修,高橋泰嗣,加藤幹雄 著,(サイエンス社), 1998, ISBN-10: 478190873X, ISBN-13: 978-4781908731				
予習・復習について	授業のノートおよびテキストで予習および復習をしてください。数学の問題に取り組むことが重要です。				
成績評価の方法・基準	定期試験を主に、受講態度・レポートを加えて評価します。試験では論述的な解答が求められます。				
オフィスアワー	講義の際に、各教員より提示されます。また、授業の質問については附属図書館「チューターズフロント」も積極的にご利用ください。				
担当教員からのメッセージ	復習は必要です。テキストや参考書の演習問題を解くことで理解が身に付きます。				

授業科目名	生物学A (Advanced Biology A)				
担当教員名	鳥山 優 (TORIYAMA Masaru)		所属等	学術院農学領域	
			研究室	共通教育 C 棟 509 号室	
分担教員名					
クラス	農	学期	前期		必修選択区分 必
対象学年	1 年	単位数	2	曜日・時限	金 1・2
キーワード	細胞、生体構成物質、細胞分裂、遺伝子 (DNA)、セントラルドグマ、バイオテクノロジー、解糖系、TCA 回路、電子伝達系、光合成				
授業の目標	すべての生命が細胞活動によって支えられている、そのしくみについての理解を最終目標とする。そのために、細胞内で行われる化学反応の総体である代謝、セントラルドグマによる遺伝情報の発現を分子の動きで説明し、それが生命を維持するしくみについて概観を説明できるまでに理解する。				
学習内容	生命の最小単位である細胞の構造と機能について理解する。細胞を構成する物質、細胞のなりたち、細胞分裂、遺伝情報の発現とその応用技術であるバイオテクノロジーの概説、さらには、細胞内における基礎的代謝経路について、解糖、TCA 酸回路、カルビン回路等を概説する。				
授業計画	<p>第1回：生物の起源と共通性 地球上における生命の誕生，化学進化と生物進化</p> <p>第2回：細胞の構造 細胞小器官の種類と構造・働き</p> <p>第3回：細胞を作る物質 生体構成物質の種類，水，糖，脂質，タンパク質，核酸</p> <p>第4回：生体膜 生体膜の構造とはたらき，流動モザイクモデル</p> <p>第5回：細胞の分裂 核分裂と細胞質分裂，染色体の構造</p> <p>第6回："遺伝子の本体としての DNA メンデル～DNA 構造の決定" メンデルの法則，DNA の二重らせんモデル</p> <p>第7回：DNA 複製 DNA 複製のしくみ，DNA ポリメラーゼの構造と働き</p> <p>第8回：遺伝情報の発現 セントラルドグマ，RNA ポリメラーゼ，プロモーター</p> <p>第9回：生命現象を支えるタンパク質の働き・細胞分化 タンパク質の機能と発現調節による細胞の分化</p> <p>第10回：遺伝子変異／ゲノムプロジェクト 突然変異による形質転換，ゲノムの全容を明らかにする研究</p> <p>第11回：バイオテクノロジー DNA を利用した生物機能の改変</p> <p>第12回："代謝とエネルギー 同化／異化・解糖系" 独立栄養生物と従属栄養生物，同化と異化のあらまし</p> <p>第13回：TCA 回路/電子伝達系 ミトコンドリアによるエネルギー生産</p> <p>第14回：光合成1 葉緑体の構造，光のエネルギーを化学結合のエネルギーへ</p> <p>第15回：光合成2 カルビン・ベンソン回路</p>				
受講要件	なし				
テキスト	ライフサイエンスのための生物学 (培風館) ダイナミックワイド図説生物 (東京書籍)				
参考書	なし				
予習・復習について	(予習) 授業はシラバス通りに進めるので，該当する教科書の部分にあらかじめ目を通してのこと。 (復習) 教科書の章末にある問題を指定するので，それに各自取り組むこと。				
成績評価の方法・基準	期末試験のみで評価する。成績評価については、「秀」「優」「良」「可」「不可」の5段階とし，それぞれの評価の点数範囲は静岡大学単位認定等に関する規程に基づく。				
オフィスアワー	月曜日の午後。あらかじめメールで了解をとること。				
担当教員からのメッセージ	予習にしっかり取り組むこと。高校において生物未履修者は高校の教科書や参考書等を使って事前の理解を得ておくこと。大学受験のための問題集を活用するとよい。				

授業科目名	静岡県防災・減災と原子力 (Disaster prevention and mitigation for nuclear safety in Shizuoka)				
担当教員名	大矢 恭久 (OYA Yasuhisa)		所属等	学術院理学領域	
			研究室	理学部 A202	
分担教員名	近田 拓未、矢永 誠人、熊野 善介、原田 賢治、郡司 賀透、鈴木 誠之				
クラス	学部共通 1	学期	前期		必修選択区分 —
対象学年	2 年	単位数	2	曜日・時限	金 3・4
キーワード	防災・減災、地域と原子力、長期的なエネルギー問題				
授業の目標	静岡県は東海地震想定域に位置しているとともに、中部電力浜岡原子力発電所を有している。そのため、長期的なエネルギー問題や原子力の在り方について「みんなで考える」機会を持つと共に、防災・減災（特に原子力防災・減災）の在り方について理解を深め、原子力の在り方について学生自らの問題として理解し、考えることのできる学生の育成をめざす。				
学習内容	静岡県の減災・防災の取り組みや原子力・放射線への理解を高めると共に、原子力防災・減災の取り組みや長期的なエネルギー問題における原子力の在り方について「みんなで考える」そして「みんなで理解する」科目である。グループワークを通して、自分の問題として原子力や防災・減災について考えてみる。中部電力、静岡県、静岡新聞社の担当者を招聘してそれぞれの機関での防災対策についても解説してもらいます。				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス 2. 社会合意形成とは（グループワークを通して） 3. 放射線と放射能 4. 津波災害についての基礎 5. 浜岡原子力発電所と安全対策 6. 静岡県の原子力防災・減災体制 7. 静岡市の緊急時支援体制 8. 報道と原子力防災 9. 防災・減災教育 10. 原子力災害からの復興 11. 目で見る放射線とその防護（1） 12. 目で見る放射線とその防護（2） 13. 議論することとその方法 14. 専門家と市民とのコミュニケーションの方法論 15. まとめ <p>講義の順番は前後することがある。</p>				
受講要件	特になし				
テキスト	静岡県の防災・減災と原子力（静岡学術出版）				
参考書	なし				
予習・復習について	テキスト、講義資料や関連図書による予習および復習をおこなうこと。				
成績評価の方法・基準	講義中に小レポート、講義中の発表内容および期末のレポートを総合的に評価する。				
オフィスアワー	8:00-20:00				
担当教員からのメッセージ	静岡県の原子力の在り方、原子力防災・減災の在り方についてみんなで考えてみませんか？				

授業科目名	地震防災 (Prevention of Earthquake Disaster)				
担当教員名	牛山 素行 (USHIYAMA Motoyuki)		所属等	防災総合センター	
			研究室	防災総合センター	
分担教員名	生田 領野、三井 雄太、原田 賢治、土屋 智、安村 基、村越 真、小林 朋子、岩田 孝仁、長尾 年恭、荒川 修平、武村 雅之、狩野 謙一、横幕 早季、山本 裕之				
クラス	学部共通 1	学期	前期		必修選択区分 —
対象学年	2 年	単位数	2	曜日・時限	金 3・4
キーワード	地震災害、防災、減災、災害対策、危機管理				
授業の目標	地震防災はさまざまな分野にまたがる総合科学であり、東海地震の発生が危惧されている静岡県で生活する学生にとってこれを学ぶことは極めて重要である。また、静岡県において警戒すべき災害は東海地震にとどまるものではなく、幅広い視野から災害を考える視点を養うことも重要である。今後、社会の一員として活動していく中で、日々の仕事や日常生活の中に、防災に関する視点を持てるようになることを目標とする。				
学習内容	地震災害をおもな題材とし、地震と災害の発生メカニズム、災害に対する社会の対応など、災害科学について各分野の専門家による講義を通じて総合的に学ぶ。				
授業計画	<p>各回毎に講義担当者が代わり、それぞれの分野の専門家により、講義が行われる。</p> <p>地震学と東海地震の基礎 1 生田領野 静大 地震学と東海地震の基礎 2 三井雄太 静大 地震予知 長尾年恭 東海大 活断層と地震発生長期予測 狩野謙一 静大 地震による災害：津波災害 原田賢治 静大 地震による災害：建物災害 安村基 静大 災害時の心のケア 小林朋子 静大 災害報道 荒川修平 テレビ東京 地震による災害：土砂災害 土屋智 静大 地震災害史 武村雅之 名古屋大 地震災害のリスク認知 村越真 静大 地震防災行政 岩田孝仁 静大 市民防災 横幕早季 静大 災害時の医療 山本裕之 静大 防災を学ぶ(講義のおわりに) 牛山素行 静大</p> <p>※講師の都合により、講義順序が入れ替えとなる場合がある。</p>				
受講要件	特になし				
テキスト	指定しない				
参考書					
予習・復習について					
成績評価の方法・基準	<ul style="list-style-type: none"> ・毎回の講義の最後に小課題を出題し、原則として講義時間内に提出を求める。講義時間中に特に指示があった場合を除き、小課題の後日提出は認めない。 ・小課題の提出回数が、10回以上の者を成績評価の対象とする。成績評価対象者が自動的に「可」以上の成績となる訳ではない。成績評価対象者の小課題提出回数の多少は、成績評価に影響しない。期末試験は実施しない。各回の小課題をもとに評価を決める。 ・欠席時の講義内容については、欠席者自身で情報収集すること。 ・欠席届等の提出を希望する場合は、各回の担当教員または、主担当教員(防災総合センター・牛山教授)まで提出すること。 ・講義期間終了後に、レポート出題などによって不合格者に対するいわゆる「救済措置」をとることはない。 				
オフィスアワー					
担当教員からのメッセージ	<p>本学防災総合センターが企画している講義である。多様なバックグラウンドを持つ、学内外の専門家による講義を直接聞くことができる貴重な機会であり、本学ならではのユニークな構成となっている。是非この機会を生かして欲しい。</p>				

授業科目名	ジェンダーからみる現代社会 (Contemporary Society from Gender Perspectives)				
担当教員名	跡部 千慧 (ATOBE Chisato)		所属等	男女共同参画推進室	
			研究室	多目的保育施設「たけのこ」	
分担教員名					
クラス	学部共通 1	学期	前期		必修選択区分 選必
対象学年	3年	単位数	2	曜日・時限	金 3・4
キーワード	ジェンダー、男女共同参画、セクシュアリティ、LGBT				
授業の目標	「ジェンダー」に関する基本的な考え方と知識を身につける。 「ジェンダー」視点を活用して、現代社会について多面的に考える。				
学習内容	<p>どんな人も、大学卒業後、職業を選択し、家族を形成し、同じ地域に住む人々と共生し、次世代を育成するというプロセスに、何らかのかたちで、関わっていきます。その局面局面において、意識することになる問題があります。</p> <p>私たちは、家族、学校、職場など、日常生活のさまざまな局面において、男と女に区分され、男らしく女らしく振る舞うことを期待され、無意識的、ときには意識的に振舞っています。しかし、このように極めて当たり前だと思っていることも、一歩立ち止まって「それは一体なぜなのだろう」と考えてみると、そこにさまざまな問題が潜んでいることがわかります。これを解明する鍵となるのが「ジェンダー」という視点です。もしかしたら、みなさんのこれまでの人生では、あまり意識されてこなかったかもしれませんが、日本は、男女格差が調査国 145ヶ国中 101位の国であり、国際的には男女間の不平等が著しい国とされています。</p> <p>「ジェンダー」に関する基本的な知識を学習することにより、現代社会のありようを問い直し、このような男女格差をなくし、男性・女性という既存のカテゴリーにあてはまらない性別を自認する場合も含め、それぞれが「自分らしく生きる」ためにはどうしたらよいかを考えます。</p>				
授業計画	第1回 オリエンテーション：「ジェンダー」とは。メディアに表出する男女差 第2回 セクシュアリティとジェンダー(1)：性の多様性/LGBTとは 第3回 セクシュアリティとジェンダー(2)：性の多様性をどう捉えるべきか 第4回 学校におけるジェンダー：「隠れたカリキュラム」とキャンパスハラスメント 第5回 家族・恋人とジェンダー：デートDVとは。なぜDVは起こるのか 第6回 中間レポート作成：ジェンダーとは何か 第7回 結婚とジェンダー：「恋愛結婚」はいかにしてもたらされたか 第8回 妊娠・出産・育児とジェンダー：「三歳児神話」とは 第9回 労働とジェンダー(1)：女性は昔から働かなかったのか 第10回 労働とジェンダー(2)：女性は働きやすくなったのか 第11回 男性のジェンダー（男性性）：では、男性は生きやすいのか？ 第12回 人生とジェンダー：体験談からキャリア形成を考える(1) 第13回 人生とジェンダー：体験談からキャリア形成を考える(2) 第14回 人生とジェンダー：体験談からキャリア形成を考える(3) 第15回 まとめ：自分らしく生きるための社会のあり方とは 第16回 試験				
受講要件	ジェンダーや男女共同参画の視点を知り、身につける意欲があること。				
テキスト	特に指定せず、授業ごとに資料を配布します。				
参考書	木村涼子・伊田久美子・熊安貴美江編，2013，『よくわかるジェンダー・スタディーズ』ミネルヴァ書房。 伊藤公雄・牟田和恵編，2006，『新版 ジェンダーで学ぶ社会学』世界思想社。 加藤秀一・石田仁・海老原暁子，2005，『図解雑学 ジェンダー』ナツメ社。 レイウィン・コンネル，2002=2008，多賀太監訳『ジェンダー学の最前線』世界思想社。				
予習・復習について	授業で課す課題には、参考文献を十分に調べてレポートを作成すること。				
成績評価の方法・基準	期末試験、中間レポート、授業コメントシート等による。				
オフィスアワー	多目的保育施設「たけのこ」にて、金曜の5・6時限				
担当教員からのメッセージ	「ジェンダー」というと、女性の問題と捉えられがちですが、この授業では、男性のジェンダーや、LGBTと呼ばれるジェンダー・セクシュアリティの問題も考えます。非常に身近な話題であるがゆえに、「既存の常識を疑ってみる」という社会に出てから求められる視点を養う半年間となるでしょう。すべての人が、あらゆる分野で持てる能力を発揮し、「自分らしく生きる」世の中をつくるにはどうしたらいいか、ともに考えてみましょう。				

授業科目名	公共施設デザイン論 (Design theory of the public infrastructure construction)				
担当教員名	岩田 孝仁 (IWATA Takayoshi)		所属等	防災総合センター	
			研究室	防災総合センター	
分担教員名					
クラス	学部共通 1	学期	前期		必修選択区分 ー
対象学年	2 年	単位数	2	曜日・時限	金 3・4
キーワード	公共施設、土木構造物、構造物の設計、都市計画、交通ネットワーク				
授業の目標	私たちの暮らしを支える道路、橋梁、河川、海岸、港湾、砂防など様々な公共施設の計画から設計に関する考え方、さらに都市計画や交通計画の手法についてその概要を学ぶことにより、社会資本整備やまちづくりをデザインする上での基礎を身につける。				
学習内容	道路、橋梁、河川、海岸、港湾、砂防など様々な公共施設の計画から設計に関する具体的な流れや考え方、手法、さらに都市計画や交通計画の手法に関する概論を、実践事例を交えて学習する。				
授業計画	<p>下記の内容について資料などに基づき、それぞれの分野の専門家により講義を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・公共事業の概要 ・道路計画と設計 ・橋梁設計 ・舗装計画と設計 ・河川計画と設計 ・海岸保全計画と設計 ・砂防、治山、急傾斜地対策の計画と設計 ・港湾、漁港計画と設計 ・都市計画 ・交通計画 <p>なお、都合により講義の順番は前後することがある。</p>				
受講要件	特になし				
テキスト	特に指定せず、適時資料を配布する。				
参考書	指定しないが、必要があれば授業でその都度示す。				
予習・復習について	講義ノートや関連資料、図書による復習を必ず行うこと。				
成績評価の方法・基準	毎回の講義の最後に課す小レポートの採点結果を集計し評価する。 なお、全出席回数数の 2/3 以上の者を成績評価の対象とする。				
オフィスアワー	講義終了後に申し出るか、事前に防災総合センターに問い合わせること。				
担当教員からのメッセージ	道路や港、橋梁、砂防施設、海岸や河川堤防など私たちの生活を支える公共施設の計画や設計に関して技術的背景をもとに学習することができ、将来、技術系公務員や地域づくりなどの仕事をを目指す学生には実践的で有意義な講義である。				

授業科目名	平和学 (Peace Studies)				
担当教員名	橋本 誠一 (HASHIMOTO Seiichi)		所属等	学術院人文社会科学領域	
			研究室	人文 A 棟 6 0 9	
分担教員名	鳥畑 與一、板倉 美奈子、ダリウス グレニジ、石原 剛志、赤田 信一				
クラス	学部共通 1	学期	前期		必修選択区分 選必
対象学年	3 年	単位数	2	曜日・時限	金 3・4
キーワード	平和、戦争、構造的暴力、直接的暴力、消極的平和、積極的平和				
授業の目標	①【知識】平和学に関する基本的な概念を理解することができる。 ②【思考】戦争と平和の問題について実証的かつ論理的に思考することができる。 ③【表現】自分の思考内容を論理的に表現することができる。				
学習内容	①【予習】授業テーマごとに各担当教員が用意した配付資料を事前に読んでおいてください。 ②【講義】①の予習を前提に、配付資料の内容をより深く講義します。 ③【復習】各教員が提示した課題について自分の所見をまとめ、学務情報システムに提出してください。				
授業計画	専門の異なる 6 人の教員がオムニバス形式で講義を担当します(そのうちの一人はコーディネート役としてつねに授業に参加します)。最終回に担当教員全員が顔を揃え、平和学について受講生の皆さんとともに議論をします。 回 内容 1 はじめに一授業概要の説明 (橋本) 2 平和学とは何か (橋本) 3 イスラム世界とパレスチナ問題 (1) (橋本) 4 イスラム世界とパレスチナ問題 (2) (橋本) 5 戦争と平和の経済学① 平和の配当と軍需産業 (鳥畑) 6 戦争と平和の経済学② 学問と軍事研究 (鳥畑) 7 国連の平和活動 (1) 歴史的展開からみた「平和」観の変遷 (板倉) 8 国連の平和活動 (2) 現在の国連の平和活動における「平和」観 (板倉) 9 歴史上の日米の絡み合いと付き合い：未来への希望と懸念 (1) (Darius Greenidge) 10 歴史上の日米の絡み合いと付き合い：未来への希望と懸念 (2) (Darius Greenidge) 11 絵本のなかの戦争・平和・子ども (1) 日本の創作絵本と翻訳絵本との比較 (石原) 12 絵本のなかの戦争・平和・子ども (2) 被害を描くことを乗り越えて (石原) 13 学校における平和教育の可能性 (赤田) 14 平和を願う心を育てる教育コンテンツの現在 (赤田) 15 パネル・ディスカッションーまとめにかえて (全員)				
受講要件	とくになし。				
テキスト	とくになし。				
参考書	高柳先男『戦争を知るための平和学入門』(筑摩書房、2000 年) ガルトゥング+藤田明史編著『ガルトゥング平和学入門』(法律文化社、2003 年) 児玉克哉・佐藤安信・中西久枝『はじめて出会う平和学』(有斐閣、2004 年) 篠田英朗『平和構築入門』(ちくま新書、2013 年) 日本平和学会編『平和を考えるための 100 冊+α』(法律文化社、2014 年)				
予習・復習について	「学習内容」欄を参照してください。				
成績評価の方法・基準	・各教員がそれぞれの担当授業の内容を踏まえ、受講生の皆さんに考えて欲しい課題を提示します(原則として教員 1 人につき 1 回)。その課題について自分の意見をまとめ、学務情報システムに提出して下さい。 ・課題提出の総合点をもって成績を評価します。				
オフィスアワー	開講時に案内します。				
担当教員からのメッセージ	答えのない問いについて一緒に考えてくれる人を求めます。				

授業科目名	暮らしの中の新素材 (Advanced materials in daily life)				
担当教員名	近藤 満 (KONDO Mitsuru)		所属等	グリーン科学技術研究所	
			研究室	総合研究棟 501	
分担教員名	澤渡 千枝、守谷 誠				
クラス	学部共通 1	学期	前期		必修選択区分 選必
対象学年	3年	単位数	2	曜日・時限	金 3・4
キーワード	機能性材料、バイオマス、生物材料、セルロース、繊維、プラスチック、生分解性材料、エネルギー、無機材料、化学史				
授業の目標	近年の科学技術の進歩は著しく、それらは気づかぬうちに私たちの生活のなかに活かされている。この講義では専門を異にする2名の教官が、暮らしの中で出会ういくつかの新技术や製品をとりあげ、その成り立ちやしくみ、開発の経緯などについて解説する。				
学習内容	世界の歴史において、新化合物の合成がどのように行われてきたか、そして、それらの化合物が果たしてきた役割を解説する。これまでに見いだされて来た多くの新素材が、どのように現在の社会生活を支えているかを学ぶ。				
授業計画	回 内容 1 授業の概要についてガイダンス (近藤) 2 世界の歴史において、新物質が果たしてきた役割について (近藤) 3 金属を含む機能材料：金属を含む素材が示す多様な構造と機能 (近藤) 4 色の化学：～色が出るしくみと素材 (近藤) 5 バイオマスについて (澤渡) 6 衣料用繊維材料：ファッション界、スポーツ界における新材料 (澤渡) 7 産業用繊維材料：高性能・高機能材料-1 (澤渡) 8 電池について：携帯電話やパソコンの長時間使用は何故可能になったか (近藤) 9 産業用繊維材料：高性能・高機能材料-2(澤渡) 10 プラスチックス：化石燃料依存型からの脱却をめざして-1 (澤渡) 11 地球温暖化対策を指向した素材：二酸化炭素の除去や太陽電池について (近藤) 12 プラスチックス：化石燃料依存型からの脱却をめざして-2 (澤渡) 13 これからの電池とその材料について (守谷) 14 触媒、磁石 他の機能材料について (近藤) 15 水をきれいにする材料：海水を真水に変える素材 (近藤)				
受講要件	学ぶ意欲があり出席出来る学生なら、指定外の学部生も可				
テキスト	授業の中で紹介する				
参考書	授業の中で紹介する				
予習・復習について	授業でとりあげる新素材は多様な新素材の一部であり、それらの解説は授業者の視点からである。受講生は授業を聞くだけでなく、各自で関連した素材や異なる観点からの見解等に興味・関心を広げ、ものを観る目を養ってほしい。				
成績評価の方法・基準	試験の結果を基に評価する。				
オフィスアワー	基本的にメールで対応する。				
担当教員からのメッセージ	新化合物の合成技術の進歩は、しばしば世界の歴史に大きな影響を与えてきました。科学の発展が担って来た社会に対する影響、そして、現在の身の回りにあふれる新素材について紹介します。文系の学生でも対応できるように、理系の特別の専門知識を必用としなくとも理解できる講義です。				

授業科目名	人間環境と分子科学 (Molecular Science in the Human Environment)				
担当教員名	山本 歩 (YAMAMOTO Ayumu)		所属等	大学院理学領域	
			研究室	理学部A棟 311	
分担教員名	大吉 崇文				
クラス	学部共通 1	学期	前期		必修選択区分 選必
対象学年	3年	単位数	2	曜日・時限	金 3・4
キーワード	分子、化学、環境汚染、生体分子、医薬品分子				
授業の目標	人間をとりまく健康や環境について国民の関心も高く、毎日のように多くの報道がなされています。この講義ではこれらについて、誤った報道や誤解に惑わされることのないように、正しく広い分子科学的教養を身につけることをめざします。				
学習内容	薬の使い方など身近な問題から地球全体の将来に関わる問題まで、今日の健康・環境問題を理解するためにはそれらにかかわる化学物質やその反応について幅広い正確な知識が必要です。これらの問題を深く理解するために必要な分子科学的な知識を分かりやすく概説します。				
授業計画	<p>環境や健康の分子科学に関する問題を毎回1テーマずつ取り上げます。下記のテーマを取り上げますが、順序は変わる可能性があります。</p> <p>回 内容</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 大気の基本 2 大気中の有害物質：天然に存在する有害物質 3 大気中の有害物質：人間活動によって生み出される有害物質 4 オゾン層破壊 5 紫外線と人体 6 老化と寿命 7 薬学入門1. 薬の発見発明史（特別講師・木村榮一広名誉教授） 8 薬学入門2. 日本発の世界的くすり（特別講師・木村榮一広名誉教授） 9 薬学入門3. 抗がん剤の歴史（特別講師・木村榮一広名誉教授） 10 遊び心と数学と化学の融合した超分子合成—2016年ノーベル化学賞受賞（特別講師・木村榮一広名誉教授） 11 己の分子科学研究60年を俯瞰し静大生へメッセージ（特別講師・木村榮一広名誉教授） 12 DNA研究と医学との関わり 13 環境と遺伝の関わりと倫理問題 14 DNA研究の最前線 15 生体材料とナノテクノロジー 				
受講要件	特になし。				
テキスト	特に指定しません。				
参考書	必要があれば、適宜紹介します。				
予習・復習について	特に必要ありません。				
成績評価の方法・基準	毎回の小レポートで判断します。				
オフィスアワー	特に用事のない限りいつでも対応します。				
担当教員からのメッセージ					

授業科目名	実践からの防災行政論 (Practice theory of the disaster prevention administration)				
担当教員名	岩田 孝仁 (IWATA Takayoshi)		所属等	地域創造学環	
			研究室	大学会館 1 階	
分担教員名	牛山 素行、原田 賢治				
クラス	環境防災	学期	前期		必修選択区分 選必
対象学年	1～3 年	単位数	2	曜日・時限	火 3・4
キーワード	防災、減災、自然災害、災害対策、地震対策、地域防災、防災行政、災害対策基本法、防災計画、災害救助法				
授業の目標	近年、社会環境の変化に伴って多様な災害事象が発生している。これら多様な災害に備えるため、防災に関する基本的な法律体系や諸制度、行政システム、地域社会の仕組みを理解し、将来発生する大規模災害や様々な危機への対応を客観的に判断できる基礎的な知識と柔軟な思考を身につける。				
学習内容	災害についての基礎知識と近年の災害現場で起きた様々な災害事例、災害に伴って生じた課題、その解決策、災害に備えての事前の防災施策について学ぶ。さらに、防災対策を実施するために必要となる基礎的な防災関係法や諸制度、国・地方公共団体などの防災計画の考え方と概要、その適用事例などを学び、防災行政や防災施策の仕組み全般について理解を深める。				
授業計画	<p>下記の内容について資料などに基づき講義と演習を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 災害とは 日本人の災害感 ・ 行政の仕組みと防災行政の基本 ・ 静岡県と日本の防災行政の歩み ・ 災害対策関係法と防災計画 ・ 津波と防災 ・ 最近の風水害に学ぶこと ・ 災害現場からの教訓 ・ 防災行政の現状と課題 ・ これからの防災を考える（演習） <p>なお、都合により講義の順番は前後することがある。</p>				
受講要件	特になし				
テキスト	特に指定せず、適時資料を配布する。				
参考書	指定しないが、必要があれば授業でその都度示す。例えば、防災白書など。				
予習・復習について	講義ノートや資料、関連図書による復習を必ず行うこと。				
成績評価の方法・基準	講義中に課すレポートの採点結果 75%、演習や発表内容 25%を加味して評価する。 なお、全講義回数数の 2/3 以上を出席した者を成績評価の対象とする。				
オフィスアワー	講義終了後に申し出るか、事前に防災総合センターに問い合わせること。				
担当教員からのメッセージ	静岡県は防災先進県として日本の防災行政を先導してきた。その実践事例などを参考としながら、日本の防災行政や防災政策を系統的に学ぶことにより、防災の基礎的素養をしっかりと持ち、社会での防災活動に積極的に結び付くことのできる人材となることを期待する。				

授業科目名	金融論 I (Theory of Money and Banking I)				
担当教員名	鳥畑 與一 (TORIHATA Yoichi)		所属等	学術院人文社会科学領域	
			研究室	共通 L 棟 4 1 2	
分担教員名					
クラス	人文専門	学期	前期		必修選択区分 選択
対象学年	2 年	単位数	2	曜日・時限	月 1・2
キーワード	貨幣 (通貨)、金融制度、金融業務、金融理論、金融政策				
授業の目標	金融論の取り扱う諸テーマに関わる総合的理解				
学習内容	金融論は資金の融通にまつわる諸事象を学ぶ学問分野ですが、一般的に、いくつかのテーマによって構成されています。たとえば、「金融理論」、「金融制度論」、「金融業務論」、「金融政策論」などです。本金融論ではそれらのテーマに即して総合的に学習します。なお金融論 I は国内金融を主に取り扱い、金融論 II は国際金融を主に扱います。				
授業計画	回 内容 1 ガイダンス 2 貨幣の形態と機能 3 マネーストックとその変動 4 預金通貨の供給と信用創造 5 内国為替制度と手形交換制度 6 金融システムとは何か—直接金融と間接金融— 7 銀行の融資業務 8 銀行の預金業務 9 短期金融市場 10 金融政策と銀行① 11 金融政策と銀行② 12 銀行業とリスク 13 銀行業の規制・監督 14 中小企業金融とは何か 15 講義内容の総復習 (予備日)				
受講要件					
テキスト	使用する場合は初回ガイダンス時に指定します。				
参考書	随時指定していきます。				
予習・復習について	特に復習を十分に行ってください。				
成績評価の方法・基準	期末試験に基づきます。中間課題 (小レポートまたは小テスト) を課したり、出欠を取ったりした場合は加点対象とします。				
オフィスアワー	月曜昼休み時を予定 (変更可能性あり)				
担当教員からのメッセージ	質問には講義終了後にまとめてお答えするので、講義中の質問はご遠慮ください。				

授業科目名	中国文学概論 I				
担当教員名	埋田 重夫 (UMEDA Shigeo)		所属等	学術院人文社会科学領域	
			研究室	人文 A 棟 5 1 8	
分担教員名					
クラス	人文専門	学期	前期		必修選択区分
対象学年	2 年	単位数	2	曜日・時限	月 3・4
キーワード	漢字、文言、白話、読書人、士大夫、文人、中国古典学、儒仏道三教、対偶、典故				
授業の目標	<ol style="list-style-type: none"> 1 世界文学における中国文学の独自性について認識を深める。 2 中国文学の原論的な諸問題を理解する。 3 中国文学における読書人階級の意味について考察する。 4 中国古典のさまざまな文献に親しむ。 				
学習内容	<p>中国の文学は 3000 年の歴史を有し、その分野も多種多様である。極めて古い文学史を有する中国において、文学はいかなる地位を持ち、どのように考えられてきたのであろうか。そしてまた、中国文学全般に認められる際立った特色とは、いかなるものであるのか。これらの素朴な疑問から出発して、この講義では中国文学全体にわたって認められる顕著な特徴と傾向について、各時代の散文・韻文などさまざまな文献を引用し紹介しながら、多角的に分析と検討を加えていきたいと思う。こうした問題を考えることは、中国人の世界観における人間の地位についても、当然言及することになる。</p>				
授業計画	<p>中国文学の特色と傾向</p> <p>この講義で取り上げる具体的項目については、以下のものを予定している。 個々のテーマは、それぞれ独立してあるのではなく、お互いに連関して存在している。 それら全ての要素を統合したところに、世界文学における中国文学独自の性格があると考えられよう。 「中国文学概論」なる講義題目の趣旨に沿って、全体的・統一的な視点を絶えず意識しながら、丁寧に説明していきたいと考えている。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 はじめに 2 時間 3 空間 4 宗教 5 倫理 6 政治 7 主題 8 描写 9 修辞 10 まとめ 				
受講要件	世界文学のなかにおける中国文学の位相について、強い関心と興味のある学生の受講を希望したい。				
テキスト	<ol style="list-style-type: none"> 1 プリント（配布する資料は多数に及ぶ。各自がファイル化して整理・保存する必要がある） 2 参考書（吉川幸次郎・中国文学入門・講談社学術文庫）* ISBN4-06-158023-x 				
参考書	講義内容に関連する複数の参考書については、授業の折々に適宜紹介する予定。				
予習・復習について	<p>完全な講義形式で行うが、受講生との質疑応答の積極的に取り入れる。 授業では必要に応じて小課題を出すので、予習と復習が求められる。</p>				
成績評価の方法・基準	<ol style="list-style-type: none"> 1 試験（最終授業日に実施する予定・詳細は授業時に説明する） 2 その他（小課題の提出など） <p>* 上述 2 点を総合して成績処理を行う。</p>				
オフィスアワー	<p>月曜日の昼休み（12時から12時45分）を予定。事前に連絡が必要。 *連絡先はメールアドレスを参照。</p>				
担当教員からのメッセージ	<ol style="list-style-type: none"> 1 県立大学単位互換（認める） 2 科目等履修生（認める） 3 難易度（B） 4 教職国語（漢文）必修科目 <p>*授業の内容・方法については開講時に詳しく説明する。</p>				

授業科目名	英米事情 (Current Topics in the UK and the USA)				
担当教員名	ユーリック (URICK STEVEN TODD)		所属等	大学教育センター	
			研究室	共通教育A棟513 (東)	
分担教員名					
クラス	人文専門	学期	前期		必修選択区分 選択
対象学年	2年	単位数	2	曜日・時限	月3・4
キーワード	英米文化、英文読解				
授業の目標	In this course, students will 1) learn about culture and current events in the United Kingdom and North America, and 2) strengthen their English speaking, reading, writing and listening skills.				
学習内容	Students in this course will learn about current events and cultural topics in the UK and North America through readings, mini-lectures, video, and other media. This information will then be used as the basis for students to use English communicatively and develop critical language skills.				
授業計画	<p>The following are examples of topics covered in the course:</p> <p>Multiculturalism in Canada Dialects and class in the UK The 9.11 attacks and “terrorism” African-American music Student selected topics</p>				
受講要件	平成18年度以降の入学者は英語教員免許必修				
テキスト	There is no textbook required for this course.				
参考書					
予習・復習について	Homework will be assigned weekly.				
成績評価の方法・基準	Grades will be assessed based on participation (20%); homework, quizzes and other assignments (45%), and the final exam (35%).				
オフィスアワー	E-mail me at steve@uricks.net for an appointment.				
担当教員からのメッセージ	I look forward to working with students who want to improve their English skills, and are interested in learning about the UK and North America.				

授業科目名	刑法総論 I				
担当教員名	津田 雅也 (TSUDA Masaya)		所属等	学術院人文社会科学領域	
			研究室		
分担教員名					
クラス	人文専門	学期	前期		必修選択区分 必
対象学年	1年	単位数	2	曜日・時限	月 3・4
キーワード	刑法、刑法総論、犯罪、刑罰				
授業の目標	刑法総論を初めて学ぶ受講生が、「ある行為が犯罪とされるための要件」と「犯罪に対して科される刑罰の内容」について、①基本的な判例および学説の理解を踏まえた上で、②条文に即して説明できるようになること。				
学習内容	刑法総論 I では、「刑法総論」の基礎知識（基本的な概念、判例、学説など）を講義形式で解説します。下記テキストの内容に即して、刑法総論の全体を通覧して、その概要を把握するのが刑法総論 I の目的です（これに対して、後期に開講される刑法総論 II では、刑法総論の重要論点をいくつか取り上げ、詳しく分析・検討します）。				
授業計画	<p>※以下の【 】内の数字は、テキストのページ数です。</p> <p>回 内容</p> <p>1 ガイダンス（シラバス記載事項の説明、刑事法の概要）【1-16、75-86】</p> <p>2 序論－刑法の目的（法益保護、応報と犯罪予防）【17-36】</p> <p>3 序論－刑法の基本原則（罪刑法定主義、行為主義、責任主義）、刑罰法規の解釈【37-66】</p> <p>4 犯罪論－構成要件該当性 1（実行行為と危険概念）【130-141】</p> <p>5 犯罪論－構成要件該当性 2（因果関係）【119-130】</p> <p>6 犯罪論－構成要件該当性 3（故意）【143-168】</p> <p>7 犯罪論－構成要件該当性 4（過失）</p> <p>8 犯罪論－違法性 1（違法性とその阻却）【169-181】</p> <p>9 犯罪論－違法性 2（正当防衛と緊急避難）【181-191】</p> <p>10 犯罪論－責任 1（責任論の基礎、責任要素・その 1）【193-201】</p> <p>11 犯罪論－責任 2（責任要素・その 2）【202-211】</p> <p>12 犯罪論－未遂犯（障害未遂と中止未遂）【251】</p> <p>13 犯罪論－共犯論 1（正犯と共犯）【213-229】</p> <p>14 犯罪論－共犯論 2（共同正犯、狭義の共犯）【229-236】</p> <p>15 刑罰論－刑罰の種類とその適用（犯罪の個数、刑の加重と減輕、量刑の判断）【237-256】</p>				
受講要件	特になし。				
テキスト	井田良,入門刑法学・総論,有斐閣,2013年,ISBN9784641042957 上記テキストは教科書として使用しますので、なるべく購入してください。				
参考書	成瀬幸典=安田拓人,判例プラクティス刑法 I・総論,信山社,2010年,ISBN9784797226317 十河太郎ほか,刑法判例 50!,有斐閣,2016年,ISBN9784641139213 山口厚,刑法(第3版),有斐閣,2015年,ISBN9784641139084 裁判所職員総合研修所(監修),刑法総論講義案(四訂版),司法協会,2016年,9784906929511				
予習・復習について	予習よりも復習に重点を置くことを勧めます。復習を通じて生じた疑問点は、テキスト・参考書を繰り返し読むほか、担当教員に質問をして、放置せずに解消するようにしてください。 予習：テキストの該当箇所の見出しを見る程度で構いません。 復習：レジュメ・ノートを参照しつつ、テキストを繰り返し読み込んでください。				
成績評価の方法・基準	成績評価の方法：期末の筆記試験（60%）、レポート（20%）、小テスト（20%） 成績評価の基準：上記「授業の目標」で掲げた 2 点（基本的な判例・学説を踏まえた上で条文解釈を行えるか）の達成度。 ※レポートは論述問題の答案を作成してもらい、小テストは択一式の問題に解答してもらうことを予定しています。レポート・小テストともに、学務情報システムを通じて実施する予定です。詳細については、授業内で説明します。				
オフィスアワー	人文社会科学部法学科のウェブサイト（教員紹介）を参照。				
担当教員からのメッセージ	刑法総論 I は、皆さんが大学に入学して初めて学ぶ専門科目のうちの一つですので、なるべく分かりやすい解説を心がけ、授業もゆっくり進めますが、同時に、受講生である皆さんも積極的に学習に取り組んでください。特に、上記「予習・復習について」で記したように、復習に重点を置いて、疑問点を積極的に解消するように心がけてください。				

授業科目名	社会経済論 I				
担当教員名	遠山 弘徳 (TOHYAMA Hironori)		所属等	学術院人文社会科学領域	
			研究室	共通L棟325	
分担教員名					
クラス	人文専門	学期	前期		必修選択区分 選択
対象学年	3年	単位数	2	曜日・時限	月3・4
キーワード	資本主義、不完備契約、資本主義の多様性				
授業の目標	市場経済の交換・契約が不完備であるとはどのようなことか、また不完備性が発生する場合、どのような問題が発生し、どのような解決法・政策が採られるかを理解することを目標とする。				
学習内容	資本主義経済を不完備契約概念を基礎に説明した上で、不完備性を補うにあたっての制度の重要性、さまざまな制度および制度の補完性を解説する。				
授業計画	<p>回 内容</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 テキスト、授業方法、評価方法および学習方法の解説 2 社会経済学とは：テキスト序章 3 市場と資本（1）：テキスト第1章 4 市場と資本（2）：テキスト第1章「市場の働き」など 5 市場と資本（3）：テキスト第1章「条件付き契約の更新」など 6 市場と資本（4）：テキスト第1章「労働抽出」 7 企業（1）：テキスト第7章「新古典派経済学の企業像」 8 企業（2）：テキスト第7章「政治的構造としての企業1」 9 企業（3）：テキスト第7章「政治的構造としての企業2」 10 企業（4）：テキスト第7章「最適賃金の決定」 11 企業（5）：テキスト第7章「寡占企業と労働組合の交渉1」 12 企業（6）：テキスト第7章「寡占企業と労働組合の交渉2」 13 企業（7）：テキスト第7章「企業と制度1」 14 企業（8）：テキスト第7章「企業と制度2」 15 企業（9）：テキスト第7章「2つの市場経済」 				
受講要件	ミクロ経済学の基礎知識を有していることが望ましい。				
テキスト	宇仁宏幸他『(第二版) 入門社会経済学：資本主義を理解する』ナカニシヤ出版、3000円＋税				
参考書	S.ボウルズ『モラル・エコノミー』NTT出版、ホール・ソスキス『資本主義の多様性』ナカニシヤ出版				
予習・復習について	講義で説明した内容を確認するために、対応するテキストの箇所を読み、復習してください。				
成績評価の方法・基準	年度末のペーパーテスト（100%）により、評価します。なお、答案は返却します。				
オフィスアワー	第1回目の授業のさいにお知らせします。				
担当教員からのメッセージ	微分などの数学は利用しませんが、簡単な1次式、2次式のグラフを多用します。授業はパワーポイントを使いながら、テキストの内容を中心に解説していきます。テキストを利用しますが、ノートをとることが大切です。				

授業科目名	フランス言語文化演習Ⅲ (Seminar in French Language and LiteratureⅢ)				
担当教員名	浅野 幸生 (ASANO Yukio)		所属等	学術院人文社会科学領域	
			研究室	人文 A 棟 408	
分担教員名					
クラス	人文専門	学期	前期		必修選択区分 選択
対象学年	3年	単位数	2	曜日・時限	月 5・6
キーワード	フランス語、歴史、変化				
授業の目標	フランス語の歴史を学ぶ				
学習内容	フランス語で書かれたテキスト・プリントを訳読する。				
授業計画	1. フランス語の歴史に関する概説 2. Bourgeois, citoyen, citadin 3. De la cave au grenier 4. Les noms des agglomérations humaines 5. Voies urbaines et rurales 6. Dépenses et frais				
受講要件	フランス語を2年以上学習していること				
テキスト	『Les mots français』(高橋秀雄著・白水社)				
参考書	授業で適宜指示。				
予習・復習について	予習が必要。				
成績評価の方法・基準	平常点と試験による。				
オフィスアワー	月 14 : 20 ~ 15 : 30				
担当教員からのメッセージ					

授業科目名	社会学概論				
担当教員名	白井 千晶 (SHIRAI Chiaki)		所属等	学術院人文社会科学領域	
			研究室	人文C401	
分担教員名	荻野 達史、平岡 義和、山本 崇記、吉田 崇				
クラス	人文専門	学期	前期		必修選択区分 選必
対象学年	1年	単位数	2	曜日・時限	月7・8
キーワード	社会学的分析視角、社会関係・相互行為、教育、ジェンダー、福祉、多文化共生、ライフコース、格差、環境問題				
授業の目標	人間・社会について、歴史・文化・制度といったさまざまな条件を考慮し、深く理解することができ、同時に共生への志向を尊重できるようになること。				
学習内容	人間は、我々が想像する以上に社会的存在である。社会学は、ミクロな人間関係からマクロな社会構造にいたるまで埋め込まれた社会秩序とその変動を分析し、現代的な社会問題を多角的に解明する。社会学コースの教員全員で担当するこの講義では、半期の講義であるが、様々なトピックを取り上げることで、社会学的な発想法や分析視角、そして研究法のバリエーションを知る機会となる。				
授業計画	1)社会学への招待 2)現代社会における自己アイデンティティ 3)対人関係の作法と社会 4)能力」の語られ方 5)少年犯罪を読み解く 6)環境問題を社会学する 7)複合差別と多文化共生 8)差別解消と法制度：部落、障害者、外国人 9)地域活性化とまちづくり 10)学歴社会と若年雇用 11)ライフコースとキャリア 12)社会階層と貧困の再生産 13)ジェンダーとセクシュアリティ 14)テクノロジーと出産 15)女性の福祉と子どもの福祉				
受講要件	社会学科の学生に限る。				
テキスト	教科書は特に指定しない。				
参考書	全体をカバーするものとして、塩原良和・竹ノ下弘久編著 2010年『社会学入門』（弘文堂）、長谷川公一ほか編（2007）『社会学』（有斐閣）の2冊を挙げておく。その他、各教員が適宜紹介する。				
予習・復習について	講義後は必ずノートのまとめを行うこと。初回講義で配布される参考文献リスト中の文献を読むと、授業の理解が深まる。				
成績評価の方法・基準	各教員が担当最終回に試験あるいはレポートを課し、基礎概念や授業内容の理解度を評価する。その上で総合得点を計算する。				
オフィスアワー	最初の授業で指示する。				
担当教員からのメッセージ	難易度（A） 1. 県立大学単位互換（認めない） 2. 科目等履修生（認めない） 一方的な講義ではなく、できるだけ具体的な資料などをもとに、受講者が考え、問いを深めていくように工夫したい。また、紹介される文献には、新書など読みやすいものも多く含まれるので、ぜひ自らの読書の幅を広げ、社会についての理解を深めるチャンスとして、この講義を生かして欲しい。				

授業科目名	法学入門 (Introduction to Japanese Law)				
担当教員名	横濱 竜也 (YOKOHAMA Tatsuya)		所属等	学術院人文社会科学領域	
			研究室	人文A棟619室	
分担教員名					
クラス	人文専門	学期	前期		必修選択区分 選択
対象学年	1年	単位数	2	曜日・時限	月7・8
キーワード	法の支配、裁判制度、法源、法の解釈、法と道徳、立憲主義と民主主義、契約自由の原則、罪刑法定主義				
授業の目標	実定法各分野の学習に先立ち、法の基本的性格を理解し、実定法学の基本概念を習得する。				
学習内容	授業計画に示す通り。				
授業計画	<p>※以下の各項目は、おおよそ各回の授業内容と対応しています（アラビア数字は授業回を、ローマ数字は法学入門全体の章立てを示している）。ただし、授業内容、順序、進度は、受講者の皆さんの理解度や実際の授業の展開に応じて変更する可能性があります。詳細な授業日程は、初回授業で説明します。また各回に教科書の対応部分を記していますが、授業内容は教科書の内容にはまったくとどまらないことを、あらかじめ了解しておいてください。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 イントロダクション 判例の調べ方 I 法とは何か 2 六法と判例の読み方【教科書：第8章～第11章】 3 II 民事訴訟と刑事訴訟の基礎【教科書：第1章】 III 民法基礎 [所有権絶対の原則／契約自由の原則／過失責任主義]【教科書：第17章】 4 IV 刑法基礎 [罪刑法定主義／犯罪の成立要件／刑罰の目的]【教科書：第22章～第24章】 5 V 裁判制度（1）[裁判所組織]【教科書：第2章】 6 V 裁判制度（2）[法曹]【教科書：第2章】 7 VI 法源（1）[制定法、慣習・条理]【教科書：第4章】 8 VI 法源（2）[判例、判例法主義と成文法主義、判例の拘束力]【教科書：第4章】 VII 法適用と法解釈（1）[事実認定と法適用／解釈方法の分類]【教科書：第5章】 9 中間テスト≪単位取得希望者必須≫ VII 法適用と法解釈（2）[法解釈の客観性について]【教科書：第5章】 10 VIII 法と道徳（1）[モラリズム・パターナリズム：法の外面性・道徳の内面性、危害原理、ハート・デヴリン論争、わいせつ規制]【教科書：第6章】 11 VIII 法と道徳（2）[悪法問題：自然法論と法実証主義、ラートブルフ、「過去の克服」]【教科書：第6章】 12 IX 法制史基礎 [大陸法系・コモンロー法系／ローマ法とその継受／近代法の諸原理／明治民法の制定過程]【教科書：第7章】 13 X 日本国憲法史 [大日本帝国憲法の基本理念／日本国憲法制定過程／日本国憲法の基本理念]【教科書：第12章】 XI 平和主義 [9条問題／正戦論]【教科書：第13章】 14 XII 基本的人権 [人権の分類／制度的保障]【教科書：第14章】 15 XIII 立憲主義と民主主義 [権力分立／立憲主義と民主主義の対立とその克服]【教科書：第15章】 16 期末テスト 				
受講要件					
テキスト	石山文彦編『ウォーミングアップ法学』（ナカニシヤ出版、2010年）、授業支援システムより配布する講義案、六法。 ※『ウォーミングアップ法学』は初回授業時までに購入しておいてください。六法については、どんなものがあるか初回授業時に説明します。				
参考書	毎回の授業時に詳細な文献リストを配布しますが、ひとまず以下を挙げておきます。 五十嵐清『法学入門〔第3版〕』（悠々社、2006年）、田島信威『法令入門—法令の体系とその仕組み〔第3版〕』（法学書院、2008年）、川崎政司『法律学の基礎技法〔第2版〕』（法学書院、2013年）、市川和人・酒巻匡・山本和彦『現代の裁判〔第6版〕』（有斐閣アルマ、2013年）、中野次雄編『判例とその読み方〔三訂版〕』（有斐閣、2009年）、山本祐司『最高裁物語（上）（下）』（講談社プラスα文庫、1997年）。				
予習・復習について	予習：講義案および教科書の該当箇所を読んだ上で、予習問題（択一式、基本的に10題）に取り組む。 復習：授業内容を振り返り復習問題（択一式、基本的に5題）とお題レポート（基本的に200字以上で各回で扱った話題に関するレポートをまとめる）に取り組む。さらに授業内容の疑問点をまとめ、授業時やオ				

	<p>フィスアワーなどに質問し解決する。 なお、各回のお題レポートのほかに、読書レポートと課題レポートを課す予定。</p>
成績評価の方法・基準	<p>期末テスト 40%、平常点 40%（各回予復習問題とお題レポートへの応答 20%+読書レポート等の提出 20%）、学期中に 1 回実施する中間テストの得点 20%。 期末テストと中間テストを受験しないと、単位は認定されません。十分注意してください。 評価方法の詳細は初回授業の際に示します。</p>
オフィスアワー	<p>月曜日 16 時 05 分～17 時 35 分（同じ時間に面談する方が重なることを避けるために、事前に予約をお願いします）。</p>
担当教員からのメッセージ	<p>1. 県立大学単位互換 (○) 2. 科目等履修生 (○) 3. 難易度 (A) この授業の狙いは、学生の皆さんが法の世界の概要を知悉すること、そして法的思考に必要不可欠な基礎知識を習得し、それを不自由なく活用できるようになるための訓練を行うことです。しっかり勉強しましょう。</p>

授業科目名	経済数学 I (Mathematics for Economics I)				
担当教員名	黄 愛珍 (HUANG Aizhen)		所属等	学術院人文社会科学領域	
			研究室	共通 L 棟 405	
分担教員名					
クラス	人文専門 1A	学期	前期		必修選択区分 選択
対象学年	1 年	単位数	2	曜日・時限	月 7・8
キーワード	経済数学、ミクロ経済学、マクロ経済学、微分法				
授業の目標	経済学の学習を進める上で必要な数学を修得する。				
学習内容	「Mathematics is a language」といわれるように、数学はあることを伝えたり、表現するための手段です。経済学ではものの値段や生産量といった数量的表現の可能なものがたくさんあり、数学という言語の活躍できる領域は広範囲にわたります。経済学で最も利用されている微分法をこの授業で学びます。				
授業計画	<p>数学の勉強で大切なことは、講義を受動的に聞くということだけでなく、自分で問題を解いてみるということです。したがって、講義の中だけでなく宿題として練習問題を課し、問題を解くことによって数学の中身を理解してもらいます。また、数学が経済学の中で具体的にどのように使われているかを数学の説明と平行させて例示していきます。こうすることで、数学は経済学をよりよく理解するためのあくまでも手段に過ぎないことを明確にしたいと考えています。次のような講義内容を予定しています。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 高校数学の復習：用語、グラフや方程式、経済学における応用 2. 1変数関数の微分：微分の計算、最大・最小、経済学の事例 3. 多変数関数の微分：偏微分の計算、最大・最小、経済学の事例 4. 条件付最大・最小：ラグランジュ未定乗数法、経済学の事例 				
受講要件					
テキスト	E. ドウリング著(大住栄治・川島康男訳)『例題で学ぶ入門経済数学(上)』シーエーピー出版				
参考書	浅利一郎・山下隆之『はじめよう経済数学』日本評論社				
予習・復習について	予習は必要ありませんが、復習は練習問題を通じてしっかりと行ってください。				
成績評価の方法・基準	期末試験 100%				
オフィスアワー	講義中にお知らせします。				
担当教員からのメッセージ	1. 県立大学単位互換（認めない） 2. 科目等履修生（認めない） 3. 難易度（A） 4. クラス指定あり。必ず指定されたクラスで受講すること。 クラスA、Bへの振り分けは授業開始前に掲示等を通じて知らせます。				

授業科目名	地域政策Ⅱ				
担当教員名	太田 隆之 (OTA Takayuki)		所属等	学術院人文社会科学領域	
			研究室	共通教育L棟 328号室	
分担教員名					
クラス	人文専門	学期	前期		必修選択区分
対象学年	2年	単位数	2	曜日・時限	月7・8
キーワード	地域開発、地域活性化、地方自治、持続可能な発展				
授業の目標	地域が直面する経済・社会問題の捉え方と、こうした諸問題に取り組むための視点及び基礎的思考力を習得することを目標とする。				
学習内容	<p>本講義では現在国および地域が抱える重要な課題の1つである地域問題に注目し、その具体的な内容と、これまで国と地域がこの問題にどうアプローチし、どのような結果を招いてきたかを検証する。特に、日本国内の大都市、地方都市、農山村地域の実態・課題とそれらに対する地域政策の実際に注目し、各トピックに具体的に触れることで、大都市、地方都市、農山村地域の地域政策の今後を検討していく。</p> <p>以上のことを通じて、地域問題を克服するためのアプローチや地域政策のあり方・方法を考えるとともに、自らの視点で地域経済・社会を捉え、地域で生ずる諸問題を考えるとともに、具体的な政策案を考える力を習得することを目指す。</p>				
授業計画	<p>概ね下記の内容で進める予定である。詳細は初回の講義で説明する。</p> <p>回 内容</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 ガイダンス 2 地域政策の課題は何か―「地域経済の不均等発展」― 3 これまでの地域政策はどうであったか―全国総合開発計画とそのオルタナティブ― 4 大都市における地域政策 1―全総実施下における都市問題・都市政策― 5 大都市における地域政策 2―シビル・ミニマム論と都市政策― 6 大都市における地域政策 3―昨今の大都市の状況― 7 農山村地域における地域政策 1―「過疎問題」とは何か― 8 農山村地域における地域政策 2―「過疎対策」に注目して― 9 農山村地域における地域政策 3―「内発的発展」論に注目して― 10 地方都市における地域政策 1―「地方中枢都市」に注目して― 11 地方都市における地域政策 2―「企業城下町」に注目して― 12 地方都市における地域政策 3―「地域内産業連関」に注目して― 13 地方都市における地域政策 4―商業集積・中心市街地に注目して― 14 地方都市における地域政策 5―「観光都市」に注目して― 15 今後の地域政策に向けて―まとめと展望― 				
受講要件	幅広く科目を履修し、また地域をめぐる日々の動向や報道に関心をもってほしい。				
テキスト	レジュメと配布資料を用いて進めていく予定である。詳しくは開講時に説明する。				
参考書	<p>テーマに応じて下記を中心に利用する予定である。参考書については随時講義の中で説明する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・諸富徹(2003),『環境』,岩波書店 ・淡路剛久他編(2006),『持続可能な発展』,有斐閣 ・中村剛治郎編(2008),『基本ケースで学ぶ地域経済学』,有斐閣 ・諸富徹(2010),『地域再生の新戦略』,中央公論新社 ・増田寛也編著(2014),『地方消滅』,中公新書 				
予習・復習について	可能な限り参考書等を利用し、予習・復習を行うことを望む。さしあたり、講義で紹介する文献や資料で関心を持ったものは実際に手に取って読んでみることを。				
成績評価の方法・基準	中間レポートと最終試験により行う予定である。詳しくは開講時に説明する。				
オフィスアワー	開講時に説明する。				
担当教員からのメッセージ	<p>県立大学単位互換(認める) 科目等履修生(認める) 難易度(B)</p> <p>今地域で起きていることには常に注目し、日々の報道に注視してほしい。地域政策は我々が日常生活を営む地域に影響するため、理念や理論だけではなく、その実際も重要である。また、地域経済・地域社会はダイナミックに変化しており、今起きていることがそのまま地域政策の課題となる。こうした地域で起きる課題とそれらの報道に対して、自分ならどう考え、どう対応するかを常に考えながら、講義を受講してほしい。</p>				

授業科目名	日本文学史Ⅲ				
担当教員名	袴田 光康 (Hakamada Mitsuyasu)		所属等	学術院人文社会科学領域	
			研究室	323	
分担教員名					
クラス	人文専門	学期	前期		必修選択区分 選択
対象学年	3年	単位数	2	曜日・時限	月 9・10
キーワード	古代文学、漢字、仮名、和歌、物語、ジェンダー、国風文化				
授業の目標	古代から中世にかけての文化史的な大きな流れの中で文学を把握し、基礎的な教養と知識を身に着けるとともに、個々の文学作品についての理解力と鑑賞力を養う。				
学習内容	この講義では、真名(漢字)と仮名(ひらがな)という文字表記に注目しながら講義を行う。文字とは文化的表象であり、価値観でもある。言うまでもなく、真名は中国的価値観を、仮名は日本的価値観をそれぞれ象徴している。この二つの価値観が葛藤しながら、和歌や物語という文学ジャンルを生み出していくプロセスを古代文学史の流れに沿って検証していく。このテーマは、文学史の問題であると同時に、男女の文化的ジェンダーとも深くかかわるものなので、古代の律令体制や婚姻制度などの歴史的背景も視野に入れながら講義を進めていく。				
授業計画	回 内容 1 文学史の意味 2 日本書紀—律令国家と国史編纂 3 万葉集—漢字表記とやまと言葉 4 懐風藻—公の文学 5 文華秀麗集—国風暗黒時代と律令イデオロギー 6 新撰万葉集—漢詩と和歌 7 古今和歌集—「詩経」の内面化 8 土佐日記—文字とジェンダー 9 伊勢集—物語への萌芽 10 伊勢物語—歌物語と歴史叙述 11 竹取物語—物語文学の始発 12 蜻蛉日記—古物語の超克 13 紫式部日記—二つの価値観 14 源氏物語—物語論 15 栄花物語—仮名と歴史叙述 (まとめ)				
受講要件	特になし				
テキスト	テキスト・資料は授業の際にプリントして配布する。				
参考書	文学史に関する参考文献は多いので、授業の中で適宜、紹介する。				
予習・復習について	前回の分の授業内容に関してコメントペーパーによる小テストを毎回、行うので、よく復習をして授業に臨むこと。				
成績評価の方法・基準	小テスト 40%、試験 50%、授業への取り組み 10%				
オフィスアワー	金曜日 11:00~12:00 (ただし、質問・相談には随時対応するので、事前にメールで連絡をください)				
担当教員からのメッセージ	漢詩文や変体仮名などを含め、原文で読むことが多いので、古典が苦手な受講生には少しきついかもしれませんが、古典文法などの知識は一切必要ありません。				

授業科目名	会社法 (Corporation Law)				
担当教員名	西川 義晃 (NISHIKAWA Yoshiaki)		所属等	学術院人文社会科学領域	
			研究室	人文 A 棟 6 階	
分担教員名					
クラス	人文専門	学期	前期		必修選択区分 選択
対象学年	2 年	単位数	4	曜日・時限	火 1・2, 金 1・2
キーワード	会社法、商法、コーポレート・ガバナンス、コーポレート・ファイナンス				
授業の目標	<p>特に以下の 2 点を本講義の目標とする。</p> <p>1) 会社法制について基礎知識を得、理解を深めること。</p> <p>2) 会社法制に関する知識・理解に基づき、企業社会に生じる法的な諸問題を読み解く能力を身につけること。</p>				
学習内容	<p>会社法について、株式会社法を中心に講義する。</p> <p>現在の経済社会でその中心を担っているのは株式会社を始めとした企業である。平成 17 年に成立した会社法は非公開会社を想定した改正であり、公開性の株式会社は例外という位置づけにある。しかし、株式会社は本来、資本市場において資金を調達し、大規模な企業経営を行う仕組みであり、そうした株式会社の特質は、株式会社法全体に反映されている。本講義はそうした観点に留意しつつ、会社法について解説していく。</p>				
授業計画	<p>《授業の進め方》</p> <p>レジュメを配布し、レジュメを中心に講義するが、テキストも随時参照するため毎回持参すること。テキストは特に予習・復習、小テストの解答作成に利用すること。</p> <p>《計画》</p> <p>講義期間の前半では、特に機関関係、すなわち取締役、監査役、株主総会などの企業組織に関する問題を扱う。企業形態や会社の種類に触れた後、株式会社とはいかなる制度であるのか、その内部組織はどのように構成されているのかについて考察する。</p> <p>後半では、機関関係以外の分野、すなわち、資金調達、会社の計算、設立、企業再編 (M&A) に関する問題を扱う。会社の資金調達の仕組み、会社の設立の際にその組織がどのように形成されるのか、企業買収がどのように行われるのか・その際利害関係者はどのように保護されるのかなどについて考察する。</p> <p>以下の項目を 1、2 回で講義する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 会社の種類 2. 株式会社の特質 3. 証券市場と株主の地位 4. 株主総会の役割 5. 取締役と取締役会 6. 取締役の義務と責任 7. 監査役・監査役会、監査等委員会設置会社 8. 会計参与、会計監査人 9. 指名委員会等設置会社の意義と仕組み 10. 株式 11. 募集株式の発行 12. 社債 13. 新株予約権・ストックオプション 14. 会社の計算 1：開示規制 15. 会社の計算 2：剰余金の分配規制 16. 企業再編 17. 株式会社の設立 				
受講要件	特になし。				
テキスト	<p>以下の 2 冊を使用する予定。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 伊藤靖史ほか『Regal Quest 会社法 [第 3 版]』有斐閣、2015 年 2. 酒巻俊雄ほか (編)『会社法重要判例 [第 2 版]』成文堂、2016 年 <p>最新の六法を持参すること (『ポケット六法』『デイリー六法』のいずれかでよい)。</p>				
参考書	初回の講義において紹介する。				
予習・復習について	<p>随時レジュメを配布するので、レジュメに対応する教科書の該当ページに、事前に目を通して頂くことが望ましい。</p> <p>小テストの解答を作成する際には、出題範囲の内容をよく復習すること。</p>				

成績評価の方法・基準	<p>小テスト 30%、期末試験 70%</p> <p>講義が一定程度進むごとに、授業支援システム上で小テストを実施するほか（30%）、筆記式の期末試験を実施し（70%）、これらの総合評価（合計 100%）とする。</p> <p>受講者と相談のうえ、加点対象の任意レポートを科すかもしれない。</p>
オフィスアワー	<p>月曜日の 3・4 時限をオフィスアワーとする。</p> <p>これ以外は、事前にメールでアポイントを取ること。</p>
担当教員からのメッセージ	<ol style="list-style-type: none"> 1. 県立大学単位互換（ ○ ） 2. 科目等履修生（ ○ ） 3. 難易度（ A ） 難易度 A は、事前に当該分野について専門知識があることを前提としないレベルを意味する。 4. 会社法はそれのみで完結した分野ではなく、他の分野との関連も強い。特に民法（「民法総論」など）と同時履修、または履修済みであることを強く求める。 <p>注意：平成 22 年度以前の入学生は「企業法」（4 単位）に読替え。</p>

授業科目名	仕事の社会学				
担当教員名	吉田 崇 (YOSHIDA Takashi)		所属等	大学院人文社会科学領域	
			研究室		
分担教員名					
クラス	人文専門	学期	前期		必修選択区分
対象学年	3年	単位数	2	曜日・時限	火3・4
キーワード	社会階層、職業、ライフコース、学歴社会、ジェンダー、ワークライフバランス、格差社会、貧困、社会的排除、リサーチ・リテラシー				
授業の目標	社会階層論を軸にして、教育社会学、家族社会学の成果も取り入れながら、仕事・働くことと社会的不平等についての社会的なものへの考え方を身につけることを目標とする。また、さまざまな実証研究の知見を読み解くことで、リサーチ・リテラシー（調査データを適切に読み解く力）を涵養することを副次的な目標とする。				
学習内容	さまざまな社会的不平等について、主として社会階層論の観点から考察することで、格差や不平等についての社会的なアプローチを学習する。具体的には、進学、就職、家族形成、子育てといったライフコース（人生の軌跡）のさまざまな局面で、どのような不平等があるかをみることで、階層構造や制度についての理解を深める。また国際比較によって日本社会の特徴を理解する。さまざまな実証研究を読み解くことでリサーチ・リテラシーを高める。				
授業計画	仕事・格差への実証的アプローチ 教育の拡大と学歴社会（1） 教育の拡大と学歴社会（2） 若年雇用をめぐる問題（1） 若年雇用をめぐる問題（2） 社会階層と社会移動（1） 社会階層と社会移動（2） 社会階層と社会移動（3） 女性の就業とキャリア形成（1） 女性の就業とキャリア形成（2） 労働時間とワークライフバランス（1） 労働時間とワークライフバランス（2） 貧困と社会的排除（1） 貧困と社会的排除（2） まとめと残された課題				
受講要件	社会学概論を履修済みであることが望ましい。				
テキスト	使用しない				
参考書	平沢和司（2014）『格差の社会学入門』北海道大学出版会 小川慎一ほか（2015）『産業・労働社会学』有斐閣 原純輔・盛山和夫（1999）『社会階層』東京大学出版会 その他、適宜紹介する。				
予習・復習について	配布資料や参考書を読んで予習・復習する。新聞記事や参考書などでテーマを掘り下げ、レポートの題材を探索する。				
成績評価の方法・基準	授業内で実施する小レポート（30%）、中間レポート（30%）、期末レポート（40%）で評価を行う。				
オフィスアワー	初回に案内する				
担当教員からのメッセージ	1. 県立大学単位互換（認める） 2. 科目等履修生（認める） 3. 難易度（B） 専門的な議論に加え、新聞・雑誌記事やドキュメンタリーなどの素材を提供します。日頃から雇用や格差の問題に関心を持つとともに、コメント等で積極的に授業参加することを望みます。				

授業科目名	地方財政論 I				
担当教員名	川瀬 憲子 (KAWASE Noriko)		所属等	学術院人文社会科学領域	
			研究室	共通 L 棟 4 0 9	
分担教員名					
クラス	人文専門	学期	前期		必修選択区分
対象学年	3 年	単位数	2	曜日・時限	火 3・4
キーワード	地方自治、地方分権、課税自主権、公共事業、まちづくり、課税自主権、地方税、住民参加、福祉社会、ローカルガバナンス				
授業の目標	地方財政や地方分権、自治・参加のシステムがどのようにして発達してきたのか、いま、どのような改革が求められているのかといった諸課題に対して、歴史や国際比較という観点を交えながら、様々な角度から洞察力を培うことを目標としている。				
学習内容	内容的には地方財政入門編と歴史編に分かれるが、前者では、日本の地方財政の仕組みや課題、後者では主として歴史的な流れに即して、欧米と日本の地方財政がどのように発達してきたのかを、財政思想の紹介などを交えながら、幅広い観点から解題する。また、日本における市町村合併、三位一体の改革などの「分権改革」や「地方創生」政策等が、地方財政のみならず国民生活や地域社会に及ぼされる影響についても、具体的な事例をあげながら、わかりやすい説明を加えることにしている。				
授業計画	回 内容 1 ガイダンス 2 地方財政のしくみと地方自治 3 「分権改革」と地方財政① 4 「分権改革」と地方財政② 5 17世紀ヨーロッパの市民的財政思想 6 自由主義的財政思想とイギリスの産業革命 7 社会政策思想と19世紀末期英独の地方財政改革 8 ケインズ主義とアメリカのニューディール期財政改革 9 新自由主義とイギリス地方財政改革 10 明治地方自治制と地方財政 11 大正デモクラシー期の自治要求 12 昭和恐慌と井上・高橋財政 13 戦後改革とシャープ勧告 14 まちづくりと住民参加 15 分権型福祉社会の制度設計				
受講要件	毎回出席すること				
テキスト	川瀬憲子(2011)『「分権改革」と地方財政—住民自治と福祉社会の展望』(自治体研究社)				
参考書	重森暁・植田和弘編(2013)『Basic 地方財政論』有斐閣、 川瀬憲子(2001)『市町村合併と自治体の財政』自治体研究社、 宮本憲一・遠藤宏一編(2006)『セミナー現代地方財政 I』勁草書房、 宮本憲一・鶴田廣巳編(2008)『セミナー現代地方財政 II』勁草書房、 川瀬憲子(2012)『アメリカの補助金と州・地方財政—ジョンソン政権からオバマ政権へ』勁草書房他				
予習・復習について	テキスト、参考文献、新聞などをしっかりと読んでおくこと。				
成績評価の方法・基準	平常点(30%)、定期試験(70%)をもとに評価を行う。毎回授業のまとめをしてもらったり、適宜小レポートを課す予定。				
オフィスアワー	オフィスアワー一覧を参照のこと。				
担当教員からのメッセージ	携帯電話の電源を切っておくこと。 県立大学との単位互換：認める。 科目等履修生：認める。 難易度 B				

授業科目名	哲学の歴史 I				
担当教員名	田中 伸司 (TANAKA Shinji)		所属等	学術院人文社会科学領域	
			研究室	人文 A 棟 4 1 8	
分担教員名					
クラス	人文専門	学期	前期		必修選択区分 選択
対象学年	2 年	単位数	2	曜日・時限	火 5・6
キーワード	哲学史、真理、倫理、存在				
授業の目標	古代ギリシアから中世スコラ学へと至る哲学史を通じて、哲学に関する基本的な知識と思考の方法を身につける。				
学習内容	古代ギリシアから古代ローマそして西欧中世における哲学を概観します。				
授業計画	<p>回 内容</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 イントロダクション：なぜ古代中世哲学史を学ぶのか？ 2 パルメニデス：アルケーの探求から存在への問いへ 3 宇宙をめぐる問い：ピュタゴラス派、エンペドクレス、アナクサゴラス、デモクリトス 4 ソクラテスとソフィスト：いかに生きるべきー『ソクラテスの弁明』『ラケス』 5 プラトン（1）：正義をめぐる問いー『ゴルギアス』『クリトン』『国家』 6 プラトン（2）：イデアについてー『メノン』『パイドン』『国家』 7 プラトン（3）：後期思想ー『パルメニデス』『テアイテトス』『ソピステス』『ティマイオス』 8 アリストテレス（1）：存在と原因 9 アリストテレス（2）：魂論、倫理学、政治学 10 ヘレニズム期の哲学：初期中期ストア派、懐疑主義、エピクロス派 11 ローマ期の哲学：キケロ、セネカ、エピクテトス、マルクス・アウレリウス 12 ヘブライズムと新プラトン主義 13 アウグスティヌス 14 アラビア圏での展開とスコラ哲学 15 中世哲学の展開 				
受講要件	人間学概論および哲学概論を履修していること。				
テキスト	テキストは定めません。プリントを配布します。				
参考書	中央公論新社の『哲学の歴史』シリーズ、とくに第1巻から第3巻は参考になると思います。				
予習・復習について	配布したプリントに書き込むという仕方でも構いませんが、じぶんで、きちんとしたノートを作成することが有益です。				
成績評価の方法・基準	学期末の試験によって評価します。学期末の試験を受けるためには8割の出席が必要です。出席確認についてはコメントペーパーを利用する予定です。				
オフィスアワー	水曜日 9・10 時限 (16:05-17:35)。必ずメールでアポイントメントをとってください。 アドレスは、tanaka.shinji アットマーク shizuoka.ac.jp *「アットマーク」を@に変えて使用してください。				
担当教員からのメッセージ	1. 県立大学単位互換 (認める) 2. 科目等履修生 (認める) 3. 難易度 (B)				

授業科目名	環境共生と地域の社会学				
担当教員名	平岡 義和 (HIRAOKA Yoshikazu)		所属等	学術院人文社会科学領域	
			研究室	人文C棟402	
分担教員名					
クラス	人文専門	学期	前期		必修選択区分 選択
対象学年	1年	単位数	2	曜日・時限	火5・6
キーワード	地域における自然環境と人間の共生、開発と自然環境、合意形成、グループディスカッション				
授業の目標	地域における自然環境と人間の共生のありようについて、環境社会学の観点からどのように理解するか、合意形成のあり方も含め、必要な知識、認識枠組みを習得する。				
学習内容	地域において、自然環境を保全するにはどのようにしたらよいか、関係する主体の間でも考えが一致するわけではない。そこで、関係する主体の間で合意を作り出して、保全策を進めていくことが重要になる。保全のためにはどのような視点が重要か、また合意形成はどのように進めたらよいか、これまでの環境社会学の知見を参考に、環境保全のために必要な視点、知識を習得する。そのために、映像資料を用いるとともに、グループディスカッションなど授業中のワークを活用していく。				
授業計画	<p>以下のようなテーマについて、各1～3回ずつ講義する予定である。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 治水・利水とダム 2. 森林の保全と利用 3. 自然との共生 4. 公害と原子力被害 5. 文化的環境 6. 地域における環境共生の課題 				
受講要件	なし				
テキスト	使用しない。プリント資料を配付する。				
参考書	個々の授業に関する参考文献は、授業中に指示する。				
予習・復習について	次回までに文献を読み、まとめてくるといった課題を課すことがある。また、取り上げる環境問題に関する基礎知識を身につけておいたり、参考文献を読んだりすると、授業の理解が深まる。新聞記事を利用することも多いので、新聞を丹念に読むとよい。				
成績評価の方法・基準	環境共生についての環境社会的視点、知識の理解度を評価の対象とし、授業中のワークと最終レポートの成績で評価する。				
オフィスアワー	最初の授業の際に指示する。				
担当教員からのメッセージ	<p>授業期間中に起きる問題を随時トピックとして扱うことがあるので、日頃からTV、新聞などの環境問題関連のニュースに注意を向けておいてほしい。</p> <p>1. 県立大学単位互換 (○) 2. 科目等履修生 (○) 3. 難易度 (A)</p>				

授業科目名	日本中世文化史				
担当教員名	貴田 潔 (KIDA Kiyoshi)		所属等	学術院人文社会科学領域	
			研究室		
分担教員名					
クラス	人文専門	学期	前期		必修選択区分
対象学年	3年	単位数	2	曜日・時限	火 5・6
キーワード	荘園・村落史、環境史、景観、都市と荘園制的流通				
授業の目標	1.前近代の文化史を学ぶことで、現代の“文化”や“伝統”を相対的に見る視野を広げる。 2.各回のテーマに応じた学説を知るなかで、論理的な思考を導く能力を高める。				
学習内容	1.院政期から戦国期にかけての文化史を学ぶ。中世の文化を理解するとともに、それを培った前近代の社会構造を考える。 2.若干ながら静岡県域の中世史料にも触れることで、地域史に対する理解も深める。				
授業計画	<p>I 本年度は「土地と人間」をテーマに据えて、中世の文化史を解説する。 文献史料とともに文学や絵画を取りあげ、それぞれの土地に生きた人間の感性を描き出す。 環境史の視点から、歴史と地理の理解を深める。</p> <p>II フィールドは主に以下の3つを中心に取りあげるが、列島社会の全体的状況にも広く目を向ける。 ①北部九州、②畿内近国、③東海地方</p> <p>III 小テーマは以下を取りあげる。1つの小テーマにつき2回程度をあて、地域の歴史を列島社会の歴史のなかに位置づける。</p> <p>i 中世の浮浪と定住 ii 文学に描かれた自然 iii 絵画に描かれた自然 iv 環境の利用と差別 v 中世の気候と災害 vi 環境をめぐる社会と共同体 vii 土地と人間 ―環境史とは何か―</p> <p>※講義は板書とスライドを中心に進める。 ※絵画や写真をスライドに映すことで、中世社会の姿を視覚的にイメージできるように配慮したい。 ※ときに簡単な史料を紹介することもあるが、できるかぎり丁寧な解説をゆっくりと行うので、地域の中世史料に慣れ親しんでもらいたい。</p> <p>回 内容</p> <p>1 土地と人間 ―トポフィリアの視点から― 2 中世の浮浪と定住 (前半) 3 中世の浮浪と定住 (後半) 4 文学に描かれた自然 (前半) 5 文学に描かれた自然 (後半) 6 絵画に描かれた自然 (前半) 7 絵画に描かれた自然 (後半) 8 環境の利用と差別 (前半) 9 環境の利用と差別 (後半) 10 中世の気候と災害 (前半) 11 中世の気候と災害 (後半) 12 環境をめぐる社会と共同体 (前半) 13 環境をめぐる社会と共同体 (後半) 14 土地と人間 ―環境史とは何か― (前半) 15 土地と人間 ―環境史とは何か― (後半)</p>				
受講要件	日本史の基礎知識と漢文の基本文法の素養 (ともに高校レベル) を備えていることが望ましいが、必須でない。				
テキスト	なし。適宜プリントを配布する。				
参考書	矢田俊文『地震と中世の流通』(高志書院、2010) 苺米一志『殺生と往生のあいだ』(吉川弘文館、2015) 荘園・村落史研究会編『中世村落と地域社会』(高志書院、2016)				
予習・復習について	板書は復習に備えて書き写すこと。授業時間内の内容理解がもっとも大事であるが、疑問点があれば積極的に質問に応じたい。				

成績評価の方法・基準	コメントペーパー30%。期末テスト 70%。
オフィスアワー	火曜日 9・10 限。研究室（人文 A 棟 319）にて。
担当教員からのメッセージ	1. 県立大学単位互換（認める） 2. 科目等履修生（認める） 3. 難易度（C） 口頭での質問も積極的に受け付けるが、コメントペーパーを利用して、できるだけ各人の疑問点に答えたい。重要な質問については次回の冒頭で解説するように配慮したい。また、質問を考えることを通じて、物事を疑う論理的な思考力も高めてもらいたい。

授業科目名	比較言語文化各論Ⅱ (Advanced Studies in Language and CultureⅡ)				
担当教員名	熊谷 滋子 (KUMAGAI Shigeko)		所属等	大学院人文社会科学領域	
			研究室	人文A棟430	
分担教員名					
クラス	人文専門	学期	前期		必修選択区分 選択
対象学年	1年	単位数	2	曜日・時限	火5・6
キーワード	メディア、報道姿勢、文体、敬語、社会言語学、ジェンダー				
授業の目標	日頃のことばを、意識的に見つめなおすことで、私たちの中の「つくられた」発想や支店を分析することで、再検討していきます。				
学習内容	メディアから流れてくることばを題材に、何が語られているのか、語られていないのかなど傾向や特徴を探り、社会におけることばの役割や影響を受講生とともに、見つめていきます。				
授業計画	<p>このクラスでは、以下のポイントをおさえながら、授業を進めていきます。受講生から具体例をあげつつ、分析してもらいながら、議論をしていきます。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 新聞報道：何を伝えているのか 2 社会をみつめる言語学 3 文体にみるジェンダー 4 敬語の変遷 5 広告のことば <p>扱うテーマは、内容の程度にばらつきがあるので、一つのテーマを複数回の授業で対応します。また、新たなテーマを考えることもあります。さらに、受講生の興味関心にそって、随時発表してもらうコーナーをもうけます。</p>				
受講要件	特にありません。				
テキスト	プリントなどを使用します。				
参考書	クラスで随時紹介します。				
予習・復習について	ことばに関して、自分なりのテーマにそって題材を探したり、議論するための参考になる資料を読むなど準備してもらいます。				
成績評価の方法・基準	授業での発表や参加 30%、小レポート30%、期末レポート40%				
オフィスアワー	火曜日7・8時限目です。				
担当教員からのメッセージ	私たちは、普段から、いかにことばに影響を受けているのか、実感できればと思います。				

授業科目名	人権各論 (Human Rights; Advanced)				
担当教員名	根本 猛 (NEMOTO Takeshi)		所属等	大学院融合・グローバル領域	
			研究室	人文社会科学部A棟532	
分担教員名					
クラス	人文専門	学期	前期		必修選択区分 選択
対象学年	2年	単位数	2	曜日・時限	火5・6
キーワード	人権保障、立憲主義、違憲審査制、二重の基準、公共の福祉				
授業の目標	個別の人権保障について、学説・判例を踏まえたうえで理解する。				
学習内容	基礎的な解釈論を、主要判例を取り上げるなかで解説する。 毎回、授業の初めに前回の講義内容を確認する簡単なテストを行う。				
授業計画	回 内容 1 人権総論の復習－公共の福祉と人権、二重の基準など 2 思想・良心の自由 信教の自由 3 政教分離 4 表現の自由1 5 表現の自由2 6 表現の自由3 7 職業の自由 8 財産権 9 人身の自由 10 生存権 11 労働基本権 12 教育を受ける権利 13 参政権 14 その他の人権－国務請求権、学問の自由など 15 過去問・練習問題解説				
受講要件	特にありませんが、人権総論を履修してからでないとう単位修得は難しいと思います。				
テキスト	芦部信喜『憲法』(岩波書店)				
参考書	当たり前ですが、六法はお持ちください。				
予習・復習について	教科書の該当部分に目を通してから授業に臨みましょう。				
成績評価の方法・基準	期末試験90%、毎回の確認テスト10%。2年前の過去問は配布します。 不可をもらっても、再試験などはありません。そのつもりで受講してください。				
オフィスアワー	時間が許せばいつでも対応します。とりあえず、授業の前(火曜午前)は研究室にいます。				
担当教員からのメッセージ	大学生になったら新聞を読みましょう。そして投票に行きましょう。				

授業科目名	倫理学基礎論																																				
担当教員名	堂園 俊彦 (DOHZONO Toshihiko)		所属等	学術院人文社会科学領域																																	
			研究室	人文 A417																																	
分担教員名																																					
クラス	人文専門	学期	前期		必修選択区分 選択																																
対象学年	2年	単位数	2	曜日・時限	火 7・8																																
キーワード	人間の尊厳、メタ倫理学、実在論、反実在論、規範倫理学、義務論、功利主義、徳倫理学、生命倫理学、医療倫理学																																				
授業の目標	現在、生命倫理や医療倫理の領域において、「人間の尊厳」が重要な役割を果たしている。しかし同時にこの概念に対しては（とりわけその曖昧さに関して）、数多くの批判がなされている。この講義では、倫理学の基本的な枠組みを学びつつ、「人間の尊厳」とは何であり、それにもとづいて医療・医学を規制するためには何が必要なのかを検討する。																																				
学習内容	<ul style="list-style-type: none"> ・倫理学における基本的な立場（メタ倫理学および規範倫理学） ・生命倫理学・医療倫理学における「人間の尊厳」をめぐる対立 ・「人間の尊厳」をめぐる概念史 ・憲法学における「人間の尊厳」論 																																				
授業計画	<table border="0"> <tr> <td>回</td> <td>内容</td> </tr> <tr> <td>1</td> <td>イントロダクション</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>生命倫理学における人間の尊厳：終末期医療</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>生命倫理学における人間の尊厳：人工妊娠中絶</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>概念史：古代・中世</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>概念史：ルネサンス</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>概念史：近代</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>メタ倫理学①：ムア</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>メタ倫理学②：ヘア、マッキー、ブラックバーン</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>メタ倫理学③：マクダウエル、ウィリアムズ</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>メタ倫理学④：ハーバーマス</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>メタ倫理学⑤：パトナム</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>憲法における「人間の尊厳」①</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>憲法における「人間の尊厳」②</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>倫理委員会／倫理コンサルテーションと「人間の尊厳」</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>まとめ</td> </tr> </table>					回	内容	1	イントロダクション	2	生命倫理学における人間の尊厳：終末期医療	3	生命倫理学における人間の尊厳：人工妊娠中絶	4	概念史：古代・中世	5	概念史：ルネサンス	6	概念史：近代	7	メタ倫理学①：ムア	8	メタ倫理学②：ヘア、マッキー、ブラックバーン	9	メタ倫理学③：マクダウエル、ウィリアムズ	10	メタ倫理学④：ハーバーマス	11	メタ倫理学⑤：パトナム	12	憲法における「人間の尊厳」①	13	憲法における「人間の尊厳」②	14	倫理委員会／倫理コンサルテーションと「人間の尊厳」	15	まとめ
回	内容																																				
1	イントロダクション																																				
2	生命倫理学における人間の尊厳：終末期医療																																				
3	生命倫理学における人間の尊厳：人工妊娠中絶																																				
4	概念史：古代・中世																																				
5	概念史：ルネサンス																																				
6	概念史：近代																																				
7	メタ倫理学①：ムア																																				
8	メタ倫理学②：ヘア、マッキー、ブラックバーン																																				
9	メタ倫理学③：マクダウエル、ウィリアムズ																																				
10	メタ倫理学④：ハーバーマス																																				
11	メタ倫理学⑤：パトナム																																				
12	憲法における「人間の尊厳」①																																				
13	憲法における「人間の尊厳」②																																				
14	倫理委員会／倫理コンサルテーションと「人間の尊厳」																																				
15	まとめ																																				
受講要件	特になし。																																				
テキスト	特になし。																																				
参考書	赤林朗編『入門・医療倫理 II』，勁草書房，2007年。 リチャード・ノーマン『道徳の哲学者たち』（第二版），ナカニシヤ出版，2001年。 坂井昭宏・柏葉武秀編『現代倫理学』，ナカニシヤ出版，2007年。																																				
予習・復習について	毎回の講義はそれまでの授業内容を前提とします。講義後にプリントなどを見直すようにしてください。																																				
成績評価の方法・基準	16回目行う最終テストによって成績を評価します。ただし、4回以上欠席した場合はテストを受ける資格を失います。																																				
オフィスアワー	月曜昼休み（11:50-12:45）ただし、必ず事前にアポイントメントを取って下さい。																																				
担当教員からのメッセージ	1. 県立大学単位互換（認める） 2. 科目等履修生（認める） 3. 難易度（B）																																				

授業科目名	人格心理学Ⅱ				
担当教員名	笠井 仁 (KASAI Hitoshi)		所属等	学術院人文社会科学領域	
			研究室	人文A420	
分担教員名					
クラス	人文専門	学期	前期		必修選択区分 選択
対象学年	2年	単位数	2	曜日・時限	火7・8
キーワード	人格、査定、病理と健康、無意識				
授業の目標	人格心理学についての知識と探究方法の学びを通じて、歴史や文化、制度といったさまざまな条件における多様な人間の心のあり方について深く理解しつつ、共生への志向を高めるとともに、そのために必要な論理的思考力と情報リテラシーを修得する。				
学習内容	人間理解の学問としての人格心理学について、臨床事例や映画なども取り上げながら、人格の研究動向、諸理論、形成、査定、病理、健康といった全般的な問題を踏まえて、とくに人間の無意識的な観点に重点を置いて学ぶ。				
授業計画	回 内容 1 人格とは 2 『イヴの3つの顔』: 多重人格から人格を考える 3 人格研究の論点 4 人格研究の歴史 5 人格の諸理論 6 人格研究の最近の動向 7 人格の精神分析的研究(1): 無意識の発見 8 人格の精神分析的研究(2): 基本的観点 9 人格の精神分析的研究(3): 諸理論 10 人格の精神分析的研究(4): 最近の展開 11 人格の生物学的基礎 12 人格の形成 13 人格の査定 14 人格の病理 15 人格と健康				
受講要件	心理学概論、基礎心理学を受講していることが望ましい。				
テキスト	とくに指定しない(資料を用意する)。				
参考書	本明寛・他(編)『性格心理学新講座』(金子書房)全6巻。河合隼雄・他(編)『臨床心理学大系』(金子書房)全20巻(とくに第2・5・6巻)。 その他、そのつど指示する。				
予習・復習について	各テーマについて、さらに発展的に参考書等により予習・復習することを期待する。				
成績評価の方法・基準	授業毎の小レポート(30%)と最後の筆記試験(70%)により評価する。				
オフィスアワー	火曜日7・8限				
担当教員からのメッセージ	1. 県立大学単位互換(認める) 2. 科目等履修生(認める) 単なる知識の習得ではなく、その知識が得られた背景にも思いをめぐらせつつ、積極的に自分の頭と心を働かせながら講義に参加することを期待する。				

授業科目名	中国語コミュニケーション論				
担当教員名	張 盛開 (Shengkai Zhang)		所属等	学院院人文社会科学領域	
			研究室	人 A324	
分担教員名					
クラス	人文専門	学期	前期		必修選択区分 選択
対象学年	2年	単位数	2	曜日・時限	火 7・8
キーワード	日本語、中国語、翻訳、通訳				
授業の目標	日常生活からビジネス商談までのさまざまな場面での通訳練習（日本語を中国語に、中国語を日本語に）を通して、日本語と中国語の運用能力の向上を目指す。				
学習内容	さまざまな場面での日中両言語の通訳実践を通して両言語のそれぞれの特徴を理解し、最終的にはコミュニケーション能力を上げる。				
授業計画	<p>具体的に以下の場面を想定した通訳の実践を行っていく予定である。グループごとに役割分担し、実践を行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 日常生活(買い物、観光) 2 イベント(展示会、パーティー) 3 コミュニティー関係(災害、法律相談) 4 ビジネス関係(商談、社会見学) 5 学術関係(講義、会議) 				
受講要件	初級中国語習得済み				
テキスト	なし				
参考書	必要に応じて指示する				
予習・復習について	予習と復習をしっかりと行うこと				
成績評価の方法・基準	授業への参加（授業中の実践、質疑応答など）と最終の実技試験を併せて評価する				
オフィスアワー	火曜日の昼休み				
担当教員からのメッセージ	グループごとの作業を通して受講者同士の交流を深めていただければ幸いです。留学生の参加、大歓迎します。				

授業科目名	フランス語学概論 I				
担当教員名	浅野 幸生 (ASANO Yukio)		所属等	大学院人文社会科学領域	
			研究室	人文 A 棟 408	
分担教員名					
クラス	人文専門	学期	前期		必修選択区分 選択
対象学年	2年	単位数	2	曜日・時限	火 9・10
キーワード	基礎力、作文力				
授業の目標	1年間フランス語初級を学んだ人を対象に、中級以上のレベルに到達できるよう指導する。				
学習内容	語学力の核は語彙と文法の正確な知識です。これらは継続的で地道な努力によってのみ獲得しうるものです。				
授業計画	前期は、文型・動詞の種類から始まって代名詞・目的語・疑問詞などについて学ぶ。				
受講要件	フランス語を1年以上学習した人。				
テキスト	「初歩のテーマ」(三修社 石井晴一著)を生協で購入のこと。				
参考書	フランス語の辞書				
予習・復習について	予習が大切				
成績評価の方法・基準	平常点と試験による				
オフィスアワー	月 14:30~15:30				
担当教員からのメッセージ					

授業科目名	世界経済論Ⅱ				
担当教員名	安藤 研一 (ANDO Kenichi)		所属等	学術院人文社会科学領域	
			研究室	共通L棟408	
分担教員名					
クラス	人文専門	学期	前期		必修選択区分 選択
対象学年	3年	単位数	2	曜日・時限	水1・2
キーワード	世界経済、国際通商体制、国際通貨体制、地域経済統合、直接投資、多国籍企業、移民・外国人労働者				
授業の目標	戦後世界経済における制度的・実態的発展についての講義を行う。				
学習内容	戦後世界経済の発展は、それを支える国際機関の発展と不可分である。貿易、為替、生産要素移動などのような国際的経済活動と各種国際機関の相互作用について、GATT/WTO、IMFのような実例に即しながら、説明する。他方、確たる国際機関が不在の下で生じている国際生産要素移動については、実態とその影響を説明する。				
授業計画	<p>概ね以下のようなテーマを取り上げながら、戦後世界経済に対する理解を深めるようにする。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 世界経済の特徴と発展。 2. 国際経済機関の政治経済学。 3. 戦後国際貿易の発展。 4. 国際通商体制の発展と特徴。 5. 国際通貨体制とIMFの発展変容。 6. 多国籍企業の登場と発展。 7. 国際労働力移動の実態と意義。 8. 世界的金融経済通貨危機とG20体制。 9. アンチ・グローバリゼーションの台頭。 				
受講要件	受講の前提ではないが、後期の「世界経済論Ⅲ」と合わせて受講することが望ましい。				
テキスト	特に、指定しない。毎回の授業に合わせたレジメ・資料については、学務情報システムに随時アップする。				
参考書	特に、指定しない。				
予習・復習について	学務情報システムにアップされたレジメ、資料を各自でダウンロードして活用すること。それと合わせて、新聞・テレビなどのニュースをフォローし、現在の世界経済でどのようなことが起きているのか、ということに関心を持ちながら授業に出席することが必要である。				
成績評価の方法・基準	出席は取らない。中間試験を課し、学期末試験の結果と合算の上で成績を評価する。中間試験、学期末試験では、論理的思考表現能力についてみる。単純な選択式の問題などは出さず、ある程度の文章を書くことを求める。				
オフィスアワー	火曜日 17:00～18:00				
担当教員からのメッセージ	世界には多様な国、社会があり、そこから多くのことを学ぶことが出来ると同時に、国際経済関係が日本経済や我々の生活に大きな変更、修正を迫るものでもあります。そのような問題意識を持ちながら本講義を受講することを求めます。				

授業科目名	日本語学概論 I (Introduction to Japanese Linguistics I)				
担当教員名	勝山 幸人 (KATSUYAMA Yukito)		所属等	学術院人文社会科学領域	
			研究室	人文 B 棟 519	
分担教員名					
クラス	人文専門	学期	前期		必修選択区分 選択
対象学年	2 年	単位数	2	曜日・時限	水 3・4
キーワード	日本語、国語学、音声学、アクセント、文法論、形態論、統語論、日本語教育				
授業の目標	日本語における音声と文法の特徴について学ぶ。				
学習内容	中一種免(国語)、高一種免(国語)、及び日本語教育能力検定の受験資格を取得する人は、必須科目となります。ただし、「日本語学概論Ⅱ」と合わせて、4 単位が必要になるので、注意してください。				
授業計画	<p>日本語学概論 I で学ぶことは、テキスト第 5 章と及び第 1 章、すなわち現代日本語の音声と現代日本語の文法の分野になります。</p> <p>言語研究の究極の目的は、音声言語の解明にあります。音声が一次的な言語コミュニケーションと呼ばれる所以です。前半(概ね、1 講から 9 講)では、まず、音と音声、音韻の違いについてそれぞれしっかり認識したうえで、現代日本語の母音、子音、半母音、モーラの各音素の特色について学びます。実際の音声を聞いて、国際音声字母 IPA で表記したり、子音の調音点、調音方法、声帯振動の有無について観察したりします。拍と音節の違い、アクセントの式と型、イントネーションやプロミネンスにも及びます。</p> <p>後半(概ね、10 講から 15 講)では、現代日本語の文法のうち、おもに「単語」とは何かということ扱う形態論と、述語のカテゴリーを中心に、「文」とは何かということの問題にする統語論について学びます。時間があれば、橋本進吉や時枝誠記など、代表的な日本語文法論の特色についても、学習したいと思います。</p>				
受講要件	毎回きちんと出席できる自信のない人は、はじめから受講しないでください。				
テキスト	『日本語要説』(ひつじ書房)1,900 円+税				
参考書	適宜、紹介します。				
予習・復習について					
成績評価の方法・基準	出席(遅刻を含む)+筆記試験				
オフィスアワー	水曜日・昼休み				
担当教員からのメッセージ	初めて学ぶ人にもよくわかるように説明します。ただ、語学ですから、一回でも遅刻や欠席をすると、あとが何もわからず、つまらなくなります。国語教員を目指す人の必須科目でもあり、厳しい授業になりますが、絶対のためにになるので、がんばって勉強してください。				

授業科目名	中国言語文化基礎講読Ⅲ				
担当教員名	埋田 重夫 (UMEDA Shigeo)		所属等	学術院人文社会科学領域	
			研究室	人文A棟518	
分担教員名					
クラス	人文専門	学期	前期		必修選択区分
対象学年	2年	単位数	2	曜日・時限	水3・4
キーワード	漢代、古詩、五言、時間、空間、離別、推移、悲哀、抒情、韻律				
授業の目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 中国古典詩における原論的な諸問題を理解する。 2. 中国古典詩史における漢代五言詩の意義について考察する。 3. 中国古典文学の作品と注釈に親しむ。 4. 古典中国語の読解力を高める。 				
学習内容	<p>六朝時代後期の梁代に昭明太子によって完成された『文選』は、中国文学の精華と称されるが、その巻二十九に「古詩」と呼ばれる一連の作品が収められている。合計十九首からなるこの作者不詳の連作詩は、中国文学における五言詩最古の作品群として特筆される。漢魏六朝から隋唐五代に到るまで、五言詩型が中国古典詩の中心的地位を占め続けたことを考えると、これらは中国抒情詩の始原と断定してよいであろう。この授業では唐代の李善註を最大限に活用しながら、いわゆる「漢詩」(漢代の詩歌)を一首一首丁寧に読み込んでいきたいと思う。</p>				
授業計画	<p>漢代詩歌の研究 吉川幸次郎の論文「推移の悲哀—古詩十九首の主題」に拠れば、これらの作品に現れる時間推移の悲哀感は、おおよそ以下に示す三つのパターンに分類することができる。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 不幸な時間の持続に対する悲しみ (第一首・第六首・第九首・第十首・第十七首・第十八首・第十九首) 2. 時間の推移の上に幸福が不幸に転移する悲しみ (第二首・第五首・第七首・第八首・第十六首) 3. 人間の一生は最後の不幸として死へと推移する時間であるとする悲しみ (第三首・第四首・第十一首・第十二首・第十三首・第十四首・第十五首) <p>こうした感情表出は、中国最古の詩集である『詩経』にも極めて稀であり、また屈原・宋玉・景差らになる『楚辞』にも認めにくいものである。漢代になって急速かつ急激に詠われるようになるこの種の感情が意味するものを、受業生とともに深く考えていきたいと思う。こうした作業を通じて初めて、六朝詩や唐詩に連なる水脈を辿ることも可能となるだろう。</p>				
受講要件	輪読形式の演習授業であるため、担当者は一定の予習と準備が必要となる。				
テキスト	プリント教材(基本的に唐代の李善註に拠る)				
参考書	<p>開講時に文献リストを配布して詳しく説明する。 *古典中国語の辞書として小川環樹『新字源・改訂版』(角川書店)を推薦する。</p>				
予習・復習について	毎回の授業では予習と復習が必要となる。				
成績評価の方法・基準	<ol style="list-style-type: none"> 1. 出席状況(担当率・発言率) 2. 試験またはレポート(受講生と相談して決める) 				
オフィスアワー	<p>月曜日の昼休み(12時から12時45分) *事前にメールでの連絡が必要</p>				
担当教員からのメッセージ	<ol style="list-style-type: none"> 1. 県立大学との単位互換(認める) 2. 科目等履修生の受講(認める) 3. 難易度(B) <p>*半年間に涉って李善註所引の夥しい文献に接することで、中国古典学および中国書誌学の総合的な知識が獲得されるだろう。</p>				

授業科目名	アメリカ文学文化基礎読解 I (Basic Reading and Interpretation American Literature and Culture I)				
担当教員名	レッドフォード (Redford Steven Wade)		所属等	学術院人文社会科学領域	
			研究室	人文 A 棟 4 2 7	
分担教員名					
クラス	人文専門	学期	前期		必修選択区分 選択
対象学年	2 年	単位数	2	曜日・時限	水 3・4
キーワード	America、fiction、Hemingway、Steinbeck、reading、analysis				
授業の目標	To develop the ability to read, analyze, and discuss important works of American fiction.				
学習内容	Students will read, analyze, and discuss four or five short stories (Ernest Hemingway, Judy Cofer, Raymond Carver), and one short novel written by John Steinbeck, Of Mice and Men. As time allows, short passages from other important American authors will be introduced. The components of fiction--point-of-view, plot, characterization, imagery, metaphor, tone--will also be given attention.				
授業計画	Tentative Schedule (confirm on the first day of class) 回 内容 1 Introduction; Raymond Carver's "The Father" 2 Hemingway's "A Day's Wait" 3 Hemingway's "A Clean, Well-Lighted Place" 4 Steinbeck's Of Mice and Men Chapter 1 5 Steinbeck's Of Mice and Men Chapter 1 6 Steinbeck's Of Mice and Men Chapter 2 7 Steinbeck's Of Mice and Men Chapter 3 8 Steinbeck's Of Mice and Men Chapter 3 9 Steinbeck's Of Mice and Men Chapter 4 10 Steinbeck's Of Mice and Men Chapter 5 11 Steinbeck's Of Mice and Men Chapter 6 12 Steinbeck's Of Mice and Men video 13 Judy Cofer's "More Room" 14 Raymond Carver's "A Small, Good Thing" 15 Discussion				
受講要件	A willingness to participate in English and to express interpretations and thoughts.				
テキスト	Of Mice and Men, John Steinbeck, A PENGUIN BOOK (ISBN 978-0241952481) Other materials provided by instructor				
参考書					
予習・復習について	Weekly reading assignments and study questions must be done before class.				
成績評価の方法・基準	Class participation, weekly quizzes and assignments, 50%. Final test (short answer and essay test), 50%.				
オフィスアワー	Thursday 10:20 - 11:50, and by appointment e-mail: steveredford@shizuoka.ac.jp				
担当教員からのメッセージ	Read, think, talk.				

授業科目名	刑法各論 I				
担当教員名	津田 雅也 (TSUDA Masaya)		所属等	学術院人文社会科学領域	
			研究室		
分担教員名					
クラス	人文専門	学期	前期		必修選択区分
対象学年	2年	単位数	2	曜日・時限	水3・4
キーワード	刑法各論、刑事法、刑法、犯罪、個人的法益に対する罪				
授業の目標	刑法各論の初学者である受講生が、個人的法益に対する罪の成立要件について、①基本的な判例・学説の理解を踏まえた上で、②条文を参照しつつ説明できるようになること。				
学習内容	本講義においては、財産犯を中心に、個人的法益に対する罪の具体的成立要件を解説します。講義では、具体的な事例・裁判例を用いつつ、基本的な判例・学説を学びます。				
授業計画	回 内容 1 ガイダンス (シラバス記載事項の説明)、刑法各論の概観 2 個人的法益に対する罪—生命・身体に対する罪 (1) 3 個人的法益に対する罪—生命・身体に対する罪 (2) 4 個人的法益に対する罪—自由に対する罪 5 個人的法益に対する罪—人格的法益に対する罪 6 個人的法益に対する罪—信用および業務に対する罪 7 個人的法益に対する罪—財産犯総論 8 個人的法益に対する罪—窃盗罪 9 個人的法益に対する罪—強盗罪 10 個人的法益に対する罪—詐欺罪と恐喝罪 (1) 11 個人的法益に対する罪—詐欺罪と恐喝罪 (2) 12 個人的法益に対する罪—横領罪 13 個人的法益に対する罪—背任罪 14 個人的法益に対する罪—盗品等に関する罪 15 個人的法益に対する罪—毀棄・隠匿罪				
受講要件	刑法総論 I および刑法総論 II を受講済みであること、もしくは、刑法総論の基本知識を有していることが望ましい。				
テキスト	特に指定しませんが、判例集が手元にあると便利です。また、テキストが必要な人は、下記の参考書から選ぶとよいでしょう。各テキストの特長については、初回の講義時に説明します。				
参考書	成瀬幸典=安田拓人,判例プラクティス刑法II・各論,信山社,2012年,ISBN9784797226324 山口厚,刑法(第3版),有斐閣,2015年,ISBN9784641139084 井田良,刑法各論(第2版),弘文堂,2013年,ISBN9784335312397 井田良,講義刑法学・各論,有斐閣,2016年,ISBN9784641139176				
予習・復習について	予習よりも復習に重点を置くことを勧めます。復習を通じて生じた疑問点は、テキスト・参考書を繰り返し読むほか、担当教員に質問をして、放置せずに解消するようにしてください。 予習：特に必要ありませんが、余裕があれば、次回のテーマについて参考書等を読んでおいてください。 復習：レジュメ・ノートを参照しつつ、判例集や参考書を繰り返し読み込んでください。				
成績評価の方法・基準	成績評価の方法：期末の筆記試験(60%)、小テスト(40%) 成績評価の基準：上記「授業の目標」で掲げた2点(基本的な判例・学説を踏まえた上で条文解釈を行えるか)の達成度。 ※小テストは、学務情報システムを通じて、択一式の問題に解答してもらうことを予定しています。実施回数や内容等の詳細については、授業内で説明します。				
オフィスアワー	人文社会科学部法学科のウェブサイト(教員紹介)を参照。				
担当教員からのメッセージ	刑法各論の学習においては、個々の犯罪類型の成立要件を明らかにするため、文言に即してその解釈を丁寧に行うことが求められますが、その際には、裁判例を参照することがとりわけ重要です。講義中にも裁判例にはなるべく言及しますが、受講生の皆さんも、復習の際などに、判例集を利用して、判例の事案・問題の所在・判旨などを、理解するように努めてください。また、疑問点は放置せずに解消することが重要です。分からないことがあれば、随時教員に質問してください。				

授業科目名	財政学 I (Public Finance I)				
担当教員名	高松 慶裕 (TAKAMATSU Yoshihiro)		所属等	学術院人文社会科学領域	
			研究室	共通教育 L 棟 407	
分担教員名					
クラス	人文専門	学期	前期		必修選択区分 選択
対象学年	3 年	単位数	2	曜日・時限	水 3・4
キーワード	財政の機能、予算制度、パレート効率、厚生経済学の基本定理、公共財				
授業の目標	わが国の財政の仕組みと現状を理解するとともに、財政学の理論を習得することを目標とする。				
学習内容	財政学の理論と制度の両面についての基礎的知識を提供するとともに、わが国の財政の抱えている問題を解説し、その改革方向をめぐる所説を紹介する。財政学 I では、歳出面に焦点を当て、財政の機能、予算制度、公共財の理論などを扱う。				
授業計画	以下の通り進める予定（若干の変更もあり得る）。 回 内容 1 ガイダンス 2 財政の機能と政府の規模 3 予算の仕組み 4 予算の循環 5 財政投融资と地方財政計画 6 政府支出論と予算制度改革論 7 財政学のためのミクロ経済学基礎 8 パレート効率と市場経済 9 厚生経済学の基本定理と社会厚生関数 10 公共財の最適供給 11 公共財の自発的供給とフリーライド問題 12 公共財の公的供給 (1)：リンダール・メカニズム 13 公共財の公的供給 (2)：クラーク＝グロブス・メカニズム 14 地方公共財と多数決原理 15 まとめ				
受講要件	ミクロ経済学 I・II の内容を履修済み（並行履修）であるか、独習できることが望ましい。この授業（特に 7 回目以降の内容）では、ミクロ経済学に基づく説明をします（グラフ、数式等を含む）。				
テキスト	指定しない。				
参考書	小塩隆士（2016）『コア・テキスト財政学』新世社。 畑農鋭矢・林正義・吉田浩（2015）『財政学をつかむ』新版，有斐閣。 『図説 日本の財政』各年版，東洋経済新報社。 その他，適宜紹介する。				
予習・復習について	授業は配布資料を基に進めます。事前に学務情報システムからダウンロードし，予復習に活用してください（初回のガイダンスのみ印刷したものを配布します）。				
成績評価の方法・基準	期末試験 70%程度，レポート課題 30%程度で評価する。				
オフィスアワー	初回時にお知らせします。				
担当教員からのメッセージ	後期の財政学 II は歳入面に焦点を当てます。財政学 I と II を両方履修すると財政学全体の理解が進むと思います。				

授業科目名	日本思想概説				
担当教員名	齋藤 真希 (SAITO Maki)		所属等	学術院人文社会科学領域	
			研究室		
分担教員名					
クラス	人文専門	学期	前期		必修選択区分 選択
対象学年	2年	単位数	2	曜日・時限	水 5・6
キーワード	日本の思想、神道、仏教、儒教				
授業の目標	今日、日本の伝統思想とされる神道、仏教、儒教を概観する。各時代の代表的な人物の思想を、超越的なものとの関わりという観点から見ることによって、日本人の心の歴史を窺いたい。				
学習内容	<p>日本人々は生きるということに対し、どのように考え、どのように向き合ってきたのだろうか。日本の伝統的な思想とされる神道、仏教、儒教を通してこのことを見ていきたい。</p> <p>これらの思想においては、神仏などの超越的存在や、死後や前世など、我々が日常的に生きる現実を超えた領域が示されている。古人たちは、そのような領域との関わりから、自己の存在や現世における生の意味を考えてきたのである。</p> <p>本講義では、このような超越的なものとの関わりという視点から、日本の思想史を概観する。その際、各時代の仏教や儒教などの代表的な思想を取り上げていきたい。</p>				
授業計画	<p>回 内容</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 ガイダンス 日本思想とは何か 2 神道の思想 3 記紀神話を読む1 4 記紀神話を読む2 5 神仏について 6 仏教の思想 7 仏教説話を読む 8 鎌倉仏教の思想1 9 鎌倉仏教の思想2 10 儒教の思想 11 朱子学について 12 古学について 13 国学の思想 14 近代の思想 15 授業のまとめ 				
受講要件	特になし				
テキスト	レジュメを配布する。				
参考書					
予習・復習について					
成績評価の方法・基準	授業の3分の2以上の出席と期末レポートの提出を必須とする				
オフィスアワー	水曜日昼休み				
担当教員からのメッセージ	可能なかぎり文献を読み解くという形で授業を進めていく。各思想について自ら積極的に考えてみてほしい。				

授業科目名	中国言語文化講読Ⅲ (Advanced Readings in Chinese Language and literatureⅢ)				
担当教員名	張 盛開 (Shengkai Zhang)		所属等	学術院人文社会科学領域	
			研究室	人 A324	
分担教員名					
クラス	人文専門	学期	前期		必修選択区分 選択
対象学年	3年	単位数	2	曜日・時限	水 5・6
キーワード	阅读、文化、幽默、笑话				
授業の目標	『幽默与笑话』という人気雑誌から短い話を選んで読んでいく。中国語の笑いところを読み取る。笑い話などから漢語の奥深さと文化についてを学ぶ。				
学習内容	文化は言語の変化と発展を引き起こす要因の一つである。この授業は笑い話という特殊なジャンルから中国文化を知り、笑うところからその背景を理解し、中国語の面白さを読み解く。				
授業計画	回 内容 1 ガイダンス 2 漢字の会話 3 黄金時間 4 母親に似ているところ 5 けちの物語 6 キャンパスユーモア 7 セールスの手法 8 ダイエットトレーニング 9 路を尋ねる 10 いろいろな試合 11 迷惑電話？ 12 劉羅鍋の物語 13 やはり姓を改めよう 14 ご参加ありがとうございます。 15 猿と帽子売り				
受講要件	初級中国語習得済み、中国言語文化に興味のある人				
テキスト	資料を配布する				
参考書	授業中で指示する				
予習・復習について	予習をしっかり行ってから授業に臨むこと				
成績評価の方法・基準	授業への参加(授業中の質疑応答、課題の提出)と最終試験／レポートを併せて評価する				
オフィスアワー	火曜の昼休み				
担当教員からのメッセージ	文化からことばをみると、意外に多くのことがわかってくることがあります。ぜひその面白い側面を楽しんでみてほしいです。そして自分の国の文化とことばの関係を考えてほしいです。				

授業科目名	ギリシア語 I (Elementary Ancient Greek Grammar I)				
担当教員名	田中 伸司 (TANAKA Shinji)		所属等	学術院人文社会科学領域	
			研究室	人文 A 棟 4 1 8	
分担教員名					
クラス	人文専門	学期	前期		必修選択区分 選択
対象学年	2 年	単位数	2	曜日・時限	水 7・8
キーワード	古代ギリシア語、文法、語形変化				
授業の目標	人間・社会への理解を深化させるため、人文学領域の基礎である古代ギリシア語を学ぶ。				
学習内容	基本的なギリシア語文法の学習を通じて、ギリシア文化の基礎に触れることを目的としています。ギリシア語 I および II を履修した際には、辞書と首っ引きではあるけれど、ギリシア古典に直接触れることが可能となるまで導きたいと願っています。				
授業計画	<p>教科書の練習問題を解くことが授業の中心となります。</p> <p>1 回に 1 課進みますが、説明のみで練習問題を解かない課もあります。なお、第二回目のみ 2 課進む予定です。</p> <p>平均的な授業はつぎのように展開されます。</p> <p>1. 前回学習した課の練習問題を解く：受講生はあらかじめ練習問題を解いておく必要があります。</p> <p>2. 新しい課に進み、文法事項などを説明する。</p> <p>以上の繰り返しで、ギリシア語文法を学んでいくことになります。</p> <p>☆授業予定です。予習の参考にしてください。</p> <p>回 内容</p> <p>1 I 「字母・発音・音韻の分類・氣息記号」</p> <p>2 II 「音節、アクセント、句読点、語末音」、III 「動詞変化・現在直説法能動相」</p> <p>3 IV 「名詞変化・第一変化 (A-変化) の名詞 (1)」</p> <p>4 VI 「未来直説法能動相」</p> <p>5 VIII 「A-変化 (4)」</p> <p>6 IX 「未完了過去直説法能動相」</p> <p>7 X 「第二変化 (O-変化) の名詞」</p> <p>8 XI 「形容詞一母音幹変化の形容詞」</p> <p>9 XII 「前置詞」</p> <p>10 XIII 「アオリスト直説法能動相」</p> <p>11 XIV 「現在完了および過去完了直説法能動相」</p> <p>12 XV 「指示代名詞および強意代名詞」</p> <p>13 XVIII 「eimi 「ある」 および pemi 「言う」 の現在直説法」</p> <p>14 XX 「現在、未完了過去および未来の直説法中動相」</p> <p>15 XXI 「人称代名詞」</p>				
受講要件	履修の条件としていることはありません。				
テキスト	田中美知太郎・松平千秋著『ギリシア語入門 新装版』岩波書店 (2012)、ISBN978-4-00-022589-2				
参考書	シャルル・ギロー『ギリシア文法[改訳新版]』(クセジュ文庫、ISBN4-560-05868-7)				
予習・復習について	はじめのうちは予習に時間がかかります。ある程度の余裕をもって履修に臨んでください。				
成績評価の方法・基準	毎時間行う練習問題の回答 (60%) および筆記試験 (40%)				
オフィスアワー	水曜日 9・10 時限 (16:05-17:35)				
担当教員からのメッセージ	1. 県立大学単位互換 (認める) 2. 科目等履修生 (認める) 3. 難易度 (A) ギリシア語と言えば、ヘブライ語と並んで、洋の東西を問わず、難しいという定評があります。決して簡単だとは言いません。しかし、努力をすれば必ず習得できます。				

授業科目名	異常心理学Ⅱ				
担当教員名	田辺 肇 (TANABE Hajime)		所属等	学術院人文社会科学領域	
			研究室	人文A棟412	
分担教員名					
クラス	人文専門	学期	前期		必修選択区分
対象学年	2年	単位数	2	曜日・時限	水7・8
キーワード	人間理解の認識枠組、現実と経験、意識と自由意志、人格とコヒーレンス、自己とアイデンティティ、発達・学習と適応、障害・不全と健康、病理・異常と治療・支援、メンタルヘルス・精神保健、予防と健康増進				
授業の目標	心理学、精神保健福祉学の領域における専門的知識と探究方法の学びを通じて、さまざまな条件における多様な人間のあり方について深く理解しつつ、他者への肯定的な関心と共生への志向を高め、協働的対人関係能力の基礎を培うこと、ことに、人権意識と共生を基礎とする市民としての責任と人を理解する態度の基盤を涵養することをねらっている。				
学習内容	<p>異常心理学では通常「当たり前」に成立している理過程から逸脱した現象に焦点を当てる。そのような通常態から逸脱した心理現象の検討を通じて、逆照射的に通常心理過程のあり方を考察する方法を病理法という。本講義では、知覚・記憶と体験・現実、意識と意志・主体性、人格・自己と同一性、発達・学習と適応、動機と自己決定性、対人関係と社会・文化などを軸に、異常・病態心理を検討することで、「普通の体験」を成り立たせている心的過程と社会構造について考察する。</p> <p>特に、病理現象を何らかの苦境・ハンディ・障害を持ちながらも人が与えられた環境の中で発達し適応し生きようとする過程として捉える発達精神病理学の視点から、子ども虐待とその影響ならびに予防・支援に焦点を当て、「異常(正常)」とは何か、「病理(健康)」とは何かを批判的に検討し、子どもを含む「こころの障害・不全」とその援助についての根本問題を考察する。</p> <p>この講義は、問いに答えを与えるものではなく、人間理解の難しさと考え方を学び、その中で、日常当たり前のこととしてやり過ごしてきた様々な事柄に興味を抱き、反省を促し、人と前向きに関わる、あるいは人間事象について深く考える力を養うことを目指すものである。</p>				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション(本講義の特徴と進め方)と復習＝心理モデル・治療モデルと人間観(脳機能と精神、精神力動論、学習理論、自己論・体験過程論、ストレス理論、システム論、危機理論) 2. 体験の成立とその異常(物理的現実・社会的現実と体験的現実/脳と身体・文化、既視感と離人感、感覚器官障害と高次脳機能障害、社会的認知と被暗示性、常識と差別、暗黙の性格理論、催眠・夢・空想と現実と二重意識) 3. 異常心理・病態心理・精神保健福祉(異常、障害・不全、病理、「病」観と治療・予防・支援・メンタルヘルス、精神保健施策と社会状況、こころの障害と心理臨床の構成、パターンリズム、エンパワメント、認識論的相対主義と構成主義、精神保健福祉の歴史) 4. 依存・嗜癖・乱用(薬物・ギャンブル・自傷、報酬系、セルフメディケーション、解離) 5. 児童虐待と心的外傷(虐待とは、家族病理、PTSD、対人・自己スキーマの障害、発達精神病理学とエンパワメント、加害者支援と支援者支援、予防とコミュニティアプローチ) 6. 自己の成立とその異常(「記憶喪失」と「多重人格」、意志(主体)と正常心理のモデルとしての「大人」の生活、自由意志と合意、潜在意識と意図性・自動性、自伝的記憶と物語的・関係的自己、自動性の暴走と人格の調和) 				
受講要件	心理学概論と基礎心理学Ⅰの履修と人格・発達・社会・臨床心理学の基本的な知識を前提として講義を展開する。				
テキスト	特に指定しない				
参考書	岩崎・渡邊(編)『精神看護学①精神看護学概論：精神保健』メヂカルフレンド社/吉松ら(編)『精神看護学Ⅰ：精神保健学』ヌーヴェルヒロカワ/松田『「知覚不全」の基礎心理学』ナカニシヤ出版/板倉『「私」はいつ生まれるか』ちくま新書(『心を発見する心の発達』京都大学学術出版会)/ハーマン『心的外傷と回復』パトナム『解離：若年期における病理と治療』みすず書房/下山・丹野(編)『異常心理学Ⅰ』東京大学出版会/カンツィアン&アルバニーズ、松本(訳)『人はなぜ依存症になるのか：自己治療としてのアディクション』星和書店 ISBN 4791108434				
予習・復習について	シラバスに挙げた主題毎に6回レポート提出(学情の機能を利用する)を求めらるので、それをペースメーカーにしながらか予習、復習をして下さい。講義の他にも、参考文献や新聞・テレビ・出版物・インターネットなど広くアンテナを張り、多くの情報を参照し、自らそれらを整理し統合することが必要です。疑問点を整理				

	し予習・復習を充分に行ってください。特に初回からどんどん授業を進めていくのでシラバスや参考書、辞書、ネットの情報等を参考に充分予習しておいてください。
成績評価の方法・基準	6つの主題毎に、①授業のまとめ、②復習の文献まとめ・自己学習等、③受講生の自己理解・感想等、を書いたレポート提出（枚数様式自由）を学情の機能を用いて行う。各15点（但し、最終回後には、④受講と自己学習全体を通して得たもの、を加え25点とする予定）。
オフィスアワー	火3・4限（要予約）
担当教員からのメッセージ	受講生による質問や意見提出を取り入れて授業を進める。人間理解の基本問題にも触れるので、人間学的・社会的な関心を持っている学生が履修するのも良いだろう。受講生の主体的な参加を期待する。 （1. 県立大学単位互換（認める） 2. 科目等履修生（認める） 3. 難易度（C）比較的専門的な議論を行う予定）

授業科目名	劇場・音楽堂概論				
担当教員名	井原 麗奈 (IHARA Rena)		所属等	地域創造学環	
			研究室	教育学部 A 棟 204	
分担教員名					
クラス	人文専門	学期	前期		必修選択区分 選択
対象学年	2年	単位数	2	曜日・時限	水 7・8
キーワード	劇場、音楽堂、公会堂、公共ホール、公共性、歴史				
授業の目標	「劇場」「音楽堂」など「舞台」と「客席」のある空間が、世界史・日本史の中でどのような経緯を辿ってきたのか、またそれらの空間で何が上演されてきたのかを知ることが目標とします。				
学習内容	世界・日本で行われている、あらゆるジャンルのパフォーマンスアートとその舞台空間、機構、管理・運営主体の違いを映像や図版を通して学びます。				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 ガイダンス：なぜ今「劇場」「音楽堂」に着目するのか 2 世界における「劇場」「音楽堂」の歴史 3 日本における「劇場」「音楽堂」の歴史 4 日本の公共ホールの源流「公会堂」について 5 国立劇場の役割について 6 日本各地の公共ホールについて <p>回 内容</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 ガイダンス：なぜ今「劇場」「音楽堂」に着目するのか 2 世界における「劇場」「音楽堂」の歴史：オペラを中心に 3 世界における「劇場」「音楽堂」の歴史：舞踊を中心に 4 世界における「劇場」「音楽堂」の歴史：オーケストラを中心に 5 世界における「劇場」「音楽堂」の歴史：演劇を中心に 6 日本における「劇場」「音楽堂」の歴史：能楽を中心に 7 日本における「劇場」「音楽堂」の歴史：文楽を中心に 8 日本における「劇場」「音楽堂」の歴史：歌舞伎を中心に 9 日本における「劇場」「音楽堂」の歴史：近代演劇を中心に 10 日本における「劇場」「音楽堂」の歴史：宝塚歌劇を中心に 11 日本の公共ホールの源流「公会堂」について 1 12 日本の公共ホールの源流「公会堂」について 2 13 国立劇場の役割について 14 日本各地の公共ホールについて 15 まとめ 				
受講要件	あらゆるパフォーマンス・アートのジャンル（舞踊、演劇、音楽、古典芸能等）と世界史・日本史に対して興味を持っていること。				
テキスト	講義でそのつど案内します。				
参考書	講義でそのつど案内します。				
予習・復習について	生でも映像でも構いませんので、できる限り多くの舞台を鑑賞してください。				
成績評価の方法・基準	コメントシート 50点＋舞台鑑賞レポート 50点				
オフィスアワー	水曜日 3コマ目 前日までに ihara.rena@shizuoka.ac.jp（*を@に変える）にご連絡ください。				
担当教員からのメッセージ	どれほど多くの印象に残るものを鑑賞したかによって、将来が大きく左右されます。自分の興味のあるものだけを鑑賞するのではなく、選択せずに浴びるようにあらゆるジャンルの舞台を鑑賞してください。				

授業科目名	西洋史概説				
担当教員名	藤井 真生 (FUJII Masao)		所属等	学術院人文社会科学領域	
			研究室		
分担教員名					
クラス	人文専門	学期	前期		必修選択区分 選択
対象学年	2年	単位数	2	曜日・時限	水9・10
キーワード	古代文明、ギリシャ民主政、ローマ帝国、キリスト教、国家形成、封建社会、中世都市				
授業の目標	多様な人間・社会について、歴史・民族・文化・制度といったさまざまな条件を考慮し、深く理解することができ、同時に共生への志向を尊重する態度を身につける。				
学習内容	古代オリエント世界から中世ヨーロッパ世界まで、時代をおっていくつかのトピックを取りあげる。高校で習う世界史よりもテーマを限定し、その分詳しい史料紹介や歴史的意義の考察に重点をおいて学ぶこととする。				
授業計画	回 内容 1 古代文明の発生（1） 2 古代文明の発生（2） 3 ギリシャの民主政（1） 4 ギリシャの民主政（2） 5 ローマ帝国の拡大（1） 6 ローマ帝国の拡大（2） 7 キリスト教の誕生（1） 8 キリスト教の誕生（2） 9 中世国家の形成（1） 10 中世国家の形成（2） 11 封建社会の身分と支配（1） 12 封建社会の身分と支配（2） 13 中世都市の成立（1） 14 中世都市の成立（2） 15 中世から近世へ				
受講要件	とくになし。				
テキスト	授業前後に、スライド資料を学務情報システムで配信します。				
参考書	各回のテーマごとに、講義内で案内します。				
予習・復習について	とくに予習は求めませんが、評価方法との関連で、講義内容は自分なりにまとめておくことが必要となります。				
成績評価の方法・基準	テーマごと（「古代文明の発生」「ギリシャの民主政」など）に講義内容を要約した文章を書いてもらいます。各回の平均点に授業貢献度（発言回数など）を加味したものを最終的な評価とします。				
オフィスアワー	月曜日午前				
担当教員からのメッセージ	1. 県立大学単位互換（認める） 2. 科目等履修生（認める） 難易度 B 2回に1度は文章にまとめてもらうので、必ず各テーマの1回目の内容を整理してから2回目へのぞんでください。また、適切な日本語表現も評価ポイントとなるため、西洋中世にかぎらず歴史の概説書を読み、文章表現を学んでおくことをおすすめします。				

授業科目名	アジア社会史 I				
担当教員名	戸部 健 (TOBE Ken)		所属等	学術院人文社会科学領域	
			研究室	A221	
分担教員名					
クラス	人文専門	学期	前期		必修選択区分 選択
対象学年	3年	単位数	2	曜日・時限	木 1・2
キーワード	中国、中華人民共和国、現代史、社会主義、大衆運動、文化大革命				
授業の目標	近年の研究動向に留意しながら、近現代中国の社会史について学んでいきます。近現代中国史に関する専門的知識を身につけます。				
学習内容	1950年代～1970年代の中国史を、周辺各国との関係にも注意しながら概説的に見ていく。特に、国家と社会との関係がこの時代にどのように変わったのかに焦点をしぼり、重要なトピックごとに順次論じていく。また、当該時期の中国のあり方が、現在の中国のどのような部分に影響を与えているのか、考えていきたい。				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. イントロダクション 2. 中華人民共和国史研究の現状 3. 日中戦後の中国—国共のバランスと国際情勢 4. 朝鮮戦争の中華人民共和国への影響①—反革命分子鎮圧運動 5. 朝鮮戦争の中華人民共和国への影響②—抗米援朝運動 6. 朝鮮戦争の中華人民共和国への影響③—三反・五反運動 7. 朝鮮戦争の中華人民共和国への影響④—土地改革 8. 中国の社会主義化とソ連 9. スターリン批判の衝撃と反右派闘争 10. 大躍進運動とその影響 11. 経済政策の是正とその影響 12. 文化大革命の展開とその社会的影響 13. 文化大革命の収束と改革開放への転換 14. 経済成長とそれにとまなう様々な問題+全体のまとめ 				
受講要件	特にありませんが、外国史概論やアジア史概説をあらかじめ受講しておくこと、授業内容をより深く理解できます。				
テキスト	特にありません。				
参考書	久保亨『社会主義への挑戦—1945～1971』岩波新書、2011年。天児慧『巨龍の胎動 毛沢東 VS 鄧小平』（中国の歴史 11）講談社、2005年。久保亨ほか『現代中国の歴史—兩岸三地 100年のあゆみ』東京大学出版会、2008年など。その他の参考文献は適宜授業中に指示します。				
予習・復習について	授業後は、ノートに書いたことをもう一度見直し頭の中を整理すること。分からないことがあったら適宜質問すること。				
成績評価の方法・基準	期末テスト：出席点など＝7：3とします。				
オフィスアワー	金曜日 3・4限（10：20～11：50）。事前アポが必要（jktobe@ipc.shizuoka.ac.jp）				
担当教員からのメッセージ	授業で興味関心を持ったことについてはそのままにせず、文献を読むなどして各自研鑽を深めるようにして下さい。 難易度（C）				

授業科目名	<p style="text-align: center;">憲法総論・統治機構 (Constitutional Law/Government)</p>				
担当教員名	<p style="text-align: center;">小谷 順子 (KOTANI Junko)</p>		所属等	学術院人文社会科学領域	
			研究室	人文 A 棟 6 1 2	
分担教員名					
クラス	人文専門	学期	前期		必修選択区分 必
対象学年	1 年	単位数	2	曜日・時限	木 1・2
キーワード	憲法、法の支配、法治主義、立憲主義、権力分立、人権保障、基本的人権、自由、権利、統治				
授業の目標	国家の最高法規である「憲法」の歴史的背景、意義、及び機能に関する基礎知識を習得した上で、日本国憲法の基本原則及び統治機構をめぐる各種論点(時事的な論点も含む)に関する詳細な知識・応用力を習得することを目標とする。				
学習内容	まず、「憲法」の歴史的背景・近代的意義を確認した上で、日本における「憲法」の変遷、「日本国憲法」の基本的原則について学ぶ。その後、国会・内閣・裁判所を主軸とする統治機構に関する日本国憲法の規定を確認した上で、この分野における憲法学上の各種問題点について、国内の判例・学説や外国の例を参照しつつ学ぶ。				
授業計画	<p>授業では、以下の項目について講義形式で概説する予定であるが、時事問題等を取り上げるために、順序や項目を変更することもある。(以下の項目は、教科書(芦部・高橋『憲法』)の目次に対応している。)</p> <p>回 内容</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 法とは何か、憲法・憲法学とは何か 2 憲法と立憲主義(憲法の意味・分類・特質・立憲主義) 3 日本憲法史(明治憲法、日本国憲法) 4 国民主権の原理(国民主権) 5 国民主権の原理(天皇制) 6 平和主義の原理 7 国会(権力分立、政党) 8 国会(国会の地位・組織・活動) 9 国会(衆議院の解散、一票の格差) 10 内閣 11 裁判所(司法権の意味と範囲) 12 裁判所(裁判所の組織・権能、裁判員制度) 13 財政 14 地方自治 15 憲法の保障(違憲審査制・憲法改正) 				
受講要件	特になし				
テキスト	芦部信喜著・高橋和之補訂『憲法(第6版)』(岩波書店、2015年)、六法(出版社は問わないが、最新のものの)。この2点は、毎回の授業に必携。				
参考書	判例集(例):野中俊彦・江橋崇編著『憲法判例集(第11版)』(有斐閣新書、2016年)、『憲法判例百選II(第6版)』(有斐閣、2013年)など。用語集(例):大沢秀介・大林啓吾編『確認憲法用語』(成文堂、2014年)など。				
予習・復習について	予習: 予め教科書の該当箇所を読む。 復習: 毎回の講義終了後、各自で、学務情報システム上の「授業支援システム」にログオンし、授業内容を再確認するための小テストを受験する。				
成績評価の方法・基準	平常点(授業支援システムの「小テスト」の成績など)20-40%程度、期末試験60-80%程度で評価する予定。期末試験は、教科書等の一切の資料の参照不可。 ※授業支援システムについては、授業中に説明する。				
オフィスアワー	毎週の授業終了後。その他、電子メールにて、いつでも質問可。				
担当教員からのメッセージ	1. 県立大学単位互換(o) 2. 科目等履修生(o) 3. 難易度(A) 難易度(A)は、高校の公民(現代社会、政治経済)レベルの知識を当然に修得していることを前提としています。				

授業科目名	英米言語文化基礎論 (Introduction to English Studies)				
担当教員名	大村 光弘 (OMURA Mitsuhiro)		所属等	学術院人文社会科学領域	
			研究室	人文 A 棟 4 2 7	
分担教員名					
クラス	人文専門	学期	前期		必修選択区分
対象学年	1 年	単位数	2	曜日・時限	木 3・4
キーワード	英語学、コミュニケーション、英語圏の文化、アメリカ詩、文学、芸術				
授業の目標	<p>特に、人文社会科学部 学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）2・3 及び言語文化学科のディプロマ・ポリシー 1 に示されているような知識と教養を得ることを目標とする。言語文化学科の教育課程編成実施の方針（カリキュラム・ポリシー）1 に示されているように、導入的基礎知識を得るための基礎科目として設定されている。</p> <p>（大村）人間のコミュニケーションに関する理解を深め、専門的学習の基礎固めを行う。 （山内）英米文化一般にかかわる基礎知識に配慮しつつ、アメリカ詩やその他の言語芸術に親しむ。</p>				
学習内容	<p>（大村）人間のコミュニケーション活動を、言語学、生物学、心理学、社会学、人類学等複数の視点から多角的・学際的に分析する。 （山内）主にアメリカ詩を紹介しながら、英米文化・芸術等の領域に関する基礎的な分析能力を養う。適宜作文等も行う。</p>				
授業計画	<p>（大村）人間のコミュニケーションに関して、以下のテーマを想定している。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 生物学的観点から見た人間の言語能力 2) 認知的観点から見た人間の言語能力 3) ノンバーバルコミュニケーション 4) コミュニケーションの影響力 1（説得の技術） 5) コミュニケーションの影響力 2（うわさのもつ力） 6) 異文化コミュニケーション <p>（山内）概ね以下のテーマについて授業を展開する（ただし適宜変更する可能性がある）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) Romeo and Juliet 2) Seinfeld 3) Visual Poetry 4) Gary Snyder 5) John Cage 6) Bob Dylan 7) その他 				
受講要件	受講希望者数により制限を課す（言語文化学科の 1 年生を優先）。				
テキスト	<p>（大村）テキストは用いず、ハンドアウトを配布する。 （山内）ハンドアウト（配布方法については授業時に指定）</p>				
参考書	必要に応じて適宜紹介する。				
予習・復習について	予習・復習共に欠かさないこと。				
成績評価の方法・基準	定期試験は行わず小テストやレポート等により評価するが、基本的に 2 人の担当教員それぞれの評価を合わせて総合的に成績を定める。小テストやレポートの実施方法については、各教員が授業時に説明する。				
オフィスアワー	<p>（大村）火曜日 12:00-13:00、事前連絡があればこれ以外の時間帯も可。 (jjmohmu@ipc.shizuoka.ac.jp) （山内）火曜日 12:00-12:45、事前連絡があればこれ以外の時間帯も可。 (yamauchi.koichiro@shizuoka.ac.jp)</p>				
担当教員からのメッセージ	1. 県立大学単位互換（認める） 2. 科目等履修生（認める） 3. 難易度（A）				

授業科目名	イギリス文学文化読解 I (Reading and Interpretation English Literature and Culture I)				
担当教員名	久木田 直江 (KUKITA Naoe)		所属等	学術院人文社会科学領域	
			研究室	人文 A 棟 4 2 9	
分担教員名					
クラス	人文専門	学期	前期		必修選択区分 選択
対象学年	3 年	単位数	2	曜日・時限	木 3・4
キーワード	medieval world view、The Book of Margery Kempe、Christian art and iconography				
授業の目標	This module will introduce students to medieval world view through reading The Book of Margery Kempe in modern translation.				
学習内容	The module is aimed at improvement in reading in English. It will also explore the religious, historical, cultural contexts of the late medieval and early modern Europe: Lecture style will be followed by seminars.				
授業計画	<p>The first week:Introduction</p> <p>The second week: medieval world view</p> <p>The third week:same</p> <p>The fourth week onwards: Reading</p> <p>We will read as much as possible but have to choose particular chapters. To understand the religious, historical contexts, students are encouraged to read The Medieval World View: An Introduction by William Cook and Ronald Herzman, 3rd edn (Oxford: Oxford University Press, 2012).</p>				
受講要件					
テキスト	The Book of Margery Kempe, trans. Barry Windeatt, Penguin Classics				
参考書	William Cook and Ronald Herzman, The Medieval World View: An Introduction, 3rd edition (Oxford: Oxford University Press, 2012)				
予習・復習について	Reading before the class is necessary.				
成績評価の方法・基準	Coursework. Exam or term paper.				
オフィスアワー	12:00-12:45 on Wednesdays; appointment through email preferable.				
担当教員からのメッセージ	<p>県立大学単位互換 認めない 科目等履修生 認めない 難易度 (C)</p> <p>Students are encouraged to discuss in English. If it is difficult to make yourself understood in English, Japanese will always help us.Students will also have an opportunity to appreciate medieval and early Renaissance art.</p>				

授業科目名	ミクロ経済学 I (Microeconomics I)				
担当教員名	中川 訓範 (NAKAGAWA Kuninori)		所属等	学術院人文社会科学領域	
			研究室	共L402	
分担教員名					
クラス	人文専門	学期	前期		必修選択区分 必
対象学年	1年	単位数	2	曜日・時限	木3・4
キーワード	ミクロ経済学入門				
授業の目標	経済学を学ぶことは経済現象を理解・分析するために必要ですが、同時に経済学における思考方法を知ることでもあります。この授業では、経済学の基礎となるミクロ経済学の入門知識について講義をしますが、同時に最低限の「経済学的考え方」について知ることを目的とします。				
学習内容	ミクロ経済学を学ぶ上において、その入門時に触れておくべき基本的な知識を学ぶ。				
授業計画	回 内容 1 オリエンテーション 2 需要と供給 3 均衡 4 弾力性 5 需要・供給の変動 6 余剰分析 7 中間まとめ 8 消費者の行動 9 企業の行動 10 競争均衡 11 パレート効率性 12 厚生経済学の第一定理 13 外部性 14 ゲーム理論 15 まとめ				
受講要件	連立方程式が解ける。 微分ができる。 数学記号を読める。				
テキスト	特に指定しません。				
参考書	必要に応じて紹介します。				
予習・復習について	予習は特に必要としませんが、復習は適宜必要に応じて行ってください。課題を課すこともあります。				
成績評価の方法・基準	試験と課題をあわせて評価する。(合計 100%)				
オフィスアワー	開講時に指示します。				
担当教員からのメッセージ	授業中に教員から質問されることがあります。 1. 県立大学単位互換 (認める) 2. 科目等履修生 (認める) 3. 難易度 (B)				

授業科目名	経済統計学				
担当教員名	上藤 一郎 (UWAFUJI Ichiro)		所属等	学術院人文社会科学領域	
			研究室	共通L棟 326	
分担教員名					
クラス	人文専門	学期	前期		必修選択区分 選択
対象学年	3年	単位数	2	曜日・時限	木 3・4
キーワード	公的統計、統計の真実性、調査統計、業務統計、加工統計、回帰分析、時系列解析				
授業の目標	公的統計（政府統計）を中心としたミクロ経済およびマクロ経済に関する経済統計の体系・種類・特徴とその利用方法について学習します。				
学習内容	<p>本講義は、次の三つを学び理解することを目的とします。第一に、経済分析に不可欠なミクロ経済やマクロ経済に関する経済統計（データ）を取り上げ、それらの体系・種類・特徴などについて学習します。経済統計の多くは政府機関によって作成・公表されたものが多く、利用に当たってはそのことによる問題点を理解しておく必要があります。このため公的統計（政府統計）の作成過程についても取り上げます。第二に、ミクロ経済並びにマクロ経済に関する具体的な統計と統計指標を取り上げ解説していきます。第三に、経済データを使用した統計分析の方法、特に重回帰分析の基本について講述します。なお時間の余裕があれば時系列解析の初歩についても言及します。</p>				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 経済統計の作成過程 <ol style="list-style-type: none"> (1) 経済統計の体系と統計制度 (2) 経済統計の信頼性と正確性 2. 経済統計各論 <ol style="list-style-type: none"> (1) 人口統計と人口指標 (2) 家計統計・物価統計と消費者物価指数 (3) 労働統計と賃金・就業に関する統計指標 (4) 国民経済計算と経済成長率の寄与度・寄与率 (5) 景気統計と景気動向指数 (6) 国際収支統計の見方・使い方 3. 経済データの統計的分析 <ol style="list-style-type: none"> (1) 回帰分析と回帰診断 (2) 時系列解析の基礎 				
受講要件	必要条件ではありませんが、統計学Ⅰ・Ⅱを履修していることが望まれます。				
テキスト	御園謙吉・良永康平編『よくわかる統計学Ⅱ－経済統計編－』第2版，ミネルヴァ書房，2011年。				
参考書	講義時に随時指示します。				
予習・復習について	予習：テキストの精読（毎回の講義終了時に次回講義時まで読んでおくべき範囲を指示します） 復習：テキストに示されている EXCEL による計算問題				
成績評価の方法・基準	成績は、①平常点（10%）、②中間課題（40%）、③期末テスト（50%）によって評価します。				
オフィスアワー	開講時に開示します。				
担当教員からのメッセージ	1. 県立大学単位互換（認める） 2. 科目等履修生（認める） 3. 難易度（C）				

授業科目名	日本文学概論 I (Introduction to Japanese Literature I)				
担当教員名	小二田 誠二 (KONITA Seiji)		所属等	学術院人文社会科学領域	
			研究室	人文 A 棟 323	
分担教員名					
クラス	人文専門	学期	前期		必修選択区分 選択
対象学年	2 年	単位数	2	曜日・時限	金 5・6
キーワード	日本古典文学、くずし字、注釈、文字、絵画、昔話、二次創作、印刷、出版、戯作				
授業の目標	日本の古典文学を研究し、学術論文を書くための、基本的な考え方、作法、技術を身につけることを第一の目標とします。 その上で、江戸時代の戯作と呼ばれる作品群の発想方法を楽しみ、そこから学んで自分の発想や表現に繋げることを第二の目標とし、実践します。				
学習内容	江戸時代の黄表紙をテキストとし、翻刻・語釈・注釈・考察・論文作成の過程を擬似的に体験します。講義科目ですが、授業ごとに様々な“体験”をして貰います。				
授業計画	<p>受講生の反応によって変更する場合があります。 数字は授業の回数の対応する物ではありません。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 未知のテキストに出会ったら 2 くずし字の判読 3 絵を読む 4 注釈の考え方 5 資料の探し方 6 現代語訳の考え方 7 考察・研究 8 論文を書く 9 発想を活かす 				
受講要件	簡単な古文を読みます。 ひらがな中心のくずし字を読みます。				
テキスト	コピーを配布します。				
参考書	飯倉洋一編『アプリで学ぶくずし字 くずし字学習支援アプリ KuLA (クーラ) の使い方』(笠間書院) その他、くずし字判読関連のアプリや web サイトを一通り見ておくことをおすすめします。				
予習・復習について	大量の配布資料がありますので、必ず読んで、判らないことを調べておくこと。 授業で判らなかつたこと、興味を持ったことは、その日のうちに解決し、レポートにすること。				
成績評価の方法・基準	最終レポート 80% その他少レポート 20% 詳しい成績評価基準は最初の回に提示し、受講者の議論を酌んで修正します。				
オフィスアワー	あなたと私の空き時間。 私の時間割は http://www.ipc.shizuoka.ac.jp/~jjskoni/time.html に掲載します。 確認の上、連絡してください。				
担当教員からのメッセージ	基本的に、日本言語文化に在籍して卒業論文を書く人向けの内容ですが、他コース他学科の人にも役立つような汎用性のある授業になる予定です。 科目等履修生○ 県立大学単位互換○ 難易度 C				

授業科目名	英語学概論Ⅱ (Introduction to English Linguistics II)				
担当教員名	小町 将之 (KOMACHI Masayuki)		所属等	学術院人文社会科学領域	
			研究室	人文社会科学部 A 棟 4 階 424	
分担教員名					
クラス	人文専門	学期	前期		必修選択区分 選択
対象学年	2 年	単位数	2	曜日・時限	金 3・4, 金 5・6
キーワード	生成文法、比較統語論、意味論、統語論				
授業の目標	生成文法研究の手法として、統語理論を修得し、様々な言語現象を理論的に分析できるようになる。				
学習内容	<p>生成文法理論の基本理念と分析手法を学びます。 いくつかの文法現象を概観し、それらがどのように分析されるかを考えていきます。担当教員から解説するだけでなく、受講生自身でも分析し、その方法に習熟してもらいます。</p> <p>分析の対象とする主な言語は英語ですが、日本語などの他言語との比較を通じて、人間の文法知識を立体的に理解してもらえるように努めます。</p>				
授業計画	<p>教科書とハンドアウトに基づいて、分析手法の解説、議論、受講生による発表を行い、生成文法理論にもとづく統語理論について、以下の観点から基本的な理論構造の理解を進めます。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 句構造理論 (Xバー理論を含む) 2. 束縛理論 3. 名詞句移動 4. 疑問詞移動 5. 移動にかかる制約 6. 省略にかかる制約 7. 複数言語間の比較 				
受講要件	基本的な英文読解力を有していること。市民開放授業受講生も、正規受講者と同様の基準で評価し、受講要件に満たないと担当者が判断した場合には学期途中でも受講認可を取り消します。				
テキスト	Carnie, A. 2012. <i>Syntax: A Generative Introduction</i> . Wiley-Blackwell.				
参考書	渡辺明『生成文法』東京大学出版会				
予習・復習について	毎回、教科書の該当箇所を読むことは必須ですが、必要に応じて指示します。学期当初に教科書を入手しておいて、授業が始まるまでに読み込んで置くことを強く薦めます。				
成績評価の方法・基準	授業中に出される課題、宿題、および複数回実施されるテストの結果に基づいて評価します。				
オフィスアワー	金曜 7・8 時限。その他の時間を希望する場合は、メールで連絡を取ってください。 連絡用メールアドレス： koma@shizuoka.ac.jp)				
担当教員からのメッセージ	<p>1. 県立大学単位互換 (認める) 2. 科目等履修生 (認める) 3. 難易度 (B)</p> <p>毎週、相当量の英語を読むことで、英語読解力を急激に鍛えることにもなります。がんばりましょう。</p>				

授業科目名	フランス文学概論 I (Introduction to French Literature I)				
担当教員名	安永 愛 (YASUNAGA Ai)		所属等	学術院人文社会科学領域	
			研究室	人文 A 棟 5 2 5	
分担教員名					
クラス	人文専門	学期	前期		必修選択区分 選択
対象学年	2 年	単位数	2	曜日・時限	金 3・4
キーワード	フランス文学の特質、フランス文学の歴史、フランスの文化				
授業の目標	中世から 18 世紀にいたるフランス文学の歴史を振り返りつつ、フランス文学の持つ魅力に触れる。				
学習内容	中世から 18 世紀にいたるフランス文学の歴史を振り返りつつ、フランス文学の持つ魅力に触れる。基本的に講義形式であるが、いくつかのフランス語作品の抜粋の講読や、関連の映像の鑑賞も取り入れる。				
授業計画	<ul style="list-style-type: none"> ・フランス文学の基盤 ・中世フランス文学の諸ジャンル ・フランス・ルネサンスの文学—ラブレールなど ・モラリストの系譜—モンテーニュなど ・17 世紀の思想家たち—デカルトとパスカル ・啓蒙の時代の思想家たち—モンテスキュー、ヴォルテール、ルソー、ディドロなど 				
受講要件	フランス語の基礎を習得していること。				
テキスト	プリントを配布する。				
参考書	適宜紹介する。				
予習・復習について	義務としては特に課さないが、講義を聴いて興味を持った書物を読んでみてほしい。				
成績評価の方法・基準	出欠状況 (20%) 期末レポート (80%)。ただし、欠席回数が理由なく 3 回を超える場合は、不可とします。				
オフィスアワー	月曜 7.8 限。メールのアポイントにより随時対応します。 アドレス yasunaga.ai@ipc.shizuoka.ac.jp				
担当教員からのメッセージ	この講義が作家や作品と出会う機縁となることを願っています。				

授業科目名	ドイツ言語文化基礎演習 I				
担当教員名	大菌 正彦 (OZONO Masahiko)		所属等	学術院人文社会科学領域	
			研究室	人文 A 棟 4 2 3	
分担教員名					
クラス	人文専門	学期	前期		必修選択区分
対象学年	2 年	単位数	2	曜日・時限	金 1・2
キーワード	ドイツ語、リスニング、言語運用能力、ドイツ文化、多文化理解				
授業の目標	初級ドイツ語の学習を一通り終えた人を対象として、ドイツ語の運用能力（中級程度）を伸ばすことが目的です。この授業では特にリスニング能力の向上に重きを置きます。また、英語以外の外国語を学ぶことで、文化の多元的理解を目指します。				
学習内容	教科書の内容に沿って学習していきます。原則として毎回 1 課ずつ進めます。各課は大きく、語彙、文法復習コーナー、および三つのリスニング練習から成っています。授業では、リスニング練習を中心に、発音練習、受講生同士のペア練習なども行います。また、折に触れ、さまざまなドイツ事情についても紹介します。				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. Einführung: Wie findest du Tina? 2. Thema 1: Was machen denn deine Eltern beruflich? 3. Thema 2: Wann fährt dein ICE? 4. Thema 3: Wann treffen wir uns mit Anna? 5. Thema 4: Wie soll morgen das Wetter werden? 6. Thema 5: Was hast du in den Ferien gemacht? 7. Thema 6: Wie war dein Wochenende? 8. まとめと復習, 試験 (1) 9. Thema 7: Umzug in eine neue WG 10. Thema 8: Wenn ich gewinne ... 11. Thema 9: Wo sind Papa und Laura? 12. Thema 10: Das ist ja eine Überraschung! 13. Thema 11: Die Bibliothek wird endlich renoviert! 14. Thema 12: Wenn ich zwei Millionen Euro hätte ... 15. まとめと復習, 試験 (2) 				
受講要件	平成 27 年度以前入学生は、後期に開講される「ドイツ言語文化基礎演習 II」(2 単位) を併せて修得した場合、「ドイツ言語文化基礎演習 I」(4 単位) に読み替えとなります。				
テキスト	Roland Schulz・行重耕平『CD 付き ドイツ語リスニングのポイント』三修社 (2,600 円+税)				
参考書	独和辞典は必携です。その他授業中に適宜紹介します。				
予習・復習について	授業 1 回あたり、2-3 時間程度の授業外学習が前提です。				
成績評価の方法・基準	筆記試験の成績 (50%) および平常点 (50%) をもとに評価します。平常点は授業への準備・参加状況をもとに評価します。また、正当な理由なく 3 分の 1 以上欠席した場合は成績評価の対象外となります。				
オフィスアワー	金曜日昼休み				
担当教員からのメッセージ					

授業科目名	比較文化演習Ⅳ				
担当教員名	南 富鎮 (NAM bujin)		所属等	学術院人文社会科学領域	
			研究室	人文A棟527	
分担教員名					
クラス	人文専門	学期	前期		必修選択区分 選択
対象学年	3年	単位数	2	曜日・時限	金3・4
キーワード	日本語文学、植民地文学、文化研究				
授業の目標	<ul style="list-style-type: none"> ・演習授業での研究発表および来たるべき卒業論文作成のための、手順、方法等を学ぶ。 ・文学作品を通して日本語文学、植民地文学・文化の一端を理解する。 				
学習内容	<p>*2年次科目「比較言語文化基礎演習Ⅱ」(南の演習)の継続的なものになりますが、やや文化研究の側面を多く取り入れます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・文学作品の分析を中心とする研究発表。 ・日本語文学を通して日本語・日本文学の新たな側面・領域について考えてみる。 ・作品の文化研究の側面について考える。時代、制度など。 ・純粋な日本人として分類できない作家たちが書いた文学作品から「日本的なもの」とはなにかについて考えてみる。 				
授業計画	<p>いわゆる日本人でない作家たちが日本語で書いた作品(短編小説)を読み、順番で発表する。時代は近代から現在まで。自己アイデンティティを日本に置かない作家たち(日本語を非母語とする者、在日外国人を含む)が書いた翻訳ではない日本語の文学作品(短編小説)を対象とする。時代研究、文化研究の側面を多く取り入れる。発表要領、レジュメの作成要領(雛形)などについては教員が具体的に例示する。</p>				
受講要件	言語文化学科3・4年生(それ以外の受講生は要面談)				
テキスト	なし				
参考書	授業の際に指示する。				
予習・復習について	授業中に教員が指示する。				
成績評価の方法・基準	研究発表(50%)と出席(50%)で総合的に評価するが、左記の割合は演習の進行状況によって変更する場合もある。				
オフィスアワー	月曜7・8限				
担当教員からのメッセージ	外国人が日本語でなにを、いかに書いたかを少し覗きましょう。またそれを文化研究の側面から考えてみましょう。難易度B。				

授業科目名	政治思想 I (Political Thought I)				
担当教員名	井柳 美紀 (IYANAGI Miki)		所属等	学術院人文社会科学領域	
			研究室	人文 A 棟 605	
分担教員名					
クラス	人文専門	学期	前期		必修選択区分 選択
対象学年	2 年	単位数	2	曜日・時限	金 3・4
キーワード	デモクラシー、公共性、主権、国家、権力分立、リベラリズム、自由、政治参加				
授業の目標	今日、私たちが用いる政治学上の理念や価値の歴史を辿りつつ、政治的諸課題について考察する。				
学習内容	政治思想の中でもヨーロッパの政治思想を中心に、古代ギリシアの政治思想から出発して、近代政治学までを主な対象として、各々の時代の主要な政治思想家の政治思想を検討し、政治学上の理念や価値の変遷、及びその意義を考察することで、現代政治の諸課題を再検討するための手がかりを得る。				
授業計画	回 内容 1 プラトンの政治思想 2 アリストテレスの政治思想 3 キリスト教とアウグスティヌス 4 マキアヴェリと政治秩序 5 ボダンと主権論 6 グロチウスと近代自然法論 7 ホッブズの主権論～社会契約論(1)～ 8 ロックの市民統治論～社会契約論(2)～ 9 モンテスキューと権力分立 10 民主政治とルソー～社会契約論(3)～ 11 アメリカ建国期の政治思想 12 保守主義－バーク、ヘーゲル－ 13 社会主義－マルクス－ 14 自由主義－ミル、トクヴィル－ 15 政治とは何か～現代政治思想とアーレント～				
受講要件	特になし。				
テキスト	・宇野重規『西洋政治思想史』(有斐閣アルマ、2013 年)				
参考書	・岡崎晴輝・木村俊道編『はじめて学ぶ政治学』(ミネルヴァ書房、2008 年) ・佐々木毅・鷺見誠一・杉田敦『西洋政治思想史』(北樹出版、1995 年) ・福田歓一『政治学史』(東京大学出版会、1985 年)				
予習・復習について	テキスト、及び授業中の配付物を、予習・復習用の資料として参照されたい。				
成績評価の方法・基準	論述式による期末試験を中心に、小レポートを加味して評価する。				
オフィスアワー	授業終了後のお昼休み。もしくは、事前にご連絡の上お越し下さい。				
担当教員からのメッセージ	1. 県立大学単位互換 (○) 2. 科目等履修生 (○) 3. 難易度 (A) 西洋の政治思想の歴史を学ぶが、現代政治への関心をもった学生の参加も歓迎する。				

授業科目名	統計学 I (Statistics I)				
担当教員名	上藤 一郎 (UWAFUJI Ichiro)		所属等	大学院人文社会科学領域	
			研究室	共通 L 棟 326	
分担教員名					
クラス	人文専門	学期	前期		必修選択区分 選必
対象学年	2 年	単位数	2	曜日・時限	金 3・4
キーワード	データサイエンス、データ解析、統計データ、統計的記述、多変量データ解析				
授業の目標	データサイエンスの視点に立った記述統計学の基本について学習します。				
学習内容	<p>本講義では、統計データ（人間の行動や社会・経済に関するデータ）の要約を目的とした記述統計学の方法について学習します。社会・経済分析において記述統計学の果たす役割は、データに含まれるさまざまな情報を要約し、データから意味ある情報を読み取ることにあります。そこで本講義では、特にデータサイエンスの視点（データ重視の視点）から、①統計データの持つ特徴や問題点を理解できる能力、②データから何か言えて何が言えないかを判別できる能力を習得してもらうために、記述統計学の諸方法を具体的な事例を用いながら解説していきます。</p>				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 統計データを科学する 2. 統計調査の体系－全数調査と一部調査－ 3. 統計調査の実際－さまざまな調査の実施方法－ 4. 統計データの構造－変数とデーター 5. 統計データの分布－集計と分類－ 6. 分布の中心の尺度－さまざまな代表値－ 7. 分布のバラツキの尺度－散布度と集中度－ 8. 量的関係の探索－相関と回帰－ 9. 量的現象の予測－重回帰分析－ 10. 質的關係の探索－カテゴリーカルデータ解析－ 11. 質的現象の計測－数量化の方法－ 12. 複雑な事象の計測－多変量データ解析の体系－ 				
受講要件	特にありません。				
テキスト	上藤一郎・森本栄一・常包昌宏『調査と分析のための統計－社会・経済のデータサイエンス－（第2版）』丸善，2013年。				
参考書	講義を通じて随時指示します。				
予習・復習について	予習：テキストの精読 復習：テキストの章末問題等の計算				
成績評価の方法・基準	成績は、①平常点（10%）、②中間テスト（30%）、③期末テスト（60%）によって評価します。				
オフィスアワー	開講時に指示します。				
担当教員からのメッセージ	1. 県立大学単位互換（認める） 2. 科目等履修生（認める） 3. 難易度（A）				

授業科目名	フランス言語文化特論 I (Special Topics in French Language and Literature I)				
担当教員名	安永 愛 (YASUNAGA Ai)		所属等	学術院人文社会科学領域	
			研究室	人文 A 棟 5 2 5	
分担教員名					
クラス	人文専門	学期	前期		必修選択区分
対象学年	3 年	単位数	2	曜日・時限	金 5・6
キーワード	ミラン・クンデラ、小説、ユーモアと批判精神				
授業の目標	チェコ出身、パリ在住の亡命作家であるミラン・クンデラの私家版のキーワード集というべき <i>Soixante-treize mots</i> を精読し、クンデラの世界観や小説観に触れる。フランス語の読解力を鍛えることも目標とする。				
学習内容	Milan Kundera の <i>Soixante-treize mots</i> の精読。フランス語の読解力を鍛えるとともに、ユーモアと批判精神にあふれたクンデラの思考や感受性に触れる。同時に、特にフランス語の一語一語のニュアンスを感じ取る力をつけていきます。				
授業計画	第 1 講 イン트로ダクション : ミラン・クンデラについて。本作品について。 第 2 講 <i>Soixante-treize mots</i> の訳読と解説、ディスカッション 第 3 講 <i>Soixante-treize mots</i> の訳読と解説、ディスカッション 第 4 講 <i>Soixante-treize mots</i> の訳読と解説、ディスカッション 第 5 講 <i>Soixante-treize mots</i> の訳読と解説、ディスカッション、ディスカッション 第 7 講 <i>Soixante-treize mots</i> の訳読と解説 第 8 講 中間総括。映画『存在の耐えられない軽さ』鑑賞 第 9 講 映画についての補足。 <i>Soixante-treize mots</i> の訳読と解説 第 10 講 <i>Soixante-treize mots</i> の訳読と解説、ディスカッション 第 11 講 <i>Soixante-treize mots</i> の訳読と解、ディスカッション説 第 12 講 <i>Soixante-treize mots</i> の訳読と解説、ディスカッション 第 13 講 <i>Soixante-treize mots</i> の訳読と解説、ディスカッション 第 14 講 <i>Soixante-treize mots</i> の訳読と解説、ディスカッション 第 15 講 まとめ				
受講要件	フランス語の文法を習得していること。				
テキスト	初回の授業で、プリントを配布する。				
参考書	仏和辞典。クンデラの諸作品。				
予習・復習について	しっかり予習してくる。訳読が当たっている場合は訳を準備するのみならず、意味を伝えるられるレベルの音読ができるよう、準備してくる。				
成績評価の方法・基準	出席状況、訳読 (50%)、期末レポート (50%) により総合的に判断します。理由なく 3 回以上欠席した場合、不可とします。				
オフィスアワー	月曜 7・8 限。その他の時間もメールのアポイントにより対応します。 (アドレス : yasunaga.ai@shizuoka.ac.jp)				
担当教員からのメッセージ	クンデラのフランス語はシンプルなのですが、一風変わった考えを持った作家ですので、最初は慣れないかもしれません。字面を辿るだけでなく、クンデラが何を言わんとしているのか、理解するよう努めてください。				

授業科目名	比較文化概論 I (Introduction to Comparative Culture I)				
担当教員名	大原 志麻 (Shima Ohara)		所属等	学術院人文社会科学領域	
			研究室	人文 A 棟 522	
分担教員名					
クラス	人文専門	学期	前期		必修選択区分 選択
対象学年	2 年	単位数	2	曜日・時限	金 5・6
キーワード	比較文化、動物、ヨーロッパ、アジア、表象、ぶた、うさぎ、ねずみ、狼、猫				
授業の目標	動物の持つ表象を概観し、比較文化研究の発想に親しむ。				
学習内容	動物に関する表象の形成や、様々は研究の方法論を理解しながら、様々な地域の比較研究への認識を深める。				
授業計画	比較文化は、既存の学問の枠を壊そうとして生まれたものである以上、研究対象や方法の枠組みの拡大に関して常に開かれた状態にある。この授業では、学生が卒業論文のテーマに選ぶことが多い動物表象について、歴史学、文学、文化論といった複数の研究領域におけるそれぞれの研究成果を統合しながら講じる。動物は人間にとって最も近い他者であり、それぞれの地域の文化の根本的な基盤を担ってきた。この動物に他者認識は、どのような歴史的背景によって形成されたのだろうか。ここではヨーロッパとアジアにおける動物表象の相違点と共通点について、豚、ねずみ、うさぎ、狼、猫の表象を通して、それぞれの動物の持つ属性と文化的表現を題材に比較していく。				
受講要件	特になし。				
テキスト	授業中に提示します。				
参考書	授業中に適宜紹介する。				
予習・復習について	関連する参考文献をたくさん読みましょう。				
成績評価の方法・基準	出席状況、毎回の授業でのミニ・レポートやレスポンス、期末レポートから総合的に判断します。なお 4 回以上の欠席で単位を無効とします。				
オフィスアワー	月曜日 7・8 限、大原研究室にて。事前にアポイントメントを取って下さい。				
担当教員からのメッセージ	授業で関心を持ったテーマを期末レポートで独自の視点で論じることを念頭に、図書館で関連資料を手に取りましょう。何事も日頃の努力と多読が肝要です。				

授業科目名	アジア経済論 I (Asian Economy I)				
担当教員名	朴 根好 (PARK Keunho)		所属等	学院院人文社会科学領域	
			研究室	共通 L 棟 4 0 6	
分担教員名					
クラス	人文専門	学期	前期		必修選択区分 選択
対象学年	3 年	単位数	2	曜日・時限	金 5・6
キーワード	グローバル化、BRICs、日本とアジア				
授業の目標	日本にとって、アジアとの経済関係の重要性は益々高まるばかりである。そのアジア経済はまた、ダイナミックに変化して世界でもっとも注目されている。世界経済におけるアジアの位置と今後の課題について考えていきたい。				
学習内容	〔1〕アジアの巨大市場 (2) BRICs の競争力 (3) 日本とアジアの経済関係				
授業計画	回 内容 1 ガイダンス：なぜアジア経済を注目するのか 2 アジアの巨大市場とどう向き合うか 3 アジアのダイナミックと華僑・印僑のネットワーク 4 中国の社会主義市場経済と経済政策の特質 5 中国企業のグローバル戦略 6 中国の産業競争力とクリエイティブ 7 インド経済とソフトウェア産業 8 インドの知的基盤産業と人材 9 東南アジアの社会・経済の変容 10 アジアの人口・食糧問題 11 飽食社会とエコロジー 12 ネクスト・ビジネス (1) BOP 市場におけるソーシャル・イノベーション 13 ネクスト・ビジネス (2) IT でソーシャル・イノベーション 14 世界を変えるビジネス：グラミン銀行と社会的企業 15 アジア巨大市場と日本企業の課題：新興国市場戦略				
受講要件	特になし				
テキスト	講義レジメ配布				
参考書	なし				
予習・復習について	毎回、宿題のプリントを配る				
成績評価の方法・基準	筆記試験 60%、小レポート 40%を目安に、総合的に考慮のうえ評価する予定。 (詳しくはガイダンスで)				
オフィスアワー	毎週火曜日 17 時～18 時 (予定)				
担当教員からのメッセージ	1. 県立大学単位互換 (認める) 2. 科目等履修生 (認める) 3. 難易度(B)				

授業科目名	刑事訴訟法 I				
担当教員名	津田 雅也 (TSUDA Masaya)		所属等	学術院人文社会科学領域	
			研究室		
分担教員名					
クラス	人文専門	学期	前期		必修選択区分
対象学年	3年	単位数	2	曜日・時限	金 7・8
キーワード	刑事訴訟法、刑事手続、刑事裁判、捜査				
授業の目標	刑事訴訟法の初学者（ただし、刑法の基礎知識を修得済みである者）である受講生が、わが国の刑事手続（特に捜査法）の概要について、①基本的な判例および学説の理解を踏まえた上で、②論点の解決に必要な法解釈を条文に即して行えるようになること。				
学習内容	刑事手続は、捜査→公訴提起→公判審理→裁判→上訴と展開していきます。このうち、刑事訴訟法 I においては、捜査法に関する基本的な概念、法制度、法解釈論の解説を行います。刑事訴訟法 II（2018 年度開講予定）では、公訴提起以降を扱います。				
授業計画	回 内容 1 序論－ガイダンス（シラバス記載事項の説明）、刑事訴訟法の意義・目的 2 序論－刑事訴訟法の基本原則、構成、刑事訴訟法の適用範囲・法源 3 序論－手続の流れ・関係者 1（刑事手続の流れ、手続を担う機関） 4 序論－手続の流れ・関係者 2（被告人、弁護人、犯罪被害者、その他の関係者） 5 捜査－捜査総説 1（捜査の意義、捜査機関、捜査の条件・構造） 6 捜査－捜査総説 2（捜査の端緒、任意捜査の原則、強制処分法定主義） 7 捜査－対物的強制処分 1（令状主義、令状による捜索・差押え） 8 捜査－対物的強制処分 2（令状によらない捜索・差押え） 9 捜査－対物的強制処分 3（領置、検証、鑑定） 10 捜査－対物的強制処分 4（捜索・差押えの諸問題） 11 捜査－对人的強制処分 1（逮捕） 12 捜査－对人的強制処分 2（勾留、逮捕・勾留の諸問題） 13 捜査－取調べ 1（任意同行、取調べの意義と自白、被疑者の取調べ） 14 捜査－取調べ 2（身柄拘束中の取調べ） 15 捜査－被疑者の防御・捜査の終結等				
受講要件	刑法総論、刑法各論を履修済み、もしくは履修中であることが望ましい。				
テキスト	特に指定しません（平成 28 年（2016 年）刑法改正により、教科書等の改訂が見込まれるため）。初回の講義において、下記の参考書の特長について説明しますので、それを参考に、各自の必要に応じて参考書を購入し、学習に活用してください。				
参考書	宇藤崇＝松田岳士＝堀江慎司,刑事訴訟法,有斐閣,2012年,ISBN9784641179189 廣瀬健二,コンパクト刑事訴訟法,新世社,2015年,ISBN9784883842254 酒巻匡,刑事訴訟法,有斐閣,2015年,ISBN9784641139060 三井誠編,判例教材刑事訴訟法（第5版）,東京大学出版会,2015年,ISBN9784130323765 川出敏裕,判例講座刑事訴訟法〔捜査・証拠篇〕,立花書房,2016年,ISBN9784803724837				
予習・復習について	予習：各回の講義前に、上記の授業計画で示した箇所の項目・目次に目を通しておいてください。 復習：レジュメ・ノートを見直しつつ、参考書を読み込んでください。とりわけ、講義で取り上げた判例については、その事案と理由づけについて、再確認しておきましょう。				
成績評価の方法・基準	成績評価の方法は、期末の筆記試験（60%）、小テスト（40%）とします。小テストは、講義で扱った基本的な知識について、択一式の問題を出題し、学務情報システムを通じて実施する予定です（小テストの回数や出題方式などの詳細は、講義において説明します）。評価の基準は、上記「授業の目標」で掲げた 2 点の到達度とします。				
オフィスアワー	人文社会科学部法学科のウェブサイト（教員紹介）を参照。				
担当教員からのメッセージ	刑事訴訟法においては、刑法と同様に、事件に法律を当てはめた実例としての判例を素材にして学ぶことが非常に重要です。上記「参考書」に掲げた判例教材などを活用して、事案・判旨を丹念に確認するようにしてください。				

授業科目名	法制史 I (Legal History I)				
担当教員名	橋本 誠一 (HASHIMOTO Seiichi)		所属等	学術院人文社会科学領域	
			研究室	人文 A 棟 6 0 9	
分担教員名					
クラス	人文専門	学期	前期		必修選択区分
対象学年	2 年	単位数	2	曜日・時限	金 7・8
キーワード	ローマ法、ゲルマン法、近世自然法、パンデクテン法学				
授業の目標	この授業では以下の能力を身に付けることを目標とします。 【知識】 古代から近代に至るヨーロッパ法史（とくにドイツ法史）の基礎的知識を習得する。 【思考】 歴史的資料に基づいて実証的に考えることができる。 【技術】 実証的考察を論理的に文章に表現することができる。				
学習内容	【予習】 授業用資料を学務情報システムからダウンロードし、一通り読んでおく。 【授業】 週替わりで著名な法テキストを取り上げ、その背景、内容等について講義する。 【復習】 講義内容と文献・資料を踏まえ、レポートを作成・提出する。				
授業計画	回 内容 1 はじめに—授業概要の説明 2 古代ローマ法（1）—共和政期のローマ法 3 古代ローマ法（2）—古典期のローマ法 4 古代ローマ法（3）—専主政期のローマ法 5 古代ローマ法（4）—ユスチニアヌス法典の編纂 6 古代ゲルマン法（1）—タキトゥス「ゲルマニア」を読む 7 古代ゲルマン法（2）—サリカ法典を読む 8 中世ゲルマン法の世界—ザクセン・シュピーゲルを読む 9 Volkacher Salbuch（1504）を見る 10 ローマ法の「再発見」—註釈学派、註解学派、人文主義法学 11 近世期における法の変革（1）—カロリナ刑事法典を中心に 12 近世期における法の変革（2）—近世自然法論の登場 13 18 世紀ドイツにおける法典編纂—プロイセン一般ラント法を中心に 14 パンデクテン法学とドイツ民法典の成立 15 近代ドイツ憲法史				
受講要件	・法的知識（憲法、民法、刑法、民刑事訴訟法など）と世界史（とくにヨーロッパ史）の基礎知識があれば、申し分ありません。				
テキスト	・事前に学務情報システムから「授業用資料」をダウンロードして下さい。				
参考書	・授業用資料の末尾に参考文献一覧を付していますので、参考にして下さい。				
予習・復習について	・「学習内容」欄に記載した通りです。 ・なお、法学や歴史学の基礎的知識について説明する時間的余裕がなかなかありませんので、分からないところは自分でも学習するよう心がけてください。				
成績評価の方法・基準	・レポート（60%）と小テスト（40%）の結果をもとに成績を評価します。 ・レポートは、講義内容から自分で一つのテーマを選択し、参考文献を読んだ上で作成してください。字数 4000 字以上。 ・小テストは学務情報システムの小テスト機能を利用します。解答にあたっては、何を見てもかまいません。				
オフィスアワー	・月曜日 3・4 時限（10:20～11:50）				
担当教員からのメッセージ	・県立大学との単位互換の可否（○）、科目等履修生の可否（○）、難易度（やや難）				

授業科目名	比較文学文化基礎講読Ⅵ				
担当教員名	南 富鎮 (NAM bujin)		所属等	学術院人文社会科学領域	
			研究室	人文A棟527	
分担教員名					
クラス	人文専門	学期	前期		必修選択区分 選択
対象学年	2年	単位数	2	曜日・時限	金9・10
キーワード	韓国語、文化、人文学、言語学、人間学				
授業の目標	韓国語を理解し、その背後にある文化を理解していくが、全体的には幅広い人文学の総合学習のようなものを目指す。				
学習内容	韓国語の仕組み、文法、文化事項についての理解を高める。同時に人文学を総体的に理解していく。韓国語はそのための一つの道具となる。				
授業計画	韓国語の語学教材を通して文法、表現能力、読解の能力を高めていく。教材に沿って進むが、説明過程では文化論的・言語論的な話が多くなる。				
受講要件	人文学部言語文化学科2・3・4年生（他学科は要相談。韓国語を履修したことのない学生が望ましい）				
テキスト	教材は教員が複写して配布する。とくに購入する必要はない。				
参考書	教員が指定する				
予習・復習について	その都度指示するが、必ずしも必要なものではない。				
成績評価の方法・基準	出席、試験、課題などを合わせて評価する				
オフィスアワー	月曜日7／8限				
担当教員からのメッセージ	とくにない。難易度（A）				

授業科目名	会計学 I (Accounting I)				
担当教員名	永田 守男 (NAGATA Morio)		所属等	学術院人文社会科学領域	
			研究室	共通 L 棟 3 2 4	
分担教員名					
クラス	人文専門	学期	前期		必修選択区分
対象学年	2 年	単位数	2	曜日・時限	金 9・10
キーワード	複式簿記、ディスクロージャー、財務諸表、会計基準				
授業の目標	企業会計とは、企業の行う経営活動について貨幣価値尺度を用いて記録し、分析し、報告するシステムをいいます。会計学の講義では、そうした企業会計のシステムを対象に、そのシステムの内容とそれを成立させる社会制度的要因（法律、政治、経済、文化）との関係についても学びます。				
学習内容	受講者が会計学の初学者もいることを念頭に、複式簿記と会計の関係、会計の基礎概念、基本構造の内容についてなるべく平易に解説します。つぎに、会計の成果物である財務諸表（決算書）を構成する貸借対照表、損益計算書、キャッシュフロー計算書の構成と内容を理解した上で、そうした財務諸表の作成と公表に関連する関連法規（会社法、金融商品取引法、法人税法）について概説します。これらの基礎的な内容を踏まえたうえで貸借対照表の各項目について説明します。				
授業計画	回 内容 1 会計計算の基本—複式簿記のルールの確認— 2 財務情報とディスクロージャー 3 財務諸表の構成と会計規制 4 会計公準と会計の一般原則 1 5 会計公準と会計の一般原則 2 6 貸借対照表 1—流動資産 1 7 損益計算書とキャッシュフロー計算書 8 貸借対照表 2—流動資産 2 9 貸借対照表 3—流動資産 3 10 貸借対照表 4—流動資産 4 11 貸借対照表 5—固定資産 1 12 費用配分の原則と費用収益の対応 13 貸借対照表 5—固定資産 2 14 貸借対照表 6—繰延資産 15 取得原価主義と公正価値評価 およびまとめ				
受講要件	簿記 I・II を履修していることが前提です。また会計学 II とあわせて受講することが望ましいです。				
テキスト	佐藤誠二・石川文子・永田守男『会計のしくみ』森山書店、2015 年、2,300 円（税別）				
参考書	授業中に適宜、指示します。				
予習・復習について	連続する講義の内容を整理し、授業にのぞむことが好ましいです。				
成績評価の方法・基準	期末の筆記試験の結果にもとづき評価します。				
オフィスアワー	水曜日 17:45～18:45				
担当教員からのメッセージ	会計学と簿記は密接に結びついています。簿記 I・II の学習が不十分だった受講者は各自復習をする必要があります。				

授業科目名	線形代数学基礎 (Introduction to Linear Algebra)				
担当教員名	四之宮 佳彦 (SHINOMIYA Yoshihiko)		所属等	学術院教育学領域	
			研究室		
分担教員名					
クラス	B組	学期	前期		必修選択区分
対象学年	1年	単位数		曜日・時限	月1・2
キーワード	行列、連立1次方程式、行列式				
授業の目標	線形代数学は、比例 $y=ax$ の高次元化である $y=Ax$ 、さらにそのベクトル空間への一般化である線形写像を扱う学問である。ここで、 x, y はベクトル、 A は行列である。この講義では、その線形代数学の基礎として、行列、連立一次方程式、行列式について学ぶ。				
学習内容	高等学校で数学C を履修していないことを前提にして、線形代数学の講義を行う。				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 行列の定義 2. 行列の演算 (1) 3. 行列の演算 (2) 4. 行列と連立一次方程式 5. 行列の基本変形 6. 簡約な行列 7. 連立一次方程式の解法 (1) 8. 連立一次方程式の解法 (2) 9. 正則行列であるための必要十分条件 10. 置換 11. 行列式の定義と性質 (1) 12. 行列式の性質 (2) 13. 行列式の余因子展開 14. クラームルの公式 15. 期末試験 				
受講要件					
テキスト	テキスト 三宅敏恒著 『線形代数学－初歩からジョルダン標準形へ』 培風館 ISBN-13: 978-4563003814				
参考書	三宅敏恒著『線形代数の演習』培風館 ISBN-13: 978-4563004781				
予習・復習について	講義中に指示する。				
成績評価の方法・基準	レポートの提出状況と成績、及び期末試験の成績を合わせて評価する。				
オフィスアワー	最初の講義で紹介する。				
担当教員からのメッセージ	内容の多くは初めて勉強する事柄だと思います。 休まず出席することが特に大切です。遅刻もしないように気をつけよう。				

授業科目名	天文学 (Astronomy)				
担当教員名	内山 秀樹 (UCHIYAMA Hideki)		所属等	大学院教育学領域	
			研究室	教育学部C棟405	
分担教員名					
クラス	理科	学期	前期		必修選択区分
対象学年	3年	単位数	1	曜日・時限	月5・6
キーワード	天文学史、宇宙論、恒星、惑星、天体に関する基礎物理				
授業の目標	小・中学校および高校地学で扱う天文学の教科内容を指導するために、その基礎的概念や学問体系への理解を深める。また、先人達がどのように宇宙を捉えて来たのかを学び、現在の人類が科学的な実証の上にたどり着いている最新の宇宙観を理解する。				
学習内容	指定の教科書に沿った講義を行う。最初に、どのような観測・考察に基づき、先人たちが初期の天動説から地動説に辿り着いたのかを学ぶ。合わせて小・中学校で扱う、基本的な天体の運行を理解する。次に基礎物理に基づき、天体の成り立ちを理解する。最後に、現在の科学の立場から見た、宇宙の起源と未来について学ぶ。				
授業計画	以下を予定している。但し、受講者の希望により、一部トピックの変更もあり得る。 1 コペルニクス以前の宇宙～我々から見た星々の運行 2 コペルニクスの転回～天動説と地動説 3 太陽系の天体～太陽・地球・月・惑星 4 恒星からの光を読み解く～観測的天文学 5 太陽系を越えて～宇宙の階層構造 6 恒星の一生 7 宇宙の起源と未来 8 まとめ				
受講要件	なし。ただし、高校程度の物理学を授業中に解説しつつ扱うため、事前に「基礎物理学」「物理数学」「物理演習Ⅰ」を受講していると内容の理解が容易になる。				
テキスト	「ケンブリッジ物理学コース 宇宙の科学 天文学入門」、ブライアン・ミルナー 著・坪田幸政 訳、丸善出版、2012年、ISBN-13: 978-4621085363				
参考書	適宜指示する。				
予習・復習について	予習・復習のどちらでも良いので教科書の該当箇所を必ず読むこと。				
成績評価の方法・基準	レポート問題を課す。				
オフィスアワー	月・木の7・8時限、教育学部 C棟405				
担当教員からのメッセージ	是非、教科書を読み通して下さい。1冊の本をきちんと読み通すことは自信になり、今後発展的な内容を学ぶ時や必要があって天文学を学び直す時、きっと役に立つ足がかりになります。教科書で理解しにくい点、実感しにくい点を授業で補って行きたいと思います。分からない点があったら、授業中やオフィスアワーに、どんどん質問して下さい。				

授業科目名	書写研究 (Japanese Handwriting (Semi-cursive Style))				
担当教員名	杉崎 哲子 (SUGIZAKI Satoko)		所属等	大学院教育学領域	
			研究室	教育学部A棟602	
分担教員名					
クラス	B組	学期	前期		必修選択区分 ー
対象学年	2年	単位数	2	曜日・時限	月7・8
キーワード	均衡・均斉、流動性、楷書の変容				
授業の目標	中学校国語の免許状に必要な書写領域について研究する。				
学習内容	行書の筆使い及び字形について講義と実技を行う。				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 行書の基本的な筆使いと基本点画の書き方 2 行書の筆使い①点画の曲線化 3 // 4 行書の筆使い②点画の変化 5 // 6 行書の筆使い③点画の変化（楷書の許容との関連） 7 // 8 // 9 行書の筆使い④点画の連結 10 // 11 行書の筆使い⑤点画の省略 12 // 13 筆順と違いと字形 14 // 15 まとめ 				
受講要件					
テキスト	『明解 書写教育（改訂版）』全国大学書写書道教育学会				
参考書					
予習・復習について	必要に応じて指示する。				
成績評価の方法・基準	出席状況と提出課題（毛筆・硬筆）の内容及び筆記試験（40%反映させる）による。実技科目であるため、欠課時数が5分の1を超える場合、基本的に単位は認められない。				
オフィスアワー	水曜昼休み				
担当教員からのメッセージ	指導法を学ぶだけでなく、授業で学習したことを日常生活に生かし、積極的に「文字を書くこと」を楽しんでください。				

授業科目名	集合と論理基礎 (Sets and Logic)				
担当教員名	四之宮 佳彦 (SHINOMIYA Yoshihiko)		所属等	学術院教育学領域	
			研究室		
分担教員名					
クラス	数学	学期	前期		必修選択区分
対象学年	1年	単位数		曜日・時限	火3・4
キーワード	集合、集合の演算、命題、真理値、論理演算、直積集合、写像、関数、同値関係				
授業の目標	すべての数学の基礎である「集合と論理」について、基本的事項を学ぶ。目標は、集合を正しく書き表し、具体的な集合の演算ができるようになること、集合演算と論理演算の関係を理解すること、写像と関数の概念を理解し、数学のいろいろな場面で使えるようになること。				
学習内容	下記の授業計画に従い、集合とその基本演算、命題と論理演算、直積集合と写像、同値関係と分類について講義します。				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 集合とその表し方 2. 部分集合と集合の相等 3. 集合の演算 4. 補集合とド・モルガンの公式 5. 命題と論理演算 6. 真理値と論理演算の基本性質 7. 命題 $p \rightarrow q$ と $p \leftrightarrow q$ 8. 中間テスト 9. 直積集合 10. 写像 11. 像と逆像 12. 全射, 単射, 全単射 13. 関係と集合の分割 14. 同値関係 15. 同値類と商集合 				
受講要件					
テキスト	大田春外著『はじめての集合と位相』日本評論社				
参考書	最初の講義で紹介します。				
予習・復習について	教科書を予習して、問と演習問題を解いておこう。				
成績評価の方法・基準	数回行う小テスト、中間テストと期末試験の成績を総合して判断します。				
オフィスアワー	最初の授業でお知らせします。				
担当教員からのメッセージ	本講義は、初めて学ぶ内容。数学を学ぶ上で基礎となる重要な内容です。毎回出席して、しっかりノートをとろう。				

授業科目名	幾何学 I (Geometry I)				
担当教員名	四之宮 佳彦 (SHINOMIYA Yoshihiko)		所属等	大学院教育学領域	
			研究室		
分担教員名					
クラス	数学	学期	前期		必修選択区分
対象学年	2年	単位数	2	曜日・時限	火 7・8
キーワード	円周率、合同、相似、1次変換、2次曲線、ユークリッド原論、連分数、ファレイ和、フォードの円				
授業の目標	1年生で学習した「線形代数学、集合と論理、微分積分学」の内容を使って、小中学校および高等学校の幾何学について考える。				
学習内容	幾何学の3つのトピックス「円周率、フォードの円、2次曲線」について講義をする。				
授業計画	回 内容 1 円周率1 (多角形による近似) 2 円周率2 (無限級数による近似) 3 円周率の無理数性 4 連分数 5 ファレイ和 6 フォードの円 7 連分数, ファレイ和, フォードの円 8 中間テスト 9 合同と相似 10 直交行列と直交変換1 11 直交行列と直交変換2 12 放物線, 楕円, 双曲線 13 放物線, 楕円, 双曲線 14 2次曲線の分類 15 2次曲線の分類				
受講要件	集合と論理基礎と線形代数基礎を受講していること。				
テキスト	大田春外著『高校と大学をむすぶ幾何学』日本評論社 ISBN978-4-535-78619-6				
参考書	講義中に紹介する。				
予習・復習について	授業後にしっかり復習して、ノートを整理し、演習問題を解くことが重要である。				
成績評価の方法・基準	中間テストと期末試験の成績に、授業への参加状態を加味します。				
オフィスアワー	初回の講義のときに説明する。				
担当教員からのメッセージ	毎回出席することが、単位取得のための必要条件。				

授業科目名	微分積分学基礎 (introduction to Calculus)				
担当教員名	大和田 智義 (OWADA Tomoyoshi)		所属等	大学院教育学領域	
			研究室	教育学部 I 棟 4 1 0	
分担教員名					
クラス	数学	学期	前期		必修選択区分
対象学年	1 年	単位数		曜日・時限	火 9・10
キーワード	極限、関数、連続関数、微分、自然対数				
授業の目標	微分積分学の基礎を学ぶ。				
学習内容	高等学校で数学 III を履修していないことを前提にして、下記の授業計画にしたがって微分積分学の講義を行う。				
授業計画	回 内容 1 数列の極限 2 関数の極限 3 連続関数 1 4 連続関数 2 5 導関数 1 6 導関数 2 7 高次導関数 8 小テスト 9 平均値の定理 10 テイラーの定理 1 11 テイラーの定理 2 12 微分法の応用 1 13 微分法の応用 2 14 微分法の応用 3 15 小テスト				
受講要件	数学教育専修の学生				
テキスト	書名：基礎微分積分 著者・編者：茂木勇、横手一郎 出版社：裳華房				
参考書	講義中に紹介する。				
予習・復習について	講義中に指示する。				
成績評価の方法・基準	最初の講義で伝えます。				
オフィスアワー	最初の講義で伝えます。				
担当教員からのメッセージ	高校までの計算主体の講義から、「何故そうなるのか」という理論展開を中心とした講義になります。理論的な考え方は講義を聞くだけでは身につけません。授業で学習した内容を、自分の力で正しく理解できるようになるまで、何度でもノートを読み返して復習するようにしてください。				

授業科目名	解析学 I (Analysis I)				
担当教員名	大和田 智義 (OWADA Tomoyoshi)		所属等	大学院教育学領域	
			研究室	教育学部 I 棟 4 1 0	
分担教員名					
クラス	数学	学期	前期		必修選択区分 選択
対象学年	2 年	単位数	2	曜日・時限	水 1・2
キーワード	不定積分、定積分、広義積分				
授業の目標	この授業では、不定積分の様々な計算方法を習得します。また、微分積分の基本定理を通じて、定積分と不定積分の関係を正しく理解します。				
学習内容	この授業は 1 年生の微分積分学の続きです。高校の授業では学習しなかった複雑な計算が正しく出来る力を身につけます。また、定積分の定義を正しく理解して、その図形的な意味を理解します。				
授業計画	回 内容 1 不定積分の公式 1 2 不定積分の公式 2 3 不定積分の計算 1 4 不定積分の計算 2 5 定積分の定義 6 定積分の計算 1 7 定積分の計算 2 8 小テスト 9 回転体の表面積 10 回転体の体積 11 曲線の長さ 1 12 曲線の長さ 2 13 広義積分 1 14 広義積分 2 15 小テスト				
受講要件	1 年生の微分積分学の授業の続きだから、それを承知で受講すること。				
テキスト	微分積分概論 (数学基礎コース)高橋 泰嗣・加藤 幹雄 著 サイエンス社 ISBN-10: 478190873X				
参考書	「やさしく学べる微分積分」石村園子著 共立出版				
予習・復習について	予習は特に必要ないが、復習は必ず行うこと。				
成績評価の方法・基準	2 回行う小テスト、レポートおよび授業の取組み等で総合的に判断する。				
オフィスアワー	最初の講義のときに伝える				
担当教員からのメッセージ	ノートをしっかりととり、復習に時間をかけて学習した理論展開をよく理解するようにしてほしい。				

授業科目名	代数学 I (Algebra I)				
担当教員名	谷本 龍二 (TANIMOTO Ryuji)		所属等	学院院教育学領域	
			研究室	教育学部 I 棟 403	
分担教員名					
クラス	数学	学期	前期		必修選択区分
対象学年	2年	単位数	2	曜日・時限	水 5・6
キーワード	1次関係、1次従属、1次独立、基底、次元、線形写像、核、像				
授業の目標	以下の(1), (2)を目標とする. (1) ベクトル空間の基底を理解する. (2) 線形写像の表現行列を理解する.				
学習内容	ベクトル空間の基底の計算方法, 線形写像の表現行列の計算方法などを学ぶ.				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 一次独立 2. 基底, 基底変換 3. 線形写像, 表現行列 4. 固有値 5. 固有ベクトル 6. 固有空間 7. ジョルダン標準形 				
受講要件	線形代数学基礎および線形代数学を履修していること.				
テキスト	線形代数学基礎から用いているテキストを引き続き用いる.				
参考書	必要があれば適宜紹介する.				
予習・復習について					
成績評価の方法・基準	テスト60点, 小テスト20点, レポート20点を用いて成績評価をする.				
オフィスアワー					
担当教員からのメッセージ					

授業科目名	書写研究 (Japanese Handwriting (Semi-cursive Style))				
担当教員名	杉崎 哲子 (SUGIZAKI Satoko)		所属等	大学院教育学領域	
			研究室	教育学部A棟602	
分担教員名					
クラス	A組	学期	前期		必修選択区分 ー
対象学年	2年	単位数	2	曜日・時限	水7・8
キーワード	均衡・均斉、流動性、楷書の変容				
授業の目標	書写書道の基本として楷書を習得した次の段階として、速く書くための書体である行書を取り上げる。書道史研究の成果として、行書は楷書の速書用として変容した書体でないと確認されているが、楷書を先習していることとの関連から、このような系統性を踏まえている。				
学習内容	「書写基礎」の内容をふまえ行書の基礎的知識とあわせて、実技（毛筆）を中心として行書の特徴を分析的に学習する。楷書の基本が習得されていない場合は授業の内容を理解しにくいことが予想されるので、受講生は楷書の技法を充分復習しておく必要がある。				
授業計画	1 行書の基本的な筆使いと基本点画の書き方 2 行書の筆使い①点画の曲線化 3 〃 4 行書の筆使い②点画の変化 5 〃 6 行書の筆使い③点画の変化（楷書の許容との関連） 7 〃 8 〃 9 行書の筆使い④点画の連結 10 〃 11 行書の筆使い⑤点画の省略 12 〃 13 筆順と違いと字形 14 〃 15 まとめ				
受講要件					
テキスト	『明解 書写教育』（全国大学書写書道教育学会編）				
参考書					
予習・復習について	必要に応じて指示する。				
成績評価の方法・基準	出席状況と提出課題（毛筆・硬筆）の内容及び筆記試験（40%反映させる）による。実技科目であるため、欠課時数が5分の1を超えた場合は基本的に単位は認められない。				
オフィスアワー	水曜昼休み				
担当教員からのメッセージ	指導法を学ぶだけでなく、授業で学習したことを日常生活に生かし、積極的に「文字を書くこと」を楽しんでください。				

授業科目名	書写基礎 (The Basic Handwriting)				
担当教員名	杉崎 哲子 (SUGIZAKI Satoko)		所属等	大学院教育学領域	
			研究室	教育学部A棟602	
分担教員名					
クラス	B組	学期	前期		必修選択区分
対象学年	1年	単位数		曜日・時限	木1・2
キーワード	書写、字形、字体、筆順				
授業の目標	小中学校国語科書写の内容を講義と実技を通して理解し、書写の原理を把握する。				
学習内容	「毛筆は硬筆の基礎を養う」との観点から、毛筆を中心に書写の基本を系統的・段階的に学習する。				
授業計画	1. ガイダンス 2. 基本点画 3. 字形のとり方①(長短、画間、方向) 4. " ②(交わり方、接し方) 5. " ③(組立て方・左右) 6. " ④(" ・上下) 7. " ⑤(" ・内外) 8. 平仮名 9. 片仮名 10. 行書の特徴①(変化・連続) 11. " ②(省略) 12. 文字の大小 13. 配置・配列 14. 書式 15. まとめ				
受講要件	中学校国語免許取得予定者。原則として、Aは国語教育専修と書文化専攻、Bは他の専修・専攻。				
テキスト	『新編書写指導』全国大学書写書道教育学会編				
参考書					
予習・復習について	適宜宿題を課す				
成績評価の方法・基準	毎時の提出課題(毛筆・硬筆)と筆記試験によって、理解度と取り組みの姿勢、技能面を見る。筆記試験の結果は40%反映させる。実技科目であるため、欠課時数が総授業時数の5分の1を超えた場合は基本的に単位を認めることは難しい。				
オフィスアワー	水曜昼休み				
担当教員からのメッセージ	作品の出来不出来などの技能的な結果ばかりを気にするのではなく、原理原則を理解して指導できるようになるという自覚を持って、意欲的に「書く」ようにしてください。				

授業科目名	放射線計測・管理学概論 (Fundamental Measurement and Management for Radiation Protection)				
担当教員名	大矢 恭久 (OYA Yasuhisa)		所属等	大学院理学領域	
			研究室	理学部 A202	
分担教員名					
クラス	理学専門科目	学期	前期		必修選択区分 ー
対象学年	3年	単位数	2	曜日・時限	月 1・2
キーワード	放射線計測、放射線管理、主任者試験				
授業の目標	放射線計測・管理についての基礎知識を習得する。				
学習内容	必要な放射線測定および管理技術に関する基礎知識を演習問題を解きながら講義する。(放射線取扱主任者試験の計測・管理科目に該当する。)				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 放射線量と単位 2. 気体の検出器 3. 固体・液体の検出器 4. 個人被ばく線量の測定 5. その他の測定器 6. 放射線測定の実際 7. 演習(1) 8. 放射線管理と防護の基準 9. 防護量と実用量・防護の基準 10. 体外放射線に対する防護 11. 体内に取り込まれる放射性物質の防護、健康診断 12. 場所の管理、個人被ばく管理、取扱施設 13. 個人被ばく管理～放射性廃棄物の処理 14. 放射性物質の保管～事故対策 15. 演習(2) <p>ただし、講義の進捗により前後することがある。</p>				
受講要件	特になし				
テキスト	放射線概論 (飯田博美、通商産業研究社)				
参考書	放射線取扱主任者試験問題集 第1種、第2種 (通商産業研究社)				
予習・復習について	ホームページで公開している講義資料をあらかじめ予習しておくことが望ましい。また、テキストの各章末問題は適宜復習を兼ねて行うこと。				
成績評価の方法・基準	講義中の演習(30%)および試験(70%)。				
オフィスアワー	随時				
担当教員からのメッセージ	放射線取扱主任者試験を受験希望する人は放射線物理学概論、放射化学概論 (化学科は放射化学 I)、放射線生物学概論、放射線管理実習も受講することをお勧めします。ただし本授業の受講要件ではありません。				

授業科目名	シミュレーション数理科学Ⅱ (Mathematical Science Simulation II)				
担当教員名	久村 裕憲 (KUMURA Hironori)		所属等	大学院理学領域	
			研究室	理学部 C 棟 603	
分担教員名					
クラス	理学専門科目	学期	前期		必修選択区分 選必
対象学年	3 年	単位数	2	曜日・時限	月 3・4
キーワード	常微分方程式、初期値問題、解の存在と一意性、2 階線形微分方程式、1 階微分方程式				
授業の目標	本授業では常微分方程式について講義する。				
学習内容	前半では、常微分方程式の初期値の解の存在と一意性について述べる。局所解の存在と一意性に基づき、解の延長定理の下で大域解の一意存在を示す。後半では、ニュートンの運動方程式に代表される自然界で最も良く現れ重要な 2 階線形微分方程式の解法と、求積法で解を求めることが可能な 1 階微分方程式の解法を考察する。				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 常微分方程式の初期値問題に対する解の存在と一意性 1 階微分方程式系の初期値問題、リプシッツ条件と大域解の存在 局所解の存在と一意性、解の延長定理、階の爆発 2. 2 階線形微分方程式 斉次 2 階線形微分方程式の一般解と基本解 非斉次 2 階線形微分方程式の一般解と基本解 定数係数 2 階線形微分方程式 3. 1 階微分方程式 変数分離形、同次形、線形に帰着できる 1 階微分方程式、 完全微分方程式、積分因子 				
受講要件	微分積分学 I, II, III, IV を受講していることが望ましい。				
テキスト	斎藤利弥(著) 常微分方程式論 朝倉書店 ISBN-10: 4254116535				
参考書	中尾慎宏 「概説 微分方程式」(サイエンス社) ISBN4-7819-0907-8				
予習・復習について	講義ノートおよびテキストで予習・復習を行い、理解度を高めて欲しい。				
成績評価の方法・基準	定期試験の結果 (80%)、受講態度・レポート (20%) により総合的に判断する。				
オフィスアワー	最初の授業のときに言いたいと思います。				
担当教員からのメッセージ					

授業科目名	物理数学 I (Mathematics for Physics I)				
担当教員名	嘉規 香織 (KAKI Kaori)		所属等	学術院理学領域	
			研究室	理学部 A 棟 405 号室	
分担教員名					
クラス	理学専門科目	学期	前期		必修選択区分 必
対象学年	2 年	単位数	2	曜日・時限	月 3・4
キーワード	常微分方程式、フーリエ級数、フーリエ変換				
授業の目標	物理で登場する基礎的な微分方程式が解けるようになること。また、フーリエ級数、フーリエ変換の考え方を理解すること。				
学習内容	授業の前半は基礎的な微分方程式を取り上げ、その解法を説明する。 後半ではフーリエ級数、フーリエ変換について学ぶ。なるべく物理における具体的な応用例に即して議論をすすめる。				
授業計画	<p>主な内容は以下の通りである。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 微分方程式について、一般解と特殊解 2. 1 階微分方程式, 変数分離型, 線形微分方程式, 完全形 3. 2 階微分方程式 4. 定数係数線形微分方程式、線形独立性、ロンスキアン 5. 線形非斉次微分方程式 6. フーリエ級数とフーリエ変換 7. フーリエ変換の応用 				
受講要件	基礎物理学 I, 基礎物理学 I I, 力学 I, 力学 I I の単位を取得していることが望ましい。				
テキスト	「物理のための数学」 岩波 和達三樹				
参考書					
予習・復習について	講義時間の 2 倍が自己学習時間である。				
成績評価の方法・基準	出席、宿題、および定期試験				
オフィスアワー	随時				
担当教員からのメッセージ	この授業で学ぶことは物理学科のすべての授業で使うことになるので、しっかりと理解してください。				

授業科目名	物理光学 (Optics and Photonics)				
担当教員名	富田 誠 (TOMITA Makoto)		所属等	学術院理学領域	
			研究室	理学部A棟510	
分担教員名					
クラス	理学専門科目	学期	前期前半		必修選択区分 選必
対象学年	3年	単位数	1	曜日・時限	月3・4
キーワード					
授業の目標	光学現象の背景にある基本的な物理を理解する。身の回りの現象、先端技術、一見意外な現象、などに光学がどのように現れているか、例示しながら講義を進めたい。				
学習内容	波動光学、電磁光学を中心に、レーザーの原理など量子光学の入門的な内容				
授業計画	<p>(1) 電磁波 Maxwell の方程式、偏光、波長板、右手系、左手系、</p> <p>(2) スネルの法則 全反射、ブリュスター角、</p> <p>(3) 回折 フレネル回折、フランソワ回折、ポアソンの輝点</p> <p>(4) 共振器 分解能、レーザー共振器、</p> <p>(5) レーザー 自然放出、誘導放出 3準位系レート方程式(反転分布)、 レーザーの原理(半導体レーザー)、</p> <p>(6) ファイバー、光検出器 など</p> <p>物理学実験 II、IV における「レーザー実験」と関連づけた内容になる予定です。</p>				
受講要件	波動現象、電磁気の話が中心になります。				
テキスト	講義開始時に案内します。				
参考書	講義開始時に案内します。				
予習・復習について					
成績評価の方法・基準	レポートを予定している。				
オフィスアワー					
担当教員からのメッセージ	光学は先端的な技術にも幅広く使われている。身の回りにもオプトロニクス(光+電子技術)を使った製品があふれている。物理学科を卒業後に、(本人には意外でも)光学分野で仕事をする人も多いと思います。				

授業科目名	量子力学Ⅲ (Quantum Mechanics III)				
担当教員名	鈴木 淳史 (SUZUKI Junji)		所属等	学術院理学領域	
			研究室	理学部 A 棟 502	
分担教員名					
クラス	理学専門科目	学期	前期		必修選択区分 選必
対象学年	4 年	単位数	2	曜日・時限	月 3・4
キーワード	量子力学				
授業の目標	量子力学をより深く理解し、使いこなせるようにする。				
学習内容	量子力学の重要な概念を発展させ、具体的な問題に応用する。				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 量子力学の形式の復習 2. 時間によらない摂動論 3. シュレジンガー表示、ハイゼンベルグ表示、相互作用表示 4. 時間に依存する摂動論 5. WKB 法と接続問題 6. 断熱遷移 7. 非断熱遷移 8. 散乱問題 9. 第 2 量子化 以上の内容を各 1-2 回で議論する。				
受講要件	量子力学 I、II を履修済みであること。				
テキスト	講義中に紹介する。				
参考書	講義中に紹介する。				
予習・復習について	講義時間の 2 倍の自習が標準である。				
成績評価の方法・基準	提出物と学期末試験				
オフィスアワー	随時				
担当教員からのメッセージ					

授業科目名	有機化学Ⅲ (Organic Chemistry III)				
担当教員名	塚田 直史 (TSUKADA Naofumi)		所属等	大学院理学領域	
			研究室	理 B312	
分担教員名					
クラス	理学専門科目	学期	前期		必修選択区分 必
対象学年	2年	単位数	2	曜日・時限	月 3・4
キーワード	構造有機化学、立体化学、有機反応機構論、アルケン、アルキン、非局在化電子系、有機電子論				
授業の目標	有機化学を構造論と反応論の両面から理解する				
学習内容	有機化学 I、II では、有機化合物は官能基によって分類され、その反応は官能基の変換であることを学んだ。本講義でも引き続き官能基の構造とその反応性について、アルケン、アルキン、さらに非局在化したパイ電子系化合物を中心に学習する。また、有機反応を電子の動きと結合の分極性に基づくと考える有機電子論を基に様々な反応を学び理解する。				
授業計画	テキストに従って以下の章を解説する。 11章 アルケン 12章 アルケンの反応 13章 アルキン 14章 非局在化したパイ電子系				
受講要件					
テキスト	「ボルハルト・ショアー 現代有機化学 上(第6版)」(古賀憲司・野依良治ら監修)(化学同人)				
参考書	「ボルハルト・ショアー 現代有機化学 下(第6版)」(古賀憲司・野依良治ら監修)(化学同人)				
予習・復習について	予習、復習を励行して欲しい。また、テキストの練習問題を解くことが望ましい。				
成績評価の方法・基準	期末試験により評価する。				
オフィスアワー	時間がある限り随時対応する。				
担当教員からのメッセージ					

授業科目名	発生生物学 I (Developmental Biology I)				
担当教員名	徳元 俊伸 (TOKUMOTO Toshinobu)		所属等	学術院理学領域	
			研究室	総合研究棟 625 室	
分担教員名					
クラス	理学専門科目	学期	前期		必修選択区分 必
対象学年	2 年	単位数	2	曜日・時限	月 3・4
キーワード	配偶子形成、転写因子、誘導シグナル、モデル生物				
授業の目標	近年解明が進んでいる動物の発生の分子機構、その研究手法について理解する。				
学習内容	発生生物学は分子生物学の手法を用いることにより、近年めざましい進展を果たした。その発展の原動力となったのは発生過程で重要な機能を担う分子の同定法（遺伝子配列の決定）が確立されたことにある。さらにその遺伝子の導入、除去などの手法を駆使することで発生過程を実験的に改変する技術が確立され、今ではこれらの技術を基礎とした様々な研究から発生機構が分子のレベルで理解できるようになってきた。本講義では近年明らかになった発生の分子機構を概説する。				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 発生生物学の隆盛 2. 発生における一般的な問題 3. 発生に関わる重要な分子群(1) 4. 発生に関わる重要な分子群(2) 5. 発生における共通現象(1) 6. 発生における共通現象(2) 7. 発生における共通現象(3) 8. 発生遺伝学 9. 実験発生学(1) 10. 実験発生学(2) 11. 発生研究に必要な技術(1) 12. 発生研究に必要な技術(2) 13. モデル生物・アフリカツメガエル(1) 14. モデル生物・アフリカツメガエル(2) 15. モデル生物・ゼブラフィッシュ 16. 試験 				
受講要件	「発生生物学 II」をセットで履修することが望ましい。				
テキスト					
参考書	エッセンシャル発生生物学、羊土社、 Jonathan Slack 著 大隈典子 訳 ウィルト発生生物学、東京科学同人				
予習・復習について	各回につき、予習・復習のためテキストを読むこと。				
成績評価の方法・基準	出席確認を兼ねて毎回、復習のための小テストを実施する。この小テストと本試験 1 回の成績を合計して理解度を評価する。				
オフィスアワー	月曜日 7・8 時限（2 時 25 分・3 時 55 分）を予定				
担当教員からのメッセージ	本講義を履修することにより分子レベルの発生学の概略が理解できるようになると期待している。				

授業科目名	植物生理学 (Plant Physiology)				
担当教員名	栗井 光一郎 (AWAI Koichiro)		所属等	学術院理学領域	
			研究室	総 713	
分担教員名					
クラス	理学専門科目	学期	前期		必修選択区分 選必
対象学年	3年	単位数	2	曜日・時限	月 3・4
キーワード	光合成、光形態形成、膜脂質、貯蔵脂質				
授業の目標	植物の光形態形成反応，光合成，膜脂質合成の基礎を学び，植物のエネルギー獲得戦略について理解を深める。				
学習内容	植物生理学のなかで，植物特有の反応である光形態形成，光合成を中心に学ぶ。また，膜脂質やバイオディーゼルとしても用いられる貯蔵脂質についてその合成と分解機構を学ぶ。				
授業計画	回 内容 1 ガイダンス，光形態形成 2 光による制御 3 フィトクロム 4 クリプトクロム，フォトトロピン 5 植物細胞と葉緑体分化 6 光合成概説 7 光捕集，電子伝達 I 8 電子伝達 II 9 トピックス：遺伝子導入植物 10 炭酸固定，光呼吸 11 C4 植物と CAM 植物，藻類の炭酸濃縮 12 細胞膜 13 脂肪酸合成 14 膜脂質合成 15 貯蔵脂質の合成と分解				
受講要件	他の植物学系の講義も履修することが望ましい。				
テキスト	ベーシックマスター植物生理学（オーム社）				
参考書	Biochemistry & Molecular Biology of Plants, Buchanan 編 ほかプリントを適宜配布する				
予習・復習について	期間中に小テストを行うことがあるので，予習復習をしっかりと行うこと。				
成績評価の方法・基準	小テストおよび試験の結果より総合的に判断する。試験は期末試験 1 回で終了の予定。講義した植物生理学の基本的な理解ができているかを判断する。プリント，ノートは持ち込み不可。				
オフィスアワー	月曜日 7・8 時限を予定。				
担当教員からのメッセージ	地球上全ての生物は光合成の影響を受け，ほとんどの生物が光合成によって得られたエネルギーに依存しています。光合成の仕組みを理解することは，エネルギー循環の最初の部分を理解することです。エネルギー問題が大きく取り上げられている現在，光合成の正しい知識を身に付け，社会に還元する人材となってほしい。				

授業科目名	生物環境科学概論 I (Introduction to Biogeosphere Sciences I)				
担当教員名	塚越 哲 (TSUKAGOSHI Akira)		所属等	学術院理学領域	
			研究室	理学部C棟 507	
分担教員名	佐藤 慎一				
クラス	理学専門科目	学期	前期		必修選択区分 必
対象学年	2年	単位数	2	曜日・時限	月3・4
キーワード	生物、古生物、進化				
授業の目標	生物界の成り立ちを地質学的時間スケールで理解するための基礎を身につける。				
学習内容	進化古生物学の体系と理論と基本概念を解説し、古生物を生物学的・進化学的側面から学ぶ。				
授業計画	古生物学の背景 1. 古生物学の概要 2. 化石の保存と記録の不完全性 化石の研究方法 3. 化石の観察と採集 4. 化石の同定と記載 古生物の研究例 5. 成長と個体発生 6. 生活様式と個古生態 7. 化石を用いた古環境解析 8. 中間試験 初期生命の記録 9. 生命の誕生 10, 11. 真核生物の進化 12, 13. 地球環境と水陸分布の変遷 14, 15. 進化のパターンと化石生物 16. 期末試験				
受講要件	なし。				
テキスト	特に定めない。配布したプリントは毎回持参すること。				
参考書	なし。プリントを適宜配布。				
予習・復習について	予習・復習とも各自しっかりやること。				
成績評価の方法・基準	試験による。事情によりレポート等の代替措置を取る場合もある。				
オフィスアワー	なし。				
担当教員からのメッセージ	なし。				

授業科目名	多様性生物学 (Biodiversity)				
担当教員名	塚越 哲 (TSUKAGOSHI Akira)		所属等	大学院理学領域	
			研究室	理学部C棟 507	
分担教員名					
クラス	理学専門科目	学期	前期前半		必修選択区分 選必
対象学年	3年	単位数	1	曜日・時限	月3・4
キーワード	生物多様性、分類、分類学、個体発生、形態、進化				
授業の目標	生物のもつ分類学的、形態学的多様性の認識と理解を深める				
学習内容	ヒトはどのようにして生物を分類しその多様性を把握するのか、またその多様性は自然界でどのように創出されるのかについて基礎から学ぶ。				
授業計画	<ul style="list-style-type: none"> ・ 生物の種数 ・ ヒトの認識と分類 ・ 個体発生と系統発生 <p>以上の内容をオムニバス形式で行う。</p>				
受講要件	なし。				
テキスト	なし。				
参考書	適宜指示する。				
予習・復習について	キーワードについて、あらかじめ文献やインターネット等で学習しておくことが望ましい。また、授業でわからないことは放置せず、各自よく復習すること。質問も歓迎する。				
成績評価の方法・基準	筆記試験またはレポート、もしくは両方。				
オフィスアワー	下記参照。				
担当教員からのメッセージ	席をはずすことが多いので、来室の際は電子メール<tsukagoshi.akira@shizuoka.ac.jp>もしくは電話054-238-4800(直通)であらかじめ連絡をください。特に重要な質問などがあれば、授業で取り上げることもあります。それから、授業中の飲食は慎んでいただきたい(当たり前のことですが)。				

授業科目名	構造地質学 (Structural Geology)				
担当教員名	道林 克禎 (MICHIBAYASHI Katsuyoshi)		所属等	大学院理学領域	
			研究室	理学部C棟 401	
分担教員名					
クラス	理学専門科目	学期	前期後半		必修選択区分 選必
対象学年	3年	単位数	1	曜日・時限	月3・4
キーワード	地質構造、歪、応力、変形メカニズム、断層、節理、褶曲、岩石組織				
授業の目標	構造地質学は地殻の構造(地質構造)を解析するための基礎となり、また応用範囲の広い分野でもある。本講義ではその基礎となる歪と応力の関係、実際に形成される断層や褶曲などの記載方法と、形成にいたる運動過程・物理過程についての基礎的取扱いについて解説する。				
学習内容	この講義では、最初に地質構造とは何かを解説し、その地質構造を形成する歪と応力の力学的基礎を学ぶ。それらをふまえて地下深部から表層部の異なる環境下において断層や褶曲などがどのような過程を経て形成され、発達していくのかを学ぶ。				
授業計画	<p>おおよそ以下の順序で講義を行う。ただし、一項目が一回の講義になるとは限らない。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 地質構造とは何か? 地質構造の記載 2. 歪と応力の基礎 3. 地殻物質の性質 4. 変形メカニズムと変形相 5. 断層と節理 6. 褶曲 7. 岩石組織 				
受講要件					
テキスト					
参考書	狩野謙一・村田明広: 構造地質学. 朝倉書店, 1998年 天野一男・狩野謙一: フィールドジオロジイ6 「構造地質学」. 共立出版, 2009年				
予習・復習について	参考書を講義前・後に読んでおくと良い。				
成績評価の方法・基準	地質構造の形成過程と形成条件が理解されているかについて、期末テストの結果などから総合的に評価する				
オフィスアワー	随時				
担当教員からのメッセージ	関連した内容を持つ構造岩石学、地震地質学、テクトニクスなどの基礎となる分野である。				

授業科目名	線型代数学 I (Linear Algebra I)				
担当教員名	浅芝 秀人 (ASASHIBA Hideto)		所属等	大学院理学領域	
			研究室	理学部 C 棟 615	
分担教員名					
クラス	理学専門科目	学期	前期		必修選択区分 ー
対象学年	1 年	単位数	2	曜日・時限	月 7・8
キーワード	行列、連立 1 次方程式、行列式				
授業の目標	線形代数の初歩を学ぶ。比例と比例定数を，線形写像と行列に一般化し，行列式を導入する。				
学習内容	数ベクトル空間，線形写像，行列，行列の演算，連立方程式，行列式を学ぶ。				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 行列とその演算 2. 置換 3. 行列式 4. 余因子展開 5. 連立 1 次方程式 6. 行列の階数 				
受講要件	理学部数学科 1 年生の必修科目。				
テキスト	基礎講義 線形代数学 (二木昭人 著, 培風館, ISBN-13: 978-4563002756)				
参考書	基礎課程・線形代数, 浅芝秀人著, 培風館 日本評論社, 2013.04, ISBN:978-4-563-00473-6 (その他線形代数学の書籍はたくさんあり, 図書館での閲覧を勧める。)				
予習・復習について	予習, 復習は必須。演習の授業で与えられた問題は全て解答することを勧める。				
成績評価の方法・基準	レポート 20%, 期末試験 80%で評価する。				
オフィスアワー	授業の中に時間を指定する。				
担当教員からのメッセージ	数学は, 講義をただ聴くだけで理解することは困難である。演習問題や課題を解くことを通して理解を深めること。また, できるだけ早く質問に来ることを勧める。				

授業科目名	数理論理学 (Mathematical Logic)				
担当教員名	依岡 輝幸 (YORIOKA Teruyuki)		所属等	大学院理学領域	
			研究室	理学部 C 棟 C616	
分担教員名					
クラス	理学専門科目	学期	前期		必修選択区分 必
対象学年	3 年	単位数	2	曜日・時限	月 7・8
キーワード	古典命題論理、古典述語論理、完全性定理				
授業の目標	数理論理学の基礎である古典論理とその完全性の理解を目指します。				
学習内容	命題論理とそのコンパクト性を学びます。そのあと、述語論理の形式論と意味論を学びます。				
授業計画	<p>教科書になるべく沿って、順番に勉強していきます。</p> <ol style="list-style-type: none"> 命題論理の形式的体系(自然演繹体系) 古典命題論理の意味論 古典命題論理の完全性定理とその証明 述語論理 述語論理の形式的体系 述語論理の意味論 				
受講要件	この授業は 3 年生の必修授業です。				
テキスト	静岡大学「数理論理学」教科書、鈴木信行.				
参考書	A mathematical introduction to logic, Enderton, Academic Press, 2000, 978-0122384523 数理論理学の基礎・基本 (理工系数学の基礎・基本), 坪井明人, 牧野書店, 2012, 978-4434164651 数学基礎論, 新井敏康, 岩波書店, 978-4-00-005536-9				
予習・復習について	毎回、しっかり復習してください。				
成績評価の方法・基準	授業内の練習問題とレポート 20%, 期末試験 80%で評価します。				
オフィスアワー	ご連絡ください。				
担当教員からのメッセージ	3 年生前期は専門科目が目白押しです。どの授業も最後まで諦めずに勉強しましょう。				

授業科目名	微分積分学Ⅲ (Infinitesimal Calculus III)				
担当教員名	松本 敏隆 (MATSUMOTO Toshitaka)		所属等	学術院理学領域	
			研究室	理学部C棟510	
分担教員名					
クラス	理学専門科目	学期	前期		必修選択区分 必
対象学年	2年	単位数	2	曜日・時限	火1・2
キーワード	1 変数関数の不定積分、定積分、広義積分、関数列の一致収束、べき級数				
授業の目標	1 変数関数の Riemann 積分の理論に登場する諸定理（微分積分学の基本定理、広義積分の収束条件など）の厳密な証明を理解すること、関数列や関数項の級数の一致収束性を取り扱うことができること、及び、べき級数の収束半径を調べることができることを目標とする。				
学習内容	定積分の定義および定積分の存在定理、微分積分学の基本定理を述べる。また、広義積分の収束・発散について論ずる。さらに、関数列や関数項の級数の一致収束性、連続関数列の一致収束の極限の連続性、関数列の一致収束性と微分積分との関係について考察する。最後に、べき級数の収束半径について論ずる。				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 定積分の定義と Riemann 積分の基本定理 2. Darboux の定理と Riemann の和 3. 定積分の基本的性質 4. 微分積分学の基本定理 5. 部分積分、置換積分、漸化式による不定積分の計算法 6. 有理関数などの不定積分の計算方法 7. 閉区間以外の連続な関数の広義積分と β 関数 8. 無限区間で連続な関数の広義積分と Γ 関数 9. 定積分の計算 (Wallis の公式、Legendre の多項式など) 10. 曲線の長さ 11. 関数列の一致収束 12. 関数項の級数の一致収束 13. 項別微分と項別積分 14. べき級数の収束と発散 15. べき級数の収束半径と Cauchy-Hadamard の公式 				
受講要件	微分積分学Ⅰ、Ⅱの内容を理解していることが望ましい。				
テキスト	白岩謙一著「解析学入門」学術図書出版社 ISBN 4-87361-114-8; ISBN 978-4-87361-114-3				
参考書	笠原皓司著「微分積分学」サイエンス社 (サイエンスライブラリ 12) (7819-0108-5) 青木利夫・吉原健一・樋口禎一・寺田敏司共著「改訂 演習・微分積分学」培風館 ISBN 4563-00197-X; ISBN 978-4563001971				
予習・復習について	授業のノートおよびテキストで予習および復習をしてください。数学の問題に取り組むことが重要です。				
成績評価の方法・基準	成績評価の主要部は試験の成績の良否による。関連したレポート問題を課す場合には、その実績も考慮する。試験やレポートでの評価は論述的解答および記述が求められる。				
オフィスアワー	初回の講義の際に時間を設定する。				
担当教員からのメッセージ	テキストや参考書の演習問題を各自で解くことを勧める。問題に取り組むことで理解が深まります。				

授業科目名	有機化学 I (Organic Chemistry I)				
担当教員名	坂本 健吉 (SAKAMOTO Kenkichi)		所属等	学術院理学領域	
			研究室	理学部B棟 301 号室	
分担教員名					
クラス	理学専門科目	学期	前期		必修選択区分 ー
対象学年	1 年	単位数	2	曜日・時限	火 1・2
キーワード	混成軌道、有機電子論、有機反応機構、構造有機化学、立体化学、アルカン、シクロアルカン、立体異性体				
授業の目標	有機化学の基礎概念を学び、構造有機化学を理解する。				
学習内容	有機化学の基礎概念として、共有結合の電子状態と混成軌道について学ぶ。次に、構造と反応性の基本概念を学ぶ。そして、構造有機化学に関して、立体配座、立体配置、光学異性体について学習する。				
授業計画	<p>テキストに従って以下の章を解説する。</p> <p>1 章 有機分子の構造と結合 2 章 構造と反応性 3 章 アルカンの反応 4 章 シクロアルカン 5 章 立体異性体</p>				
受講要件					
テキスト	1. 「ボルハルト・ショアー 現代有機化学 上 (第6版)」(古賀憲司・野依良治ら監訳) (化学同人) 2. 有機化学学習用分子模型				
参考書					
予習・復習について	予習、復習を励行して欲しい。また、テキストの練習問題を解くことが望ましい。				
成績評価の方法・基準	試験により評価する。				
オフィスアワー	特に時間は定めないので疑問点などがあつたら遠慮せずに研究室に来て下さい。ただし、あらかじめ連絡してもらえると有り難い。				
担当教員からのメッセージ	有機化学は、物質を創製・合成し、その特性を探究する重要な学問分野です。				

授業科目名	熱化学 (Thermochemistry)				
担当教員名	河合 信之輔 (KAWAI Shinnosuke)		所属等	学術院理学領域	
			研究室	理B302, 理B308	
分担教員名					
クラス	理学専門科目	学期	前期		必修選択区分 必
対象学年	2年	単位数	2	曜日・時限	火1・2
キーワード	熱力学第二法則、エントロピー、自由エネルギー、変化の方向、化学平衡、統計熱力学、ボルツマン分布				
授業の目標	物理化学のひとつの柱である化学熱力学を理解・体得し、どんな問題にも応用できるような基礎をつくる。				
学習内容	講義前半では、熱力学第二、第三法則を学び、熱力学の理論体系の成り立ちを理解する。講義後半は、熱力学に分子論的な意味付けを与える理論としての統計力学を学び、エントロピーやギブズエネルギー等の諸概念の分子的意味を理解する。				
授業計画	<p>テキストの次の章を講義する。</p> <p>第1～4回：第2章 熱力学第一法則 基本的な概念（仕事、熱、エネルギー） 状態関数（内部エネルギー、エンタルピー） 完全微分と不完全微分 熱化学（標準生成エンタルピー、反応エンタルピー）</p> <p>第5～8回：第3章 熱力学第二法則 自発変化の方向 エントロピー（定義、自発性との関係、第二法則のエントロピーによる表現） 熱力学第三法則 自由エネルギー（ヘルムホルツエネルギーとギブズエネルギー）</p> <p>第9～10回：第7章 化学平衡 平衡状態（ギブズエネルギーと平衡条件、平衡の温度・圧力依存性） 平衡電気化学（半反応と電極、起電力）</p> <p>第11～15回：第16章 統計熱力学 分子状態の分布（確率分布、配置と重み） エントロピーの分子論的意味 ボルツマン分布 分配関数</p>				
受講要件	微分積分，確率論，力学，および1年次の基礎熱化学の知識を前提とする。				
テキスト	「アトキンス 物理化学 第8版(上)(下)」(東京化学同人)第2, 3, 7, 16章				
参考書	授業中に適宜引用文献を挙げる				
予習・復習について	新しく学ぶ諸概念や論理展開のしかたを理解するのに苦労する分野であるので、週1～2時間以上を目安に、しっかりと予習復習および教科書や配布プリントの演習問題に取り組むこと。				
成績評価の方法・基準	毎回のレポート課題および期末試験の点数によって評価する。				
オフィスアワー	随時。ただし会議等の都合で研究室に不在の時間があるので、事前に連絡を取ってもらったほうが安全ではある。(sskawai@shizuoka.ac.jp)				
担当教員からのメッセージ					

授業科目名	放射化学Ⅱ (Radiochemistry II)				
担当教員名	矢永 誠人 (YANAGA Makoto)		所属等	大学院理学領域	
			研究室	理学部A棟 201	
分担教員名					
クラス	理学専門科目	学期	前期		必修選択区分 選必
対象学年	3年	単位数	2	曜日・時限	火 1・2
キーワード	天然放射性核種、人工放射性核種、核反応、放射化分析、放射化学分離、R I の利用				
授業の目標	原子核の性質を理解するとともに、同位体、特に放射性同位体を利用した化学の実際を修得する。				
学習内容	<p>I. 元素を構成している同位体について、安定同位体と放射性同位体に分けて考え、これらがどのような過程によって生成・分布しているのかという点を目指して概説する。これを理解するために必要な放射性同位体および安定同位体の物理的性質、化学的性質および放射性同位体をつくる核反応についても述べる。</p> <p>II. きわめて類似した同位体どうしの化学的性質は、同位体をトレーサーなどとして利用できる。他方、わずかながら検出される同位体間の性質の差を利用して、同位体の分離はもちろん、他の方法では難しい研究にも特色を生かして応用されている。それらの典型的なものおよび基礎を学ぶ。</p>				
授業計画	<p>以下の項目について、基礎的・基本的な事項を解説する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 核反応 <ol style="list-style-type: none"> 核反応 核反応断面積と生成放射能 核反応の種類 核分裂反応 核融合反応 元素の起源 <ol style="list-style-type: none"> Hubble の法則 宇宙温度変化と物質の創成 年代測定法 <ol style="list-style-type: none"> 宇宙年代学 放射性壊変を利用する年代測定の原理 年代測定 核・放射化学的分析 <ol style="list-style-type: none"> 放射化学的分離法 放射化分析 放射分析 同位体希釈分析 				
受講要件	放射化学Ⅰ、放射化学概論、放射線物理学概論のいずれかを受講していることが望ましいが、これらの科目を履修していない者に対しては配慮する。				
テキスト	放射線概論 第9版 (柴田徳思編、通商産業研究社)				
参考書	放射化学概論 第3版 (富永 健、佐野博敏 著、東京大学出版会) その他、適宜、資料を配布する。				
予習・復習について	予習および復習、特に復習は重要である。聞いたこと、あるいは、疑問に思ったことをそのままにせず、自ら調べることにより、さらに実力が養成される。				
成績評価の方法・基準	授業時の演習課題と期末試験により総合的に評価する。				
オフィスアワー	午前9時頃から午後6時頃まで、随時、質問等を受けつける。				
担当教員からのメッセージ	放射化学Ⅰなど、要件に記した科目を履修していることが望ましいが、未履修者に対しても考慮しつつ講義を進めていく。				

授業科目名	生化学 (Biochemistry)				
担当教員名	天野 豊己 (AMANO Toyoki)		所属等	学術院理学領域	
			研究室	総 721	
分担教員名					
クラス	理学専門科目	学期	前期		必修選択区分 必
対象学年	2年	単位数	2	曜日・時限	火 1・2
キーワード	タンパク質、アミノ酸、代謝				
授業の目標	生体を構成する分子の構造と機能が分かるようになり、それらがどのように結びついているのかが理解できるようにする。				
学習内容	生体内における酵素反応の分子機構について、タンパク質の構造と機能の両面から解説する。またタンパク質科学の実験方法についても解説する。				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. pH と緩衝液 2. 生体物質 3. アミノ酸 4. タンパク質の二次構造 5. タンパク質の三次構造 6. タンパク質の四次構造 7. タンパク質間相互作用 8. 酵素反応 9. 酵素反応速度論 10. タンパク質の沈殿 11. クロマトグラフィー 12. 電気泳動 				
受講要件					
テキスト	プリントを配布する。				
参考書	ヴォート生化学(東京化学同人)、ストライヤー生化学(東京化学同人)、コーンスタンプ生化学(東京化学同人)、細胞の分子生物学 (Newton Press)、など。				
予習・復習について	高校で生物もしくは化学を学習していない人は、細胞の分子生物学 (第5版) の第2章と第3章に目を通して、分子の世界に慣れておくと良い。また、自分に合った生化学の入門書で全体像をつかんでおくことも勧める。				
成績評価の方法・基準	成績は、試験と出席状況から総合的に判断する。				
オフィスアワー	質問は適宜受け付ける。不在に備えて sbtaman@ipc.shizuoka.ac.jp に連絡が望ましい。				
担当教員からのメッセージ	生物科学の基礎になる科目です。しっかりと理解をしてください。				

授業科目名	内分泌学 (Endocrinology)				
担当教員名	鈴木 雅一 (SUZUKI Masakazu)		所属等	学術院理学領域	
			研究室	理 A616	
分担教員名					
クラス	理学専門科目	学期	前期		必修選択区分 選必
対象学年	3年	単位数	2	曜日・時限	火 1・2
キーワード	脊椎動物、内分泌、ホルモン、進化				
授業の目標	脊椎動物の内分泌現象の原理と多様性を理解する。				
学習内容	人間の身体の中では多様な器官が機能しているが、それぞれの器官やそこで働く分子システムには生命の進化とともに歩んだ歴史がある。本講義では、哺乳類の内分泌系の機能を中心に解説しながら、内分泌器官やホルモン等の多様性および進化の道筋についても比較動物学的観点から考察する。				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 内分泌学の歴史 2. 内分泌腺とホルモン 3. 松果体とホルモン 4. 視床下部・脳下垂体 I 5. 視床下部・脳下垂体 II 6. 甲状腺ホルモン 7. 副腎のホルモン I 8. 副腎のホルモン II 9. 性分化・生殖とホルモン 10. 妊娠・出産・授乳とホルモン 11. 水・電解質調節とホルモン I 12. 水・電解質調節とホルモン II 13. カルシウムの調節とホルモン 14. 糖分の調節とホルモン 15. 無脊椎動物のホルモン 16. 試験 				
受講要件					
テキスト	必要に応じてプリントを配布する。				
参考書	ホルモンから見た生命現象と進化シリーズ（日本比較内分泌学会：裳華房） 生命をあやつるホルモン（日本比較内分泌学会：講談社） 比較内分泌学序説（日本比較内分泌学会：学会出版センター）など				
予習・復習について	関連する事項について、随時、生物学の本を参照して自ら理解を深めて欲しい。				
成績評価の方法・基準	主として最終授業の試験の結果で成績評価する。レポートを課した場合、それも評価の対象とする。				
オフィスアワー	随時受け付ける。				
担当教員からのメッセージ	内分泌に関連した本を一冊でも読んで欲しい。				

授業科目名	層序学 (Stratigraphy)				
担当教員名	北村 晃寿 (KITAMURA Akihisa)		所属等	大学院理学領域	
			研究室	共通教育 C 棟 311	
分担教員名					
クラス	理学専門科目	学期	前期		必修選択区分 必
対象学年	3年	単位数	2	曜日・時限	火 1・2
キーワード	層序学、層序区分、層序単元、模式層と模式地、岩相層序、生層序、古地磁気層序、火山灰層序、サイクル層序、シーケンス層序				
授業の目標	地層に保存された地質記録や化石記録の理解に不可欠な層序学を習得する。				
学習内容	層序学の体系と理論と基本概念を解説する。講義はパワーポイントと配布資料で行う。パワーポイントで「ノート」と示した箇所は、筆記具でノートに書き込むか、PCに打ち込むか、あるいは記憶する。カメラ撮影は許可しない。				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 層序学とは何か（地層体系化の手順、様々な層序学、層序学関連小史） 2. 層序学の基本原理（公式層序単元、岩相層序単元各説） 3. 層序区分の標準化（年代層序尺度、地質年代単元、GSSPと“黄金の楔”） 4. 層序単元の命名（模式、国際層序ガイド、地層命名法、先取権の原則） 5. 生層序学の基礎（生層準(FAD, LAD)、誘導・導入化石、異時性、生層序帯各説、示準化石各説） 6. 生層序学の実際（CSRS、グラフ対比法、AEO、CONOP、RASC、生層準の区間推定） 7. 層序と編年（GSSA、複合年代尺度の構築、年輪・骨格編年、交差年代決定） 8. 示準化石、微化石層序 9. 古地磁気層序、火山灰層序学（概念、事例） 10. イベント層序学、サイクル層序1（サイクル層序の概念、生態層序、海洋酸素同位体層序） 11. サイクル層序2、海洋酸素同位体層序 12. 同位体層序学、第四紀の層序、14C年代 13. シーケンス層序1（シーケンス層序の原理） 14. シーケンス層序2（海水準変動） 15. 層序学の応用 				
受講要件	なし。				
テキスト	なし。				
参考書	適時、プリントを配布する。				
予習・復習について	ノート、配布プリントを使って、予習復習を行うこと。				
成績評価の方法・基準	レポートの内容と試験の結果から、成績評価を行う。				
オフィスアワー	授業で個々に通知する。				
担当教員からのメッセージ	本講義をより深く理解したい者は、「堆積学」をあわせて受講することを推奨する。				

授業科目名	統計処理論 (Theory of Statistical Processing)				
担当教員名	板津 誠一 (ITATSU Seiichi)		所属等	大学院理学領域	
			研究室	理学部 C 棟 605	
分担教員名					
クラス	理学専門科目	学期	前期		必修選択区分 選必
対象学年	3年	単位数	2	曜日・時限	火 3・4
キーワード	回帰分析、多変量解析				
授業の目標	データを記述する統計の方法やデータの背景となる理論を理解することです。				
学習内容	<p>自然現象や社会現象を説明するとき割合などのデータが用いられる。確定的な現象を記述した場合と異なり、偶然による変動にともなう、自然現象を記述するとき多くの可能性を伴う表現をするが、その方法が客観的である必要がある。統計での推論は論理により説明することになる。</p> <p>数理統計学の理論を統計の概念とその応用によって展開する。変数の多いデータの解析に用いられる多変量解析の方法について説明する。</p> <p>データを記述する統計の方法やデータの背景となる理論を理解することが重要です。</p>				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. データと統計計算 2. 1変量データの記述 3. 多変量データの記述 4. 最小二乗法と回帰分析 5. 多変量解析 6. 主成分分析 7. 固有ベクトルと射影 8. 判別分析 9. 区間推定 10. 検定論 				
受講要件	前提は大学1, 2年の微分積分学, 線形代数学です。				
テキスト					
参考書	「統計 第2版」, 竹村彰通著, (共立講座 21世紀の数学 14), (共立出版), 2007, ISBN:978-4-320-01851-8				
予習・復習について	配布するレジュメおよび各自のノートで予習・復習をしてください。				
成績評価の方法・基準	成績評価はレポートおよび試験による。				
オフィスアワー	講義の時にお知らせします。				
担当教員からのメッセージ	(※この科目は隔年開講です)				

授業科目名	電磁気学Ⅲ (Electromagnetism Ⅲ)				
担当教員名	松本 正茂 (MATSUMOTO Masashige)		所属等	学術院理学領域	
			研究室	理学部 A棟 A501	
分担教員名					
クラス	理学専門科目	学期	前期		必修選択区分 選必
対象学年	3年	単位数	2	曜日・時限	火 3・4
キーワード	Maxwell 方程式、電磁波の伝搬、電磁ポテンシャル、ゲージ変換、先進・遅延ポテンシャル、リエナール・ウィールヘルトポテンシャル、電磁波の放射				
授業の目標	電磁気学 I、電磁気学 II の授業の内容をさらに発展させ、Maxwell 方程式に基づいて、電磁波の伝搬と放射を理解する。				
学習内容	Maxwell 方程式に基づいて、電磁波の伝搬と放射を学習する。さまざまな応用にも触れる。				
授業計画	<p>以下の内容の説明をおこなう。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Maxwell 方程式 2. 電磁波の伝搬 3. 電磁ポテンシャル・ゲージ変換 4. 先進・遅延ポテンシャル 5. リエナール・ウィールヘルトポテンシャル 6. 電磁波の放射 				
受講要件	電磁気学 I・電磁気学 II の単位が、取得済みであること。				
テキスト	なし				
参考書	「電磁気学」横山順一／著（講談社）、「電磁気学」中村哲・須藤彰三／著（朝倉書店）、「ファインマン物理学 III・ファインマン物理学 IV」ファインマン／著（岩波書店）、「電磁気学の基礎 I・電磁気学の基礎 II」太田浩一／著（東京大学出版会）、「電磁気学 I・電磁気学 II」清水忠雄／著（朝倉書店）、「理論電磁気学」砂川重信／著（紀伊国屋書店）				
予習・復習について	予習と復習を必ずおこなうこと。				
成績評価の方法・基準	試験によって成績を評価する。				
オフィスアワー	随時。必要に応じて設定することもある。				
担当教員からのメッセージ	電磁気学の面白さを味わってください。				

授業科目名	量子化学Ⅱ (Quantum Chemistry I I)				
担当教員名	松本 剛昭 (MATSUMOTO Yoshiteru)		所属等	学術院理学領域	
			研究室	総 512	
分担教員名					
クラス	理学専門科目	学期	前期		必修選択区分 必
対象学年	3年	単位数	2	曜日・時限	火 3・4
キーワード	シュレーディンガー方程式、水素型原子、オービタル、スピン軌道相互作用、原子価結合法、分子軌道法、ヒュッケル近似				
授業の目標	量子力学の原理に基づいて、原子内部の電子運動を系統立てて理解することを目指す。また、原子で導入したオービタルの概念を分子に拡張して、分子を形成する化学結合の量子化学的記述法の理解を目指す。				
学習内容	「量子化学Ⅰ」で学んだ粒子運動の量子力学的な記述に基づいて、原子中にある電子の波動関数とエネルギー準位を概観し、角運動量の相互作用を考慮した原子スペクトルの解釈方法を学ぶ。また、分子構造を計算するための基礎的知識をなす原子価結合法と分子軌道法を取り上げ、化学結合の形成に電子が果たす役割の重要性を学ぶ。				
授業計画	<p>水素原子型の構造とスペクトル</p> <ul style="list-style-type: none"> ・水素型原子の構造 ・原子オービタルとそのエネルギー ・分光学的遷移と選択律 <p>多原子分子の構造</p> <ul style="list-style-type: none"> ・オービタル近似 ・つじつまの合う場のオービタル <p>複雑な原子のスペクトル</p> <ul style="list-style-type: none"> ・量子欠損とイオン化極限 ・一重項状態と三重項状態 ・スピン-軌道カップリング ・項の記号と選択律 <p>ボルン-オッペンハイマー近似</p> <p>原子価結合法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・等核二原子分子 ・多原子分子 <p>分子軌道法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・水素分子イオン ・等核二原子分子 ・異核二原子分子 <p>多原子分子系の分子オービタル</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ヒュッケル近似 ・計算化学 ・分子の性質の予測 				
受講要件	「量子化学Ⅰ」の内容、簡単な微分積分に関する知識				
テキスト	「アトキンス 物理化学 (上)」(東京化学同人) 第 10 章、第 11 章				
参考書	「量子化学 基礎からのアプローチ」真船文隆著 (化学同人) 「物理化学 (上) 分岐論的アプローチ」マッカーリ・サイモン著 千原・江口・齋藤訳 (東京化学同人) 「物理化学 (上・下)」エンゲル・リード著 稲葉章訳 (東京化学同人)				
予習・復習について	テキストを使った予習を大事にすること。さらに、講義毎に与える演習問題に各自取り組むこと。				
成績評価の方法・基準	期末試験の結果で評価する。				
オフィスアワー	特に定めません。いつでも質問してください。				
担当教員からのメッセージ	「量子化学Ⅰ」で学んだシュレーディンガー方程式は、実在の原子分子の構造を詳細に理解するための概念であると言っても過言ではありません。量子化学を駆使することで、Na や O ₂ のように構造式で理解していた原子分子を、内部の奥深くから原理的に知ることができるはずですが。量子化学は議論すればするほど身につきますので、質問に来てもらうのは大歓迎です。				

授業科目名	発生生物学Ⅱ (Developmental Biology II)				
担当教員名	塩尻 信義 (SHIOJIRI Nobuyoshi)		所属等	大学院理学領域	
			研究室	理学部A棟 611	
分担教員名					
クラス	理学専門科目	学期	前期		必修選択区分 選必
対象学年	3年	単位数	2	曜日・時限	火 3・4
キーワード	器官形成、誘導、形態形成、細胞分化、細胞間相互作用、遺伝子発現、実験発生学				
授業の目標	発生過程で多様な器官が形成される仕組みを、細胞レベルならびに分子レベルで理解する。				
学習内容	多細胞動物の体は、特有の機能と形態・構造をそれぞれ有する多様な器官から構成されており、それらの統合により個体自身ならびに個体の属する種が維持される。本講義では、マウスやニトリなどの高等脊椎動物をモデルとして、発生過程で多様な器官が形成される仕組みについて、どのような実験によりその仕組みが証明されたかなど、実験発生学の成果にもとづきながら解説する。特に、各器官形成系でおこる細胞分化、増殖、細胞移動、誘導、形態形成、細胞間相互作用など“細胞社会”として制御されている側面とその分子メカニズムについて講義する。				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. はじめに 2. 卵割から胚葉形成まで 3. 神経胚形成 4. 発生運命地図と誘導・体軸形成 5. 表皮の発生・分化 6. 神経堤細胞の移動と分化 7. 体節の形成 8. 心臓形成と血管系の発生 9. 造血細胞の起源 10. 排出器官の発生 11. 生殖巣の形成 12. 生殖輸管などの発生 13. 消化器官の発生 14. 肝臓形成 15. まとめ 				
受講要件	特になし。				
テキスト	武田洋幸・相賀裕美子著『発生遺伝学』（東京大学出版会）				
参考書	東中川徹他編著「ベーシックマスター発生生物学」（オーム社）、八杉貞雄著「動物の形態 ー進化と発生ー」（裳華房）など。随時紹介する。				
予習・復習について	予習・復習を必ず行って下さい。				
成績評価の方法・基準	レポート、期末試験などに基づいて総合的に評価する。				
オフィスアワー	特に指定しませんが、質問があれば研究室まで。				
担当教員からのメッセージ	発生現象は見ていて大変美しいものです。またその仕組みも巧妙です。				

授業科目名	地球環境学 (Global Environment)				
担当教員名	宗林 留美 (SOHRIN Rumi)		所属等	大学院理学領域	
			研究室	理学部C棟 411	
分担教員名	佐藤 慎一				
クラス	理学専門科目	学期	前期		必修選択区分 必
対象学年	3年	単位数	2	曜日・時限	火3・4
キーワード	地球環境、海洋、生態系、物質循環、生物多様性				
授業の目標	地球上で今おこっている環境問題をトピック的に眺めるのではなく、それらがなぜ問題なのか、問題の根っこはどこにあるのかについて地球科学を学ぶ者として必須となる知識も整理しながら学ぶ。しくみを理解する、しくみを動かす力を理解する、そして人間と地球環境のありようを考える。				
学習内容	地球環境を統合的に理解することを目指して、考え方のツールとしての時間軸、空間スケールの捉え方から、物質循環の意味、生態系のありようを学ぶ。				
授業計画	第1回 地球環境変動史(1)(佐藤) 第2回 地球環境変動史(2)(佐藤) 第3回 環境変動と生物多様性(1)(佐藤) 第4回 環境変動と生物多様性(2)(佐藤) 第5回 海洋の環境変動と生物の分布パターン(佐藤) 第6回 中間テスト(佐藤) 第7回 水環境(1)(宗林) 第8回 水循環(2)(宗林) 第9回 物質循環・生態系(1)(宗林) 第10回 物質循環・生態系(2)(宗林) 第11回 大気環境(宗林) 第12回 環境問題(1)(宗林) 第13回 環境問題(2)(宗林) 第14回 人間活動と地球環境(1)(佐藤) 第15回 人間活動と地球環境(2)(佐藤)				
	講義の順序は入れ替わることがあります。Case sensitive!				
受講要件	出席するだけでなく授業に＜参加する＞こと。				
テキスト	プリント				
参考書					
予習・復習について					
成績評価の方法・基準	成績は課題レポートと試験による。				
オフィスアワー					
担当教員からのメッセージ					

授業科目名	線型代数学Ⅲ (Linear Algebra Ⅲ)				
担当教員名	毛利 出 (MORI Izuru)		所属等	大学院理学領域	
			研究室	理学部C棟511	
分担教員名					
クラス	理学専門科目	学期	前期		必修選択区分 必
対象学年	2年	単位数	2	曜日・時限	火5・6
キーワード	内積、正規直交系、2次形式、ジョルダン標準形				
授業の目標	線型代数学で重要なジョルダン標準形を理解する。				
学習内容	線型代数学Ⅱの続きとして内積、正規行列の対角化、2次形式、ジョルダン標準形などについて学ぶ。				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 内積の定義 2. エルミート行列とユニタリ行列 3. 正規直交系 4. 正規行列の対角化 5. 実正規行列の標準形 6. 正規変換とスペクトル分解 7. 2次形式 8. ジョルダン標準形 				
受講要件	線型代数学Ⅰ,Ⅱの内容を理解していること。				
テキスト	基礎講義 線形代数学 (二木昭人著 培風館) ISBN978-4-563-00275-6				
参考書					
予習・復習について	授業後その日のうちに復習し、理解できなかったところは質問するなどして解決しておくこと。また授業の直前(前日)に前回までの内容を再度復習し、定義や定理などを頭に入れてから授業に参加すること。				
成績評価の方法・基準	授業参加態度、レポート、試験などにより評価する。				
オフィスアワー	年度の初めに掲示する。				
担当教員からのメッセージ	新学期が始まる前に線型代数学Ⅰ,Ⅱの復習をしておくこと。				

授業科目名	生物多様性科学 (Biodiversity Science)				
担当教員名	栗井 光一郎 (AWAI Koichiro)		所属等	大学院理学領域	
			研究室	総 713	
分担教員名	徳岡 徹、竹内 浩昭				
クラス	理学専門科目	学期	前期		必修選択区分 選必
対象学年	1 年	単位数	2	曜日・時限	火 5・6
キーワード	多様性、進化、細胞内共生				
授業の目標	様々な生物のもつ特徴、多様性、生活環を中心とした基礎的知識を身に付けると共に、地球のいたるところで活動する生物を体系的に理解する。				
学習内容	生物の多様性、特徴、進化、環境適応機構を総合的に学ぶ。				
授業計画	回 内容 1 生体膜・生物の分類 (栗井 光一郎) 2 原核生物：古細菌、細菌 (栗井 光一郎) 3 原生生物：エクスカバータ (栗井 光一郎) 4 原生生物：クロモアルベオラータ (栗井 光一郎) 5 原生生物：アーケプラスチダ (栗井 光一郎) 6 原生生物：リザリア、ユニコンタ (栗井 光一郎) 7 菌類 (栗井 光一郎) 8 植物：コケ植物 (徳岡 徹) 9 植物：シダ植物 (徳岡 徹) 10 植物：裸子植物 (徳岡 徹) 11 植物：被子植物 (1) 単子葉植物 (徳岡 徹) 12 植物：被子植物 (2) 双子葉植物 (徳岡 徹) 13 動物：形態における多様性と進化 (竹内 浩昭) 14 動物：機能における多様性と進化 (竹内 浩昭) 15 動物：生態における多様性と進化 (竹内 浩昭)				
受講要件	特になし				
テキスト	特に指定しない				
参考書	丸善 キャンベル生物学-原書第 9 版- ほかプリントを適宜配布する				
予習・復習について	期間中に小テストを行うので、予習復習をしっかりと行うこと				
成績評価の方法・基準	出席、小テストおよび試験の結果より総合的に判断する。試験は期末試験 1 回で終了の予定。講義した多様性生物学の基本的な理解ができていないかを判断する。プリント、ノートは持ち込み不可。				
オフィスアワー	月曜日 7・8 時限を予定 (栗井)				
担当教員からのメッセージ	生物の生理生態、進化を知ることで、地球上に存在する様々な生物を体系的に理解することが可能となる。実験生物だけではなく、生き物とは何かということを学んでほしい。				

授業科目名	幾何学 (Geometry)				
担当教員名	久村 裕憲 (KUMURA Hironori)		所属等	大学院理学領域	
			研究室	理学部 C 棟 603	
分担教員名					
クラス	理学専門科目	学期	前期		必修選択区分 必
対象学年	3年	単位数	2	曜日・時限	火 7・8
キーワード	微分可能多様体、写像の微分、ベクトル場				
授業の目標	微分可能多様体の基礎を学ぶ。				
学習内容	局所的に n 次元のユークリッド空間の開集合と微分同相な空間を微分可能多様体という。多様体上では微分・積分が展開される。この授業では、多様体のほんの入口を学ぶ。				
授業計画	(1) 微分可能多様体 (2) 接ベクトル空間 (3) 関数・写像の微分 (4) ベクトル場 (5) 微分形式				
受講要件					
テキスト	松本幸夫著「多様体の基礎」東京大学出版会				
参考書	村上信吾著「多様体」共立出版				
予習・復習について	教科書に沿って授業を行うので予習を良くして下さい。また課題を出すので、課題を解くことを通して理解を深めてください。				
成績評価の方法・基準	レポート、試験等を総合的に判断する。				
オフィスアワー	授業時間中に指示する。				
担当教員からのメッセージ	授業中内で全てが理解できる、ということはおそらくないです（それが普通です）。毎回の授業で、しっかりノートを取って、復習をしてはじめて理解ができます。特に、この授業では課題を出すので、課題を解くことを通して理解を深めてください。				

授業科目名	物理数学Ⅱ (Mathematics for Physics Ⅱ)				
担当教員名	森田 健 (MORITA Takeshi)		所属等	大学院理学領域	
			研究室	理 A402	
分担教員名					
クラス	理学専門科目	学期	前期		必修選択区分 必
対象学年	3年	単位数	2	曜日・時限	水 1・2
キーワード	複素数、複素関数、留数定理				
授業の目標	複素関数の微積をきちんと扱えるようになる。				
学習内容	複素関数論を学ぶ。そしてその物理学への応用を紹介する。				
授業計画	<p>おおむね参考書にあげた神保 道夫著「複素関数入門」にそって次のように講義を行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 複素平面 2. ベキ級数 3. 複素関数の微分 4. コーシーの積分定理 5. 留数定理とその応用 				
受講要件	微分、積分、ベクトル解析を理解していること。				
テキスト					
参考書	神保 道夫「複素関数入門」岩波書店、松下貢「物理数学」裳華房、アルフケン・ウェーバー「関数論と微分方程式」講談社				
予習・復習について	復習をすること。何か一冊複素関数に関する本を持っていると良い。(必ずしも参考書に挙げたもので無くても良い。)				
成績評価の方法・基準	試験によって成績を評価する。場合によってはレポートなどを課す。				
オフィスアワー	初回の講義時間に案内する。				
担当教員からのメッセージ	物理学において複素関数の扱いはフーリエ解析や量子力学で必須となるのでしっかり理解して欲しい。またただ単に物理学で重要なだけでなく、複素関数自体がとても面白い分野なので少しでもそのおもしろさを伝えたい。				

授業科目名	基礎生化学 (Basic Biochemistry)				
担当教員名	瓜谷 眞裕 (URITANI Masahiro)		所属等	大学院理学領域	
			研究室	理学部 A 棟 312 室	
分担教員名					
クラス	理学専門科目	学期	前期		必修選択区分 必
対象学年	2 年	単位数	2	曜日・時限	水 1・2
キーワード	生体分子、ヌクレオチド、核酸、アミノ酸、タンパク質、単糖、多糖、脂質、生体膜、酵素				
授業の目標	アミノ酸とタンパク質、糖、脂質、ヌクレオチドと核酸などの生物特有の物質について、それらの構造と機能を学ぶ。生体膜の構造と酵素反応の仕組みを学習する。				
学習内容	生物はタンパク質、糖、脂質などの生物特有の物質から構成される複雑で精巧な機械といえます。そしてこの機械は DNA という核酸にコードされた情報にしたがって作られ、またその機能が制御されています。この生物機械の働きはすべて生体物質間の化学反応に依存しています。この講義では化学の視点から生体物質の構造と働きを学ぶとともに、生物を理解する上で必要な生化学の基礎を学びます。				
授業計画	<p>テキストに沿って以下の内容を解説します。</p> <p>回 内容</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 ガイダンス、生化学の基礎：生命の科学 2 生化学の基礎：水の性質、生体分子：ヌクレオチド、核酸、遺伝情報 3 生体分子：ヌクレオチド、核酸、遺伝情報 4 生体分子：アミノ酸 5 生体分子：タンパク質の一次構造 6 生体分子：タンパク質の三次元構造 7 生体分子：タンパク質の三次元構造、タンパク質の機能 8 生体分子：タンパク質の機能 9 生体分子：単糖と多糖 10 生体分子：脂質と生体膜 11 生体分子：脂質と生体膜 12 生体分子：膜輸送、酵素：酵素触媒 13 酵素：酵素触媒 14 酵素：酵素の反応速度論 15 復習と総括 				
受講要件	理系基礎科目の生物学 I 及び生物学 II を履修していることが望ましい。				
テキスト	ヴォート基礎生化学 第 4 版 (東京化学同人)				
参考書	細胞の分子生物学 第 5 版 (ニュートンプレス)				
予習・復習について	教科書やノートをよく読むなど、日々の予習と復習が必要である。				
成績評価の方法・基準	単位の認定には、原則として3分の2以上の出席が必要です。単位の認定と成績の評価は、小テスト/レポートおよび期末試験の総点で判断します。				
オフィスアワー	特に設けませんが可能な限り対応します。				
担当教員からのメッセージ	生命現象を化学や物理学の知識で理解する。生化学や分子生物学はそのような分野で、化学の主要な分野のひとつです。生化学の延長線上に、遺伝子操作や iPS 細胞などのバイオ技術があります。生化学を修めれば、バイオ技術の原理が分かり、物質の視点から生命を理解できるようになります。テキストの「ヴォート基礎生化学」は、本講義以外に代謝生化学、情報生化学、応用生化学でも使います。				

授業科目名	有機化学V (Organic Chemistry V)				
担当教員名	小林 健二 (KOBAYASHI Kenji)		所属等	学術院理学領域	
			研究室	小林研究室 (総合研究棟 514)	
分担教員名					
クラス	理学専門科目	学期	前期		必修選択区分 選必
対象学年	3年	単位数	2	曜日・時限	水 1・2
キーワード	有機化学、反応機構、官能基				
授業の目標	有機化合物の構造と反応を理解する。				
学習内容	2年次の有機化学 IV の講義に引き続き、以下の項目についてテキストをもとに学習する。本講義で取り扱う内容は、現代有機化学の基礎を数多く含んでいる。有機反応の原理と多様性、材料・医薬品合成などの基礎をなす有機合成化学の重要性など、有機化学の魅力を感じてほしい。				
授業計画	19章 カルボン酸 20章 カルボン酸誘導体 21章 アミンおよびその誘導体 22章 ベンゼンの置換基の反応 23章 エステルエノラートと Claisen 縮合				
受講要件	特になし				
テキスト	「ボルハルト・ショアー 現代有機化学 下 (第6版)」(古賀憲司・野依良治ら監訳) (化学同人)				
参考書					
予習・復習について	予習、復習を励行して欲しい。また、テキストの練習問題を解くことが望ましい。				
成績評価の方法・基準	試験および出席状況により評価する。				
オフィスアワー	随時対応しますが不在の場合もあるので、要事前連絡。				
担当教員からのメッセージ	有機化学は、物質を創製・合成し、その特性を探究する重要な学問分野です。				

授業科目名	地球物理学 (Geophysics)				
担当教員名	生田 領野 (Ryoya IKUTA)		所属等	大学院理学領域	
			研究室	共通教育C棟 306	
分担教員名					
クラス	理学専門科目	学期	前期		必修選択区分 必
対象学年	3年	単位数	2	曜日・時限	水 1・2
キーワード	地球物理学、地震学、測地学、弾性体力学				
授業の目標	地球物理学の基礎を学び、地学現象を物理的に捉える思考力を養う。				
学習内容	地球物理学で用いられる数学的／物理学的知識と思考法を学び、適宜演習を行う。				
授業計画	回 内容 1 1. 地球物理学入門：質点系の力学 2 2. 地球物理学入門：極座標変換と2体問題 3 3. 地球物理学入門：ベクトルと行列 4 4. 地球物理学入門：質点系から連続体へ：弾性体中の波動方程式の導出その1 5 5. 地球物理学入門：質点系から連続体へ：弾性体中の波動方程式の導出その2 6 6. 地球物理学入門：人類の至宝 オイラーの公式を理解する 7 7. 地球物理学入門：フーリエ級数とフーリエ積分 8 8. 地球物理学入門：線形システムへの入出力その1 9 9. 地球物理学入門：線形システムへの入出力その2 10 10. 地震を計測する=地震計の物理学 11 11. 地震波の伝搬=走時曲線・レイパラメーター 12 12. 震源と断層 =地震の規模・岩石の破壊 13 13. プレート境界型地震=アスペリティと比較沈み込み帯学 14 14. 地球を測量する 15 15. 東海地震				
受講要件					
テキスト	とくになし。				
参考書	地球科学に関連するシリーズの教科書の固体地球物理学関連 (例) 新版地学教育講座2「地震と火山」：安藤雅孝ほか，東海大出版 ・「地震学 第3版」：宇津徳治，共立出版株式会社 ・測地学会テキスト（一般向けの「測地学」の教科書）HP：				
予習・復習について	予習／復習大事です。数学的・物理学的思考に不慣れな人は特に復習頑張ってください。オフィスアワーも上手に使って下さい。				
成績評価の方法・基準	レポートとテストの成績				
オフィスアワー	水曜日 正午～夕方				
担当教員からのメッセージ					

授業科目名	電磁気学 I (Electromagnetism I)				
担当教員名	嶋田 大介 (SHIMADA Daisuke)		所属等	学術院理学領域	
			研究室	理A407 (理学部A棟)	
分担教員名					
クラス	理学専門科目	学期	前期		必修選択区分 必
対象学年	2年	単位数	2	曜日・時限	水3・4
キーワード	電場、電位、電流、磁場、ベクトルポテンシャル、ベクトル解析				
授業の目標	ベクトル解析を用いて静電場を理解することを目標とする。				
学習内容	物理学科で学ぶ電磁気学ではベクトル解析を用いる。ベクトル解析の意味や計算方法を詳しく説明し、電磁気学にどのように応用されているかを解説する。ベクトル解析を用いることで、電磁気学は簡潔に表現されることを学ぶ。				
授業計画	<p>テキストの各章を2, 3回の講義で行います</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 電荷に働く力 2. 静電場の性質 3. 静電場の微分法則 4. 導体と静電場 5. 定常電流の性質 6. 電流と静磁場 				
受講要件	一年次の物理学科専門科目と理系基礎科目を修得していることが望ましい。				
テキスト	物理入門コース 電磁気学 I 長岡洋介 著 岩波書店 ISBN: 4-00-007643-4				
参考書	物理入門コース「例解 電磁気学演習」 「物理のための数学」				
予習・復習について	予習と復習は授業内容の理解に必要であるため、必ず行うこと。				
成績評価の方法・基準	試験とレポートによって成績を評価する。				
オフィスアワー	適宜 (必要に応じて設定する場合がある)				
担当教員からのメッセージ	電気と磁気の現象を統一的な立場から理解する電磁気学は、物理の分野だけでなく、産業界においても重要である。この電磁気学を学ぶためには、 ∇ (ナブラ) 演算子の意味と使い方を理解する必要がある。授業ではこの点を詳しく説明するので、物理を理解するための道具として、 ∇ 演算子を自在に使えるようになって欲しい。				

授業科目名	<p style="text-align: center;">相対性理論 (The Theory of Relativity)</p>					
担当教員名	<p style="text-align: center;">森田 健 (MORITA Takeshi)</p>		所属等	<p style="text-align: center;">大学院理学領域</p>		
			研究室	<p style="text-align: center;">理 A402</p>		
分担教員名						
クラス	理学専門科目	学期	前期前半		必修選択区分	選必
対象学年	3年	単位数	1	曜日・時限	水 3・4	
キーワード	特殊相対性理論					
授業の目標	特殊相対性理論の基礎を学ぶ					
学習内容	特殊相対性理論の基礎や、相対性理論を学ぶ上で便利な数学の道具であるローレンツ変換やテンソルについて解説する。					
授業計画	<p>以下のような内容を予定する。</p> <ul style="list-style-type: none"> (1) 特殊相対性理論の基礎 (2) ローレンツ変換 (3) テンソル (4) 相対論的力学 					
受講要件	力学 I, II を修得していること。解析力学、物理数学 I、電磁気学 I, II も修得しているのが望ましい。					
テキスト	初回に案内する。					
参考書	初回に案内する。					
予習・復習について	毎回復習を必ずすること。					
成績評価の方法・基準	提出物および学期末試験					
オフィスアワー	随時					
担当教員からのメッセージ	多くの理論系の研究室では相対性理論の知識が必須なので、理論系志望の学生は三年生のうちに修得することを強く推奨する。また相対性理論は大学の物理において最も面白い内容の一つだと思うので楽しんで学んでもらえたらと思う。					

授業科目名	溶液化学 (Solution Chemistry)				
担当教員名	加藤 知香 (KATO Chika)		所属等	大学院理学領域	
			研究室	理学部A棟 307	
分担教員名					
クラス	理学専門科目	学期	前期		必修選択区分 必
対象学年	2年	単位数	2	曜日・時限	水 3・4
キーワード	溶液内化学平衡、酸塩基平衡、沈澱平衡、錯体平衡、酸化還元平衡				
授業の目標	溶液内イオン平衡の厳密な取り扱いの習得を目的としている。平衡定数を基に、反応物および生成物の平衡濃度の計算方法を学ぶ。				
学習内容	分析化学においては溶液内反応が最もよく利用されている。水と電解質溶液の性質、溶液内化学平衡の基礎理論、各種の化学反応とその分析化学への応用など、主として分析化学を学ぶために必要な溶液化学の基礎を解析する。				
授業計画	回 内容 1 第1章 溶液と濃度 (モル濃度、規定度、式量濃度) 2 第1章 溶液と濃度 (重量パーセント、ファクター、規定液の調製) 3 第2章 活量と濃度 (活量と活量係数、イオン強度) 4 第2章 活量と濃度 (デバイーヒュッケルの式、電解質と非電解質) 5 第3章 溶液内化学平衡 (化学平衡と質量作用の法則、平衡定数と自由エネルギー) 6 第3章 溶液内化学平衡 (化学平衡の移動、平衡定数を用いる計算) 7 第4章 酸塩基平衡 (酸と塩基、水のイオン積と pH、弱酸または弱塩基のみを含む溶液、弱酸と共役塩基を含む溶液、弱塩基と共役酸を含む溶液) 8 第4章 酸塩基平衡 (緩衝溶液、酸と塩基の混合、多塩基酸、多塩基酸の塩、酸塩基滴定曲線) 9 第5章 沈澱平衡 (溶解度と溶解度積、単純な沈澱平衡、共通イオンを含む沈澱平衡) 10 第5章 沈澱平衡 (分別沈澱、沈澱平衡の pH による影響、硫化物の沈澱、沈澱滴定曲線) 11 第6章 錯体平衡 (安定度定数、平均配位数とジョブの連続変化法、錯体平衡の pH による影響) 12 第6章 錯体平衡 (錯体平衡と沈澱平衡の競合、EDTA を含む溶液の平衡、キレート滴定曲線) 13 第7章 酸化還元平衡 (半反応と電池反応、標準水素電極と基準電極、標準電極電位) 14 第7章 酸化還元平衡 (起電力と平衡定数、酸化還元反応と電位、酸化還元滴定曲線) 15 第8章 溶液内イオン平衡とグラフ				
受講要件					
テキスト	小倉興太郎著 「溶液内イオン平衡と分析化学」(丸善)				
参考書					
予習・復習について	テキストの例題は、予習・復習で必ず解いておくこと。				
成績評価の方法・基準	基本的に期末試験で判断するが、受講態度も加味する。				
オフィスアワー	随時				
担当教員からのメッセージ	講義には関数電卓を持って来てください。				

授業科目名	情報生化学 (Biochemistry of Information)				
担当教員名	大吉 崇文 (OYOSHI Takanori)		所属等	大学院理学領域	
			研究室	大吉研究室 (理学部A棟 310)	
分担教員名					
クラス	理学専門科目	学期	前期		必修選択区分 選必
対象学年	3年	単位数	2	曜日・時限	水3・4
キーワード	核酸、遺伝子発現、転写、翻訳、DNA複製、DNA組み換え、染色体、染色体分配				
授業の目標	生命を情報という視点から学習し、その原理を学ぶ。				
学習内容	生命の遺伝情報という視点から解説します。生物の性質および形態を決定するのが遺伝情報であり、この遺伝情報の本体とは何か、どのようにしてこの情報を利用しているのか、そしてどのような仕組みで子孫へこの情報を受け継いでいくのかを解説します。				
授業計画	<p>テキストにそって、以下の内容を解説します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 転写 2. 核酸の構造 (I) 3. DNA の複製 4. DNA の修復 5. DNA の組み換え 6. 核酸の構造 (II) 7. RNA プロセッシング 8. 翻訳 9. 遺伝発現の調節 10. ヌクレオチド代謝 				
受講要件	基礎生化学、代謝生化学の履修を前提とする。生物学 I・II を履修していることが望ましい。				
テキスト	ヴォート基礎生化学・第4版 (東京化学同人)				
参考書	細胞の分子生物学・第5版 (ニュートンプレス)				
予習・復習について	ヴォート基礎生化学の予習と復習が必要である。				
成績評価の方法・基準	期末試験で評価する。				
オフィスアワー	月曜日～金曜日 8:00～19:00				
担当教員からのメッセージ	情報生化学は、DNA からの遺伝情報の伝達順序である「セントラルドグマ」を分子レベルで理解する科目です。特に生体分子の構造と機能との関連を意識して当該分野を理解してもらいたい。				

授業科目名	細胞生物学 (Cell Biology)				
担当教員名	丑丸 敬史 (USHIMARU Takashi)		所属等	学術院理学領域	
			研究室	総合研究棟 702	
分担教員名					
クラス	理学専門科目	学期	前期		必修選択区分 選必
対象学年	3年	単位数	2	曜日・時限	水 3・4
キーワード	細胞周期、シグナル伝達、細胞老化、アポトーシス、癌、DNA複製、染色体分離分配				
授業の目標	細胞の増殖のしくみに焦点をあてるとともに、細胞の積極的な死のしくみも学ぶ。				
学習内容	授業計画を参照。				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 普遍的な真理とモデル生物 2. モデル生物としての酵母 3. 細胞内のシグナル伝達 4. G1期に起きるイベント（中心体の複製開始。中心体の細胞周期を通じた挙動） 5. S期に起きるイベント（DNA複製。なぜ複製は一回しか起こらないか） 6. DNA複製チェックポイント（DNA複製が遅れた場合にS期から脱出しない機構） 7. M期に起きるイベント・1（染色体の分離。正確に1コピーずつ分配する機構） 8. M期に起きるイベント・2（染色体分離の完了とM期からの脱出） 9. DNAダメージチェックポイントと細胞周期（DNAダメージを修復するまで次の細胞周期に進まない機構） 10. 細胞分化と細胞周期（増殖か分化か？ G1期での選択） 11. アポトーシス 12. 癌（癌発症の機構） 				
受講要件	分子生物学、生化学をすでに受講していることが望ましい。				
テキスト	『細胞の分子生物学』（第15, 17, 18章）。				
参考書	必要に応じてプリントを配布する。				
予習・復習について	予習・復習として授業範囲のテキスト又はプリントを読む。				
成績評価の方法・基準	毎回の小テスト、期末のテスト、レポート。				
オフィスアワー	特に定めないが、夕方以降がありがたい。いない場合もあるため、来る前にはメール等で連絡をして欲しい。 sbtushi@ipc.shizuoka.ac.jp				
担当教員からのメッセージ	授業に積極的に参加して、質問を活発にして欲しい。				

授業科目名	地球ダイナミクス概論 I (Introduction to Geodynamics I)				
担当教員名	森下 祐一 (MORISHITA Yuichi)		所属等	大学院理学領域	
			研究室	理 C401	
分担教員名					
クラス	理学専門科目	学期	前期		必修選択区分 必
対象学年	2年	単位数	2	曜日・時限	水 3・4
キーワード	地球内部物質科学 (地球ダイナミクス)、岩石、鉱物、同位体、鉱物資源、マグマ熱水系				
授業の目標	固体地球を概観して、地球を構成する岩石・鉱物の基礎を学ぶとともに、今後の地球科学分野での学習、研究が円滑に進むよう、必須事項について理解を深めるようにする。				
学習内容	固体地球を概観して、地球を構成する岩石・鉱物の性質を様々な研究手法で明らかにする。特に、地球表層地殻における重要な現象である鉱物資源の生成を、元素の挙動 (溶解、移動、濃集) の観点から詳しく学ぶ。また具体的な研究に即して、地球科学における基盤手法を学ぶ。				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 授業のねらい：地球科学の見かた 2 プレートテクトニクスに基づく地球内部物質科学 (地球ダイナミクス) 3 岩石と鉱物の性質から導かれる知見 4 マグマ熱水系とメタルフロー (社会における金属の役割) 5 同位体の性質と分析法 6 地球科学における機器分析法 (気体質量分析法、二次イオン質量分析法など) 7 鉱物資源の形成：様々な熱水性鉱床の成因と鉱石の特徴 8 日本の鉱床 1：深熱水性鉱床 9 日本の鉱床 2：浅熱水性鉱床 10 日本の鉱床 3：スカルン鉱床 11 外国の鉱床、特に白金族鉱床と金鉱床 12 海底鉱物資源概論 13 鉱床成因解明研究と鉱床探査法 14 地熱発電と温泉、地中熱の利用 15 地球表層変動に関するトピックス 16 期末試験 				
受講要件	なし				
テキスト	ニューステージ「新地学図表」、浜島書店				
参考書	必要に応じて、授業の中で地球科学分野の書籍等を紹介する。				
予習・復習について	プロジェクターを用いて授業で紹介する内容の要点をノートに書留めて、テキストや随時配布するプリントと合わせて授業でのストーリーを追う復習をして欲しい。				
成績評価の方法・基準	原則として、2/3 以上の出席を前提として、期末の試験等に基づき評価する。				
オフィスアワー	授業の最後に質問時間を設ける。個別の質問はメールで時間を予約してから研究室に来て欲しい。				
担当教員からのメッセージ	地球科学は太陽系の一員としての地球を対象としており、諸事象が複雑に関連している。地球を理解するためには幅広い分野を学習すると同時に、専門性を持った学習も必要である。両方の立場から地球科学を広くかつ精緻に考える視点を身につけて欲しい。				

授業科目名	堆積学 (Sedimentology)				
担当教員名	北村 晃寿 (KITAMURA Akihisa)		所属等	大学院理学領域	
			研究室	共通教育 C 棟 311	
分担教員名					
クラス	理学専門科目	学期	前期前半		必修選択区分 選必
対象学年	3年	単位数	1	曜日・時限	水 3・4
キーワード	堆積作用、堆積構造、岩相解析、堆積環境、海水準変動				
授業の目標	堆積学についての基礎的かつ必須事項を修得する。				
学習内容	<p>生物進化や地球環境の変遷を明らかにする際に、地層中に残された様々な記録は大変に役立つ。それらの記録から正しい情報を引き出すためには、地層がどのように形成されたかを理解する必要がある。そこで、本講義では堆積作用、堆積構造、岩相解析、堆積環境、海水準変動に関して解説する。</p> <p>講義はパワーポイントと配布資料で行う。パワーポイントで「ノート」と示した箇所は、筆記具でノートに書き込むか、PCに打ち込むか、あるいは記憶する。カメラ撮影は許可しない。</p>				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 堆積作用一砕屑物の運搬と沈降 2. 堆積構造とベッドフォーム、 3. 堆積重力流 4. 生物攪拌 5. 岩相解析・河川とデルタの堆積物、初期火星のデルタの堆積物 6. 浅海・海底扇状地の堆積物 7. 海水準変動 				
受講要件	なし				
テキスト	なし。				
参考書	岩相解析および堆積構造（八木下晃司著・古今書院）。 毎回プリントを配布する。				
予習・復習について	配布資料とノートをもとに予習・復習すること。				
成績評価の方法・基準	試験結果とレポートの内容を加味して評価をする。ただし、出席 70%未満の場合は不可とする。				
オフィスアワー	相談内容・日時に関しては、まずメールで連絡下さい(アドレス：kitamura.akhisa@shizuoka.ac.jp)				
担当教員からのメッセージ	なし				

授業科目名	地球環境微生物学 (Environmental microbiology on earth)				
担当教員名	木村 浩之 (KIMURA HIROYUKI)		所属等	学術院理学領域	
			研究室	共通教育C棟 313	
分担教員名					
クラス	理学専門科目	学期	前期後半		必修選択区分 選必
対象学年	3年	単位数	1	曜日・時限	水3・4
キーワード	微生物、地球環境、物質循環、発酵、呼吸、化学合成、光合成、極限環境、ウイルス、オミクス解析				
授業の目標	微生物の多様性、生態、微生物と地球環境の相互作用についての知識を習得する。				
学習内容	地球微生物学の体系と理論と基本概念を解説する。講義はホワイトボードへの板書と講義資料を用いて行う。必ず、ノートを取ることを。				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 微生物はどのように生きているのか 2. 微生物の多様性 3. 微生物の生息域 4. 微生物の生態学と進化 5. 原核生物から真核生物への進化 6. 微生物遺伝学と分子微生物学 7. 微生物と地球環境 				
受講要件	なし				
テキスト	適時、プリントを配布する。				
参考書	適時、紹介する。				
予習・復習について	ノート、講義資料を使って、予習復習を行うこと。				
成績評価の方法・基準	試験の結果から、成績評価を行う。				
オフィスアワー	講義終了後 30 分。				
担当教員からのメッセージ					

授業科目名	集合・位相 (Introduction to Set theory and Topology)				
担当教員名	横山 美佐子 (YOKOYAMA Misako)		所属等	大学院理学領域	
			研究室	理 C614	
分担教員名					
クラス	理学専門科目	学期	前期		必修選択区分 必
対象学年	2年	単位数	2	曜日・時限	水 5・6
キーワード	集合、写像、連続、開集合、閉集合				
授業の目標	集合や写像、距離空間、位相空間の基礎を学ぶ。				
学習内容	集合と位相空間論の基本的事項について講義する。				
授業計画	<p>おおよそ、次のような内容を講義する。小テストをするかもしれない。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 真理値表 2. 集合 3. 写像、集合と写像 4. 2項演算 5. 実数と連続写像、中間値の定理 6. (距離空間) 距離関数、距離空間 7. (距離空間) 距離空間の例 (ユークリッド空間、他) 8. (距離空間) 開集合、閉集合 9. 中間テスト 10. (位相空間) 位相の公理、位相空間 11. (位相空間) 開集合、閉集合、位相空間の例 12. (位相空間) 連続写像 13. (位相空間) 連結、弧状連結 14. (位相空間) コンパクト 15. (位相空間) ハウスドルフ 				
受講要件					
テキスト					
参考書					
予習・復習について	毎回復習してください。				
成績評価の方法・基準	中間・期末試験を実施する予定。場合により、レポートを適宜出題することがある。				
オフィスアワー					
担当教員からのメッセージ					

授業科目名	基礎物理学 I (Fundamental Physics I)				
担当教員名	松山 晶彦 (MATSUYAMA Akihiko)		所属等	大学院理学領域	
			研究室	共通教育C棟C414	
分担教員名					
クラス	理学専門科目	学期	前期前半		必修選択区分 ー
対象学年	1年	単位数	2	曜日・時限	水5・6,金3・4
キーワード	力学、微分、積分				
授業の目標	物理学の基礎にある力学を学びながら、大学で物理学を学ぶために必要な数学を習得する。				
学習内容	適宜演習を交えながら力学と基礎的な数学を並行して学んでいく。「基礎物理学 I」では、これから必要になる基礎的な数学の習得に重点が置かれる。				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 微分積分の復習 2. 複素数、スカラーとベクトル, ベクトルの内積, ベクトルの外積 3. ベクトルの微分, 速度ベクトル, 加速度ベクトル 4. ニュートンの運動の3法則 5. テイラー展開 6. 偏微分, 全微分 7. 多変数関数のテイラー展開 8. 微分方程式 <p>この講義は週に2回開講され, 前期の前半16回分をもって終了する。前期の後半は, 「基礎物理学 I I」の講義が同じ形式で開講される。</p>				
受講要件	なし				
テキスト	和達 三樹著「物理のための数学 (物理入門コース 10)」(岩波書店、ISBN-13: 978-4000076500)				
参考書	植松恒夫著「力学」(学術図書出版社、ISBN-13: 978-4873619187)				
予習・復習について	授業のノートや教科書を読み, よく考えて, 手を動かし計算して, 復習することが大切である。授業中は理解できたつもりでいても後になると分からなくなってしまうことはよくあるので, その日のうちにノートをまとめる習慣をつけると良い。				
成績評価の方法・基準	出席、宿題、発表、および定期試験				
オフィスアワー	随時				
担当教員からのメッセージ	授業中も質問は随時受け付けるので, なるべくその場で理解するよう努力してほしい。				

授業科目名	基礎物理学Ⅱ (Fundamental Physics II)				
担当教員名	松山 晶彦 (MATSUYAMA Akihiko)		所属等	大学院理学領域	
			研究室	共通教育C棟C414	
分担教員名					
クラス	理学専門科目	学期	前期後半		必修選択区分
対象学年	1年	単位数	2	曜日・時限	水5・6,金3・4
キーワード	微分、積分、力学				
授業の目標	基礎物理学Ⅰに引き続き、物理学の基礎にある力学を学びながら、大学で物理学を学ぶために必要な数学を習得する。				
学習内容	適宜演習を交えながら、力学と基礎的な数学を並行して学んでいく。				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 簡単な運動の解析 2. 力積と運動量保存則 3. 極座標 4. 角運動量と力のモーメント 5. 中心力と角運動量保存則 6. 線積分と仕事 7. 保存力と力学的エネルギー保存則 8. 重積分 9. 万有引力のポテンシャルエネルギー <p>この講義は週に2回開講され、前期の後半16回分をもって終了する。前半は、「基礎物理学Ⅰ」の講義が同じ形式で開講される。</p>				
受講要件	基礎物理学Ⅰの単位を取得していることが望ましい。				
テキスト	植松恒夫著「力学」(学術図書出版社、ISBN-13: 978-4873619187)				
参考書	和達 三樹著「物理のための数学(物理入門コース10)」(岩波書店、ISBN-13: 978-4000076500)				
予習・復習について	授業のノートや教科書を読み、よく考えて、手を動かし計算して、復習することが大切である。授業中は理解できたつもりでいても後になると分からなくなってしまうことはよくあるので、その日のうちにノートをまとめる習慣をつけると良い。				
成績評価の方法・基準	出席、宿題、発表、および定期試験				
オフィスアワー	随時				
担当教員からのメッセージ	授業中も質問は随時受け付けるので、なるべくその場で理解するよう努力してほしい。				

授業科目名	代数学 (Algebra)				
担当教員名	毛利 出 (MORI Izuru)		所属等	大学院理学領域	
			研究室	理学部C棟511	
分担教員名					
クラス	理学専門科目	学期	前期		必修選択区分 必
対象学年	3年	単位数	2	曜日・時限	水7・8
キーワード	環、整域、イデアル、環準同型、剰余環、多項式環、加群				
授業の目標	環の基本的性質と例に精通する。				
学習内容	大雑把に言って、足し算、引き算、掛け算が定義できる集合を環といい、さらに割り算も定義できる集合を体という。体の代表的な例には、有理数の集合、実数の集合、複素数の集合など、体でない環の代表的な例には、整数の集合、多項式の集合、正方行列の集合などがある。この講義では、環の基本的な性質をこれらの代表的な例を通して徹底的に学習する。また時間があれば加群についても触れる。				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 環、体 2. 整域、ユークリッド整域 3. 多項式環 4. イデアル、単項イデアル整域 5. 剰余環 6. 環準同型 7. 局所化、商体 8. 素元分解整域 9. 加群 				
受講要件	代数学入門を履修していること。				
テキスト	テキストは指定しないが環論を含む代数学の入門書を1冊は購入すること。				
参考書	代数学（倉田吉喜著）近代科学社 代数入門一群と加群（堀田良之著）裳華房				
予習・復習について	授業内容はその日のうちに復習すること。分からないところは次の講義の前までに質問し解決しておくこと。				
成績評価の方法・基準	授業参加態度、小テスト、学期末試験などにより評価する。				
オフィスアワー	最初の授業で連絡する。				
担当教員からのメッセージ	環は群より親しみやすいと思うので、群が難しかった学生も頑張ってほしい。				

授業科目名	地球科学入門 I (Introduction to Geosciences I)				
担当教員名	平内 健一 (HIRAUCHI Kenichi)		所属等	大学院理学領域	
			研究室	共 C306	
分担教員名					
クラス	理学専門科目	学期	前期		必修選択区分
対象学年	1年	単位数	2	曜日・時限	木 1・2
キーワード	地球システム、鉱物、岩石、火山、地殻変形、造山運動、断層				
授業の目標	英語で書かれた教科書に沿って学習しながら、地球科学の基礎的素養を幅広く身につける。 地球科学の専門用語を英語と日本語に対応させ、その内容を理解する。				
学習内容	英語の教科書を使いながら、地球科学の基本的な考え方と、鉱物・岩石・火山に関する地球科学の基礎知識を学習する。				
授業計画	Chap.1. Introduction to Earth Science Chap.2 Matter and Minerals Chap.3. Rocks: Materials on the Solid Earth Chap.9. Volcanoes and Other Igneous Activity Chap.10. Crustal Deformation and Mountain Building				
受講要件	特になし				
テキスト	Tarbuck, E. J., Ludgens, F. K., Tasa, D., Earth Science. 14th Edition. (2015)PEARSON, ISBN 10: 1-292-06131-6 ニューステージ新地学図表 - 地学基礎+地学 (浜島書店, 2013)				
参考書	酒井治孝著「地球学入門 惑星地球と大気・海洋のシステム」東海大学出版会, 2003, ISBN978-4-486-01615-1				
予習・復習について	英語辞書などを使って教科書をよく読み、十分に予習してきてください。				
成績評価の方法・基準	出席、小テスト・小レポートおよび試験の成績により総合的に評価する。				
オフィスアワー	相談の際はメールでアポイントをとってください。				
担当教員からのメッセージ					

授業科目名	統計力学 I (Statistical Mechanics I)				
担当教員名	鈴木 淳史 (SUZUKI Junji)		所属等	大学院理学領域	
			研究室	理学部 A 棟 502	
分担教員名					
クラス	理学専門科目	学期	前期		必修選択区分 必
対象学年	3 年	単位数	2	曜日・時限	木 3・4
キーワード	温度、エントロピー				
授業の目標					
学習内容	マクロな立場で構築された熱力学をミクロな立場から理解する。				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 確率の復習 2. 確率過程, 分布関数 3. 解析力学の復習 4. ブラウン運動 5. 一般力, ゆらぎ 6. Boltzmann の H 関数 7. ミクロとマクロ 8. 統計集団の考え方 9. ミクロカノニカル集団とエントロピー 10. カノニカル分布と自由エネルギー 				
受講要件	3 年生の科目の受講条件をクリアしていること。				
テキスト	授業初回に紹介する。				
参考書	「大学演習 熱学・統計力学」 裳華房 久保亮五 編など				
予習・復習について	毎回やること。特に復習が重要				
成績評価の方法・基準	中間・期末試験（欠席は受講放棄とみなす）とレポート・出席で総合評価				
オフィスアワー	随時				
担当教員からのメッセージ					

授業科目名	構造錯体化学 (Structural Coordination Chemistry)				
担当教員名	近藤 満 (KONDO Mitsuru)		所属等	グリーン科学技術研究所	
			研究室	総合研究棟 501	
分担教員名					
クラス	理学専門科目	学期	前期		必修選択区分 選必
対象学年	3年	単位数	2	曜日・時限	木3・4
キーワード	錯体化学、錯体の命名法、錯体の立体構造、配位子場理論、電子スペクトル、磁氣的性質、第一遷移元素の化合物				
授業の目標	配位化合物を理解するための基本的な法則や原理を学ぶ。				
学習内容	金属原子または金属イオンが、陰イオンや中性分子の無機化合物、あるいは有機化合物との組み合わせから、多様な金属錯体（配位化合物ともよばれる）を生成する。金属錯体や、金属を含む化合物が様々な色を出すしくみ、さらに、その制御された立体構造や種々の化学的・物理的性質がどのような原理で発現するのかを学ぶ。錯体化学の基礎となる命名法や異性現象、配位結合の理論と構造および性質との関係、さらに個々の第一遷移金属の性質について解説する。				
授業計画	<p>テキストの章に従い、次の項目を講義する。</p> <p>20～23章：dブロック金属の化学</p> <p>29章：生体内の微量金属</p> <p>回 内容</p> <p>1 21章 dブロック金属の化学：配位化合物／結晶場理論</p> <p>2 21章 dブロック金属の化学：配位化合物／八面体型錯体の結晶場 他</p> <p>3 21章 dブロック金属の化学：配位化合物／金属イオンのジオメトリーと結晶場の関係 他</p> <p>4 21章 dブロック金属の化学：配位化合物／高スピンおよび低スピン 他</p> <p>5 21章 dブロック金属の化学：配位化合物／金属錯体の電子スペクトルについて</p> <p>6 21章 dブロック金属の化学：配位化合物／金属錯体の磁氣的性質</p> <p>7 20章 dブロック金属の化学：概説／金属錯体の構造全般</p> <p>8 22章 dブロック金属の化学：第一列金属／産出、用途他</p> <p>9 22章 dブロック金属の化学：第一列金属／チタン、バナジウム、マンガン、鉄 他</p> <p>10 22章 dブロック金属の化学：第一列金属／コバルト、ニッケル、銅 他</p> <p>11 23章 dブロック金属の化学：第二列および第三列金属／産出、用途他</p> <p>12 23章 dブロック金属の化学：第二列および第三列金属／ニオブ、タンタル、タングステン 他</p> <p>13 23章 dブロック金属の化学：第二列および第三列金属／ロジウム、イリジウム、白金 他</p> <p>14 29章 生体内の微量金属/金属貯蔵と輸送 他</p> <p>15 29章 生体内の微量金属/生体内に見られる種々の反応</p>				
受講要件	「無機化学Ⅰ」で学ぶ無機化学の基礎が理解されているものとして解説する。				
テキスト	Catherine E, Housecroft・Alan G. Sharpe 著／巽 和行・西原 寛・他 監訳 「ハウスクロフト無機化学（下）」（東京化学同人）				
参考書	必要に応じて講義中に紹介する。				
予習・復習について	授業毎に予習と復習をすること。				
成績評価の方法・基準	試験により評価する。				
オフィスアワー	特に指定しない。				
担当教員からのメッセージ	質問はできるだけ授業中に。研究室での質問等も随時受け付ける。				

授業科目名	植物系統分類学 (Plant Systematics)				
担当教員名	徳岡 徹 (TOKUOKA Toru)		所属等	大学院理学領域	
			研究室	理学部A棟 517	
分担教員名					
クラス	理学専門科目	学期	前期		必修選択区分 選必
対象学年	3年	単位数	2	曜日・時限	木 3・4
キーワード	被子植物、系統、形態、進化				
授業の目標	地球上には非常に多様な植物が生育している。この多様な形態を学び、この多様性を生み出した進化を理解する。				
学習内容	被子植物は地球上におよそ25万種ある。これらを進化の順序に従って整然と分類することを目標に研究者は植物の様々な形態から始まりDNAデータまでを詳細に観察してきました。これらの知見を紹介し、様々な植物それぞれの特徴を学び、現在見られる膨大な多様性を生み出した進化がどのように起こったのかを考える。				
授業計画	回 内容 1 ガイダンス：植物の多様性 2 分類とは 3 系統解析の基礎 1 4 系統解析の基礎 2 5 系統解析の基礎 3 6 生活環、藻類、コケ類 7 シダ植物 1 8 シダ植物 2、裸子植物 1 9 裸子植物 2 10 被子植物の共有派生形質 11 原始的被子植物 12 単子葉植物 13 離弁花植物 14 合弁花植物 15 まとめ				
受講要件					
テキスト	特に指定しない。資料は随時配布します。				
参考書	Plant Systematics: A Phylogenetic Approach, Walter S. Judd (ed.), Sinauer, 2002, 0878934030 被子植物の系統、田村道夫、三省堂、1974、BN01321887 (NCID)				
予習・復習について	関連する事項について、参考書などを活用して予習・復習するようにしてください				
成績評価の方法・基準	授業中の小レポートと期末試験により評価する				
オフィスアワー	特に定めていないが、随時受け入れます				
担当教員からのメッセージ					

授業科目名	放射線物理学概論 (Fundamentals of Radiation Physics)				
担当教員名	近田 拓未 (CHIKADA Takumi)		所属等	学術院理学領域	
			研究室	理学部 A 棟 204	
分担教員名					
クラス	理学専門科目	学期	前期		必修選択区分 ー
対象学年	2年	単位数	2	曜日・時限	木 5・6
キーワード	放射線、放射性核種、放射線取扱主任者				
授業の目標	全学科の2～4年生を対象とした、放射線取扱主任者試験に向けて必要となる放射線物理学の基礎の理解				
学習内容	原子核の構造、放射性崩壊、核反応および放射線と物質の相互作用等を解説するとともに逐次演習を行う。				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 原子の構造 原子模型、励起と電離、X線、オージェ効果 2. 原子核の構造 原子質量単位、結合エネルギーと原子核の大きさ 3. 放射性壊変 α壊変、β壊変、γ線の放出と原子核のエネルギー準位、自発核分裂、壊変の法則、壊変図式 4. 核反応 核反応の表式、核反応断面積、放射性核種の生成、核反応の種類、放射化 5. 加速器 加速器の原理、加速器の種類 6. 荷電粒子と物質の相互作用 電離と励起、阻止能と飛程、電子と物質の相互作用、重荷電粒子と物質の相互作用 7. 光子と物質の相互作用 光電効果、コンプトン効果、電子対生成、光子の減弱と物質へのエネルギー伝達、衝突カーマ、吸収線量、照射線量 8. 中性子と物質の相互作用 中性子捕獲反応、弾性散乱、その他の中性子反応 				
受講要件	特になし				
テキスト	放射線概論 第9版 (柴田 徳思 編、通商産業研究社)				
参考書	放射線取扱主任者試験問題集 第1種、第2種 (発行：通商産業研究社)				
予習・復習について	毎回の講義内容を演習問題とともに必ず復習すること。				
成績評価の方法・基準	毎回の演習および期末試験により評価する。				
オフィスアワー	随時				
担当教員からのメッセージ	放射線取扱主任者試験の受験を目指す学生は、本講義の他に放射化学概論（化学科の学生には別途放射化学 I・II が開講される）、放射線生物学概論、放射線計測・管理学概論を受講することで試験範囲の大半を網羅できます。 放射線取扱主任者は、多くの企業や研究機関で必要とされる国家資格です。学生時代に資格を取り、自らに付加価値を付けよう！				

授業科目名	量子力学 I (Quantum Mechanics I)				
担当教員名	松本 正茂 (MATSUMOTO Masashige)		所属等	学術院理学領域	
			研究室	理学部 A 棟 A501	
分担教員名					
クラス	理学専門科目	学期	前期		必修選択区分 必
対象学年	3 年	単位数	2	曜日・時限	金 1・2
キーワード	波動関数、確率振幅、シュレディンガー方程式、エネルギー固有関数、トンネル効果				
授業の目標	量子力学の考え方を習得し、基本的な問題を解いて、量子力学の理解を深めることを目標とする。				
学習内容	実験事実をもとに量子力学の基本的な考え方を説明し、典型的な問題について解説しながら、量子力学の基本的な理論形式を学ぶ。				
授業計画	<p>指定しているテキストにそって講義する。 講義内容は以下の通り。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 波動について 2. 量子力学的世界観 3. 平面波 4. 調和振動子 5. 波束 6. 量子力学の理論形式 				
受講要件	基礎物理学 I・II、力学 I・II、解析力学、電磁気学 I・II、物理数学 I を履修していることが望ましい。				
テキスト	「量子力学」小形正男／著 (裳華房)				
参考書	必要に応じて紹介する。				
予習・復習について	予習と復習は授業内容の理解に必要であるため、必ず行うこと。				
成績評価の方法・基準	試験結果によって成績を評価する。				
オフィスアワー	随時。場合によっては、必要に応じて設定する。				
担当教員からのメッセージ	現代物理学は量子力学を抜きに語ることはできない。量子力学の考え方は、これまで勉強してきた古典の物理学（力学や電磁気学）とは大きく異なるが、柔軟に対応して、この考え方を習得してほしい。自ら手を動かすことが大事である。				

授業科目名	無機化学Ⅱ (Inorganic Chemistry II)				
担当教員名	守谷 誠 (MORIYA Makoto)		所属等	学術院理学領域	
			研究室	理 A306	
分担教員名					
クラス	理学専門科目	学期	前期		必修選択区分 必
対象学年	3年	単位数	2	曜日・時限	金 1・2
キーワード	無機化学、酸化と還元、非水系溶媒、典型元素の性質、材料科学				
授業の目標	酸と塩基、典型元素の性質など無機化学を理解するための基礎を習得する。				
学習内容	「無機化学Ⅰ」で学習した無機化学の基本的な法則や原理を踏まえ、無機化合物の反応において重要な溶媒の種類と性質および酸と塩基の定義を解説した後、主に典型元素の単体と化合物について、同族元素に共通する性質と各元素に特有の性質を解説する。				
授業計画	<p>「無機化学Ⅰ」に引き続き、元素の構造と性質について解説する。酸化還元概念と定義、水素や酸素の電子状態や反応性など、無機化合物の性質について紹介する。テキストの章に従い、次の項目を講義する。</p> <p>回 内容</p> <p>1 8章：酸化と還元 酸化還元反応と酸化数 還元電位とギブズエネルギー</p> <p>2 8章：酸化と還元 電位図、酸化還元反応の工業プロセスへの応用</p> <p>3 9章：非水系溶媒 比誘電率、非水溶媒中での酸-塩基の挙動</p> <p>4 9章：液体アンモニア、液体フッ化水素、硫酸、超酸</p> <p>5 9章：イオン液体、超臨界流体</p> <p>6 10章：水素</p> <p>7 11章：1族元素 アルカリ金属</p> <p>8 12章：2族金属元素</p> <p>9 13章：13族元素</p> <p>10 14章：14族元素 炭素</p> <p>11 14章：14族元素 ケイ素、ゲルマニウム、スズ、鉛</p> <p>12 15章：15族元素</p> <p>13 16章：16族元素</p> <p>14 17章・18章：17族・18族元素</p> <p>15 28章：固体化学に関する最新の話</p>				
受講要件	無機化学Ⅰを履修していること。				
テキスト	C. E. Housecroft・A. G. Sharpe 著／巽和行・西原寛・穂田宗隆・酒井健 監訳 「ハウスクロフト無機化学(上)」(東京化学同人)				
参考書	講義中に紹介する。				
予習・復習について	毎回の講義毎に予習・復習をすること。				
成績評価の方法・基準	レポート、期末試験の結果を総合して評価する。				
オフィスアワー	質問はできるだけ授業中に。特に時間を指定しないが、研究室での質問等は随時受け付ける。				
担当教員からのメッセージ					

授業科目名	生物学 I (Biology I)				
担当教員名	徳元 俊伸 (TOKUMOTO Toshinobu)		所属等	学術院理学領域	
			研究室	総合研究棟 625 室	
分担教員名	丑丸 敬史				
クラス	理学専門科目	学期	前期		必修選択区分 ー
対象学年	1 年	単位数	2	曜日・時限	金 1・2
キーワード	生体分子、生命の起源、細胞構造、細胞分裂、有性生殖と減数分裂、DNA、遺伝子組換え技術、ゲノム、遺伝子発現の制御				
授業の目標	生物学 I と生物学 II を前期、後期を通して、生物学の幅広い分野の基礎を学ぶ。				
学習内容	主に名著レーヴン／ジョンソン『生物学』（上）をテキストとして生物学の基礎を学ぶ（本授業の続きは後期に生物学 II として開講される）。まず生物とは何かを定義し、生命の最小単位である細胞について、またそれをささえる分子、DNA に関して解説する。さらに、生命の期限、遺伝子組換え技術についても教科書に準じて学ぶ。				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 生物学とは 2. 分子の性質 3. 生命の科学的基礎 4. 生命の起源と初期の進化 5. 細胞の構造 6. 細胞はいかに分裂するか？ 7. 自然淘汰と性淘汰 8. 試験 9. 膜 10. 細胞間の相互作用 1 11. 細胞間の相互作用 2 12. 有性生殖と減数分裂 1 13. 有性生殖と減数分裂 2 14. 遺伝の様式 1 15. 遺伝の様式 2 16. 試験 				
受講要件	特になし				
テキスト	レーヴン／ジョンソン『生物学』（上巻）				
参考書	麻生一枝『科学でわかる 男と女の心と脳』、その他、適宜紹介				
予習・復習について	定められている教科書で予習復習、配布資料で復習を行う。				
成績評価の方法・基準	2 回のテストの他、出席代わりに毎回の小問から理解具合を参考に評価する。				
オフィスアワー	丑丸：月曜午後、徳元：月曜日 7・8 時限（2 時 25 分～3 時 55 分）を予定				
担当教員からのメッセージ	当講義の内容をヒントに、生命に対する認識を拓け、生物科学の専門講義や実験、卒業研究等の基礎を築いてほしい。自ら学びとる力を養ってほしい。				

授業科目名	分子遺伝学 (Molecular Genetics)				
担当教員名	山内 清志 (YAMAUCHI Kiyoshi)		所属等	グリーン科学技術研究所	
			研究室	総合研究棟 602	
分担教員名					
クラス	理学専門科目	学期	前期		必修選択区分 選必
対象学年	3年	単位数	2	曜日・時限	金 1・2
キーワード	ゲノム情報、転写調節、転写後調節、機能解析技術				
授業の目標	遺伝情報の発現調節機構を理解する。				
学習内容	染色体遺伝子の可変性を理解し、その発現調節を転写や翻訳および翻訳後レベルで学習する。また、種々の RNA を介した調節に触れ、ゲノム進化についての理解を深める。				
授業計画	回 内容 1 ゲノム解析からわかること 2 遺伝子調節蛋白質 3 DNA 結合モチーフ 4 オペロン説 5 原核生物の遺伝子発現制御 6 λファージの溶菌・溶原コントロール 7 真核生物の転写 8 RNA プロセッシング 9 転写制御 10 シグナル伝達系 11 翻訳後修飾 12 タンパク質にならない RNA の機能 13 DNA のメチル化とヒストンのアセチル化 14 遺伝子発現と機能解析技術 15 まとめ				
受講要件	「分子生物学」(1年・後期)と履修していることが望ましい。				
テキスト	化学同人 「ベーシック分子生物学」米崎・升方・金沢 ISBN 978-4-7598-1582-5				
参考書	指定しない				
予習・復習について	授業の進行に合わせてテキストを用いて予習・復習に取り組むこと。				
成績評価の方法・基準	毎回の授業の開始時に前回の授業の復習を兼ねて小テストを行い、それによって普段の学習への姿勢を評価し(33%)、試験において到達度を評価する(66%)。両者の評価を総合して最終的な成績評価とする。				
オフィスアワー	適宜応じる。事前に sbkyama@ipc.shizuoka.ac.jp に連絡すること。				
担当教員からのメッセージ	積極的な姿勢で受講してほしい。				

授業科目名	岩石学 (Petrology)				
担当教員名	道林 克禎 (MICHIBAYASHI Katsuyoshi)		所属等	大学院理学領域	
			研究室	理学部C棟 401	
分担教員名	石橋 秀巳				
クラス	理学専門科目	学期	前期		必修選択区分 必
対象学年	3年	単位数	2	曜日・時限	金 1・2
キーワード	マグマ、岩石、造岩鉱物、結晶、相平衡				
授業の目標	火成岩と変成岩の産状と、それらの生成メカニズムについて理解する。				
学習内容	鉱物と岩石の基礎的事項の理解の上で、火成岩と変成岩の産状、組織・構造、化学組成と構成鉱物およびそれらの形成メカニズムについて学習する。				
授業計画	<p>I. 火成岩 (石橋担当)</p> <p>1. 鉱物共生の熱力学と相律、相図</p> <p>2. 結晶作用</p> <p>3. マグマの地球科学とテクトニクス</p> <p>II. 変成岩</p> <p>1. 変成岩の種類と組織</p> <p>2. 変成作用</p> <p>3. テクトニクスと変成作用</p> <p>回 内容</p> <p>1 主要造岩鉱物と岩石の分類</p> <p>2 鉱物共生の熱力学的原理と相律</p> <p>3 マグマの相図 1</p> <p>4 マグマの相図 2</p> <p>5 結晶作用のカイネティクス</p> <p>6 元素分配と微量元素の挙動</p> <p>7 火成岩と火成活動</p> <p>8 中間テスト</p> <p>9 変成作用と変成岩</p> <p>10 変成岩の組織と構造</p> <p>11 変成鉱物の共生</p> <p>12 変成相と変成相系列 1</p> <p>13 変成相と変成相系列 2</p> <p>14 温度-圧力経路</p> <p>15 変成相系列とテクトニクス</p>				
受講要件					
テキスト					
参考書	高橋正樹, 島弧・マグマ・テクトニクス, 東京大学出版会 榎並正樹, 岩石学 (現代地球科学入門シリーズ 16), 共立出版 周藤賢治・小山内康人, 岩石学概論〈上〉「記載岩石学」, 岩石学概論〈下〉「解析岩石学」, 共立出版 新版地学教育講座 4 巻, 岩石と地下資源, 東海大学出版会 岩波講座地球惑星科学, 8, 9, 10 巻, 岩波書店, 東京. 変成作用, 都城秋穂, 岩波書店				
予習・復習について	授業内容に関係した部分について適宜参考書を独習しておくことを勧める。				
成績評価の方法・基準	出席状況と課題レポート、中間テストと学期末テストを総合して評価する				
オフィスアワー	基本的にメールで対応する。				
担当教員からのメッセージ					

授業科目名	微分積分学Ⅱ (Infinitesimal Calculus II)				
担当教員名	田中 直樹 (TANAKA Naoki)		所属等	大学院理学領域	
			研究室	理学部 C 棟 602	
分担教員名					
クラス	理学専門科目	学期	前期		必修選択区分 必
対象学年	2年	単位数	2	曜日・時限	金 3・4
キーワード	1 変数関数の微分、平均値の定理、Taylor の定理、正項級数、Taylor 展開				
授業の目標	1 変数の微分学に登場する諸定理の厳密な証明を理解すること、及び、微分に関する公式を利用でき、初等関数の微分を取り扱うことができることを目標とする。				
学習内容	1 変数関数の微分の定義と微分に関する公式（逆関数の微分法、合成関数の微分法など）、平均値の定理とその応用である l' Hospital の定理を考察する。さらに、高次導関数の概念を導入し、Leibniz の公式を紹介する。また、Taylor の定理とその応用について論ずる。最後に、無限級数に関する基礎的な定理を紹介し、その応用として、初等関数の Maclaurin 展開について考察する。				
授業計画	1. 開集合と閉集合 2. 微分係数と導関数 3. 合成関数の微分 4. 逆関数の微分 5. 初等関数の微分と対数微分法 6. 極大・極小 7. Rolle の定理 8. Cauchy の平均値の定理 9. 平均値の定理の応用と l' Hospital の定理 1 0. 高次導関数と Leibniz の公式 1 1. Taylor の定理 1 2. Taylor の定理の応用と凸関数 1 3. 級数の収束・発散 1 4. 正項級数、交代級数の収束条件 1 5. 初等関数の Taylor 展開				
受講要件	微分積分学Ⅰの内容を理解していることが望ましい。				
テキスト	白岩謙一著「解析学入門」学術図書(87361-114-8)				
参考書	笠原皓司著「微分積分学」サイエンス社（サイエンスライブラリ 1 2）(7819-0108-5) 青木利夫・吉原健一・樋口禎一・寺田敏司共著「改訂 演習・微分積分学」培風館 ISBN 4563-00197-X;ISBN 978-4563001971				
予習・復習について	授業のノートおよびテキストで予習および復習、特に多大の時間をかけて復習をすることが重要である。				
成績評価の方法・基準	成績評価の主要部は試験の成績の良否による。関連したレポート問題を課す場合には、その実績も考慮する。試験やレポートでの評価は論述的解答および記述が求められる。				
オフィスアワー	初回の講義の際に時間を設定する。				
担当教員からのメッセージ	テキストや参考書の演習問題を各自で解くことを勧める。問題に取り組むことで理解が深まります。				

授業科目名	解析学 (Introduction to Analysis)				
担当教員名	田中 直樹 (TANAKA Naoki)		所属等	大学院理学領域	
			研究室	理学部 C 棟 602	
分担教員名					
クラス	理学専門科目	学期	前期		必修選択区分 必
対象学年	3 年	単位数	2	曜日・時限	金 5・6
キーワード	σ 集合体、測度、可測空間、可測関数、ルベーグの収束定理、Fubini の定理				
授業の目標	σ 集合体、測度、可測空間、可測関数などの定義を体得し、ルベーグ積分に関する定理の証明において、その行間の内容を補って理解する習慣を身につける。積分記号と極限記号の交換可能性を意味する単調収束定理・ルベーグの収束定理、および積分の順序交換に関する Fubini の定理など基本的で重要な定理の修得を目標とする。				
学習内容	ルベーグ積分は、リーマン積分の問題点（完備性の欠落など）を改良した積分である。まず、広い意味の長さを指す言葉「測度」の概念を導入し、その性質を調べる。さらに、関数の積分を定義するために、被積分関数として「可測関数」の概念を導入する。それらをもとにルベーグ積分を定義し、積分に関する諸定理（単調収束定理、ルベーグの収束定理、Fubini の定理など）を解説する。				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. Riemann 積分と面積 2. σ 集合体 3. 測度の定義と諸性質 4. 測度空間の完備化 5. 外測度 6. Hopf-Kolmogorov の拡張定理 7. Borel 測度 8. Lebesgue 測度 9. 可測関数の定義と諸性質 10. Egorov の定理と Lusin の定理 11. 積分の定義 12. 積分に関する諸性質 13. 収束定理 14. 直積測度 15. Fubini の定理 				
受講要件	微分積分学 I、II の内容を理解していることが望ましい。				
テキスト	特になし。				
参考書	ルベーグ積分入門、伊藤清三、裳華房、ISBN 4-7853-1304-8 測度と積分、鶴見茂、理工学社、ISBN 4-8445-0115-1				
予習・復習について	予習と復習を行い、理解度を高めてほしい。				
成績評価の方法・基準	定期試験の結果（80%）、受講態度・レポート（20%）により総合的に判断する。				
オフィスアワー	最初の講義の際に連絡する。				
担当教員からのメッセージ	測度論は、解析学 I で学ぶ L^p 空間（ p 乗可積分空間）の基礎であり、確率論や偏微分方程式への応用にも用いられる理論である。実数論や集合論と関係する抽象的な概念のため、初めのうちは取り付きにくい感じがするかも知れないが、行間の内容を補い理解を深めて欲しい。				

授業科目名	物理実験学 I (Practical Physics I)				
担当教員名	嶋田 大介 (SHIMADA Daisuke)		所属等	学術院理学領域	
			研究室	理A407 (理学部A棟)	
分担教員名					
クラス	理学専門科目	学期	前期		必修選択区分
対象学年	2年	単位数		曜日・時限	金 5・6
キーワード	物理学実験、実験方法、測定方法、データ処理、レポート作成、誤差、エレクトロニクス、実験用回路作製、電気回路、半導体回路				
授業の目標	物理学科2年生から始まる物理学実験と対応し、物理学実験方法とエレクトロニクスの基礎を習得する。				
学習内容	物理学実験 I と並行して実験を行うのに必要な事柄に関する講義を行う。さらに、物理実験で行う電気回路に関する基礎的な理論を修得する講義がないので、前半は交流回路の基礎に関する講義を行う。後半は物理学実験 I および物理学実験 I I の中からいくつかの実験テーマを選び、理論的な原理などを紹介する。				
授業計画	単位について 電気回路の基礎 直流回路の解き方 交流回路の解き方 I 交流回路の解き方 I I 共振回路 誤差について 最小 2 乗法 グラフとレポートの書き方 学生実験のいくつかのテーマについて				
受講要件	物理学科 2 年生の必修科目。				
テキスト	講義の中で必要なときに紹介する。				
参考書	講義の中で必要なときに紹介する。				
予習・復習について	復習を重視すること。講義内容を、実際の物理実験時に参考にすること。必要な部分は、図書館等で調べことを勧める。				
成績評価の方法・基準	小テスト、レポート、試験の結果により評価する				
オフィスアワー	水曜日の 12 時-14 時 理学部 B 棟 207 室にて				
担当教員からのメッセージ	物理学実験を適切に行って行く為の基礎を学ぶ。その為、実学的・技術的内容が含まれる。実験に必要なエレクトロニクスの基礎をこの講義で学ぶ。				

授業科目名	物理実験学Ⅱ (Practical Physics Ⅱ)				
担当教員名	三重野 哲 (MIENO Tetsu)		所属等	創造科学技術研究部	
			研究室	三重野研究室。理学部 A408 室	
分担教員名					
クラス	理学専門科目	学期	前期		必修選択区分 選必
対象学年	3 年	単位数	2	曜日・時限	金 5・6
キーワード	物理実験、実験方法、測定方法、実証性、再現性、信頼性、発見、発明、データ処理、誤差				
授業の目標	実験や開発に取り組む時、どのようにすれば短時間で正確に目標に達することができるか学ぶ。実験計画時、実施時および実験後のデータ処理に必要な種々の知識を学ぶ。				
学習内容	研究・開発の場面では、しばしば実験・観測が必要となるが、ここでは物理学実験の場合を考える。実験結果から目的の現象が証明されたか？再現性・信頼性は有るか？定量的に値は正しいか？時間や実験装置は有効に使えたか？などの実験方法の適切さについて学習する。また、実験準備を合理的に行い、短時間で人々の評価を得るにはどうしたら良いか検討する。ビデオと配布資料を利用する。				
授業計画	1) 序論 2) 実験・観測の目的、意義 3) 実験計画法 4) 文献・資料の集め方 5) 実験の取り組み方。安全な実験。 6) 実験材料、試料、装置。試料や装置の準備。 7) 授受の物理量の測定方法、観測方法。 8) データ処理、コンピュータ利用 9) 実験のまとめ方。公表の仕方。				
受講要件	「物理実験学Ⅰ」の知識。物理学実験の経験。				
テキスト	プリントを配布する。ファイルに綴じること。				
参考書	物理実験指導書。物理実験者の為の13章(兵藤、東大出版会)。あなたも狙えノーベル賞(石田、化学同人)。セレンディピティ(化学同人)など。				
予習・復習について	復習を重視する。興味ある内容は、自主的に調べて欲しい。				
成績評価の方法・基準	受講状況、小テスト、レポート、試験(論述問題)にて成績を出す。レポートは、自分の力で調べてまとめること。				
オフィスアワー	月曜日、夕方、16時~18時を予定。				
担当教員からのメッセージ	多くの卒業生が、物理の基礎知識を身につけて、社会で活躍しています。研究や開発の現場で、実験知識は役立つでしょう。正確で分かりやすいレポート作成能力は、社会で役立ちます。				

授業科目名	地球科学入門Ⅱ (Introduction to Earth Sciences II)				
担当教員名	鈴木 雄太郎 (SUZUKI Yutaro)		所属等	大学院理学領域	
			研究室	理学部 C 棟 502	
分担教員名					
クラス	理学専門科目	学期	前期		必修選択区分
対象学年	1 年	単位数	2	曜日・時限	金 7・8
キーワード	風化・土壌、水、氷河・砂漠・風、地質年代、地球史				
授業の目標	英語で書かれた教科書に沿って地球科学全般を学習しながら英語表現や専門用語に慣れる。3・4年で学習する英語の論文を読み・理解する能力を身につける。				
学習内容	地球科学全般の基礎知識を学習し、習得する。 特に地形を形成する作用／堆積岩／地球史について学ぶ。				
授業計画	<ul style="list-style-type: none"> ・第 1～6 回講義まで堆積岩を組み込んだ以下の第 2 編を学んでゆく。 第 2 編 Sculpturing Earth' s Surface. 第 4 章: Weathering, Soil, and Mass Wasting. 第 5 章: Running Water and Ground Water. 第 6 章: Glaciers, Deserts, and Wind. ・第 7 回: 理解度テスト。 ・第 7～15 回講義まで堆積岩を組み込んだ以下の第 2 編を学んでゆく。 第 4 編 Deciphering Earth' s History. 第 11 章: Geologic Time. 第 12 章: Earth' s Evolution through Geologic Time. ・第 7～15 回講義の範囲でテストを行う。 				
受講要件	特になし。				
テキスト	<ul style="list-style-type: none"> ・ Earth Science : Pearson New International Edition, 810pp. 著者 : E.J. Tarbuck, F.K. Lutgens, D.G. Tasa. ・ ニューステージ新地学図表—地学基礎+地学対応 浜島書店 				
参考書	特になし。				
予習・復習について	十分に英語辞書を使って教科書を予習しておくことをすすめる。				
成績評価の方法・基準	試験結果とレポートの内容を総合的に評価して成績とする。出席率も評価に加味する。				
オフィスアワー	相談などは、事前にメールで連絡すること。				
担当教員からのメッセージ					

授業科目名	有機化学概論 (Introduction to Organic Chemistry)				
担当教員名	河合 真吾 (KAWAI Shingo)		所属等	大学院農学領域	
			研究室	農学部総合棟 325	
分担教員名					
クラス	生物資源	学期	前期		必修選択区分 ー
対象学年	2年	単位数	2	曜日・時限	月 1・2
キーワード	有機化合物の構造と結合、立体化学、求核付加反応、縮合反応、生体分子、生体分子の代謝				
授業の目標	有機化学の重要性を理解し、有機化合物の構造、命名法、立体化学、反応性の基礎を学ぶとともに生体成分の化学についても理解する。				
学習内容	有機分子の構造・性質について講義した後、構造式や命名法、立体化学、反応機構の基礎を概説する。さらに、生体分子の化学構造について講義し、代謝経路を有機化学の観点から理解する。				
授業計画	回 内容 1 構造と結合：酸と塩基 2 有機化合物の性質 アルケン 3 アルケンとアルキンの反応 4 芳香族化合物 5 立体化学 6 ハロゲン化アルキル 7 アルコール、フェノール、エーテル 8 アルデヒドとケトン 求核付加反応 9 カルボン酸とその誘導体 10 カルボニル化合物の α 置換反応と縮合反応 11 アミン 12 生体分子：炭水化物 13 生体分子：アミノ酸、ペプチド、タンパク質 14 生体分子：脂質と核酸 15 代謝経路の有機化学				
受講要件	特に無し				
テキスト	マクマリー有機化学概説、J. McMurry、E. Simanek 著、伊藤椒、児玉三明訳、東京化学同人				
参考書	マクマリー生物有機化学、J. McMurry 他著、菅原二三男監訳、丸善				
予習・復習について	教科書をよく読んで、予習・復習を行い、理解できない点は教員に質問すること。				
成績評価の方法・基準	学生に対する評価 ・履修態度（25%）と筆記試験（75%）の合計で評価する。 ・筆記試験の評価基準は、講義内容の理解度とする。 ・成績の「秀」は90%以上、「優」は80%以上、「良」は70%以上、「可」は60%以上とする。				
オフィスアワー	総合農学棟、325 室で随時受け付ける。				
担当教員からのメッセージ	化合物の化学構造や反応性、生体分子の構造と機能を知ることが、農学（生物資源科学）を学ぶ上で非常に重要です。興味を持って授業に望んでください。オフィスアワーを積極的に利用してください。				

授業科目名	細胞生物学 (Cell Biology)				
担当教員名	笹浪 知宏 (SASANAMI Tomohiro)		所属等	大学院農学領域	
			研究室	農学総合棟 583	
分担教員名					
クラス	応用生命	学期	前期		必修選択区分 必
対象学年	2年	単位数	2	曜日・時限	月 1・2
キーワード	顕微鏡、細胞小器官、細胞膜、膜輸送、ミトコンドリア、葉緑体、細胞骨格、細胞周期				
授業の目標	細胞生物学は生物体の基本単位である細胞が活動するしくみを明らかにしようとする学問であり、生命現象の理解には欠かせない。本講では、細胞に関する基礎的知識を修め、生命現象を細胞生物学的に解釈できる能力を身につけることを目標とする。				
学習内容	本講では、細胞の構造とその機能について、細胞を構成する分子とそれらの働きに重点を置いて講義し、細胞生物学の基礎を学ぶ。				
授業計画	回 内容 1 授業ガイダンス、細胞生物学分野の実験手法 2 細胞生物学の基礎 3 細胞の化学成分 4 膜の構造—特に脂質二重層について膜の構造 5 膜の構造—特に膜タンパクについて 6 膜輸送—特に輸送体について 7 膜輸送—特にチャネルについて 8 細胞骨格—特に中間径フィラメントについて 9 細胞骨格—特に微小管について 10 細胞骨格—特にアクチンフィラメントについて 11 細胞周期 12 細胞分裂 13 ミトコンドリア—特に構造について 14 ミトコンドリア—特にエネルギー生産について 15 葉緑体				
受講要件	特になし				
テキスト	エッセンシャル細胞生物学 (南江堂)				
参考書					
予習・復習について	授業内容について予習・復習すること。小テストを行う。				
成績評価の方法・基準	期末試験 (80%) および小テスト (20%) を総合して評価する。また、1/3以上の欠席をした者は期末試験の受験資格を失う。				
オフィスアワー	事前に電子メールにて確認を取り、研究室に来ること。				
担当教員からのメッセージ					

授業科目名	基礎生態学 (Basic Ecology)				
担当教員名	澤田 均 (SAWADA Hitoshi)		所属等	大学院農学領域	
			研究室	農学総合棟 471	
分担教員名					
クラス	生物資源	学期	前期		必修選択区分 ー
対象学年	2年	単位数	2	曜日・時限	月 3・4
キーワード	群集、生態系、生物多様性、生態現象、生態学の方法				
授業の目標	主な目標は次の2点である。(1)実際の研究例をとおして、生態学とはどのような学問でどんなことを研究対象とするか、どのような方法を使うのか、社会とどのように関係しているのかを理解すること。(2)生態系及び群集レベルの基本的な概念を理解すること。				
学習内容	この講義は生態学の入門編である。前半部では実際の研究例を紹介しながら、生態学という学問の特徴、研究対象、研究方法、社会との関係を学ぶ。後半部では生態系レベルと群集レベルの基礎を学ぶ。				
授業計画	1. 授業ガイダンス、生態学とは何か 2, 3.生態学の実例1ー生物階層 4. 生態学の実例2ー時間スケール 5. 生態学の実例3ー長期研究 6. 生態学の実例4ー数理モデル 7, 8.生態系1ー一次生産力 9, 10.生態系2ー物質の流れ 11. 群集1ー種の豊かさ 12. 群集2ー種の豊かさに影響する要因 13. 群集3ー種の豊かさのパターン 14. 群集4ー食物網 15. 群集5ー安定性 16. 筆記試験				
受講要件	生態学の入門編のため、特に受講要件はない。				
テキスト	特に使用しないが、概ね、Townsend,C.R.(2008) Essentials of Ecology (3rd ed.). Blackwell.に沿う内容である。必要な資料は印刷して配布する。				
参考書	初回の授業ガイダンスで紹介する。さらに講義中に適宜紹介する。				
予習・復習について	ほぼ毎回、予習用にクイズを課す。クイズの難易度及び解答に要する時間は適切なものである。一方、復習用には、毎回配布する資料が役立つ。				
成績評価の方法・基準	クイズ(20%を目安とする)と筆記試験(80%を目安とする)、授業への参加姿勢の合計で評価する予定である。評価基準は主に講義内容の理解度をみる。特に筆記試験で理解度をみる。				
オフィスアワー	講義に関する質問等は授業終了後に講義室にて。それ以外は、電子メールで問い合わせてください。				
担当教員からのメッセージ	遅刻はしないように。遅刻すると、その回の授業の内容を理解しにくい。また、他の受講生の集中力を低下させるなど悪影響が出る。正当な理由以外の欠席は、極力しないように。				

授業科目名	栄養化学 (Nutritional Chemistry)				
担当教員名	森田 達也 (MORITA Tatsuya)		所属等	大学院農学領域	
			研究室	農学総合棟 576	
分担教員名					
クラス	応用生物	学期	前期		必修選択区分 選択
対象学年	3年	単位数	2	曜日・時限	月 3・4
キーワード	栄養素、代謝、食、ヒトの健康維持				
授業の目標	栄養学の一分野である栄養化学の基礎を理解していただく。				
学習内容	栄養素と生体との相互作用について、各栄養素ごとに理解し、栄養素ならびにそれらを含む食品の役割を考える。				
授業計画	<p>回 内容</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 栄養素の消化・吸収・代謝 (1) 2 栄養素の消化・吸収・代謝 (2) 3 糖質 (1) 基礎 4 糖質 (2) 基礎 5 糖質 (3) 生活習慣病との関連から眺めて 6 脂質 (1) 基礎 7 脂質 (2) 基礎 8 脂質 (3) 生活習慣病との関連から眺めて 9 タンパク質・アミノ酸 (1) 基礎 10 タンパク質・アミノ酸 (2) 基礎 11 タンパク質・アミノ酸 (3) 生活習慣病との関連から眺めて 12 ミネラル 13 ビタミン 14 運動と栄養代謝ミネラル (1) 15 エネルギー代謝 <p>※カリキュラムの変更により内容が変更になる可能性があります。最新情報は静岡大学ウェブサイトでご確認ください。</p>				
受講要件	特になし				
テキスト	「最新栄養化学」野口忠編 (朝倉書店)				
参考書	授業時に紹介する。				
予習・復習について	特になし				
成績評価の方法・基準	定期試験の成績から評価する。ただし、出席率は2/3以上であること。				
オフィスアワー	特に指定なし				
担当教員からのメッセージ	ヒトの必須栄養素は約 50 種類あるが、これらは食事から摂取する必要がある。これら栄養素の消化吸収・代謝に焦点を合わせた講義に努める。				

授業科目名	森林土木工学 (Civil Engineering for Forestry)				
担当教員名	近藤 恵市 (KONDO Keiichi)		所属等	学院農学領域	
			研究室	農学総合棟 273	
分担教員名					
クラス	環境森林	学期	前期		必修選択区分 選必
対象学年	3年	単位数	2	曜日・時限	月 3・4
キーワード	林道、路線測量、林道規程、幾何構造、路体構造				
授業の目標	地形の急峻な山岳地に建設されることの多い林道を周辺環境と調和させながら作設できるよう、林道設計に関する基礎的な知識・技術の獲得をめざす。				
学習内容	森林の管理・経営の基盤施設である林道について、まず基本的な配置計画を述べ、さらに林道規程で定められた林道幾何構造の理論を概説し、林道の測量・設計法について論述し、林道の路体構造や施工法について講義する。				
授業計画	回 内容 1 授業ガイダンス、運材方法の歴史 2 林道の機能と分類 3 林道密度理論 4 周辺環境との調和を考慮した林道配置計画 5 林道の幾何構造（幅員、曲線、勾配、視距） 6 林道の幾何構造（幅員、曲線、勾配、視距） 7 林道の幾何構造（幅員、曲線、勾配、視距） 8 曲線設定法 9 曲線設定法 10 縦断測量、横断測量 11 縦断測量、横断測量 12 林道の路面と路体 13 林道の施工法・土工機械 14 林道の施工法・土工機械 15 排水施設、のり面保護				
受講要件	本科目は森林利用学実習と密接に関連しており、実習と合わせて受講することが望ましい。				
テキスト	森林土木学 小林洋司 他（朝倉書店）				
参考書	酒井秀夫：作業道（全国林業改良普及協会）				
予習・復習について	復習を行い、理解できない点は教員に質問すること。				
成績評価の方法・基準	履修態度・レポート（合計 20%）、学期末試験（80%）の結果を総合して評価する。 成績の「秀」は 90%以上、「優」は 80%以上、「良」は 70%以上、「可」は 60%以上とする。				
オフィスアワー	昼休み、農学部 273 室。メール（afkkond@ipc.shizuoka.ac.jp）で連絡してください。				
担当教員からのメッセージ	疑問があれば積極的に質問してください。				

授業科目名	<p style="text-align: center;">土壌微生物学 (Soil Microbiology)</p>				
担当教員名	<p style="text-align: center;">鮫島 玲子 (SAMESHIMA Reiko)</p>		所属等	学術院農学領域	
			研究室	農学総合棟 388	
分担教員名					
クラス	生物資源	学期	前期		必修選択区分 必
対象学年	2年	単位数	2	曜日・時限	火 1・2
キーワード	微生物、土壌、代謝、物質循環、共生、環境、ゲノム				
授業の目標	基礎的な微生物学の知識や研究方法について学ぶ。その上で土壌に生息する微生物の生態や機能の特徴を理解し、物質循環や植物との相互作用にどのように関与し、生態系や人間活動にどのような影響を及ぼしているかについて学ぶ。				
学習内容	目に見えないために、なかなか実感として接することの少ない微生物についてどのようなアプローチの仕方があるのか、歴史的にどのようにアプローチしてきたのかについて解説し、微生物に対する興味を喚起する。その後、微生物学の基礎を身につけるために、微生物の生理生化学、物質代謝、遺伝および生態について内容を整理し体系的に学習する。その上で土壌微生物の生態、ゲノム、機能とその応用について最新の知見や事例を学ぶ。				
授業計画	<p>回 内容</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 微生物学の歴史 2 微生物の取扱い 3 微生物の分類・細胞構造 4 微生物の栄養と増殖 5 微生物の代謝 (1) エネルギー獲得、物質変換 6 微生物の代謝 (2) 代謝の多様性 7 微生物の代謝 (3) 代謝調節と環境応答 8 微生物の遺伝 9 微生物生態学 10 微生物のゲノム解析 11 土壌微生物の生息環境 12 物質循環と土壌微生物 (1) 炭素・硫黄・リン・その他の元素 13 物質循環と土壌微生物 (2) 窒素 14 植物と土壌微生物 (1) 根圏・葉面 15 植物と土壌微生物 (2) 共生 				
受講要件					
テキスト	『基礎生物学テキストシリーズ 4 微生物学』、青木健次編著、化学同人、2007、9784759811049				
参考書	『改訂版 土の微生物学』、服部 勉・宮下清貴・齋藤明広共著、養賢堂、2008、9784842504360 『土壌微生物実験法 第3版』、日本土壌微生物学会編、養賢堂、2013、9784842505169				
予習・復習について	講義では要点のみとなりますので、深い理解のためには教科書の予習・復習を必要とします。				
成績評価の方法・基準	定期試験と複数回の小テストを行います。成績は定期試験の結果を重視します。定期試験は 100 点満点で 100-90 点を「秀」、89-80 点を「優」、79-70 点を「良」、69-60 点を「可」、60 点未満を不可とします。不可となった場合は小テストの結果を考慮し、総合的に評価します。				
オフィスアワー	9:30-17:00 をオフィスアワーとします。面会希望者は前もってメール等で連絡を取ってください。				
担当教員からのメッセージ					

授業科目名	生化学A (Biochemistry A)				
担当教員名	木村 洋子 (KIMURA Yoko)		所属等	大学院農学領域	
			研究室	農総 679	
分担教員名					
クラス	応用生命	学期	前期		必修選択区分 必
対象学年	2年	単位数	2	曜日・時限	火 1・2
キーワード	生体物質、タンパク質、酵素、アミノ酸、糖、核酸、脂質				
授業の目標	生体物質の特徴を理解する。				
学習内容	生化学Aでは、タンパク質、糖、脂質、核酸の概要を学び、その後、タンパク質、糖について詳しく学ぶ。				
授業計画	第1回： 生化学入門 第2回： 生体物質の概要 1 (糖、核酸) 第3回： 生体物質の概要 2 (アミノ酸、脂質) 第4回： タンパク質の多様性と構造 第5回： タンパク質のフォールディング 第6回： タンパク質の機能と制御 第7回： タンパク質の寿命と分解 第8回： 解糖； 解糖経路 第9回： 解糖； 調節と制御 第10回： 嫌氣的代謝 第11回： クエン酸サイクル 第12回： 呼吸鎖 第13回： 酸化的リン酸化 第14回： 糖新生・ペントースリン酸回路 第15回： グリコーゲン代謝				
受講要件					
テキスト	ストライヤー基礎生化学 東京化学同人 ISBN978-4-8079-0747-2				
参考書					
予習・復習について					
成績評価の方法・基準	(1) 小テスト 2回 (2) 期末テスト (3) 課題 (4) フィードバックシート 下記の①または②の良いほうの成績 ① 小テスト 25%、期末テスト 58%、課題 12%、 フィードバックシート 5% ② 小テスト 25%、期末テスト 40%、課題 30%、 フィードバックシート 5%				
オフィスアワー	(火) PM14:00-15:00				
担当教員からのメッセージ					

授業科目名	保全生物学 (Conservation Biology)				
担当教員名	山下 雅幸 (YAMASHITA Masayuki)		所属等	学術院農学領域	
			研究室	農学総合棟 472	
分担教員名					
クラス	共生バイオ	学期	前期		必修選択区分 選択
対象学年	3年	単位数	2	曜日・時限	火 1・2
キーワード	生物多様性、保全、生態学、農業生態系				
授業の目標	生物多様性の危機的現状およびその保全の必要性を理解する。また、農業生態系（たとえば棚田、里山）など、人間との関わりの深い2次的自然の重要性についての認識も深める。				
学習内容	「生物多様性の保全」という社会的な目標の実現のための指針と技術の確立を目指す保全生物学について学ぶ。生物多様性の意味、その危機的現状、保全の必要性および対策事例などを紹介する。				
授業計画	<p>回 内容</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 ガイダンス（保全生物学とは何か？） 2 生物多様性の意味（生物多様性とは何か？） 3 生物多様性の仕組み 4 生物多様性の増大（進化） 5 生物多様性の危機①（生息地の破壊） 6 生物多様性の危機②（持続不能な利用） 7 生物多様性の危機③（侵略的外来種） 8 生物多様性の危機④（絶滅） 9 生物多様性の保全①（種の保全1） 10 生物多様性の保全②（種の保全2） 11 生物多様性の保全③（生態系の保全） 12 生物多様性の保全④（保全と持続的利用1） 13 生物多様性の保全⑤（保全と持続的利用2） 14 生物多様性の保全⑥（生態学的復元） 15 まとめ <p>※カリキュラムの変更により内容が変更になる可能性があります。最新情報は静岡大学ウェブサイトでご確認ください。</p>				
受講要件	基礎生態学、応用生態学を受講し、その内容を理解しておくことが望ましい。				
テキスト	使用しない。適宜、資料を配付する。				
参考書	<p>Andrew S. Pullin (2004) 保全生物学. 丸善 Richard B. Primack (1997) 保全生物学のすすめ. 文一総合出版 樋口広芳編 (1996) 保全生物学. 東京大学出版会 鷲谷いづみ・矢原徹一 (1996) 保全生態学入門. 文一総合出版 その他、講義中に適宜紹介する。</p>				
予習・復習について	予習・復習のために、ほぼ毎回宿題（あるいは小テスト）を課す。				
成績評価の方法・基準	出席率（遅刻は減点、小テスト・レポート含む）50%、定期試験50%の合計で評価する。評価基準は講義内容の理解度等をみる。				
オフィスアワー	火曜日の授業終了後および他の曜日は16:00～17:00（ただし、他の曜日は事前にメール連絡してから）				
担当教員からのメッセージ	授業に集中できる環境づくりに協力して下さい。				

授業科目名	応用微生物学 (Applied Microbiology)				
担当教員名	徳山 真治 (TOKUYAMA Shinji)		所属等	学術院農学領域	
			研究室	農学総合棟 525	
分担教員名					
クラス	応用生物	学期	前期		必修選択区分 選択
対象学年	3年	単位数	2	曜日・時限	火 1・2
キーワード	微生物、バイオテクノロジー、発酵、遺伝子、酵素				
授業の目標	微生物機能の基礎を習得し、微生物バイオテクノロジーを遺伝子を通して理解する。				
学習内容	生物学の共通語である遺伝子から多様な微生物機能を理解し、微生物機能を利用した物質生産、環境保全技術などについて紹介する。				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 微生物の発見からニューバイオテクノロジーまで 2. 微生物細胞と機能発見：二重らせんから物質生産へ 3. 微生物遺伝学と遺伝子工学 4. 微生物の細胞構造 5. 細胞の調節とシグナル伝達 6. 微生物の分類 7. 微生物の分離と増殖 8. 微生物の代謝 9. タンパク質と酵素 10. 微生物の多様な栄養形態 <p>※カリキュラムの変更により内容が変更になる可能性があります。最新情報は静岡大学ウェブサイトでご確認ください。</p>				
受講要件	生化学				
テキスト	応用微生物学：熊谷英彦ら編著、朝倉書店				
参考書	授業で紹介。				
予習・復習について	予習・復習は基本的に必要。本授業の受講は基礎微生物学および分子生物学の履修をを前提とし、微生物代謝工学の履修に必要。				
成績評価の方法・基準	期末試験と出席率で評価する。				
オフィスアワー	月・金：9-21時				
担当教員からのメッセージ	欠席、遅刻をしないこと。				

授業科目名	室内環境学 (Indoor Environment)				
担当教員名	渡邊 拡 (WATANABE Hiromu)		所属等	学術院農学領域	
			研究室	共 C307-2、農総 381	
分担教員名					
クラス	環境森林	学期	前期		必修選択区分 選択
対象学年	3年	単位数	2	曜日・時限	火 5・6
キーワード	住宅、居住性、環境、健康、資源				
授業の目標	日本人の暮らしには「木」が深く関わっており、古くから多く木を利用してきた。木材は建築材料の中でも大きな位置を占め、日本の風土に合った伝統的材料であり、木造住宅に住むことを望む人は少なくない。人間が日常生活を送るうえで重要である室内環境について、木造住宅を中心に講義をする。				
学習内容	住宅や建造物の種類や安全性についての考え方を説明した後に、住宅の工法及び住宅内環境の評価について講義を行う。				
授業計画	回 内容 1 住宅の種類、安全性 2 建築材料の種類 3 建築材料の種類 4 建築材料の種類 5 住宅の工法 6 住宅の工法 7 住宅内の温度、湿度、音 8 住宅内の温度、湿度、音 9 住宅内の光、視覚 10 住宅内の光、視覚 11 住宅内の空気 12 住宅内の空気 13 住宅と健康 14 住宅と健康 15 建築材料に関わる環境問題				
受講要件					
テキスト	なし。必要な資料は印刷して配布する。				
参考書	講義中に適宜紹介する。				
予習・復習について					
成績評価の方法・基準	レポート2回（中間、期末）の合計で評価する。 レポートは講義内容の理解度をみる。				
オフィスアワー	E-mailで問い合わせてください。				
担当教員からのメッセージ	講義に関する質問はE-mailで受けます。				

授業科目名	土壌圏科学 (Soil Science)				
担当教員名	南雲 俊之 (NAGUMO Toshiyuki)		所属等	学術院農学領域	
			研究室	農学総合棟 376	
分担教員名					
クラス	応用生命	学期	前期		必修選択区分 選択
対象学年	2年	単位数	2	曜日・時限	火 5・6
キーワード	土壌, 生態系, 植物生産, 環境保全, 物質循環				
授業の目標	土壌は, 森林のような自然生態系から農業生態系まで, およそ全ての陸上生態系における基盤的資源である。土壌の植物生産機能, 土壌管理と地域・地球環境問題との関わりを理解するための基礎的な知識の習得を目指す。				
学習内容	土壌の特徴を化学, 物理学, 生物学, 地学, そして農学的側面から概説する。				
授業計画	回 内容 1 ガイダンス 2 土壌の三相, 土壌構造 3 土壌鉱物と風化, 土性 4 土壌による水の保持と移動 5 土壌有機物 6 土壌の吸着現象 7 土壌の反応, 酸性土壌とアルミニウム 8 土壌生物 9 土壌生物の栄養要求性と物質循環 10 土壌空気 11 中間まとめ 12 日本の代表的土壌タイプ 13 水田土壌の特徴 14 窒素循環と環境負荷 15 総まとめ				
受講要件	高校レベルの化学の内容(できれば, 物理, 生物も)がおおむね理解できている前提で授業を行う。				
テキスト	土壌サイエンス入門(三枝正彦・木村真人編, 文永堂)(4000円程度) なお, 適宜プリントを配布する場合があります。				
参考書	土壌学は農学基礎分野の1つであり, 農業高校向け教科書や一般向け普及書から, より高度な専門書(土壌化学, 土壌物理学, 土壌生成分類学など)まで, 幅広い土壌書が出版されています。指定の教科書とともに, これらの土壌書を手にとって読んでみてください。				
予習・復習について	復習を重視します。授業内容は忘れないうちに, 教科書の該当箇所や別途指示する関連箇所をよく読み, 理解に努めること。なお, 予習の代わりに, 次回授業に必要な高校理科の単元の復習や, 次回授業の理解に役立つ調べ学習を指示する場合があります。				
成績評価の方法・基準	期末テスト(100%)により評価する。なお, 簡単な演習問題(小テスト)を課し, 加点する場合があります。秀(>90点), 優(>80点), 良(>70点), 可(>60点), 不可(<59点)とする。				
オフィスアワー	毎週, 火曜の昼休みないし午後(授業終了後)。 随時の来訪も歓迎しますが, 事前にメール等で問合せること。				
担当教員からのメッセージ	私語厳禁。				

授業科目名	作物学 (Crop Science)				
担当教員名	稲垣 栄洋 (INAGAKI Hidehiro)		所属等	大学院農学領域	
			研究室	藤枝フィールド	
分担教員名					
クラス	生物資源	学期	前期		必修選択区分
対象学年	2年	単位数	2	曜日・時限	火7・8
キーワード					
授業の目標	食用作物を中心に関連する資源植物について、それぞれの植物学的特性と栽培学上の問題点に関する基礎的知識を習得することを目標とする。				
学習内容	世界で生産される主要な作物の起源、栽培の歴史、成長と発育の特性、生産技術、について講義する。				
授業計画	第1回：世界・日本の作物生産の現況と食糧問題 第2回：作物の分類と農耕文化圏の成立 第3回：イネの種類 第4回：イネの形態 第5回：イネの栽培1 (イネの成長と水田管理) 第6回：イネの栽培2 (稲作と環境) 第7回：麦類1 (コムギ) 第8回：麦類2 (その他の麦類) 第9回：豆類1 (ダイズ) 第10回：豆類2 (その他の豆類) 第11回：芋類 第12回：飼料作物 (トウモロコシ) 第13回：飼料作物 (牧草類) 第14回：工芸作物・茶 第15回：まとめ 定期試験				
受講要件					
テキスト					
参考書	作物学 (文永堂出版)、農学基礎シリーズ 作物学の基礎1 食用作物 (農山漁村文化協会)、栽培学 (朝倉書店)、作物学概論 (朝倉書店)、作物学総論 (朝倉書店)				
予習・復習について					
成績評価の方法・基準	筆記試験で評価する。				
オフィスアワー					
担当教員からのメッセージ					

授業科目名	造林学 (Silviculture)				
担当教員名	飯尾 淳弘 (IIO Atsuhiro)		所属等	大学院農学領域	
			研究室	天竜フィールド	
分担教員名					
クラス	環境森林	学期	前期		必修選択区分 選必
対象学年	3年	単位数	2	曜日・時限	火7・8
キーワード	森林生態系、育林、持続可能性、Resilience、適地適木、物質循環				
授業の目標	多くの生態系サービスを持つ樹木の集団としての森林をどのようにして作り・育てることができるかについて、基礎となる科学をベースに、共に考える。このことで多様な現場に適應するための柔軟性の必要性、問題点にどのように対応するかといったトラブル対応力、科学的な論理力と直観力のバランスなどが養成できたら良いなあ。複雑な森林構造の維持メカニズムと現状の苦闘について理解を進めることをめざそう。				
学習内容	森林生態系の修復・保全方法について基礎となる森林生態学・樹木学など森林科学をもとに、ディヴェートやグループディスカッションを含む双方向講義で考える。多様な現場に応じた森林生態系の管理手段を考える。				
授業計画	<p>回 内容</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 木材はカーボンニュートラルな素材ではない！ 造林学の意義と自然・環境・技術 2 保続とは？ 縞枯れ更新に学ぶ、持続可能な森林管理の一形態。 3 木を植えたい！ 1) グループディスカッション：その樹木について何を知らねばならないか？ 4 プレゼンテーション：その樹木について何を知らねばならないか？//苗木の作り方 5 ディヴェート：「南限のブナを守るために」 農業的発想からの脱却! 林木の集団育種の基礎 6 木を植えたい！ 2) その場所について何を知らねばならないか？ 自然から学ぶ！ 7 森林土壌中の養分量は大切か？ 土壌保全と森林管理 8 密度管理の考え方 と 間伐の基礎 9 密度管理としての間伐への決別 10 自然の力を利用した次世代の森林の作り方 林を切る！ 稚樹を育てる 11 複雑構造への道 2 題 針葉樹人工林の広葉樹林化へ 今須択伐林は？ 12 乾燥地の自然植生を利用した炭素固定のプログラム、乾燥地生態系の特徴、荒廃地緑化、砂漠緑化 13 ディヴェート：「アグロフォレストリーは熱帯林保全に貢献するか？」 熱帯地域の森林管理 14 私たちが考える育林シナリオ（プレゼンテーション） 1 15 私たちが考える育林シナリオ（プレゼンテーション） 2 <p>※カリキュラムの変更により内容が変更になる可能性があります。最新情報は静岡大学ウェブサイトでご確認ください。</p>				
受講要件	関連科目：1年生：樹木・組織学、2年生実習：樹木学実習 3年生実習：造林学実験 を受講していること				
テキスト	特に定めない				
参考書	自作の資料も配付する				
予習・復習について	基礎になる科目を必ず受講すること。当該の実験に必要な知識は、どんな目的意識。最後まであきらめない根気と努力を日頃から訓練しておくこと。				
成績評価の方法・基準	自分で工夫してまとめる力。新しいものの見方を提案し、実行する力。問題点を絞り、不要なものを切り捨てる論理力。意見調整する力。他人の意見や考えを理解し、自己に反映させる力。 を レポート・ディヴェート・プレゼンテーションで評価します。 小テストは、基礎となる科学的理解を評価します。				
オフィスアワー	随時 電子メールでアポをとること。				
担当教員からのメッセージ	フィールドに出て、現場を見てこそ身になる。日本各地へ、アジア各地へ、世界各地へ、森を見に行こう！				

授業科目名	山地保全学 (Erosion Control)				
担当教員名	逢坂 興宏 (OHSAKA Okihiro)		所属等	大学院農学領域	
			研究室	農学総合棟 272	
分担教員名					
クラス	環境森林	学期	前期		必修選択区分 選必
対象学年	3年	単位数	2	曜日・時限	水 1・2
キーワード	砂防、緑化、土砂災害				
授業の目標	山地斜面における土砂移動現象とその発生機構について理解し、その対策に関する知識を得ることを目標とする。				
学習内容	主として日本の森林山地に生じている土砂移動現象の実態とその発生機構、およびそれによって引き起こされる土砂災害を軽減する方策について講義する。 講義を通じて、動植物及び人間の生存基盤である自然環境の、特に水と土と緑のダイナミックな関係に興味を持ってもらい、時間・空間スケールを意識した災害防止と自然環境の保全を学ぶ。				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス、森林の多面的な機能 2. 日本の自然災害 3. 土砂災害とその対策の歴史 4. 地形過程に伴う自然災害 5. 斜面における土砂移動現象の分類 6. 表面侵食と植生の効果 7. 表層崩壊（森林と山崩れ） 8. 山腹緑化工 9. のり面緑化工 10. 地すべり、大規模崩壊 11. 地すべり対策 12. 土石流 13. 火山活動に伴う土砂移動現象 14. 雪崩 15. 斜面安定解析 				
受講要件	「森林環境水文学」、「応用気象学」、「地質学概論」、「地学実習」と関連が深い。 「溪流環境学」、「砂防学実習」の基礎科目となる。				
テキスト	保全砂防学入門（電気書院） また、随時プリントを配布する。				
参考書	新砂防工学（朝倉書店）、環境緑化学（朝倉書店）、山地保全学（文永堂出版） その他適宜紹介する。				
予習・復習について	授業の進行にあわせて、テキストおよび参考書の該当箇所を予習・復習すること。				
成績評価の方法・基準	履修態度（10%）、レポート（10%）および期末筆記試験（80%）の結果を総合して評価する。 成績の「秀」は90%以上、「優」は80%以上、「良」は70%以上、「可」は60%以上とする。				
オフィスアワー	授業終了後、または随時、質問や相談を受け付けます。まず直接あるいは電子メールで連絡をして下さい。				
担当教員からのメッセージ	世界各地で頻発する自然災害に関心を持ち、日頃から防災意識を高めておきましょう。				

授業科目名	<p style="text-align: center;">生物工学 (Biotechnology)</p>				
担当教員名	<p style="text-align: center;">朴 龍洙 (Enoch Y. Park)</p>		所属等	グリーン科学技術研究所	
			研究室	共通教育C棟 211 号室	
分担教員名					
クラス	応用生物	学期	前期		必修選択区分
対象学年	3 年	単位数	2	曜日・時限	水 1・2
キーワード	遺伝子、遺伝子発現、ゲノム、タンパク質、細胞膜輸送、情報伝達、幹細胞、がん				
授業の目標	<p>1) 生命科学における細胞の仕組みを理解すること。 2) 生命現象を営む分子（遺伝子、タンパク質）の理解をすること。 3) 遺伝子の発現とタンパク質の細胞内輸送の基本的なシステムを理解すること。</p>				
学習内容	<p>生物、化学、及び工学の融合による学際的なバイオテクノロジーは、現在の新産業を形成し、多くの医薬品を生み出している。本講義は、バイオテクノロジーのなかで有用遺伝子の発現、タンパク質の分泌などライフサイエンスの基礎について講義し、さらに最近の幹細胞やがんについても紹介する。</p>				
授業計画	<p>回 内容</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 遺伝子の発現機構 2 遺伝子の調節機構 3 遺伝子とゲノム 4 ゲノムの進化 5 ゲノムの解析 6 タンパク質の輸送 7 タンパク質の分泌経路 8 細胞間シグナル伝達 9 Gタンパク質共役型受容体 10 酵素共役型受容体 11 細胞間マトリックス 12 細胞の組織 13 幹細胞 14 がん 15 ライフサイエンスのトピック 				
受講要件	2年前期「細胞生物学」、2年後期「分子生物学」の受講者				
テキスト	Essential 細胞生物学 原書第3版（監訳 中村桂子・松原謙一）				
参考書					
予習・復習について	授業の前、次回の講義内容について予習してくるよう。				
成績評価の方法・基準	2 / 3 以上の出席、筆記試験で評価する。				
オフィスアワー	毎週水曜日の午後・共通教育C・2 1 1 へ直接又は電話、E-mail 等				
担当教員からのメッセージ	積極的に授業に参加し、一緒に授業を盛り上げてほしい。				

授業科目名	農学基礎論 (Philosophy of Agriculture)				
担当教員名	竹之内 裕文 (TAKENOUCHI Hirobumi)		所属等	学術院農学領域	
			研究室	農学部総合棟 520	
分担教員名					
クラス	農学共通	学期	前期		必修選択区分 必
対象学年	1年	単位数	1	曜日・時限	水 1・2
キーワード					
授業の目標	これから本格的に農学を学んでいく新入生（1年生）に対して、農業、農村、農学、食という農学の根本課題を提示し、それを受けたグループ対話と全体対話を通して、農学に対する理解と問題意識を深め、基礎知識を習得していきます。また掘り下げ、疑うなど、深く考える機会を提供することで、受講生が批判的思考と創造的思考を身につけることを目指します。				
学習内容	<p>1) 食べるとはどういうことか？ 2) 農業とはどのような営みか？ 3) 農山村とはどのようなところか？ 4) 農学の使命とはなにか？</p> <p>という4つの問いについて、次の①～④の行程を繰り返していく。①各人の回答を記したフィードバックシートに事前に回答してくる。②対話を通して回答を練り上げるためのグループワーク、③各グループによる回答の共有と全体対話、④担当教員によるショートレクチャー。</p>				
授業計画	<p>第1回：ガイダンス「大学で農学を学ぶということ」（40分）</p> <p>第2回：「食を問いなおす」（視聴覚映像『フード・インク』90分）</p> <p>第3回：「食を問いなおす」（グループワーク 30分・全体討議 60分）</p> <p>第4回：「食を問いなおす」（ショートレクチャー60分）「農業とはどのような営みか」（グループ討議 30分）</p> <p>第5回：「農業とはどのような営みか」（全体討議 50分・ショートレクチャー40分）</p> <p>第6回：「農山村とはどのようなところか」（グループ討議 30分・全体討議 60分）</p> <p>第7回：「農山村とはどのようなところか」（ショートレクチャー60分）「農学の使命とはなにか」（グループ討議 30分）</p> <p>第8回：「農学の使命とはなにか」（全体グループ討議 50分・ショートレクチャー40分）</p>				
受講要件	対話を中心に講義が進められるので、出席は厳密な意味での前提になります。それに加えて、対話に積極的に参加し発言することで、講義に貢献することが求められます。				
テキスト	教科書は使用しません。資料は各回の講義で配付します。				
参考書	『食と農の社会学 生命と地域の視点から』榊渥俊子・谷口吉光・立川将司編著、ミネルヴァ書房、2014年、『人間にとって農業とは』坂本慶一、学陽書房、1989年、『「里」という思想』内山節、新潮社、2005年、『農の福祉力 アグロ・メディコ・ポリスの挑戦』池上甲一、農山漁村文化協会、2013年、『「食べる」思想』村瀬学ぶ、洋泉社、2010年。				
予習・復習について	4つの問いについて予め自分で考え、自分の回答をフィードバックシートに印字したうえで講義に臨んでください。				
成績評価の方法・基準	ポイント制です。4つの問いに対するフィードバックシート（4×15点満点）を基礎点として、全体対話での発言に得点（1回5点）を与えます。また各回の最優秀グループについても、グループメンバー全員に5点を配します。さらに最終回の講義で各グループから、グループ対話にもっとも貢献したメンバー（20点）を選出してもらいます。以上の合計が60点に達しない受講生には、記述式の試験を受けるチャンスを与えます。				
オフィスアワー	本講義後が好都合です。他の曜日であれば、午後が望ましいです。事前に連絡いただいた方がベターです。				
担当教員からのメッセージ	今年度は2クラスに分割せず、大講義室で8回分の講義を行います。①4/12 ②4/19 ③4/26 ④5/10 ⑤5/17 ⑥5/24 ⑦5/31 ⑧6/7 ⑨6/14（試験該当者のみ）				

授業科目名	分析化学 1 (Analytical Chemistry 1)				
担当教員名	森田 明雄 (MORITA Akio)		所属等	大学院農学領域	
			研究室	農学総合棟 530	
分担教員名					
クラス	応用生命	学期	前期		必修選択区分 必
対象学年	2年	単位数	2	曜日・時限	水 3・4
キーワード	化学平衡論、酸・塩基反応、機器分析				
授業の目標	定性分析、定量分析、機器分析などの分析化学の基礎的な方法論を理解し、正確な実験を行う能力を培う。				
学習内容	定性分析、定量分析、機器分析など、分析化学の基礎的な理論を理解する。				
授業計画	回 内容 1 序論 -1 分析化学の意義と重要性 -2 数値と単位の取り扱い 2 酸・塩基反応と中和滴定 I 3 酸・塩基反応と中和滴定 II 4 沈殿と重量分析 5 錯化合物とキレート滴定 I 6 錯化合物とキレート滴定 II 7 酸化還元反応と酸化還元滴定 I 8 酸化還元反応と酸化還元滴定 II 9 溶媒抽出 10 クロマトグラフィーによる分析 I 11 クロマトグラフィーによる分析 II 12 光による分析法 13 X線と分析化学 14 電気伝導度と分析化学 15 同位体の性質とその利用				
受講要件	理系基礎科目の化学概論A、化学概論Bの内容を十分理解しておくこと。				
テキスト	木村 優・中島理一郎 共著 「分析化学の基礎」(裳華房)。 その他、必要に応じて資料を配付する。				
参考書	河合 聡・他編「定量分析化学」(丸善)。分析化学研究会編「分析化学の理論と計算」(廣川書店)。土屋正彦・他編「クリスチャン 分析化学 I, II」(丸善) など。				
予習・復習について	授業は、テキストを使って進めるので、テキストによる予習・復習を適切に行うこと。				
成績評価の方法・基準	中間試験(50%)ならびに期末試験(50%)の合計で評価する。 評価基準は科目の目標に沿って、特に筆記試験は講義内容の理解度をみる。				
オフィスアワー	問合せ等がある場合には、事前に連絡の上、訪問すること。				
担当教員からのメッセージ	小テストを授業開始時に行い、前回講義の復習をします。 授業には遅れずに出席すること。関数電卓の持参を求める場合がある。				

授業科目名	木質機能科学 (Physical and Mechanical Properties of Wood)				
担当教員名	小林 研治 (KOBAYASHI Kenji)		所属等	学術院農学領域	
			研究室	農学部総合棟 331	
分担教員名	田中 孝				
クラス	生物資源	学期	前期		必修選択区分 必
対象学年	2年	単位数	2	曜日・時限	水 3・4
キーワード	密度、含水率、膨潤・収縮、弾性、応力、ひずみ、ヤング係数、強度、粘弾性				
授業の目標	木材の物理的・力学的性質に関する基礎的な事項を理解することを目標とする。				
学習内容	木材と水分の関係、木材乾燥方法、木材と熱・電気の関係、さらに木材の弾性・粘弾性・強度等の力学的特性に関する基本的な考え方を述べ、木材の性質をふまえた建築への利用について概説する。				
授業計画	<p>授業計画</p> <p>第1回：木材の密度（担当：田中 孝）</p> <p>第2回：木材と水の関係(1)含水率（担当：田中 孝）</p> <p>第3回：木材と水の関係(2)水分の吸着（担当：田中 孝）</p> <p>第4回：木材と水の関係(3)水分の移動（担当：田中 孝）</p> <p>第5回：木材と水の関係(4)膨潤・収縮（担当：田中 孝）</p> <p>第6回：木材の乾燥(1)人工乾燥（担当：田中 孝）</p> <p>第7回：木材の乾燥(2)天然乾燥（担当：田中 孝）</p> <p>第8回：木材と熱・電気（担当：田中 孝）</p> <p>第9回：木材の力学的性質(1)応力とひずみ（担当：小林 研治）</p> <p>第10回：木材の力学的性質(2)弾性と塑性（担当：小林 研治）</p> <p>第11回：木材の力学的性質(3)クリープと応力緩和（担当：小林 研治）</p> <p>第12回：木材の強度(1)引張・圧縮・曲げ（担当：小林 研治）</p> <p>第13回：木材の強度(2)許容応力度（担当：小林 研治）</p> <p>第14回：木材の性質と建築(1)寸法変化と施工法（担当：小林 研治）</p> <p>第15回：木材の性質と建築(2)構造・耐火性能（担当：小林 研治）</p> <p>定期試験</p>				
受講要件	材料力学、住環境構造学、住環境工学、基礎木質材料学等の講義、および木質構造学実験、木質材料学実験等の実験との関連が深い。				
テキスト	高橋徹・中山義雄編「木材科学講座3 物理」海青社				
参考書	菊池正紀他著「基礎演習シリーズ 材料力学」（裳華房）、日本木材学会 編「木質の物理」（文永堂出版）、伏谷 他 著「木材の科学2 木材の物理」（文永堂）、北原 著「木材物理」（森北出版）				
予習・復習について	授業で取り扱った基礎的事項に関して、必ず復習すること。 理解できない点は必ず教員に質問すること。				
成績評価の方法・基準	学期末試験の結果により評価する。				
オフィスアワー	農学総合棟 330 室（田中）、331 室（小林）で随時受け付ける。事前にメール等で連絡して下さい。				
担当教員からのメッセージ	授業開始時に出席を確認するため、遅れないこと。必ず復習をするようにして下さい。積極的に質問して下さい。				

授業科目名	食品分析化学 (Food-function Analytical Chemistry)				
担当教員名	河岸 洋和 (KAWAGISHI Hirokazu)		所属等	グリーン科学技術研究所	
			研究室	農学総合棟 672	
分担教員名					
クラス	応用生物	学期	前期		必修選択区分 選択
対象学年	3年	単位数	2	曜日・時限	水 3・4
キーワード					
授業の目標	食品に含まれる成分の分析のための基礎を学ぶ。				
学習内容	食品分析に必要な方法（クロマトグラフィー，機器分析）の理論と実例を解説する。				
授業計画	<p>回 内容</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 食品分析学の意義と概観 2 各種クロマトグラフィーの理論と実際 3 各種クロマトグラフィーの理論と実際 4 各種クロマトグラフィーの理論と実際 5 UVの解説 6 IRの解説 7 MSの解説 8 MSの解説 9 NMRの解説 10 NMRの解説 11 NMRの解説 12 NMRの解説 13 NMRの解説 14 最新のトピックスの紹介 15 最新のトピックスの紹介 <p>※カリキュラムの変更により内容が変更になる可能性があります。最新情報は静岡大学ウェブサイトでご確認ください。</p>				
受講要件	化学を基礎とするので，化学概論 AB，有機化学概論，生化学概論，生物有機化学,分析化学を受講すること。				
テキスト	未定 開講時に指示する。				
参考書	未定 開講時に指示する。				
予習・復習について	授業各回で指示する。				
成績評価の方法・基準	定期試験（約 75%）と出席（約 25%）を総合して評価する。				
オフィスアワー	随時（事前に電話や電子メール等で問い合わせること）				
担当教員からのメッセージ					

授業科目名	木質利用化学 (Chemistry of Wood Utilization)				
担当教員名	河合 真吾 (KAWAI Shingo)		所属等	学術院農学領域	
			研究室	農学部総合棟 325	
分担教員名	米田 夕子				
クラス	環境森林	学期	前期		必修選択区分 選必
対象学年	3年	単位数	2	曜日・時限	水 3・4
キーワード	セルロース、ヘミセルロース、リグニン、抽出成分、パルプ化、パルプ漂白、生理活性				
授業の目標	パルプ製造法と木材成分の関係、抽出成分の生理的機能と特性を理解し、主体的関心を持つことを目指す				
学習内容	木材主要成分のセルロース、ヘミセルロース、リグニンを取り上げ、パルプ化および漂白工程における化学反応性、生物反応を利用するパルプ製造に関する最新知見を詳述する。 さらには、樹木の生理および木材の特性に関与している副成分の抽出成分を取り上げ、その生合成、理化学的性質、生物有機化学的な利用法について概説する。 なお、本科目は技術者教育プログラムにおける学習・教育目標 (D) に対応する。				
授業計画	回 内容 1 パルプ原料とその化学 2 機械パルプの製造 3 化学パルプの製造 4 機械パルプおよび化学パルプの漂白 5 授業 1～4 回目のまとめ 6 抽出成分の化学構造決定法 (NMR) (1) 7 抽出成分の化学構造決定法 (NMR) (2) 8 抽出成分の化学構造決定法 (質量分析) (1) 9 抽出成分の化学構造決定法 (質量分析) (2) 10 授業 6～9 回目のまとめ 11 抽出成分の生合成 (フェニルプロパノイド経路) (1) 12 抽出成分の生合成 (フェニルプロパノイド経路) (2) 13 抽出成分の生合成 (メバロン酸経路) 14 抽出成分の生理活性とその利用 15 授業 10～14 回目のまとめ				
受講要件	2 年生前学期の「樹木生化学」、2 年生後学期の「樹木成分化学」と関連する。				
テキスト	なし 必要な資料は印刷して配布する。				
参考書	木材学会編：木質の化学 (文永堂)、中野準三ら：リグニンの化学 (ユニ出版) 日本木材学会抽出成分と木材利用研究会：樹木の顔 (海青社) 福島和彦ほか 編集：木質の形成 -バイオマス科学への招待- (海青社)				
予習・復習について	復習を行い、理解できない点は教員に質問すること。				
成績評価の方法・基準	・履修態度 (20%) と筆記試験 (80%) の合計で評価する。 ・筆記試験の評価基準は、講義内容の理解度とする。 ・成績の「秀」は 90% 以上、「優」は 80% 以上、「良」は 70% 以上、「可」は 60% 以上とする。				
オフィスアワー	質問等は、総合農学棟、325 室 (河合)、326 室 (米田) で随時受け付ける。				
担当教員からのメッセージ	オフィスアワーを積極的に利用し、質問してください。				

授業科目名	花卉園芸学 (Floricultural Science)				
担当教員名	中塚 貴司 (NAKATSUKA Takashi)		所属等	学術院農学領域	
			研究室	農学総合棟 482	
分担教員名					
クラス	共生バイオ	学期	前期		必修選択区分 選択
対象学年	3年	単位数	2	曜日・時限	水 3・4
キーワード	品種改良、繁殖、生育・開花調節、鮮度保持、花色、花形				
授業の目標	観賞園芸品目である花卉の生産とその利用に必要な基礎知識を得ることを目標とする。また、野菜や果樹などの他の園芸作物との共通点や相違点を認識することで、花卉園芸への理解を深める。				
学習内容	花卉の生産と利用に必要な生理・生態学的基礎知識と主要な花卉についての品種形態、生理、生態や開花調節、繁殖法について講義する。				
授業計画	第1回：ガイダンス 第2回：産地形成 第3回：花卉園芸の分類1 第4回：花卉園芸の分類2 第5回：花の形態と構造 第6回：発育生理 第7回：開花生理1 第8回：開花生理2 第9回：育種 第10回：繁殖 第11回：種苗生産 第12回：品質管理 第13回：花色 第14回：花卉各論1 第15回：花卉各論2 第16回：定期試験				
受講要件	特になし				
テキスト	必要に応じてプリントを配布する				
参考書	・花卉園芸学の基礎 腰岡政二編 農文協 ・花き園芸総論 大川清 養賢堂				
予習・復習について	多くの種類の花卉が出てくるので、どのような花かを確認すること。				
成績評価の方法・基準	小テストおよび定期試験で評価を行う。				
オフィスアワー	随時（できれば事前にメールでコンタクトをとって下さい）				
担当教員からのメッセージ	気軽に研究室へ来て下さい。				

授業科目名	木材接着学 (Wood Adhesion)				
担当教員名	山田 雅章 (YAMADA Masaaki)		所属等	大学院農学領域	
			研究室	農学総合棟 329	
分担教員名					
クラス	環境森林	学期	前期		必修選択区分 選必
対象学年	3年	単位数	2	曜日・時限	木 1・2
キーワード	接着、接着剤、レオロジー、ホルムアルデヒド・VOC、接着試験法、試験評価法				
授業の目標	身近にある接着製品、木質材料、いろいろな接着剤、とくにものものがなぜ接着するかを学ぶ際には木材のみならず、高分子科学、物理化学、材料科学など幅広い知識と探求が必要であることを認識して欲しい。				
学習内容	接着に関する基礎理論、接着にするレオロジー、各種接着剤の名称・分類と主要な特徴と性質、木材及び建築材料の接着に関する基礎、木材接着試験法および評価法について学ぶ。 なお、本科目は技術者教育プログラムにおける学習・教育目標の(D)に対応する。				
授業計画	回 内容 1 授業ガイダンス 木質製品・木質材料のサンプル観察 2 木材接着の基礎 その1 3 木材接着の基礎 その2 4 接着の界面科学 5 接着のレオロジー 6 接着剤の分類と固化様式 7 木材用接着剤の種類 その1 8 木材用接着剤の種類 その2 9 木材用接着剤の種類 その3 10 木材接着に関する因子 その1 木材の因子 11 木材接着に関する因子 その2 接着剤の因子 12 木材接着に関する因子 その3 接着操作・装置 13 木材接着の性能評価と耐久性 14 木材接着の実用 15 木材接着と環境・健康問題				
受講要件	2年生で学ぶ高分子材料学、木質材料学や3年生前期で行う環境木質化学実験など関連の実験を受講することが望ましい。				
テキスト	木材接着の科学 (海青社)				
参考書	木材の接着 (日本木材加工技術協会)				
予習・復習について	毎回授業の予習、とくに復習は必ず行うこと。				
成績評価の方法・基準	履修態度および小レポート(30%)、期末筆記試験結果(70%)を総合して評価する。成績の「秀」は90%以上、「優」は80%以上、「良」は70%以上、「可」は60%以上とする。				
オフィスアワー	木曜日の昼食時か17時30分～18時30分。農総329室				
担当教員からのメッセージ	1・2限目の授業であるので遅刻しないで出席すること。また、卒業後住宅企業、接着剤メーカー、住器メーカー、家具メーカー等に就職を考える学生に受講して欲しい。				

授業科目名	収穫後生理学 (Postharvest Physiology)				
担当教員名	加藤 雅也 (KATO Masaya)		所属等	大学院農学領域	
			研究室	農学総合棟 432	
分担教員名					
クラス	共生バイオ	学期	前期		必修選択区分 選択
対象学年	3年	単位数	2	曜日・時限	木 1・2
キーワード	園芸作物、生理変化、成熟（追熟）、老化、エチレン、栄養成分				
授業の目標	園芸作物（果実、野菜、花）は、収穫後急速な代謝変動を伴い成熟（追熟）・老化する。収穫後生理学では、収穫後の園芸作物の生理変化やそれに関わる酵素の遺伝子発現、活性、性質、誘導、さらに栄養成分の変動について理解を深める。				
学習内容	園芸作物（果実、野菜、花）の成熟（追熟）・老化に深く関わる植物ホルモンのエチレンの生合成、作用、調節機構を中心に講義する。また、栄養成分（ビタミン A やビタミン C）の生合成や収穫後の園芸作物における成分の生合成、変動についても述べる。				
授業計画	回 内容 1 授業ガイダンス（授業概要、背景、意義） 2 園芸作物の成熟（追熟）・老化における代謝変動 3 クライマクテリック呼吸と果実の追熟 4 呼吸 1 5 呼吸 2 6 エチレンの生合成機構 1 7 エチレンの生合成機構 2 および中間テスト 8 エチレンのシグナル伝達 1 9 エチレンのシグナル伝達 2 10 エチレン生合成・作用の調節、制御 11 エチレン以外の植物ホルモンの生合成と生理的役割 12 カロテノイド（ビタミン A）の生合成、変動 1 13 カロテノイド（ビタミン A）の生合成、変動 2 14 アスコルビン酸（ビタミン C）の生合成、変動 15 まとめ				
受講要件	関連科目：植物生理学，園芸利用学				
テキスト	使用しない。 資料は印刷して配布する。				
参考書	植物ホルモンハンドブック下巻（倍風館），兵藤宏・楊祥発著「エチレン」				
予習・復習について	出来るだけ授業時間内で理解し，専門用語も憶えるように努める。 授業毎に簡単に復習することが望ましい。				
成績評価の方法・基準	各回の小テスト（30%），中間テスト（35%），最終テスト（35%）による評価で行う。				
オフィスアワー	随時（昼休み時間，夕刻等）				
担当教員からのメッセージ	身近な果物，野菜，花の生理現象に関心を持ち，講義に臨んで欲しい。				

授業科目名	動物生命科学 (Animal Reproduction)				
担当教員名	高坂 哲也 (KOHSAKA Tetsuya)		所属等	学術院農学領域	
			研究室	農学総合棟 584	
分担教員名					
クラス	応用生物	学期	前期		必修選択区分 選択
対象学年	3年	単位数	2	曜日・時限	木 3・4
キーワード	生命の誕生、生殖科学、生殖生理学、哺乳類				
授業の目標	本講では、食資源動物を中心に、動物の生命科学、すなわち命の誕生までの生殖プロセスとその仕組みについて学ぶ。				
学習内容	動物の生殖戦略、生殖器官の構造と機能、配偶子（精子と卵子）の形成、受精と発生、妊娠認知と分娩機序など、哺乳類の生命科学、とくに生殖生理全般について講義する。				
授業計画	回 内容 1 ガイダンスと生殖細胞系列 2 雄の生殖：精巣の構造とその機能 3 精子形成と成熟 4 精子の構造と運動メカニズム 5 雌の生殖：卵巣の構造と卵胞発育 6 卵子形成と成熟 7 生殖内分泌 8 受精のメカニズム 1：精子の受精能獲得 9 受精のメカニズム 2：精子と卵子の接近と融合 10 受精のメカニズム 3：卵子内の変化 11 受精補助技術 12 初期胚の発生 13 胚と子宮のコミュニケーション（妊娠認知）と着床 14 胎盤形成と妊娠維持 15 分娩とその機序				
受講要件	関連科目：動物生理学				
テキスト	「繁殖生物学」 日本繁殖生物学会編 (インターズー) を使用する。				
参考書	「動物生殖学」 佐藤英明編 (朝倉書店) 「スキッロ動物生殖生理学」 佐々田比呂志・高坂哲也・橋爪一善他訳 (講談社)				
予習・復習について	とくに復習を忘れずに。				
成績評価の方法・基準	授業態度をかみし、小テスト (30%) と期末試験 (70%) で評価する。				
オフィスアワー	適宜対応 (事前にメール等で知らせてください)。				
担当教員からのメッセージ	命の誕生までのプロセスとその仕組みについて総合的に理解してほしい。				

授業科目名	環境微生物学 (Environmental Microbiology)				
担当教員名	小川 直人 (OGAWA Naoto)		所属等	大学院農学領域	
			研究室	農学総合棟 389	
分担教員名	鮫島 玲子、堀池 徳祐				
クラス	共生バイオ	学期	前期		必修選択区分 選択
対象学年	3年	単位数	2	曜日・時限	木 3・4
キーワード	微生物の代謝、微生物の環境応答、化学合成独立栄養細菌、環境問題、微生物の生態学、系統解析				
授業の目標	微生物の多様な代謝活動等の基礎知識を習得し、環境中における微生物の活動、微生物と環境問題の関係、微生物のゲノム情報などに関する専門知識を理解することを目指す。				
学習内容	微生物の多様な代謝能力と環境との関係を中心に基礎的な知識を学ぶ。その上で微生物の代謝活動等の生物学的機構や遺伝学的な知識を学ぶ。				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 微生物とは何か 2. 微生物の研究史 3. 微生物の細胞構造の特徴 4. 微生物の代謝の基礎 5. 微生物の代謝の多様性 6. 地球環境の変化と微生物 7. バイオインフォマティクス (系統解析) 8. 微生物生態学の方法 9. 地球環境における物質循環と微生物 10. 極限環境微生物 11. 微生物の環境応答 12. 微生物遺伝子の環境中での動態 13. 微生物のゲノム解析研究 				
受講要件	関連科目：基礎微生物学、生化学概論、物質循環学、資源生態科学論、土壌学				
テキスト					
参考書	Brock 微生物学 (オーム社 (原書第 9 版))、環境微生物学 (久保幹・他著、化学同人)、微生物生態学入門 (日科技連)、Brock Biology of Microorganisms (Pearson (第 14 版))				
予習・復習について	とくに指定しない				
成績評価の方法・基準	講義内容の理解を期末テストで評価する。				
オフィスアワー	応対可能時間は午前 9 時から午後 5 時まで。事前にメールで確認を取ることが望ましい。				
担当教員からのメッセージ	私語は厳禁。				

授業科目名	材料力学 (Strength of Material)				
担当教員名	安村 基 (YASUMURA Motoi)		所属等	学院農学領域	
			研究室	農学総合棟 332	
分担教員名					
クラス	環境森林	学期	前期		必修選択区分 選必
対象学年	3年	単位数	2	曜日・時限	金 1・2
キーワード	応力、ひずみ、弾性体、はり、たわみ				
授業の目標	弾性体に作用する応力と変形の関係を理解することを目標とする。				
学習内容	木造建築の構造設計、木質材料の評価などの基礎となる、力のつりあい、弾性体の応力と変形について学ぶ。 なお、本科目は技術者教育プログラムにおける学習・教育目標の (D)に対応する。				
授業計画	回 内容 1 材料力学の歴史 2 環境問題と力学 3 力の定義、力の合成と分解 4 力の釣合 5 軸力を受ける棒 6 曲げを受けるはり 7 断面の性質と材料の特性 8 静定トラスの応力 9 静定ラーメン/断面力 10 はりの例題 11 ラーメンの例題 12 反力と曲げモーメント 13 仮想仕事法 14 はりのたわみ 15 骨組みの変形				
受講要件	木質機能科学、3年後学期の「住環境構造学」との関連が深い。				
テキスト	理工図書 建築構造力学 上 構造力学研究会 ISBN978-4-8446-0734-2、 その他、授業中に適宜プリントを配布します。				
参考書	講義中に適宜紹介する。				
予習・復習について	材料力学は、毎回の講義内容の積み重ねなので、過去の講義内容をしっかりと理解しないと、新しい内容が理解できない。				
成績評価の方法・基準	学期末試験の結果による。 成績の「秀」は90%以上、「優」は80%以上、「良」は70%以上、「可」は60%以上とする。				
オフィスアワー	昼休み、農学総合棟332室。メール (afmyasu@ipc.shizuoka.ac.jp) で連絡してください。				
担当教員からのメッセージ	積極的に質問してください。				

授業科目名	植物栄養学 (Plant Nutrition)				
担当教員名	森田 明雄 (MORITA Akio)		所属等	学術院農学領域	
			研究室	農学総合棟 530	
分担教員名					
クラス	応用生物	学期	前期		必修選択区分 選択
対象学年	3年	単位数	2	曜日・時限	金 1・2
キーワード	必須元素、有用元素、肥料、環境				
授業の目標	人間生存にとって必要な食糧、資源、環境や植物バイオテクノロジーの基本となる植物の栄養の営みを理解することを目標とする。				
学習内容	植物における必須元素等の吸収、同化、代謝とそれらの制御について述べる。さらに、肥料の種類、性質、施肥の原理、肥料の施与法、栄養診断等についても講義する。				
授業計画	回 内容 1 植物科学と植物栄養学 2 窒素の代謝Ⅰ 3 窒素の代謝Ⅱ 4 多量必須元素Ⅰ 5 多量必須元素Ⅱ 6 多量必須元素Ⅲ 7 微量必須元素Ⅰ 8 微量必須元素Ⅱ 9 植物の生育に関連深い元素 10 肥料の種類と選択Ⅰ 11 肥料の種類と選択Ⅱ 12 施肥の原理と施与法 13 植物の栄養診断 14 環境、農業および肥料Ⅰ 15 環境、農業および肥料Ⅱ				
受講要件	本科目は「植物生理学」より引き継いで講義する。両科目を履修することで本学問分野を把握、理解できる。				
テキスト	特に使用しない。 必要な資料は印刷して配布する。				
参考書	「植物栄養・肥料学」山崎耕宇ら編（朝倉書店） 「現代植物生理学（全5巻）」宮地ら編（朝倉書店） 「植物生化学」金井龍二訳（シュブリンガー・フェアラー東京）				
予習・復習について	専門用語等復習し、理解すること。				
成績評価の方法・基準	期末筆記試験で評価する。 評価基準は、科目の目標に沿って、特に筆記試験は講義内容の理解度をみる。				
オフィスアワー	授業終了後教室にて				
担当教員からのメッセージ	小テストは毎回授業開始時に行います。				

授業科目名	分子生物学 (Molecular Biology)				
担当教員名	加藤 竜也 (KATO Tatsuya)		所属等	大学院農学領域	
			研究室	総合研究棟 403	
分担教員名					
クラス	応用生命	学期	前期		必修選択区分 必
対象学年	2年	単位数	2	曜日・時限	金 1・2
キーワード	核酸、タンパク質、変異、遺伝子工学				
授業の目標	生命活動をつかさどる核酸と遺伝子の構造と機能、タンパク質の機能や構造および DNA の複製や転写・翻訳について学ぶ。				
学習内容	授業計画の通り				
授業計画	回 内容 1 DNA の構造、染色体について 2 DNA の複製について 3 DNA ポリメラーゼ、テロメアについて 4 DNA の変異、修復について 5 相同性組換え、トランスポゾンについて 6 ウイルス、ファージについて 7 RNA の種類、構造について 8 転写機構について 9 RNA ポリメラーゼについて 10 翻訳機構 1 (リボソームおよびコドンについて) 11 翻訳機構 2 (tRNA および翻訳機構について) 12 メンデル遺伝、非メンデル遺伝について 13 細胞質遺伝について 14 葉緑体ゲノム (オルガネラゲノム) について 15 オルガネラ内の転写機構について				
受講要件					
テキスト	Essential 細胞生物学 (原著第 4 版) 監訳: 中村桂子・松原謙一				
参考書					
予習・復習について					
成績評価の方法・基準	期末試験の結果 (50%) とレポート (10 回程度、50%) で評価する。 レポートについては、1) 自分の考えを付けて記述しているか、2) 図や表をなど用いて、適切にかつわかりやすく記述しているか という観点から評価を行う。 基準としてレポートおよび期末試験の結果の合計が 60%以上であれば学習目標を達成しているとし、さらなる詳細な評価は合計点で判断する。				
オフィスアワー	月・金 総合研究棟 403 室にきてください。(8:30-18:30) メールでの連絡も可				
担当教員からのメッセージ	授業前にレポートを回収するので、授業に遅れないで出席すること。				

授業科目名	園芸科学 (Horticultural Science)				
担当教員名	鈴木 克己 (SUZUKI Katsumi)		所属等	学術院農学領域	
			研究室	農総 484	
分担教員名					
クラス	生物資源	学期	前期		必修選択区分 ー
対象学年	2年	単位数	2	曜日・時限	金 1・2
キーワード	農業、園芸、果樹、野菜、花き、植物学、植物生理学、果物				
授業の目標	園芸生産について理解を深めることを目標とする。				
学習内容	園芸生産の基礎となる栽培学、植物生理生態学、また園芸生産の特徴でもある施設園芸学を中心に学習する。花き、果樹、野菜の中で好きな作物の一つを選び、その生産についてパワーポイントでまとめ、レポートとして提出する。				
授業計画	回 内容 1 ガイダンス、園芸とは 2 我が国の園芸の現状 3 我が国の園芸の歴史 4 世界の園芸 5 播種、育苗 6 土壌管理・養水分管理 7 栄養成長 8 挿し木、接ぎ木、整枝 9 花芽分化 10 開花、受粉、受精、着果 11 果実の成長 12 施設園芸①花き、果樹、野菜での利用方法 13 施設園芸②栽培方式 14 施設園芸③環境制御 15 園芸生産における今後の研究方向				
受講要件					
テキスト	特になし				
参考書	ガイダンスで紹介予定				
予習・復習について	授業で使ったスライドを PDF にして配布する予定ですので復習に使用してください。ガイダンスで紹介する参考書などをあらかじめ読んで受講してもらえると理解が進むと思います。				
成績評価の方法・基準	定期試験（60%）、レポート（40%）により行う。				
オフィスアワー	メールでアポイントメントを取ってください。				
担当教員からのメッセージ	野菜、果物、花に関心を持ち、自ら勉強して欲しいと思います。				

授業科目名	木材組織学 (Wood Anatomy)				
担当教員名	小島 陽一 (KOJIMA Yoichi)		所属等	学院院農学領域	
			研究室	農学部総合棟 321	
分担教員名					
クラス	生物資源	学期	前期		必修選択区分 必
対象学年	2年	単位数	1	曜日・時限	金 1・2
キーワード	針葉樹、広葉樹、形態、材の形成、細胞、構造				
授業の目標	木材の組織学・解剖学的知見から、樹木の成長・細胞構成、細胞壁の微細構造等を中心に講義する。樹木の形態および成長・組織に関する基礎的な事項を理解することを目標とする。				
学習内容	木材の組織学・解剖学的見地から、樹木の成長・細胞構成、細胞壁の微細構造等について学ぶ。				
授業計画	木材の組織学・解剖学的見地から、樹木の成長・細胞構成、さらには細胞壁微細構造等について学ぶ。 樹木の成長と樹幹の形成 (2回) 針葉樹の細胞構成 (1回) 広葉樹の細胞構成 (2回) 木材のマクロ構造と細胞壁の微細構造 (1回) 木材の欠点と材質 (1回) 筆記試験 (1回)				
受講要件	「野生植物分類学」、「基礎木質材料学」等の講義、「木質材料学実験」等の実験を受講することが望ましい。				
テキスト	古野・澤辺 編「木材科学講座 2 組織と材質」(海青社)				
参考書	島地・伊東 著「図説 木材組織」(地球社)、島地・須藤 著「木材の組織」(森北出版)				
予習・復習について	復習に重点を置き、理解できない点は教員に質問すること。				
成績評価の方法・基準	履修態度、筆記試験の結果を総合して評価する。 成績の「秀」は90%以上、「優」は80%以上、「良」は70%以上、「可」は60%以上とする。 筆記試験は講義内容の基礎的事項に関する理解度をみる。				
オフィスアワー	農学総合棟 321 号室で随時受け付けます。事前にメール等で連絡して下さい。				
担当教員からのメッセージ	身の回りにある樹木、木材についてじっくり考える良い機会であると思います。積極的に講義に臨んでください。				

授業科目名	農と食の経済学 (Economics of Food and Agriculture)				
担当教員名	柴垣 裕司 (SHIBAGAKI Hiroshi)		所属等	学院農学領域	
			研究室	農学部総合棟 511	
分担教員名					
クラス	生物資源	学期	前期		必修選択区分 ー
対象学年	2年	単位数	2	曜日・時限	金 1・2
キーワード	フードシステム、食の需給、食料問題、食料政策				
授業の目標	食料の経済的性質とそれらがもたらす経済的諸問題について理解できるようになること。				
学習内容	我々が毎日口にしている「食料」が、どのように生産され、どのようにして食卓にのぼってくるのかについて、各段階の問題点を交えながら講義する。また、「食料」の持つ様々な経済的性質が、その需要と供給の両面に及ぼす様々な影響について言及するとともに、世界や日本における「食料」に関する諸問題について考えてもらうよう問題提起を行う。				
授業計画	第1回：フードシステムの概要 第2回：食生活の変遷 第3回：食生活の特徴 第4回：食料の需要の弾力性 第5回：食料の供給 第6回：食の外部化 第7回：外食産業の動向と現代の特徴 第8回：わが国農業の特色 第9回：農産物生産の動向 第10回：食品製造業の構造的特徴 第11回：食品産業のグローバル化 第12回：食品卸売業の変化 第13回：食品小売業の業態変化 第14回：世界の食料問題 第15回：わが国の食料政策 定期試験				
受講要件	特になし。				
テキスト	特になし。プリントを配布する。				
参考書	高橋正郎『フードシステム学全集』農林統計協会				
予習・復習について	学問の性格上、講義内容が広範囲にわたるので、特に復習をしっかりと講義内容を理解すること。				
成績評価の方法・基準	期末試験（100%）で評価する。評価基準として、期末試験は講義内容の理解度を見る。				
オフィスアワー	相談事のある方は、事前にメールで当方の都合を聞いてください。				
担当教員からのメッセージ	・経済学の理論を援用して食料の経済的側面について講義しますが、経済活動を説明する理論に関心を持ってください。経済学の理論は社会に出たからはもちろん、皆さんの現在の生活にも応用可能な理論です。 ・経済学には興味がないという人がいますが、経済と無関係の技術はありません。技術者（研究者）を目指す人も技術が経済や社会に与える影響について考えてください。				

授業科目名	農と食の哲学 (Philosophy of Food and Agriculture)				
担当教員名	竹之内 裕文 (TAKENOUCHI Hirobumi)		所属等	学術院農学領域	
			研究室	農学部総合棟 520	
分担教員名					
クラス	生物資源	学期	前期		必修選択区分 ー
対象学年	2年	単位数	2	曜日・時限	金 3・4
キーワード	food, gathering, hunting, farming, agriculture, producer, consumer, citizen, philosophy, agro-food ethics				
授業の目標	現代社会において食料の消費と流通のあり方は大きく変化しました。これを視野に入れられない農業（食料の生産）には将来的な展望が拓かれなところまで、事態は進んでいます。それは農学という学問分野にとって、自らの足場を失うということの意味するでしょう。それを踏まえてこの授業では、「農」と「食」という営みの本質について、両者の関係に注目しながら、対話を通して徹底的に考え抜きます。それを通して、持続可能なフードシステムとそれを支える農（学）の使命を構想・実現するための哲学的・倫理的な思考と対話の力を培います。				
学習内容	農と食を糸口に、人間の生（生命、生活、いのち）と自然、社会、環境とのかかわりについて、グループ討議と全体討議を通して、主体的かつ批判的に考察していきます。具体的には、次の①～④の手順を踏みます。 ①予め提示した問いについて、参加者が回答を考え、フィードバックシートに記入してくる。 ②フィードバックシートを携えながら、対話を通して各グループの回答を練り上げる。 ③各グループの回答を共有し、全体で対話する。 ④ショートレクチャーを通して展望を示す。				
授業計画	回 内容 1 ガイダンス——「農と食の哲学」への招待 2 農業を哲学する（グループ対話・全体対話） 3 農業を哲学する（ショートレクチャー） 4 農村を哲学する（グループ対話・全体対話） 5 農村を哲学する（ショートレクチャー） 6 食を哲学する（グループ対話・全体対話） 7 食を哲学する（ショートレクチャー） 8 自然を哲学する（グループ対話・全体対話） 9 自然を哲学する（ショートレクチャー） 10 環境保護を哲学する（グループ対話・全体対話） 11 環境保護を哲学する（ショートレクチャー） 12 幸福を哲学する（グループ対話・全体対話） 13 幸福を哲学する（ショートレクチャー） 14 農学の使命を問いなおす（グループ対話・全体対話） 15 農学の使命を問いなおす（ショートレクチャー）				
受講要件	この授業は討論を中心に進められますので、出席は厳密な意味での〈前提〉になります。受講者の皆さんには討論に積極的に参加し、それを通して共同の探究に貢献することが期待されます。				
テキスト	本年度は教科書を使用しません。資料は学務情報システムを通して、あるいは各回の講義で配付します。				
参考書	『食に生きて 私が大切に思うこと』辰巳芳子、新潮社、2015年、『飢えたる魂 食の哲学』レオン・R.カス、法政大学出版会、2002年、村瀬学『「食べる」思想』、洋泉社、2010年、『農と食のいま』池上甲一・原山浩介編、ナカニシヤ出版、2011年、『食と農の社会学 生命と地域の視点から』榎湯俊子・谷口吉光・立川将司編著、ミネルヴァ書房、2014年				
予習・復習について	予め提示した問いについて、各々の回答を所定のフィードバックシート（WORD形式）に印字してくる。それ以外にも、誰かと議論する、参考文献を読んで考えるというように、とにかく問い続けるという姿勢を大切にしてください。				
成績評価の方法・基準	ポイント制とします。 1) コメントペーパー 50点 10点満点×5回（印字されたフィードバックシートを提出すれば10点獲得） 2) 全体対話での発言 1回5点ずつ加点する。 3) 各回のグループ発表における最優秀グループ グループメンバー全員に5点を加点する。 4) 最終回の講義で各グループごとに相互評価（peer review） グループ対話に対する貢献度に応じて、0点～20点まで				
オフィスアワー	本講義修了後がベスト。他の曜日であれば午後が望ましい。事前に連絡いただいた方がベターです。				

担当教員からのメッセージ	「農と食」について共同で探究するという趣旨の授業です。自分なりの気づきを大切にして、自らの内に秘められた考えをなんとか言葉にしましょう。異なった意見に耳を傾け、その独自の視点によって照らしだされる事柄を受けとめることを通して、自分の理解を深め、視野を広げていきましょう。哲学的対話の実践を積んで、世界に飛び立ちましょう。教員の専門知識・情報・見解を一方通行で受け取りたいという受け身の姿勢の方には、受講を勧めません。講義内容が変更になる場合があります。その場合は、初回のガイダンスで案内します。
--------------	---

授業科目名	中国語学概論 (Introduction to Chinese Linguistics)				
担当教員名	張 盛開 (Shengkai Zhang)		所属等	学術院人文社会科学領域	
			研究室	人 A324	
分担教員名					
クラス	人文専門	学期	通年		必修選択区分 選択
対象学年	2年	単位数	4	曜日・時限	火 5・6
キーワード	音声学、漢語、言語学、方言				
授業の目標	中国語を言語学的に見ていく。日本語やその他の言語と対照しながら音の仕組み、語彙やフレーズの構成法、文の構成などを考える				
学習内容	中国語の全体的な特徴及び構造学ぶ。日本語との比較対照を通して、中国語の音声、語彙、文法、統語及び文字の各方面にわたって勉強する。				
授業計画	回 内容 1 中国の言語 2 北京語音韻論 01 3 北京語音韻論 02 4 北京語音韻論 03 5 文法論Ⅰ 統辞法 01 6 文法論Ⅰ 統辞法 02 7 文法論Ⅰ 統辞法 03 8 文法論Ⅱ 品詞論 (上) 01 9 文法論Ⅱ 品詞論 (上) 02 10 文法論Ⅱ 品詞論 (上) 03 11 文法論Ⅲ 品詞論 (下) 01 12 文法論Ⅲ 品詞論 (下) 02 13 文法論Ⅲ 品詞論 (下) 03 14 文法論Ⅳ 文論 01 15 文法論Ⅳ 文論 02 16 文法論Ⅴ 造語法 01 17 文法論Ⅴ 造語法 02 18 歴史的音韻論Ⅰ－中古－01 19 歴史的音韻論Ⅰ－中古－02 20 歴史的音韻論Ⅰ－中古－03 21 歴史的音韻論Ⅰ－中古－04 22 歴史的音韻論Ⅰ－中古－05 23 歴史的音韻論Ⅰ－中古－06 24 歴史的音韻論Ⅱ－上古－01 25 歴史的音韻論Ⅱ－上古－02 26 歴史的音韻論Ⅱ－上古－03 27 歴史的音韻論Ⅱ－上古－04 28 歴史的音韻論Ⅱ－上古－05 29 漢字の変遷と単語家族 30 全体のまとめと復習				
受講要件	初級中国語習得済み				
テキスト	『新訂 中国語概論』 藤堂明保・相原茂 大修館書店, 1985, ISBN4-469-23112-6				
参考書	『中国音声学概論』				
予習・復習について	しっかり予習と復習をすること				
成績評価の方法・基準	授業中の積極性(質疑応答、課題提出) 2割 期末テストかレポート 8割				
オフィスアワー	火曜の昼休み				
担当教員からのメッセージ	中国語の構造がわかると、中国人のこともわかる。日本語もうまくなれる。				

授業科目名	民法総論				
担当教員名	米谷 壽代 (Hisayo M.Maitani)		所属等	学術院人文社会科学領域	
			研究室		
分担教員名					
クラス	人文専門	学期	通年		必修選択区分 必
対象学年	1年	単位数	4	曜日・時限	水3・4
キーワード	民法、民法総則、民法総論				
授業の目標	民法は、日常の生活関係を規律する法律の中で最も基本的なものである。民法は全5編から構成されており、そのうち第1編「総則」(民法総則)は、民法全体に共通する事柄に関する規定を集めた部分である。本授業は、(1)民法の意義と民法全体の基本的な構成を理解すること、(2)民法総則に置かれている主要な制度の趣旨・内容を具体的場面に関係づけて理解することを目標とする。				
学習内容	民法の全体像を把握したうえで、民法全体を規律する総則について学修する。				
授業計画	<p>おおむね以下の順序に従い、各項目につき1～2回程度の授業時間をあて、講義をおこなう。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 民法の意義 2 民法の全体像・民法総則で扱われる制度の概要 3 権利能力の意義、失踪宣告 4 法律行為総論 5 法律行為の成立と内容確定 6 意思能力、行為能力 7 成年後見制度 8 意思表示の瑕疵(1)序論、心裡留保 9 意思表示の瑕疵(2)虚偽表示 10 意思表示の瑕疵(3)錯誤 11 意思表示の瑕疵(4)詐欺、強迫 12 法律行為の内容に関する無効原因 13 消費者契約法 14 無効と取消し 15 代理(1)序論、有権代理 16 代理(2)無権代理 17 代理(3)表見代理 18 代理(4)無権代理と相続 19 条件と期限 20 法人(1)総論 21 法人(2)法人の対外関係、権利能力なき社团 22 時効(1)総論、時効の完成 23 時効(2)時効の援用と時効利益の放棄 24 民法の基本原則 25 民法改正をめぐる動向 <p>なお、法改正の動向によって、順序が変更する可能性もあります。</p>				
受講要件	平成16年度以前入学生が本授業を履修した場合には、「契約法」に読み替える。平成22年度以前入学生が本授業を履修した場合には、「契約法総論・不法行為法」に読み替える。				
テキスト	佐久間毅『民法の基礎Ⅰ総則(第3版)』(有斐閣、2008年) 民法判例百選Ⅰ総則・物権(第7版)(別冊ジュリスト・有斐閣)				
参考書	田山輝明『民法総則(第三版)』(成文堂)、近江幸治『民法の基礎Ⅰ総則(第6版補訂)』(有斐閣)、池田真朗『スタートライン民法総論』(日本評論社)等。詳細は講義時に説明する。				
予習・復習について	講義内容が広範囲にわたり、かつ初学者には理解が容易ではない分野も多いので、授業前の予習と授業後の復習を欠かさないことを強く勧める。				
成績評価の方法・基準	コメントペーパー、任意課題、学期末の試験期間内に実施する試験などを総合的に考慮して評価する。詳細は授業時に説明する。				
オフィスアワー	初回講義時に指定する。				
担当教員からのメッセージ	1. 県立大学単位互換(認める) 2. 科目等履修生(認める) 教科書は必ず購入すること。また、「六法」については、いずれの出版社でもよいが、最新のものを購入し、授業時には必ず毎回持参すること。講義に際しては、シラバスに示した進行計画を適宜変更することがある。また、民法債権法改正法の成立の如何および成立時期によって講義内容も変更される可能性がある。				

授業科目名	生物学 I (Biology I)				
担当教員名	吉田 信行 (YOSHIDA Nobuyuki)		所属等	大学院工学領域	
			研究室		
分担教員名					
クラス	工 1	学期	前期		必修選択区分 ー
対象学年	2 年	単位数	2	曜日・時限	月 3・4
キーワード	細胞、オルガネラ、糖、アミノ酸、タンパク質、遺伝子、DNA、代謝				
授業の目標	工学部での生物学的研究に必要な最低限となる、現代生物学の基礎を学ぶ。まずは生物学に興味を持つこと、そして工学部において生物学を学ぶ意味を理解する。また、3・4年次の生物関連専門科目の理解を助ける基礎知識の習得を目指す。				
学習内容	生物を構成する細胞の構造と機能、および細胞に含まれている主要生体物質、またその代謝について、基本的なところから分かりやすく講義する。				
授業計画	回 内容 1 プロローグ「なぜ工学部で生物学を学ぶか？」 2 生物とは何か？生物学とは何か？ 3 生物の種類 4 細胞とそこに含まれる物質 1 「細胞の種類と構造」 5 細胞とそこに含まれる物質 2 「細胞内小器官」 6 細胞とそこに含まれる物質 3 「糖質・脂質」 7 細胞とそこに含まれる物質 4 「アミノ酸とタンパク質」 8 中間試験 9 細胞とそこに含まれる物質 5 「ヌクレオチドと核酸」 10 DNA 複製と細胞の増殖 1 「DNA 複製のしくみ」 11 DNA 複製と細胞の増殖 2 「細胞分裂と細胞死」 12 DNA にある遺伝情報を取り出す 1 「RNA と転写の調節」 13 DNA にある遺伝情報を取り出す 2 「タンパク質の合成と修飾」 14 生命を支える反応 1 「酵素と補酵素」 15 生命を支える反応 2 「酵素反応速度論」				
受講要件	特にないが、講義においては積極的な発言を期待する。				
テキスト	コア講義 生物学 (田村隆明 著、裳華房)				
参考書	理工系のための生物学 (坂本順司 著、裳華房)、 Essential 細胞生物学 (中村桂子、松原謙一 監訳、南江堂)				
予習・復習について	講義での理解を助けるために予習は必要であるが、本講義では特に復習に力を入れる。毎回講義の前半に、前回の講義内容についてのプレゼンテーションを数人で行ってもらい、皆で議論・復習する時間を作る。				
成績評価の方法・基準	細胞の構造と機能、細胞に含まれている物質に対する基本的な理解ができたかを評価する。評価の配分は中間試験 40%、期末試験 40%、プレゼンテーション 10%、その他レポート等 10%とする。試験については、講義内容を理解することにより取り得る点(70%)、講義内容を理解し、それを応用することにより取り得る点(30%)とする。学習度が 60%を満たしている場合を合格とする。				
オフィスアワー	随時 (但し、事前にメールでの問い合わせが望ましい。)				
担当教員からのメッセージ	高校で生物を履修しなかった人も心配ありません。生物は自身とその子の生命を維持するために、芸術的とも言える巧妙なシステムを持っています。そのシステムの工学的利用はとても魅力的ですが、そのためには基本的な生物学、特に現代生物学を学ぶ必要があります。基礎からしっかりと生物学を学ぶことによって、工学部における生物系研究に興味を持てればと思います。				

授業科目名	哲学 (Philosophy)				
担当教員名	吉田 寛 (YOSHIDA Hiroshi)		所属等	学院情報学領域	
			研究室	J-2735	
分担教員名					
クラス	情工1	学期	前期		必修選択区分 選必
対象学年	3年	単位数	2	曜日・時限	火1・2
キーワード	思想、日本、地域、西洋、風土、近代化、共同性、アニミズム、理性、感情				
授業の目標	グローバル化、情報化に伴って、ライフスタイル、町や地域の雰囲気、メディアを流れる情報、社会制度、イベントなど、多くの面で「日本」とは異なる文化や思想にふれる機会も多くなりました。また、日本社会といっても一枚岩ではなく、時代や地域による差異を感じることも多くなりました。ここで今回は特に「日本的」と言われる思想に焦点を当ててみることで、改めて自分の育ち思考のベースとなっている自分の文化や社会に内在する思想を検討してみましよう。『蟲師』というアニメ作品を手掛かりにしようと思いましたが、授業としてはあくまで哲学・思想が目的で、作品についてのウンチクが目的ではないので、そこはよろしく。				
学習内容	アニメ『蟲師』や『もののけ姫』、あるいは漫画や小説などの日本的な思想を表現している作品を取り上げます。そして、これに関連する作品を分析する視点を提供してくれる西洋哲学のテキストや哲学者を紹介し、関連する日本思想のテキストなども参照します。これらを手掛かりに、作品の表現する思想を読み解いていきます。 具体的には、まずアニメや作品において展開されている思想的要素を抽出して整理し、これを検討するという形式で授業を進めます。 できるだけ毎回 web 上にブログの形で授業資料を掲載するので、これを参考に、各自が作品の表現する思想に向かい合い、これに対して自分自身の思想を深め、あるいは展開してもらえればと思います。				
授業計画	<p>メインのテキストとしてアニメ版『蟲師』（漆原友紀原作、長濱博史監督、講談社・アニプレックス制作）を、下の順序で取り上げる予定です。ただし、授業の進行に応じて、順序や取り上げる作品は適宜入れ替えます。</p> <p>1：存在 緑の座、暁の光 2：夢・無意識 柔らかい角、枕小路 3：時間論 枕小路、露を吸う群、沖つ宮 内山節（時間論、記憶） 4：記憶 暁の蛇 5：異形、異常 天辺の糸、錆の鳴く声 6：地域 山抱く衣 7：＜私＞、身体論 沖つ宮、一夜橋、海境より 8：社会 重い実、旅をする沼 9：専門職 筆の海、やまねむる、草を踏む音、篝野行 10：情報 虚蕪取り、眼副眼禍 11：アイデンティティ 雨がくる虹がたつ 12：自然 春と嘯く 13：愛情 眇の魚、籠の中 14-15：予備、ディスカッション</p> <p>毎回、予備知識と視点の提示、作品鑑賞、思想の抽出と検討を行います。 毎回は難しいと思いますが、受講者にも自分の考えを小レポートにまとめる形で検討してもらおう機会を作ります。</p> <p>予備知識として紹介するテキスト・哲学者としては、たとえば次のようなものを考えています。 例：『形而上学』（アリストテレス）、『省察』（デカルト）、『善の研究』（西田幾多郎）、『存在と時間』（ハイデガー）、『物質と記憶』（ベルグソン）、『日本の政治』（丸山真男）、『日本近代思想を学ぶ人のために』（藤田正勝編）、『遠野物語』（柳田国男）、『蟲師』（漆原友紀）、『もののけ姫』（宮崎駿）などなど、適宜授業時に紹介。</p> <p>※カリキュラムの変更により内容が変更になる可能性があります。最新情報は静岡大学ウェブサイトでご確認ください。</p>				
受講要件	人間や社会における思想的側面に関心のある人なら誰でも受講歓迎				
テキスト	<p>特別に指定するものはないが、参考文献、授業中に紹介した本、関連するテキストなどから、自分の関心に従って入手し、読んでもらいたい。</p> <p>下記、吉田のブログに各授業の考察を載せていくので、これをテキスト代わりにしてください。 「YahooBlog2735」 http://post6.blogs.yahoo.co.jp/blog2735/</p>				
参考書	<p>『物語 哲学の歴史』（伊藤邦武、中公新書、2012） 『哲学の謎』（野矢茂樹、講談社現代新書） 『日本の政治』（丸山真男、岩波文庫、1961）</p>				

	<p>『善の研究』（西田幾多郎、岩波書店）</p> <p>『風土』（和辻哲郎、岩波書店）</p> <p>『日本近代思想を学ぶ人のために』（藤田正勝編、世界思想社、1997）</p> <p>『遠野物語・山の人生』（柳田国男、岩波文庫、1976）</p> <p>『無縁・公界・楽 日本中世の自由と平和』（平凡社、平凡社ライブラリー、1996）</p> <p>『「思い出」をつなぐネットワーク』（吉田寛他編著、昭和堂、2014）</p>
予習・復習について	図書館、インターネットなどを利用して、授業で紹介するテキスト、作品を見て、自分なりに検討する
成績評価の方法・基準	最終レポート（70%）、ミニ・レポート（数回：30%）における授業を踏まえた考察。基礎知識、根拠と論理性、アイデアのオリジナリティで評価する。
オフィスアワー	水曜日 11:30-12:30 J2735 室
担当教員からのメッセージ	<p>哲学は決まった答えのない分野なので、自分なりに頭をひねって自分なりの答えを求めることに面白さがあります。つまり、そこには自分なりの立場を選ぶという意思決定の要素もあります。ただしそれは、論理的な整合性や一貫性を保つと同時に、議論としても妥当な説得力を備えていなければ、哲学的思想とは言えません。ところが妥当性を保証してくれる確実な根拠というものもないので、他人の考えを批判的に検討して、それを手掛かりにすることが重要です。そういう意味では非常に困難な学問ですが、自分が生きていく上で、仲間と社会を作っていく上で、それがなければ魂がないとも言えるべき、不可欠なものと考えられています。ぜひ、この機会に哲学という人類にとって最も古くかつ常に新しい学問に触れてみませんか？</p>

授業科目名	化学の世界 (Introduction to Chemistry)				
担当教員名	梅本 宏信 (UMEMOTO Hironobu)		所属等	大学院工学領域	
			研究室	6-504	
分担教員名					
クラス	情 1	学期	前期		必修選択区分 選必
対象学年	3 年	単位数	2	曜日・時限	火 1・2
キーワード	基礎工学、自然科学、環境科学、科学哲学				
授業の目標	担当者が専門とする「化学」は、基礎工学という実学としての側面と自然哲学という純粋科学としての側面をもっている。本講義では、この両方の側面から「化学 (科学)」について考えていきたい。また、特に、地球環境を例にとりて、現代化学 (科学) の果たすべき役割について考える。				
学習内容	銅、鉄、水銀といった身近な物質の化学から始め、「地球温暖化対策」などの複合科学である環境科学まで、具体的な事例をその背後に存在する哲学を交えて講義する。同時に、我々の実生活に欠かせない「化学 (科学) の知識」、「科学的ものの考え方」を身に着ける。なお、本講義では、一部を除き、数式の使用は避ける方針であるが、化学式は使用する。				
授業計画	<p>以下に授業内容を掲げる。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 講義の概要説明、基礎工学としての化学と純粋科学としての化学 2. 銅と酸化還元 (10円玉とブロンズ像の化学) 3. 鉄と磁性 (磁石は日本のお家芸) 4. 水銀と環境問題 (科学進歩の立役者との惜別) 5. 環境問題パート2 (公害問題から環境問題へ) 6. エネルギーに関する基本法則 7. エネルギー資源1 (化石燃料) 8. エネルギー資源2 (核エネルギー) 9. 新エネルギー1 (太陽光発電) 10. 新エネルギー2 (燃料電池) 11. 地球環境問題1 (地球大気の変遷、酸性雨) 12. 地球環境問題2 (温暖化) 13. 地球環境問題3 (オゾン層の破壊とフロン) 14. みえるものとみえないもの (走査型トンネル顕微鏡からみえてくるもの、みえないものは存在しないか?) 15. 科学と似非科学 (カール・セーガンの遺書) 				
受講要件	特に定めないが、本講義では、自ら考え、発言することを求める。				
テキスト	なし				
参考書	芝哲夫「化学物語25講」 化学同人 ISBN4-7598-0776-4 今中利信、廣瀬良樹「環境・エネルギー・健康20講」 化学同人 ISBN4-7598-0849-3 カール・セーガン「カール・セーガン 科学と悪霊を語る」 新潮社 ISBN4-10-519203-5				
予習・復習について	随時、レポートの課題を示すので、それを期限内に提出すること。				
成績評価の方法・基準	レポート50%、期末試験50%。期末試験は、ノート、参考書持込可で行い、論述式とする。学習度が60%を満たしている者を合格とする。				
オフィスアワー	事前にメールで予約してください。				
担当教員からのメッセージ	哲学はすべての学問の基本である。工学も化学も例外ではないことを認識して欲しい。				

授業科目名	法と社会 (Law and Society)				
担当教員名	原田 伸一郎 (HARATA Shinichiro)		所属等	大学院情報学領域	
			研究室		
分担教員名					
クラス	情工 1	学期	前期		必修選択区分
対象学年	2 年	単位数	2	曜日・時限	火 3・4
キーワード	法、法的思考、対抗、批判、現代社会、本				
授業の目標	この講義は、主として戦後から近年に至るまでの日本の法学名著を素材にして、法的なものの考え方、法的な議論の構図を学ぶことをねらいとしています。到達目標は、(1)法学の基礎知識を身につけること（ただし、用語・概念の暗記ではなく、法のことばと日常のことばとの違いに敏感になること）、(2)法学の基本的思考法を理解すること（他の学問との思考法の違いをも理解すること）、(3)法学のおおよその分野の「土地勘」を得ることです。				
学習内容	下記の予定で、1回の授業につき1冊を選んで、それを素材にして授業を行います。それぞれの著者が何を問題としているのか、議論の争点はどこにあるのか、思考のエッセンスをつかむことを重視しています。そうした問題意識・議論を理解するのに必要な背景知識や、法学の基本用語・概念はその都度解説しますので、受講に当たって法学の予備知識は必要ありません。斬新なトピックや発想のヒントも豊富に提供します。全体を通して受講することで、法と社会の関わりにつき、自分なりの見取図を描くことができるようになるでしょう。				
授業計画	回 内容 1 ガイダンス 2 法社会学(1)/末弘厳太郎 『嘘の効用』 (『役人学三則』岩波書店、岩波現代文庫、2000) 3 法社会学(2)/川島武宜 『日本人の法意識』 (岩波書店、岩波新書、1967) 4 憲法(1)/長谷部恭男 『憲法とは何か』 (岩波書店、岩波新書、2006) 5 憲法(2)/樋口陽一 『人権(一語の辞典)』 (三省堂、1996) 6 憲法(3)/森田明 『未成年者保護法と現代社会』 (有斐閣、1999) 7 民法(1)/星野英一 『民法のすすめ』 (岩波書店、岩波新書、1998) 8 民法(2)/内田貴 『契約の時代』 (岩波書店、2000) 9 民法(3)/加藤雅信 『「所有権」の誕生』 (三省堂、2001) 10 刑法(1)/團藤重光 『死刑廃止論』 (有斐閣、第6版、2000) 11 刑法(2)/諸澤英道 『被害者学入門』 (成文堂、新版、1998) 12 国際法/小寺彰・道垣内正人編 『国際社会とソフトロー』 (有斐閣、2008) 13 法哲学(1)/山田卓生 『私事と自己決定』 (日本評論社、1987) 14 法哲学(2)/森村進 『自由はどこまで可能か』 (講談社、講談社現代新書、2001) 15 法史学/村上淳一 『〈法〉の歴史』 (東京大学出版会、1997)				
受講要件	特にありません。				
テキスト	特に指定はありません。				
参考書	法学および関連分野のブックガイドにもなるよう、毎回の授業で取り上げる文献のほかにも、参考文献を授業時にその都度紹介します。				
予習・復習について	授業で取り上げる文献を毎回事前に読んでおく必要はありませんが、手に取りやすい新書も含まれていますので、特に興味を持ったものについては、自ら読むことを勧めます。				
成績評価の方法・基準	平常点 40%、レポート 60%とし、試験は行いません。平常点は、毎回の授業で配布するコメントペーパーにより評価します。レポートは、法学関連の文献を1点読んで論評・考察を行うブック・レポート形式です。				
オフィスアワー	メールで連絡していただければ随時対応します。				
担当教員からのメッセージ	自分の専門外であっても、「本」を読むことなら苦にならない受講者、あるいは社会科学系の本を1冊でもきちんと読んでみたいという受講者の参加を特に歓迎しています。				

授業科目名	ことばと表現 (Language Arts)				
担当教員名	森本 隆子 (MORIMOTO Takako)		所属等	学術院人文社会科学領域	
			研究室	人文 A 棟 5 2 0 - 2	
分担教員名					
クラス	情工 1	学期	前期		必修選択区分
対象学年	2 年	単位数	2	曜日・時限	火 3・4
キーワード	近代、テキスト、アイデンティティ、恋愛、友情、家族、セクシュアリティ、ジェンダー				
授業の目標	<p>私たちが生きる<日本の近代>とは、どのような時代なのだろう？</p> <p>文芸作品を機軸に、明治の文豪・夏目漱石から村上春樹やよしもとばなな、ジブリに至るまでが一貫して追究してきた恋愛・家族・アイデンティティ等の問題群について、様々な角度からの提起を試みたい。</p> <p>偉大なる人気作家たちは、規範にはまらず、逸脱を生きる。その変奏を大いに楽しみ、かつ議論したい。</p>				
学習内容	<p>人は生涯に、おおむね2つの家族を生きる、というのが、長く近代社会の約束事であった。</p> <p><血縁>によって結ばれた生家と、<愛>の絆によって育むもう1つの家族と。</p> <p>近代の文芸作品は、この2つの家族の過渡期を<青春(思春期)>と呼んで、恋愛、友情、性的成熟などの葛藤をヴィヴィッドに織り込んでゆく。</p> <p><幸福>の名の下に近代人が追究してきた夢と幻想をときほぐし、その先に見えてくるものを展望したい。</p> <p>「アイデンティティ」とは、何だったのだろう？</p>				
授業計画	<p>第1回 青春、恋愛、そして友情…——「近代小説」の発生</p> <p>第2～6回 夏目漱石『こころ』——2つのちゃぶ台・恋愛結婚イデオロギーの登場</p> <ul style="list-style-type: none"> ・<私的空間>の発生——純白の愛と性欲と ・男たちの絆——三角形の欲望と帰結としての淋しい「明治の精神」 ・「心臓(ハート)の授受」と巡る血潮——愛と友情の連続体 <p>第7, 8回 「新しい女」の発生と男たち——夏目漱石 VS. 森鷗外</p> <p>第9, 10回 <家族映画>を<読む>——小津安二郎・女性映画の名手</p> <p>第11, 12回 村上晴樹『ノルウェイの森』——「まとも」であることの断念・社会からの逃走=闘争</p> <p>第13回 ジブリの批評性——脱・漱石、脱・春樹、あるいは男と国家の退場</p> <p>第14, 15回 女性作家の現代——ばななの「夢のキッチン」と江國の「きらきら」&「流しのした」</p>				
受講要件	特になし。				
テキスト	夏目漱石『こころ』(ちくま文庫)、他は本文抜粋コピーで。				
参考書	小森陽一『漱石を読みなおす』(ちくま新書)、藤本由香里『私の居場所はどこにあるの?』(朝日文庫)、斎藤環『戦闘美少女の精神分析』(ちくま文庫)ほか。教室にて指示します。				
予習・復習について	対象作品を、まずは自力で読み込んでみましょう。自分流の読みや印象と、授業で提供されるアングルおよび友人たちのコメントとのズレや異和を知ることで、思考力はグンと伸びます。				
成績評価の方法・基準	毎時のコメント・カード+最終レポートの総和				
オフィスアワー	まずは授業終了後、教室で声をかけて下さい。				
担当教員からのメッセージ	高校までの「国語」で、みんながよく知っている「鑑賞」。ここでは、それを時代へ問いかけ、また時代の息吹を映し出す生き物としての「テキスト」へ開く刺激と楽しさを味わいましょう。				

授業科目名	初修外国語（フランス語）入門Ⅱ (Basic French II)				
担当教員名	田中 柊子 (TANAKA Shuko)		所属等	学院情報学領域	
			研究室		
分担教員名					
クラス	情	学期	前期		必修選択区分
対象学年	1年	単位数	1	曜日・時限	火 5・6
キーワード					
授業の目標	フランスへ旅行したときや、日本にいるフランス人と簡単なフランス語で会話するときに、すぐ使えるフランス語を身に付けましょう。				
学習内容	教科書に沿って、日常の様々なシーンで使えるフランス語会話を練習します。仏作文を書いたり、グループワークでフランス語を活用したりなど、授業ではなるべくフランス語に親しむようにします。フランスの文化や社会についても、お話しします。				
授業計画	回 内容 1 Leçon 0 フランス語の基礎 2 Leçon 1 自己紹介をする1 3 Leçon 1 自己紹介をする2 4 Leçon 2 住んでいるところや出身地について話す 5 Leçon 3 交通手段について話す 6 Leçon 4 アルバイトについて話す 7 復習 8 小テスト 9 Leçon 5 ペットなどについて話す 10 Leçon 6 科目・先生について話す 11 Leçon 7 食べ物について話す 12 Leçon 8 家事について話す 13 Leçon 9 家族について話す1 14 Leçon 9 家族について話す2 15 復習				
受講要件					
テキスト	『Moi, je ... コミュニケーション』、Bruno Vannieuwenhuise など著、アルマ出版、2625 円(税込) ISBN 978-4-905343-03-5				
参考書	仏和辞書を必ず所持すること。ディコ仏和辞典（白水社）3990 円（税込）、プチ・ロワイヤル仏和辞典（旺文社）4200 円（税込）、クラウン仏和辞典（三省堂）4095 円、電子辞書など。				
予習・復習について	授業の前に学習する項目に目を通し、単語の意味を調べておくこと。授業後は学習内容を確認するとともに、練習問題で間違ったところを見直すこと。				
成績評価の方法・基準	平常点（参加度・課題）30%、小テスト 30%、期末試験 40%				
オフィスアワー	初回授業時にお知らせします。 場所は J2707 研究室（情報学部 2 号館 7 階）です。				
担当教員からのメッセージ	この授業ではあまり細かいことは考えずに、フランス語の表現をそのまま、まるごと覚えてもらいます。フランスを旅行したときや、フランス人と出会ったときに「自然に」フランス語が出てくるようになるといいですね！				

授業科目名	線形代数学 I および演習 (Linear Algebra I and Exercises)				
担当教員名	中島 徹 (NAKAJIMA Toru)		所属等	大学院工学領域	
			研究室	共 403	
分担教員名					
クラス	工 5	学期	前期		必修選択区分 必
対象学年	1 年	単位数	3	曜日・時限	火 5・6
キーワード	ベクトル、一次変換				
授業の目標	<p>高等学校でも学んだ平面のベクトル、空間のベクトル、平面上の一次変換をさらに発展させる。</p> <p>1、平面および空間のベクトルの演算を身につける。特に外積の取り扱いに慣れる。</p> <p>2、ベクトルの一次独立・一次従属について理解する。</p> <p>3、空間図形の取り扱いに慣れる。特に直線の方程式と平面の方程式を身につける。</p> <p>4、平面上の変換の具体例を知り、一次変換の考え方を理解する。</p> <p>5、平面上の一次変換と 2 次正方行列との関係を理解する。</p> <p>6、2 次および 3 次の行列式の取り扱いに慣れる。</p> <p>7、固有値・固有ベクトルを求め、2 次対称行列の対角化ができるようになる。</p>				
学習内容	<p>線形代数学は、微分積分学と並んで理工系の学生にとって重要な 2 本柱のひとつである。高等学校では、平面および空間のベクトル、2×2 の場合を中心に行列について取り扱っているが、線形代数学はこれに続くものと位置づけられる。また「図形と方程式」とも密接なつながりがある。線形代数学 I では高等学校で学んだ幾何ベクトルの復習から始まり、外積、一次独立・一次従属などについて学ぶ。さらにその応用として空間内における直線および平面の方程式について学ぶ。後半は平面上の一次変換について学び、できるだけ具体例を通して一次変換を理解することを目指す。</p>				
授業計画	<p>週 1 回 2 コマ (90 分 \times 2) の授業なので後半は演習に当てる。中間試験を行う。</p> <p>回 内容</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 平面ベクトル・平面図形 2 空間ベクトル、外積とその性質 3 ベクトルの一次独立・一次従属 4 空間内の直線 5 空間内の平面 6 一次変換の定義と例 7 より複雑な一次変換 8 一次変換の像 9 逆変換と行列式 10 一次変換と連立一次方程式 11 面積・体積と行列式 12 2 次対称行列の固有値・固有ベクトル 13 2 次対称行列の対角化 14 2 変数の二次形式 15 2 次曲線 				
受講要件	高等学校において「数学 I」「数学 II」「数学 III」「数学 A」「数学 B」のすべてを履修していることが望ましい。				
テキスト	「工学系の線形代数学」 菊地光嗣 他著 (学術図書出版)				
参考書					
予習・復習について	数学は積み重ねの学問である。前回の内容がわからないまま授業に臨んでも今回の内容を理解することは難しいであろう。予習・復習、特に復習を欠かさず行うことが肝要である。				
成績評価の方法・基準	<p>次の基準に基づき評価する。秀＝線形代数学の基礎を十分理解しており、かつ応用力に優れる。優＝線形代数学の基礎を十分理解しており、かつ応用できる。良＝線形代数学の基礎を十分理解している。可＝線形代数学の基礎をおおよそ理解している。不可＝線形代数学の基礎を理解していない。</p> <p>中間・期末の 2 回の試験を行う。</p>				
オフィスアワー	各担当者が時間中に指示する。また、工学部 6 号館 1 階に「数学の広場」があり、質問や相談を受け付けているので、気軽に訪れて欲しい。広場のホームページは http://www.ipc.shizuoka.ac.jp/~tmath/mathsquare/index.html				
担当教員からのメッセージ					

授業科目名	線形代数学 I および演習 (Linear Algebra I and Exercises)				
担当教員名	中島 徹 (NAKAJIMA Toru)		所属等	学術院工学領域	
			研究室	共 403	
分担教員名					
クラス	工 5	学期	前期		必修選択区分 必
対象学年	1 年	単位数	3	曜日・時限	火 7・8
キーワード	ベクトル、一次変換				
授業の目標	<p>高等学校でも学んだ平面のベクトル、空間のベクトル、平面上の一次変換をさらに発展させる。</p> <p>1、平面および空間のベクトルの演算を身につける。特に外積の取り扱いに慣れる。</p> <p>2、ベクトルの一次独立・一次従属について理解する。</p> <p>3、空間図形の取り扱いに慣れる。特に直線の方程式と平面の方程式を身につける。</p> <p>4、平面上の変換の具体例を知り、一次変換の考え方を理解する。</p> <p>5、平面上の一次変換と 2 次正方行列との関係を理解する。</p> <p>6、2 次および 3 次の行列式の取り扱いに慣れる。</p> <p>7、固有値・固有ベクトルを求め、2 次対称行列の対角化ができるようになる。</p>				
学習内容	<p>線形代数学は、微分積分学と並んで理工系の学生にとって重要な 2 本柱のひとつである。高等学校では、平面および空間のベクトル、2×2 の場合を中心に行列について取り扱っているが、線形代数学はこれに続くものと位置づけられる。また「図形と方程式」とも密接なつながりがある。線形代数学 I では高等学校で学んだ幾何ベクトルの復習から始まり、外積、一次独立・一次従属などについて学ぶ。さらにその応用として空間内における直線および平面の方程式について学ぶ。後半は平面上の一次変換について学び、できるだけ具体例を通して一次変換を理解することを目指す。</p>				
授業計画	<p>週 1 回 2 コマ (90 分 \times 2) の授業なので後半は演習に当てる。中間試験を行う。</p> <p>回 内容</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 平面ベクトル・平面図形 2 空間ベクトル、外積とその性質 3 ベクトルの一次独立・一次従属 4 空間内の直線 5 空間内の平面 6 一次変換の定義と例 7 より複雑な一次変換 8 一次変換の像 9 逆変換と行列式 10 一次変換と連立一次方程式 11 面積・体積と行列式 12 2 次対称行列の固有値・固有ベクトル 13 2 次対称行列の対角化 14 2 変数の二次形式 15 2 次曲線 				
受講要件	高等学校において「数学 I」「数学 II」「数学 III」「数学 A」「数学 B」のすべてを履修していることが望ましい。				
テキスト	「工学系の線形代数学」 菊地光嗣 他著 (学術図書出版)				
参考書					
予習・復習について	数学は積み重ねの学問である。前回の内容がわからないまま授業に臨んでも今回の内容を理解することは難しいであろう。予習・復習、特に復習を欠かさず行うことが肝要である。				
成績評価の方法・基準	<p>次の基準に基づき評価する。秀＝線形代数学の基礎を十分理解しており、かつ応用力に優れる。優＝線形代数学の基礎を十分理解しており、かつ応用できる。良＝線形代数学の基礎を十分理解している。可＝線形代数学の基礎をおおよそ理解している。不可＝線形代数学の基礎を理解していない。</p> <p>中間・期末の 2 回の試験を行う。</p>				
オフィスアワー	各担当者が時間中に指示する。また、工学部 6 号館 1 階に「数学の広場」があり、質問や相談を受け付けているので、気軽に訪れて欲しい。広場のホームページは http://www.ipc.shizuoka.ac.jp/~tmath/mathsquare/index.html				
担当教員からのメッセージ					

授業科目名	現代の社会 (Contemporary Japanese Society)				
担当教員名	中 正樹 (NAKA Masaki)		所属等	学術院情報学領域	
			研究室	J2831	
分担教員名					
クラス	情工 2	学期	前期		必修選択区分 ー
対象学年	2 年	単位数	2	曜日・時限	水 3・4
キーワード	現代社会、社会問題、社会学				
授業の目標	<p>私たちは社会について「知っている」つもりでいる。けれども、「それでは社会とは何か」と質問されたら、恐らくは返答に困るのではないだろうか。社会にはかたちがなく、実感することができない。私たちは個人的な経験とマスメディアから得た知識をもとに社会を想像しているに過ぎない。以上のような前提のもと、本授業においては「社会とは何か」の答えを探す学問である「社会学」を学ぶことを通して、現代の社会についての理解を深めることを目標とする。</p>				
学習内容	<p>社会学は日常化された「ものの見方」からではなく、新しい「ものの見方」から社会を理解することを試みる。授業では、そうした新しい「ものの見方」を紹介しつつ、社会学の基本的な知識と理論について社会のさまざまな領域における身近なトピックを通じて学んでいく。</p>				
授業計画	<p>回 内容</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション 2 社会学の視点 3 意思決定と行為 4 集団 (1) 5 集団 (2) 6 結婚と家族 7 職業と就職 8 都市と人間 9 社会階層と格差 10 権力と参加 11 科学時代の宗教 12 スポーツの社会学 13 メディアと疑似現実 14 高齢化と社会福祉 15 国際化と日本 				
受講要件	特に無し。				
テキスト	特に指定しない。				
参考書	友枝敏雄・山田真茂留『Do! ソシオロジー』(有斐閣アルマ、2007年) 長谷川公一・浜日出夫・藤村正之・町村敬志『社会学』(有斐閣、2007年)				
予習・復習について	毎回の授業終了後、ノートを読み直しておくこと。				
成績評価の方法・基準	<p>授業中に実施する複数回の小レポート、及び最終レポートで評価する。評価の割合は、それぞれ 60%、40%とする。毎回出席を取るが、成績には反映しない。十分な出席回数にも関わらず不可の場合、追加レポートを課す可能性がある。</p>				
オフィスアワー	金曜日 5・6 限 (12 時 45 分～14 時 15 分) を予定。事前にアポを取ること。				
担当教員からのメッセージ					

授業科目名	芸術論 (Aesthetics)				
担当教員名	高松 良幸 (TAKAMATSU Yoshiyuki)		所属等	大学院情報学領域	
			研究室	J-2629	
分担教員名					
クラス	情工1	学期	前期		必修選択区分 ー
対象学年	2年	単位数	2	曜日・時限	水3・4
キーワード	日本美術史、芸術の概念、芸術の機能、芸術の言説、芸術の支持者				
授業の目標	日本美術史を各時代を代表する作品を概観するとともに、その制作背景としての思想、社会状況等について理解することを目標とする。また、これらの作品が、伝来する過程で、どのように評価、活用されてきたかについても考察する。				
学習内容	日本美術史を代表する作品を、各コマ1点ずつとりあげ、その制作、需要、伝来等に関する言説について、講義する。講義には、スライド等を使用する。				
授業計画	回 内容 1 ガイダンスー芸術・美術について 2 飛鳥時代 3 奈良時代 I 4 奈良時代 II 5 平安時代 I 6 平安時代 II 7 鎌倉時代 I 8 鎌倉時代 II 9 室町時代 I 10 室町時代 II 11 桃山時代 12 江戸時代 I 13 江戸時代 II 14 江戸時代 III 15 近代				
受講要件					
テキスト	必要に応じてプリント等を配布する				
参考書	授業中に指示する。				
予習・復習について	授業時間の2倍程度の予習・復習が必要である。				
成績評価の方法・基準	授業中のレポート(10%)、期末試験(90%)により評価する。いずれも、授業内容理解度50%、授業内容応用度50%で採点する。				
オフィスアワー	授業中に指示する。				
担当教員からのメッセージ	実物の美術作品に接する機会をできるだけもってほしい。				

授業科目名	ことばと表現 (Language Arts)				
担当教員名	田中 柊子 (TANAKA Shuko)		所属等	学院院情報学領域	
			研究室		
分担教員名					
クラス	情工 2	学期	前期		必修選択区分 ー
対象学年	2 年	単位数	2	曜日・時限	水 3・4
キーワード	幻想、妖精、SF、文学、物語、ファンタジー、怪奇、超自然、読者、受容				
授業の目標	妖精や魔法使いは怖くないのに、なぜ幽霊や吸血鬼は恐怖の対象となるのでしょうか。同じ非現実なものでも、怪物が得体の知れない「不気味なもの」であるのに対し、なぜロボットは謎めいていないのでしょうか。「ことばの表現」がどのようにして読者に「幻想」として受容されるのか考えてみましょう。				
学習内容	幻想文学と呼ばれる文学ジャンルに注目し、読者がテキストから「幻想」を読み取るための形式上の条件や工夫を分析します。いくつかの幻想文学論をもとに幻想文学の定義や歴史に関する知識を得ながら、実際に「幻想文学」作品を読み解きます。隣接ジャンルである、妖精物語、SF、推理小説、ファンタジーの作品にも言及し、それぞれのジャンルを成立させる表現の特徴も考察します。				
授業計画	回 内容 1 ガイダンス 2 幻想文学というジャンル 3 幻想文学成立の背景：妖精物語から幻想文学へ 4 作品分析（1） ルートヴィヒ・ティーク「金髪のエックベルト」 5 作品分析（2） E.T.A. ホフマン「砂男」 6 作品分析（3） メアリー・シェリー『フランケンシュタイン』 7 幻想文学とSF 8 作品分析（4） エドガー・アラン・ポー「黒猫」 9 幻想文学と推理小説 10 作品分析（5） ブラム・ストーカー『吸血鬼ドラキュラ』 11 幻想文学とファンタジー 12 幻想文学のアダプテーション 13 映画鑑賞 14 日本における「幻想文学」（1）「もののけ」から怪談まで 15 日本における「幻想文学」（2）谷崎潤一郎「人面疽」から鈴木光司『リング』まで				
受講要件	特になし				
テキスト	授業時にプリントを配布します。				
参考書	ジャン＝リュック・スタインメッツ著、中島さおり訳、『幻想文学』、文庫クセジュ・白水社、1993年 ISBN：9784560057414、951円（税抜）				
予習・復習について	興味をもった作品をどんどん読んで、作品について自分なりに考えてみましょう。				
成績評価の方法・基準	平常点（コメントシートの提出）40%、レポート60%				
オフィスアワー	初回に説明します。場所はJ2 707研究室（情報学部2号館7階）です。				
担当教員からのメッセージ	幻想文学は、数ある文学ジャンルの中でも特に強烈な感覚を読者に感じさせるジャンルです。みなさんが今まで読んだ本の中にも、幻想文学に属する作品があったかもしれません。幻想文学をもう少し知って、読書の楽しみを増やしてみませんか。				

授業科目名	経済と社会 (Economy and Society)				
担当教員名	永吉 実武 (NAGAYOSHI Sanetake)		所属等	情報学部	
			研究室	情報学部 2 号館 2307 号室	
分担教員名	遊橋 裕泰				
クラス	情工 2	学期	前期		必修選択区分 ー
対象学年	2 年	単位数	2	曜日・時限	水 3・4
キーワード	ミクロ経済学、マクロ経済学、グローバル化、情報化、企業経営				
授業の目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ミクロ/マクロ経済学の基礎を踏まえ、様々な経済活動を理解すること。 ・グローバル化や情報化をはじめとする様々な情勢の変化を踏まえ、それが現実社会や経済活動に影響を与えているかを理解すること。 				
学習内容	現代社会では様々な経済/社会活動が営まれており、それらを理解し、工学・情報学などの専門知識を社会で活用していくための社会科学的基礎素養を身につける。				
授業計画	<p>回 内容</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 貨幣とグローバル化 (遊橋) : 経済最大の発明である貨幣には信用が不可欠であることを理解した上で、貨幣がグローバル化を促すことや、電子マネーなどの話題を取り上げていきます。 2 税金と政策 (遊橋) : 税の三原則 (簡素・公平・中立) から、税制のあり方を解説した上で、財政から見た日本国の政策を概観します。 3 労働市場とセーフティネット (遊橋) : 経済学では人間の存在をどのように考えるのか、資本主義/社会主義のスタンスを解説した上で労働市場の仕組みとセーフティネットについて考えます 4 需要と供給・金融 (遊橋) : 資本主義経済の大原則ともいえる「神の見えざる手」について解説し、世界的な経済の停滞や、企業活動による需要/供給曲線のシフトについて取り上げます。 5 企業と株式 (遊橋) : 投資と消費の関係について解説した上で、株式市場における企業の業績と株価の動向について考えます。 6 データ・情報・知識 (永吉) : データ・情報・知識の違いを整理したうえで、これらが社会や経済に与える影響について考えます。 7 インターネット社会 (永吉) : 近年のインターネットによる情報の拡散の事例をとりあげ、その社会的背景について整理します。また、データ活用の可能性についても考えます。 8 グローバル化と国際化 (永吉) : グローバル化と国際化の違いについて整理したうえで、我が国の国際競争力や多様性について議論を行います。 9 グローバル企業 (永吉) : グローバル企業とは何かを考えたいうえで、企業のグローバル化の形態について考えます。 10 海外ビジネス (永吉) : ビジネスの海外展開について考えるとともに、その成功要因についても議論する。 11 グローバルビジネスと言語 (永吉) : 国際ビジネス共通言語を持つことの重要性について考えるとともに、日本企業の英語化の取り組みについて議論を行う。 12 中小企業と経営 (永吉) : 経済・社会における中小企業やイノベーションを担うベンチャー企業役割について、議論を行う。 13 社会の発展と創造性 (永吉) : 経済や社会の発展と創造性の重要性について考えるとともに、我が国の創造力についても議論を行う。 14 調査 (永吉) : インターネットや文献等を用いて第 15 回目の講義に向けた調査を行う。 15 新事業・新分野進出 (永吉) : 新事業創出・新分野進出の上手な企業とはどのような企業なのか、またどのような点に着目すれば事業創出ができるのかについて考える。 				
受講要件	他の受講者との議論や協働作業に積極的に参加できること。				
テキスト	必要に応じて指示します。講義の際にプリント資料を配布して、これをテキストとすることもあります。				
参考書	必要に応じて、適宜、提示します。				

予習・復習について	<ul style="list-style-type: none"> ・授業計画をみて、次回の内容に即して、新聞記事やインターネット上の記事等を検索し、予備知識を持ったうえで講義に参加するように心がけてください ・講義後には、講義内容が現実の世の中でどのように話題になっているのか、新聞・ニュース等に関心を持って、意識して接するようにしてください
成績評価の方法・基準	<ul style="list-style-type: none"> ・授業貢献：25% ・ミニレポート：25% ・最終レポート：50%
オフィスアワー	原則として、金曜日 3-4 限目（担当：永吉）。面談を希望する場合は、事前にメール等でアポイントを取ること。
担当教員からのメッセージ	<ul style="list-style-type: none"> ・状況に応じて、授業計画の修正等が適宜発生することがあります。受講者は、注意してください。 ・受講者にグループ討議や発表などを課したりすることがあります。 ・講義時間内にミニレポートやインターネット記事の検索等を行うことがあるため、学内 LAN にアクセス可能なパソコンを毎回持参してください。

授業科目名	線形代数学 I および演習 (Linear Algebra I and Exercises)				
担当教員名	中島 徹 (NAKAJIMA Toru)		所属等	学術院工学領域	
			研究室	共 403	
分担教員名					
クラス	工 3	学期	前期		必修選択区分 必
対象学年	1 年	単位数	3	曜日・時限	水 5・6
キーワード	ベクトル、一次変換				
授業の目標	<p>高等学校でも学んだ平面のベクトル、空間のベクトル、平面上の一次変換をさらに発展させる。</p> <p>1、平面および空間のベクトルの演算を身につける。特に外積の取り扱いに慣れる。</p> <p>2、ベクトルの一次独立・一次従属について理解する。</p> <p>3、空間図形の取り扱いに慣れる。特に直線の方程式と平面の方程式を身につける。</p> <p>4、平面上の変換の具体例を知り、一次変換の考え方を理解する。</p> <p>5、平面上の一次変換と 2 次正方行列との関係を理解する。</p> <p>6、2 次および 3 次の行列式の取り扱いに慣れる。</p> <p>7、固有値・固有ベクトルを求め、2 次対称行列の対角化ができるようになる。</p>				
学習内容	<p>線形代数学は、微分積分学と並んで理工系の学生にとって重要な 2 本柱のひとつである。高等学校では、平面および空間のベクトル、2×2 の場合を中心に行列について取り扱っているが、線形代数学はこれに続くものと位置づけられる。また「図形と方程式」とも密接なつながりがある。線形代数学 I では高等学校で学んだ幾何ベクトルの復習から始まり、外積、一次独立・一次従属などについて学ぶ。さらにその応用として空間内における直線および平面の方程式について学ぶ。後半は平面上の一次変換について学び、できるだけ具体例を通して一次変換を理解することを目指す。</p>				
授業計画	<p>週 1 回 2 コマ (90 分 \times 2) の授業なので後半は演習に当てる。中間試験を行う。</p> <p>回 内容</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 平面ベクトル・平面図形 2 空間ベクトル、外積とその性質 3 ベクトルの一次独立・一次従属 4 空間内の直線 5 空間内の平面 6 一次変換の定義と例 7 より複雑な一次変換 8 一次変換の像 9 逆変換と行列式 10 一次変換と連立一次方程式 11 面積・体積と行列式 12 2 次対称行列の固有値・固有ベクトル 13 2 次対称行列の対角化 14 2 変数の二次形式 15 2 次曲線 				
受講要件	高等学校において「数学 I」「数学 II」「数学 III」「数学 A」「数学 B」のすべてを履修していることが望ましい。				
テキスト	「工学系の線形代数学」 菊地光嗣 他著 (学術図書出版)				
参考書					
予習・復習について	数学は積み重ねの学問である。前回の内容がわからないまま授業に臨んでも今回の内容を理解することは難しいであろう。予習・復習、特に復習を欠かさず行うことが肝要である。				
成績評価の方法・基準	<p>次の基準に基づき評価する。秀＝線形代数学の基礎を十分理解しており、かつ応用力に優れる。優＝線形代数学の基礎を十分理解しており、かつ応用できる。良＝線形代数学の基礎を十分理解している。可＝線形代数学の基礎をおおよそ理解している。不可＝線形代数学の基礎を理解していない。</p> <p>中間・期末の 2 回の試験を行う。</p>				
オフィスアワー	各担当者が時間中に指示する。また、工学部 6 号館 1 階に「数学の広場」があり、質問や相談を受け付けているので、気軽に訪れて欲しい。広場のホームページは http://www.ipc.shizuoka.ac.jp/~tmath/mathsquare/index.html				
担当教員からのメッセージ					

授業科目名	力学・波動 I (Mechanics & Waves I)				
担当教員名	岡部 拓也 (OKABE Takuya)		所属等	大学院工学領域	
			研究室	6号館303	
分担教員名					
クラス	工8	学期	前期		必修選択区分 必
対象学年	1年	単位数	2	曜日・時限	水5・6
キーワード	運動の3法則、力、運動量、運動エネルギー、位置エネルギー、力のモーメント、角運動量				
授業の目標	1. 力学の基礎概念を数学的に表現する方法の修得 2. 運動の3法則と1質点の運動の理解				
学習内容	1. 位置, 速度, 加速度, 力など, 力学における基本的概念の, ベクトルおよび微分積分法を用いた表現方法を修得する. 2. 運動の3法則と1質点の運動の理解. 基本的な法則を理解し, これを工学の各分野で応用するためには, 力学・波動の概念を自分のものにすることが必要である. この講義では高校の物理学で学んだ内容を, より応用範囲の広い微分積分を用いた厳密な形で学ぶ. それを基礎的な問題に適用することや, 運動の3法則から様々な物理法則が導かれることも学ぶ.				
授業計画	回 内容 1 概要 (講義の目的, 必要性. 高校での物理学および数学の復習) 2 質点の位置, 速度, 加速度とそのベクトル表示 (ベクトル関数の微分・積分) 3 簡単な運動の表現. 位置から速度, 加速度, あるいはその逆を求める 4 運動の3法則 (慣性の法則, 運動方程式, 作用反作用の法則), 慣性系 5 運動量と力積. 運動量保存則 6 物体に働く力と運動方程式 I (重力, 摩擦力) 7 物体に働く力と運動方程式 II (ばねの力) 8 運動方程式を解く I (等加速度運動) 9 運動方程式を解く II (2階常微分方程式の解法) 10 運動方程式を解く III (振子の運動) 11 仕事と保存力 (位置エネルギー) 12 運動エネルギーと力学的エネルギー保存則 I 13 運動エネルギーと力学的エネルギー保存則 II 14 角運動量と力のモーメント (ベクトル積による表現) 15 角運動量保存則と中心力				
受講要件	特になし. ただし, 講義内容をスムーズに理解するためには, 高校での数学(微分・積分・ベクトル等)や物理学の修得が必須.				
テキスト	テキスト: 「力学・波動」(浅田他著, 日新出版) ISBN978-4-8173-0196-3				
参考書	物理入門コース1「力学」(戸田盛和著, 岩波書店) ISBN-13: 978-4000076418 同「例解 力学演習」(戸田盛和・渡辺慎介著, 岩波書店) ISBN-13: 978-4000077910				
予習・復習について	本授業はある概念を理解し, それを用いて次の概念を理解するという積み上げの学習である. 各項目は別々に理解できるものではないので, その意味でも予習・復習は欠かせない. 特に教科書の例題・章末問題, 授業中行う演習問題やレポート問題について十分な予習・復習を行うこと.				
成績評価の方法・基準	1. 講義の際に行われる演習問題 (小テスト, レポートを含む) 20% 2. 全クラス統一期末試験 80%				
オフィスアワー	教員によって異なります. 講義時間中にお知らせします.				
担当教員からのメッセージ	この講義は, 学科単位ではなく, センター試験・個別試験等の成績に基づいたクラス編成で行う. 受講クラス・教室などをよく確認すること.				

授業科目名	線形代数学 I および演習 (Linear Algebra I and Exercises)				
担当教員名	中島 徹 (NAKAJIMA Toru)		所属等	学術院工学領域	
			研究室	共 403	
分担教員名					
クラス	工 3	学期	前期		必修選択区分 必
対象学年	1 年	単位数	3	曜日・時限	水 7・8
キーワード	ベクトル、一次変換				
授業の目標	<p>高等学校でも学んだ平面のベクトル、空間のベクトル、平面上の一次変換をさらに発展させる。</p> <p>1、平面および空間のベクトルの演算を身につける。特に外積の取り扱いに慣れる。</p> <p>2、ベクトルの一次独立・一次従属について理解する。</p> <p>3、空間図形の取り扱いに慣れる。特に直線の方程式と平面の方程式を身につける。</p> <p>4、平面上の変換の具体例を知り、一次変換の考え方を理解する。</p> <p>5、平面上の一次変換と 2 次正方行列との関係を理解する。</p> <p>6、2 次および 3 次の行列式の取り扱いに慣れる。</p> <p>7、固有値・固有ベクトルを求め、2 次対称行列の対角化ができるようになる。</p>				
学習内容	<p>線形代数学は、微分積分学と並んで理工系の学生にとって重要な 2 本柱のひとつである。高等学校では、平面および空間のベクトル、2×2 の場合を中心に行列について取り扱っているが、線形代数学はこれに続くものと位置づけられる。また「図形と方程式」とも密接なつながりがある。線形代数学 I では高等学校で学んだ幾何ベクトルの復習から始まり、外積、一次独立・一次従属などについて学ぶ。さらにその応用として空間内における直線および平面の方程式について学ぶ。後半は平面上の一次変換について学び、できるだけ具体例を通して一次変換を理解することを目指す。</p>				
授業計画	<p>週 1 回 2 コマ (90 分 \times 2) の授業なので後半は演習に当てる。中間試験を行う。</p> <p>回 内容</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 平面ベクトル・平面図形 2 空間ベクトル、外積とその性質 3 ベクトルの一次独立・一次従属 4 空間内の直線 5 空間内の平面 6 一次変換の定義と例 7 より複雑な一次変換 8 一次変換の像 9 逆変換と行列式 10 一次変換と連立一次方程式 11 面積・体積と行列式 12 2 次対称行列の固有値・固有ベクトル 13 2 次対称行列の対角化 14 2 変数の二次形式 15 2 次曲線 				
受講要件	高等学校において「数学 I」「数学 II」「数学 III」「数学 A」「数学 B」のすべてを履修していることが望ましい。				
テキスト	「工学系の線形代数学」 菊地光嗣 他著 (学術図書出版)				
参考書					
予習・復習について	数学は積み重ねの学問である。前回の内容がわからないまま授業に臨んでも今回の内容を理解することは難しいであろう。予習・復習、特に復習を欠かさず行うことが肝要である。				
成績評価の方法・基準	<p>次の基準に基づき評価する。秀＝線形代数学の基礎を十分理解しており、かつ応用力に優れる。優＝線形代数学の基礎を十分理解しており、かつ応用できる。良＝線形代数学の基礎を十分理解している。可＝線形代数学の基礎をおおよそ理解している。不可＝線形代数学の基礎を理解していない。</p> <p>中間・期末の 2 回の試験を行う。</p>				
オフィスアワー	各担当者が時間中に指示する。また、工学部 6 号館 1 階に「数学の広場」があり、質問や相談を受け付けているので、気軽に訪れて欲しい。広場のホームページは http://www.ipc.shizuoka.ac.jp/~tmath/mathsquare/index.html				
担当教員からのメッセージ					

授業科目名	工学基礎化学 I (Basic Chemistry for Engineers I)				
担当教員名	植田 一正 (UEDA Kazumasa)		所属等	学術院工学領域	
			研究室	共通棟 5 階 507 室 (不在時は 511 室も)	
分担教員名					
クラス	M (クラス II)	学期	前期		必修選択区分
対象学年	1 年	単位数		曜日・時限	木 1・2
キーワード	原子の構造、元素の周期律、化学結合と分子の構造、固体の化学				
授業の目標	基礎的な化学の知識を習得するとともに、実生活・社会との関わりについて、自ら考える力の基礎を養う。そのために、先ず原子の構造を理解し、そこでの電子の振る舞いが元素の性質、化学結合、分子の構造、性質、反応性に重要な関わりがあることを学ぶ。				
学習内容	化学の基礎、化学的なものの考え方は、いずれの学科においても、素材や材料を扱う上で重要となるので、比較的やさしい理論的な取り扱いに基づいて講義する。その上で、実際の化学材料あるいは電子材料等に応用できる力を養う。				
授業計画	<p>以下の授業内容と回数は目安であり、必ずしも固定されたものではない。より詳細な講義計画は、初回の講義の際に担当教員によって示される。進度によっては、中間のまとめ (8 回目) を実施しないこともある。また、随時演習を行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 原子の構造と電子配置 (1) 原子と分子 2 原子の構造と電子配置 (2) 物質、電子の軌道 3 元素の周期性と属性 (1) 周期律 4 元素の周期性と属性 (2) 原子の大きさ、同位体 5 量子力学入門 (1) 光の粒子性と波動性、物質波 6 量子力学入門 (2) 波動関数、量子数 7 共有結合と配位結合 (1) 共有結合と電子式 8 中間のまとめ 9 共有結合と配位結合 (2) 分子軌道、配位結合 10 共有結合分子の構造 (1) 混成軌道 11 共有結合分子の構造 (2) 共鳴、共役系 12 イオン結合と水素結合 (1) イオン結合 13 イオン結合と水素結合 (2) 電気陰性度、水素結合 14 固体の化学 (1) 結晶構造、イオン結晶 15 固体の化学 (2) 金属結合、半導体 				
受講要件	高校の化学の教科書をよく復習しておくことを要望する。				
テキスト	「基礎から学ぶ大学の化学」植田一正・梅本宏信・平川和貴・山田眞吉 共著 (培風館) ISBN978-4-563-04607-1				
参考書	化学入門シリーズ 1「化学の基礎」、竹内敬人著、同 2「物理化学」、関一彦著 (岩波書店) シリーズ 1 ISBN4-00-007981-6 シリーズ 2 ISBN4-00-007982-4 ; 一般化学、芝原寛泰・斉藤正治共著 (化学同人) ISBN4-7598-1020-X ; 化学－基本の考え方を中心に－、Alan Sherman 他著、石倉洋子・石倉久之共訳 (東京化学同人) ISBN4-8079-0334-9				
予習・復習について	授業だけで理解することは難しいので、授業に匹敵する予習および復習が必要である。教科書の各章末の演習問題を復習課題として課す。また、別途演習課題を示すことがある。				
成績評価の方法・基準	個別目標が達成され、専門課程に進むための基礎学力と応用力が培われたかどうかを評価する。授業時間内の演習問題と、宿題に丁寧に取り組むことを求める。これによって、予習・復習をして授業に臨んでいるか否かを判断する。評価の配分は、試験 70%、演習・宿題 30%である。ただし、評価の内容は、80%が授業内容の理解、20%が理解した内容を応用する力である。学習度が 60%を満たしている場合を合格とする。				
オフィスアワー	講義後または教員室にてオフィスアワーを設けるが、具体的な曜日・時間については初回講義時に案内する。この時間帯以外でも可能な限り質問は随時受け付ける。なお、非常勤担当のクラスについては非常勤教員 (植田、梅本、宮林) が対応する。				
担当教員からのメッセージ	大学の化学は決して暗記科目ではない。常に、「何故そうなるのか」、「何故そのように考えるのか」という観点から学びを深めてほしい。				

授業科目名	工学基礎化学 I (Basic Chemistry for Engineers I)				
担当教員名	梅本 宏信 (UMEMOTO Hironobu)		所属等	学術院工学領域	
			研究室	6-504	
分担教員名					
クラス	S	学期	前期		必修選択区分
対象学年	1年	単位数		曜日・時限	木 1・2
キーワード	原子の構造、元素の周期律、化学結合と分子の構造、固体の化学				
授業の目標	基礎的な化学の知識を習得するとともに、実生活・社会との関わりについて、自ら考える力の基礎を養う。そのために、先ず原子の構造を理解し、そこでの電子の振る舞いが元素の性質、化学結合、分子の構造、性質、反応性に重要な関わりがあることを学ぶ。				
学習内容	化学の基礎、化学的なものの考え方は、いずれの学科においても、素材や材料を扱う上で重要となるので、比較的やさしい理論的な取り扱いに基づいて講義する。その上で、実際の化学材料あるいは電子材料等に応用できる力を養う。				
授業計画	<p>以下の授業内容と回数は目安であり、必ずしも固定されたものではない。より詳細な講義計画は、初回の講義の際に担当教員によって示される。進度によっては、中間のまとめ（8回目）を実施しないこともある。また、随時演習を行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 原子の構造と電子配置 (1) 原子と分子 2 原子の構造と電子配置 (2) 物質、電子の軌道 3 元素の周期性と属性 (1) 周期律 4 元素の周期性と属性 (2) 原子の大きさ、同位体 5 量子力学入門 (1) 光の粒子性と波動性、物質波 6 量子力学入門 (2) 波動関数、量子数 7 共有結合と配位結合 (1) 共有結合と電子式 8 中間のまとめ 9 共有結合と配位結合 (2) 分子軌道、配位結合 10 共有結合分子の構造 (1) 混成軌道 11 共有結合分子の構造 (2) 共鳴、共役系 12 イオン結合と水素結合 (1) イオン結合 13 イオン結合と水素結合 (2) 電気陰性度、水素結合 14 固体の化学 (1) 結晶構造、イオン結晶 15 固体の化学 (2) 金属結合、半導体 				
受講要件	高校の化学の教科書をよく復習しておくことを要望する。				
テキスト	「基礎から学ぶ大学の化学」植田一正・梅本宏信・平川和貴・山田眞吉 共著（培風館） ISBN978-4-563-04607-1				
参考書	化学入門シリーズ 1「化学の基礎」、竹内敬人著、同 2「物理化学」、関一彦著（岩波書店）シリーズ 1 ISBN4-00-007981-6 シリーズ 2 ISBN4-00-007982-4； 一般化学、芝原寛泰・斉藤正治共著（化学同人）ISBN4-7598-1020-X； 化学－基本の考え方を中心に－、Alan Sherman 他著、石倉洋子・石倉久之共訳（東京化学同人） ISBN4-8079-0334-9				
予習・復習について	授業だけで理解することは難しいので、授業に匹敵する予習および復習が必要である。教科書の各章末の演習問題を復習課題として課す。また、別途演習課題を示すことがある。				
成績評価の方法・基準	個別目標が達成され、専門課程に進むための基礎学力と応用力が培われたかどうかを評価する。授業時間内の演習問題と、宿題に丁寧に取り組むことを求める。これによって、予習・復習をして授業に臨んでいるか否かを判断する。評価の配分は、試験 70%、演習・宿題 30%である。ただし、評価の内容は、80%が授業内容の理解、20%が理解した内容を応用する力である。学習度が 60%を満たしている場合を合格とする。				
オフィスアワー	講義後または教員室にてオフィスアワーを設けるが、具体的な曜日・時間については初回講義時に案内する。この時間帯以外でも可能な限り質問は随時受け付ける。なお、非常勤担当のクラスについては非常勤教員（植田、梅本、宮林）が対応する。				
担当教員からのメッセージ	大学の化学は決して暗記科目ではない。常に、「何故そうなるのか」、「何故そのように考えるのか」という観点から学びを深めてほしい。				

授業科目名	工学基礎化学 I (Basic Chemistry for Engineers I)				
担当教員名	植田 一正 (UEDA Kazumasa)		所属等	大学院工学領域	
			研究室	共通棟 5 階 507 室 (不在時は 511 室も)	
分担教員名					
クラス	C	学期	前期		必修選択区分
対象学年	1 年	単位数		曜日・時限	木 3・4
キーワード	原子の構造、元素の周期律、化学結合と分子の構造、固体の化学				
授業の目標	基礎的な化学の知識を習得するとともに、実生活・社会との関わりについて、自ら考える力の基礎を養う。そのために、先ず原子の構造を理解し、そこでの電子の振る舞いが元素の性質、化学結合、分子の構造、性質、反応性に重要な関わりがあることを学ぶ。				
学習内容	化学の基礎、化学的なものの考え方は、いずれの学科においても、素材や材料を扱う上で重要となるので、比較的やさしい理論的な取り扱いに基づいて講義する。その上で、実際の化学材料あるいは電子材料等に応用できる力を養う。				
授業計画	<p>以下の授業内容と回数は目安であり、必ずしも固定されたものではない。より詳細な講義計画は、初回の講義の際に担当教員によって示される。進度によっては、中間のまとめ (8 回目) を実施しないこともある。また、随時演習を行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 原子の構造と電子配置 (1) 原子と分子 2 原子の構造と電子配置 (2) 物質、電子の軌道 3 元素の周期性と属性 (1) 周期律 4 元素の周期性と属性 (2) 原子の大きさ、同位体 5 量子力学入門 (1) 光の粒子性と波動性、物質波 6 量子力学入門 (2) 波動関数、量子数 7 共有結合と配位結合 (1) 共有結合と電子式 8 中間のまとめ 9 共有結合と配位結合 (2) 分子軌道、配位結合 10 共有結合分子の構造 (1) 混成軌道 11 共有結合分子の構造 (2) 共鳴、共役系 12 イオン結合と水素結合 (1) イオン結合 13 イオン結合と水素結合 (2) 電気陰性度、水素結合 14 固体の化学 (1) 結晶構造、イオン結晶 15 固体の化学 (2) 金属結合、半導体 				
受講要件	高校の化学の教科書をよく復習しておくことを要望する。				
テキスト	「基礎から学ぶ大学の化学」植田一正・梅本宏信・平川和貴・山田眞吉 共著 (培風館) ISBN978-4-563-04607-1				
参考書	化学入門シリーズ 1「化学の基礎」、竹内敬人著、同 2「物理化学」、関一彦著 (岩波書店) シリーズ 1 ISBN4-00-007981-6 シリーズ 2 ISBN4-00-007982-4 ; 一般化学、芝原寛泰・斉藤正治共著 (化学同人) ISBN4-7598-1020-X ; 化学－基本の考え方を中心に－、Alan Sherman 他著、石倉洋子・石倉久之共訳 (東京化学同人) ISBN4-8079-0334-9				
予習・復習について	授業だけで理解することは難しいので、授業に匹敵する予習および復習が必要である。教科書の各章末の演習問題を復習課題として課す。また、別途演習課題を示すことがある。				
成績評価の方法・基準	個別目標が達成され、専門課程に進むための基礎学力と応用力が培われたかどうかを評価する。授業時間内の演習問題と、宿題に丁寧に取り組むことを求める。これによって、予習・復習をして授業に臨んでいるか否かを判断する。評価の配分は、試験 70%、演習・宿題 30%である。ただし、評価の内容は、80%が授業内容の理解、20%が理解した内容を応用する力である。学習度が 60%を満たしている場合を合格とする。				
オフィスアワー	講義後または教員室にてオフィスアワーを設けるが、具体的な曜日・時間については初回講義時に案内する。この時間帯以外でも可能な限り質問は随時受け付ける。なお、非常勤担当のクラスについては非常勤教員 (植田、梅本、宮林) が対応する。				
担当教員からのメッセージ	大学の化学は決して暗記科目ではない。常に、「何故そうなるのか」、「何故そのように考えるのか」という観点から学びを深めてほしい。				

授業科目名	電磁気学 (Electromagnetism)				
担当教員名	岡部 拓也 (OKABE Takuya)		所属等	学術院工学領域	
			研究室	6号館303	
分担教員名					
クラス	M (クラス I)	学期	前期		必修選択区分 必
対象学年	2年	単位数	2	曜日・時限	金 1・2
キーワード	電場、磁場、電流、電磁誘導、ガウスの法則、アンペールの法則、ファラデーの法則、キルヒホッフの法則、ビオ・サバールの法則				
授業の目標	本講義では、電磁気現象、主に、静電場、電流と磁場、電磁誘導、直流および交流回路に関連した原理・法則を理解し、それを体系的に記述する物理数学的技術を修得する。				
学習内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 静電場の性質の把握と記述方法の修得 2. ガウスの法則の理解と応用力養成 3. 電位と静電場エネルギーの記述方法の修得 4. 電流と磁場および電場と磁場の間に存在する法則の理解と応用力養成 5. 抵抗、コンデンサー、コイルからなる基本的な電気回路の特性の修得 				
授業計画	<p>回 内容</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 概要 (電磁気学の発展の歴史について概説し、現代の科学技術における役割と重要性について述べる) 2 クーロンの法則、静電場 (点電荷およびその集合による静電気力に関する法則とその数学的記述法、ベクトル場の概念とそれによる静電場の記述) 3 ガウスの法則 (積分形) (静電場と電荷密度の関係を、ベクトル場とその積分によって記述する方法について述べる) 4 ガウスの法則の応用 (この法則を用いて電場を求める幾つかの例を示す) 5 電場と電位 (電場の線積分による電位の定義と、電位の勾配から電場を求める方法について述べる) 6 導体の性質、電気容量 (導体および静電場中の導体の特性について述べる。さらに、導体平板および導体球からなるコンデンサーの電気容量、静電場エネルギーについて説明する) 7 誘電体と静電場 (誘電体の基本的性質と、誘電体中の静電場の性質について述べる) 8 電流密度、オームの法則、キルヒホッフの法則 (導体を流れる電荷から電流および抵抗を定義し、電気回路における電流、電圧の基本法則について述べる) 9 電流と磁場、ローレンツ力 (磁束密度および磁場の強さの定義、荷電粒子および電流が流れている導線が磁場中で受ける力の法則について述べる) 10 静磁場の基本法則とアンペールの法則 (磁場に関するガウスの法則、電流の強さとその周りにできる磁場の間に成り立つ法則について述べる) 11 ビオ・サバールの法則 (任意の曲線導体を流れる電流によってできる磁場の計算方法、および応用例について述べる) 12 電磁誘導、コイルの自己誘導現象 (閉じた回路を貫く磁場の時間変化により生じる起電力の法則、コイル中の磁場の時間変化により自己誘導される起電力について述べる) 13 変位電流と誘導磁場 (平行板コンデンサー間の時間変化する電場から変位電流を定義し、変位電流の周りに発生する誘導磁場について述べる) 14 回路の過渡現象 (抵抗 R、コンデンサー C、コイル L からなる回路に、直流電圧をかけた場合の電流の過渡的变化を求め、回路の基本的性質について述べる) 15 交流回路 (交流電圧をかけた回路の電流の変化を交流抵抗 (インピーダンス) を用いて表す) 				
受講要件	微分・積分、線形代数、常微分方程式、ベクトル解析の理解が必要となるので、関連する数学の講義および演習は必ず履修しておくこと。				
テキスト	「ビジュアルアプローチ 電磁気学」(前田和茂, 小林俊雄 著, 森北出版) ISBN978-4-627-16221-1				
参考書	「大学演習電磁気学」(霜田・近角 編, 裳華房) ISBN-13:978-4785380106 「電磁気学の考え方」(砂川重信著, 岩波書店) ISBN-13:978-4000078925				
予習・復習について	講義時間内に行える演習課題数には限りがあるので、教科書および参考書の例題・練習問題は各自よく自習しておくこと。				
成績評価の方法・基準	授業での到達目標が達成され、電磁現象の理論的解析と工学的考察を行うための基礎能力があるかどうかを評価する。評価の配分は、試験が 70%程度、演習・レポート等が 30%程度である。				
オフィスアワー	質問は研究室で随時受け付けますが、応じられないときもあることを承知して下さい。				
担当教員からのメッセージ	学生名簿に基づいて分けられた2つのクラスを、岡部、中島がそれぞれ担当する。				

授業科目名	ことば (Language)				
担当教員名	近藤 真 (KONDO Makoto)		所属等	学院院情報学領域	
			研究室	J-1313	
分担教員名	綱川 隆司、竹内 勇剛、藤森 敦之				
クラス	情工	学期	前期		必修選択区分 ー
対象学年	3年	単位数	2	曜日・時限	金 3・4
キーワード	コミュニケーション、言語学、自然言語処理、認知科学				
授業の目標	ことばは人間が生得的に備えている能力のひとつであり、すべての人々のあらゆる知的活動にことばが関わっていると見える。この講義では、私たちの日常生活に遍在することばにあらためて関心を向けることによって、ことばについての認識を深めることを目標とする。				
学習内容	授業では、ことばの本質についての理論的取り組み、情報技術的取り組み、コミュニケーションにおけることばの働きなどに焦点をあて、各講師が言語学、認知科学、自然言語処理といった視点から、ことばの諸側面について概説する。				
授業計画	<p>近藤（言語学）、竹内（認知科学）、綱川（自然言語処理）、藤森（言語学）の4名が分担して講義を担当する。</p> <p>第1回： オリエンテーション 第2回-第3回： コミュニケーションにおけることばの役割とその特徴（近藤） 第4回-第6回： ことばのコミュニケーションに対する認知科学的アプローチ（竹内） 第7回-第9回： ことばに対する工学的アプローチ（綱川） 第10回-第12回： ことばに対する言語習得的アプローチ（藤森） 第13回-第15回： ことばの文法に対する理論的アプローチ（近藤）</p> <p>※各講師の順序および担当回数は変更される場合がある。</p> <p>【各教員への連絡方法について】 各教員への連絡は、メールを利用すること。直接、話したい場合でも、まずメールでアポイントを取ること。</p> <p>近藤： mkondo@inf.shizuoka.ac.jp 竹内： takeuchi@inf.shizuoka.ac.jp 綱川： tuna@inf.shizuoka.ac.jp 藤森： fujimori.atsushi@shizuoka.ac.jp</p>				
受講要件	特になし。				
テキスト	特に指定しない。				
参考書	各講師が必要に応じて、授業の中で関連する参考文献を紹介する。				
予習・復習について	各トピックの講義では、そのトピックに関する前回の講義内容を理解していることが前提となって講義が進められる。毎週の講義の後で必ず復習をして、各週の講義内容を、その週のうちに理解するよう努めること。				
成績評価の方法・基準	各トピックごとにレポートを課し、各レポートをそれぞれ20%とし、それらの合計点で評価する。 ※未提出のレポートがある場合には、提出されたレポートの合計点に関わらず、最終評価を「不可」とする。				
オフィスアワー	近藤のオフィスアワーは火曜 3・4 時限。各教員への連絡方法は授業計画欄を参照。				
担当教員からのメッセージ	普段、あたりまえのように使っていることばを見直すことが、みなさんの知的好奇心を刺激することを願っています。				

授業科目名	こころの深層 (The Depth of Mind)				
担当教員名	太田 裕一 (OTA Yuichi)		所属等	保健センター	
			研究室	工学部 7 号館 3 F	
分担教員名					
クラス	情工	学期	前期		必修選択区分 ー
対象学年	3 年	単位数	2	曜日・時限	金 3・4
キーワード	アニメーション、物語分析、象徴解釈、臨床心理学、精神分析、民俗学、宮崎駿、細田守、新海誠、片渕須直				
授業の目標	臨床心理学、民俗学、社会学などの学問を借りつつ、いつも違う視点からものを眺め、考えてみることを通じて、与えられた問題に対する解答を見つけ出すのではなく、「問題」そのものを発見することの重要性について学びたいと思います				
学習内容	主にアニメーションを題材にして、そこに表現されている物語構造、象徴表現などを新たな角度から解釈し直します。				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 「アルプスの少女ハイジ」のフラクタル構造 2. 「となりのトトロ」におけるファンタジー 3. 「パンダコパンダ」と異類婚 4. 「千と千尋の神隠し」と異界 5. 「おジャ魔女どれみ」と少女の成長 6. 「おジャ魔女どれみ」と情緒的恒常性の確立 7. 「秒速5センチメートル」における幻想の北関東 8. 「ほしのこえ」と世界の移行 9. 「デジタルモンスター ぼくらのウォーゲーム」における隠された主題 10. 「ポケットモンスター」と不死身の身体 11. 「新世紀エヴァンゲリオン」とトラウマ 12. 「魔法少女まどか☆マギカ」と罪悪感 13. 「君の名は」と解離／否認 14. 「この世界の片隅に」と婚姻儀礼 <p>タイトルはあくまで仮題です。旬なアニメを取り入れたり、皆さんの毎回のレポートの希望を取りいれたりしながら適宜、変更します。</p>				
受講要件	つねに新たな視点を模索しようと試み、レポートを毎回提出する意欲のある人。				
テキスト	できれば「となりのトトロ」、「パンダコパンダ」、「千と千尋の神隠し」、「アルプスの少女ハイジ」、「かぐや姫の物語」、「新世紀エヴァンゲリオン」、「時をかける少女」、「ほしのこえ」、「秒速5センチメートル」、細田守演出の「おジャ魔女どれみ」「デジタルモンスター」、「魔法少女まどか☆マギカ」、「この世界の片隅に」、「君の名は」を見ておいてください。				
参考書	久能徹・太田裕一「史上最強図解 よくわかるフロイトの精神分析」(ナツメ社) 関心を深めたい方はどうぞ。講義で直接使用はしません。				
予習・復習について	イラスト、クソコラ、自作音楽、「歌ってみた」、「演奏してみた」、OP 動画(講義紹介、MMD、ゆっくり実況等)の投稿、講義中のコスプレ、サイリウムダンス(本人の許可なくネットに投稿禁止)、講義のネットラジオ等への投稿(過去実績:「ラブライブ! μ's 広報部」「sprite/fairys RADIO 緒方恵美と妖精の国〜あおかな広報局〜」)などで加点を行います。投稿は講義放映を前提とします。またアニソン、ボカロ曲のリクエストを募って講義中に講師が弾き語りを行います。				
成績評価の方法・基準	毎回電子メールによるミニレポート(400 字以上)、学期末の最終レポート(2000 字以上)で評価します。優秀ミニレポートは次回で発表し、ささやかですが賞品を差し上げます。最終レポートが提出できるのはミニレポートを 10 回以上提出している人に限ります。期末レポートの題は「自分の好きなアニメの分析」などを考えています。自分自身のオリジナルなものの方の見方や感覚を評価します。講義のまとめを書く必要はありません。インターネットのコンテンツを無断転載(コピー&ペースト)した人は不可とします。				
オフィスアワー	オフィスアワーは随時行います。カウンセリングの予約がはいっていることも多いので、できれば電子メール(ota.yuichi@shizuoka.ac.jp)で連絡を取ってからのの方が確実です				
担当教員からのメッセージ	過去の抽選状況は抽選がある年が半分くらいありました。優先シールを使えば受講できる可能性が高いですが、使わない人は抽選になるかもしれません。講義には twitter のハッシュタグ(昨年度は #kokoronos)を設定しネット実況を奨励します。希望者が集まればカラオケオフを開催する予定です。新鮮な視点を提供してくれる受講生の方をお待ちしています。				

授業科目名	エネルギーと環境 (Energy and Environments)				
担当教員名	大矢 恭久 (OYA Yasuhisa)		所属等	大学院理学領域	
			研究室	理学部 A202	
分担教員名	近田 拓未、矢永 誠人				
クラス	情工	学期	前期		必修選択区分 ー
対象学年	3年	単位数	2	曜日・時限	金 3・4
キーワード	エネルギー、環境、放射線、原子力、放射線影響、地球温暖化				
授業の目標	エネルギー問題および環境問題の現状について理解すると共に、放射線や核エネルギーと人間との関わりについて科学的な教養を深める。				
学習内容	エネルギーと環境問題についてサイエンスの観点から理解するとともに、その解決法の一つである核エネルギー発電の原理および仕組み、核エネルギー発電の問題点を学ぶ。また、放射線の応用的利用についても言及する。				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス (大矢) 2. エネルギー・環境問題(1) (近田) 3. エネルギー・環境問題(2) (近田) 4. 化石燃料とエネルギーセキュリティ (近田) 5. 原子力発電の仕組みと課題(1) ・原子炉 (中部電力：岡田) 6. 原子力発電の仕組みと課題(2) ・原子炉 (中部電力：岡田) 7. 放射性廃棄物の処理と処分 (原燃：坂本) 8. 原子力発電の仕組みと課題(3) ・まとめ (中部電力：岡田) 9. 核エネルギーの歴史 (大矢) 10. 核融合炉発電の仕組みと開発の現状 (大矢) 11. 原子力エネルギー行政 (静岡県：神村) 12. 温室効果ガス削減の取り組み (大矢) 13. 地球温暖化の科学・省エネルギー (大矢) 14. 放射線の測定と生物影響 (矢永) 15. エネルギーと環境および社会との関わり (矢永) <p>講義の順番は前後することがある。</p>				
受講要件	特になし				
テキスト	講義中に資料を配付する。				
参考書	エネルギーと地球環境 (エネルギーフォーラム)、原子力がひらく世紀 (日本原子力学会編)				
予習・復習について	テキスト、講義資料や関連図書による予習および復習を必ず行うこと。				
成績評価の方法・基準	講義中の小レポートおよび各教員が課すレポートにより評価する。				
オフィスアワー	8:00-20:00				
担当教員からのメッセージ	文理学生合同での講義のため、極力数式を用いない講義とする。エネルギー・環境問題に関する教養を深めることを主たる目標とする。				

授業科目名	科学技術と倫理を考える (Ethics in Science and Technology)				
担当教員名	清水 一男 (SHIMIZU Kazuo)		所属等	イノベーション社会連携推進機構	
			研究室	イノベーション社会連携推進機構 (浜松)	
分担教員名					
クラス	情工	学期	前期		必修選択区分
対象学年	3年	単位数	2	曜日・時限	金 3・4
キーワード	科学技術と倫理、科学と社会、社会責任と企業責任				
授業の目標	科学技術の発展に伴い、倫理的問題が顕在化しています。特に論文ねつ造やレポートのコピペ量産により大学における知の根幹がゆらいでいます。本講義では科学技術の社会及び自然に及ぼす影響・効果に関する理解力や責任について事例を扱いながら考えるとともに社会に対する責任を自覚する能力を身につけることを目標としています。				
学習内容	科学技術と倫理は一見、難しそうですが、皆さんの身の回りにも直結する事例が多々あります。社会に出て失敗するのは遅いので、本講義では学生時代に基本的倫理観を身につけられるような、科学技術と倫理に関する実践的対応力を養います。				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. 研究者（技術者）の責任ある行動とは 3. 科学者（技術者）になるということ 4. 科学における不正行為 5. これまでとこれからの日本 6. 科学研究における不正行為 7. 事例研究 1（研究者のモラル） 8. 研究開発 9. 研究で人間や動物を使用するとき 10. 個人の自立と科学者（技術者）の資質 11. 研究成果の共有 12. 事例研究 2（技術者の自律） 13. 知的財産の考え方 14. 特別講演（STAP 細胞問題とは） 15. 科学者（技術者）の倫理 				
受講要件	「科学者をめざす君たちへ」をテキストとするので予習しておく事。また「科学技術と倫理」に関する参考書にも目を通しておくことが望ましい。				
テキスト	「新・技術者になるということ」（雄松堂書店）				
参考書	米国科学アカデミー編集、「科学者をめざす君たちへ」（化学同人） 「科学技術倫理を学ぶ人のために」（世界思想社）など				
予習・復習について	講義時間内に取り上げる事例には限りがあるので、広く扱った事例集（参考書）や新聞等を読んでおくことで、科学技術と大学や倫理活動の動きを把握する事が望ましい。				
成績評価の方法・基準	講義への出席、小レポートと最終試験課題レポートを総合的に評価する。特に次の（１）～（３）の基準において評価する。 （１）科学技術と社会の関連において、科学者や技術者のあるべき姿が理解できる。 （２）科学者、技術者の倫理について理解している。 （３）科学者、技術者として社会に対する責任感と実践的対応力が理解できる。				
オフィスアワー	随時				
担当教員からのメッセージ	科学技術と倫理という難しそうなテーマにやさしく迫ってみよう。レポートや論文のコピペやねつ造など、誘惑は身の回りにありますが、皆さんの学生としての意識が少しでも変わってくれたら嬉しいです。講義資料は、清水研HPと学務情報システム LiveCampus の授業共有ファイルに毎回アップしますので、予習しておいてください。				

授業科目名	初修外国語（フランス語）入門 I (Basic French I)				
担当教員名	田中 柊子 (TANAKA Shuko)		所属等	大学院情報学領域	
			研究室		
分担教員名					
クラス	情	学期	前期		必修選択区分
対象学年	1年	単位数	1	曜日・時限	金 5・6
キーワード					
授業の目標	日常生活でよく使う簡単なフランス語を理解し、自分でも表現できるようにがんばりましょう。				
学習内容	教科書に沿ってフランス語文法を丁寧に学び、練習問題を繰り返し解くことで、フランス語の構造を理解し、フランス語独特の構文、表現に慣れます。授業ではたくさんフランス語を書き、声に出してフランス語を覚えます。フランスの文化や社会についても、お話しします。				
授業計画	回 内容 1 Leçon 0 発音の基礎 発音とつづり 2 Leçon 1 動詞 être 「はいいいえ」で答える疑問文 3 Leçon 1 否定形 名詞の男性/女性 4 Leçon 2 第一群規則動詞 (-er 動詞) 5 Leçon 3 疑問詞を使った疑問文 動詞 aller venir 6 Leçon 4 不定冠詞と定冠詞 第二群規則動詞 (-ir 動詞) 7 復習 8 小テスト 9 Leçon 5 動詞 avoir 10 Leçon 6 直接目的語代名詞 形容詞 11 Leçon 7 部分冠詞 動詞 boire faire prendre 12 Leçon 8 人称代名詞の強勢形 所有形容詞 強調構文 13 Leçon 9 数字 (1～6 9) 動詞 partir sortir dormir 14 復習 15 映画鑑賞				
受講要件					
テキスト	『Moi, je ... コミュニケーション』、Bruno Vannieuwenhuise など著、アルマ出版、2625 円(税込) ISBN 978-4-905343-03-5				
参考書	仏和辞書を必ず所持すること。ディコ仏和辞典（白水社）3990 円（税込）、プチ・ロワイヤル仏和辞典（旺文社）4200 円（税込）、クラウン仏和辞典（三省堂）4095 円、電子辞書など。 フランス語をめきめき上達させたい人には教科書と同じシリーズの文法版の購入をおすすめします。 『Moi, je...文法』 2625 円（税込）アルマ出版 ISBN 978-4-905343-02-8				
予習・復習について	授業の前に学習する項目に目を通し、単語の意味を調べておくこと。授業後は学習内容を確認するとともに、練習問題で間違ったところを見直すこと。				
成績評価の方法・基準	平常点（参加度・課題）30%、小テスト 30%、期末試験 40%				
オフィスアワー	初回授業時にお知らせします。 場所は J 2707 研究室（情報学部 2 号館 7 階）です。				
担当教員からのメッセージ	お店やマンション、洋菓子の名前など、普段の生活の中でもフランス語があふれています。フランス語を勉強することで、いつもの風景が少し変わって見えてくるのではないのでしょうか。旅先でフランス語が使えたら、楽しさも倍増することでしょう。				

授業科目名	工学基礎化学 I (Basic Chemistry for Engineers I)				
担当教員名	植田 一正 (UEDA Kazumasa)		所属等	学術院工学領域	
			研究室	共通棟 5 階 507 室 (不在時は 511 室も)	
分担教員名					
クラス	工 (再履修生)	学期	前期		必修選択区分 必
対象学年	2 年	単位数	2	曜日・時限	金 9・10
キーワード	原子の構造、元素の周期律、化学結合と分子の構造、固体の化学				
授業の目標	基礎的な化学の知識を習得するとともに、実生活・社会との関わりについて、自ら考える力の基礎を養う。そのために、まず原子の構造を理解し、そこでの電子の振る舞いが元素の性質、化学結合、分子の構造、性質、反応性に重要な関わりがあることを学ぶ。				
学習内容	化学の基礎、化学的なものの考え方は、いずれの学科においても、素材や材料を扱う上で重要となるので、比較的やさしい理論的な取り扱いに基づいて講義する。その上で、実際の化学材料あるいは電子材料等に応用できる力を養う。				
授業計画	以下の授業内容と回数は目安であり、必ずしも固定されたものではない。より詳細な講義計画は、初回の講義の際に担当教員によって示される。進度によっては、中間のまとめ (8 回目) を実施しないこともある。また、随時演習を行う。 1 原子の構造と電子配置 (1) 原子と分子 2 原子の構造と電子配置 (2) 物質、電子の軌道 3 元素の周期性と属性 (1) 周期律 4 元素の周期性と属性 (2) 原子の大きさ、同位体 5 量子力学入門 (1) 光の粒子性と波動性、物質波 6 量子力学入門 (2) 波動関数、量子数 7 共有結合と配位結合 (1) 共有結合と電子式 8 中間のまとめ 9 共有結合と配位結合 (2) 分子軌道、配位結合 10 共有結合分子の構造 (1) 混成軌道 11 共有結合分子の構造 (2) 共鳴、共役系 12 イオン結合と水素結合 (1) イオン結合 13 イオン結合と水素結合 (2) 電気陰性度、水素結合 14 固体の化学 (1) 結晶構造、イオン結晶 15 固体の化学 (2) 金属結合、半導体				
受講要件	高校の化学の教科書をよく復習しておくことを要望する。				
テキスト	「基礎から学ぶ大学の化学」植田一正・梅本宏信・平川和貴・山田眞吉 共著 (培風館) ISBN978-4-563-04607-1				
参考書	化学入門シリーズ 1「化学の基礎」、竹内敬人著、同 2「物理化学」、関一彦著 (岩波書店) シリーズ 1 ISBN4-00-007981-6 シリーズ 2 ISBN4-00-007982-4 ; 一般化学、芝原寛泰・斉藤正治共著 (化学同人) ISBN4-7598-1020-X ; 化学－基本の考え方を中心に、Alan Sherman 他著、石倉洋子・石倉久之共訳 (東京化学同人) ISBN4-8079-0334-9				
予習・復習について	授業だけで理解することは難しいので、授業に匹敵する予習および復習が必要である。教科書の各章末の演習問題を復習課題として課す。また、別途演習課題を示すことがある。				
成績評価の方法・基準	個別目標が達成され、専門課程に進むための基礎学力と応用力が培われたかどうかを評価する。授業時間内の演習問題と、宿題に丁寧に取り組むことを求める。これによって、予習・復習をして授業に臨んでいるか否かを判断する。評価の配分は、試験 70%、演習・宿題 30%である。ただし、評価の内容は、80%が授業内容の理解、20%が理解した内容を応用する力である。学習度が 60%を満たしている場合を合格とする。				
オフィスアワー	講義後または教員室にてオフィスアワーを設けるが、具体的な曜日・時間については初回講義時に案内する。この時間帯以外でも可能な限り質問は随時受け付ける。なお、非常勤担当のクラスについては非常勤教員 (植田、梅本、宮林) が対応する。				
担当教員からのメッセージ	大学の化学は決して暗記科目ではない。常に、「何故そうなるのか」、「何故そのように考えるのか」という観点から学びを深めてほしい。				

授業科目名	塑性加工学 (Theory of Plastic Working)				
担当教員名	早川 邦夫 (HAYAKAWA Kunio)		所属等	学術院工学領域	
			研究室	M232	
分担教員名	吉田 健吾				
クラス	M i	学期	前期		必修選択区分 選択
対象学年	3年	単位数	2	曜日・時限	月 1・2
キーワード	塑性力学、圧延、曲げ加工、鍛造、引抜き、板成形、押出し、せん断加工				
授業の目標	材料の塑性変形能を利用した各種加工法についてまた、その基礎となる塑性力学について理解する。				
学習内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ 塑性力学の基礎 ・ 圧延加工 ・ 曲げ加工 ・ 鍛造加工 ・ 引抜き、押出し加工 ・ せん断加工・板成形加工 				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 塑性加工の意義，塑性力学の基礎（1）金属材料の塑性変形（早川） 2. 塑性力学の基礎（2）応力とひずみ（早川） 3. 塑性力学の基礎（3）主応力，偏差応力，不変量（早川） 4. 塑性力学の基礎（4）釣合い条件（早川） 5. 塑性力学の基礎（5）変形およびひずみ（早川） 6. 塑性力学の基礎（6）降伏条件（早川） 7. 塑性力学の基礎（7）塑性構成式（早川） 8. 中間試験および解説 9. 鍛造加工（吉田） 10. 引抜き加工（1）（吉田） 11. 引抜き加工（2）（吉田） 12. 板成形加工（1）（吉田） 13. 板成形加工（2）（吉田） 14. 板成形加工（3）（吉田） 15. 塑性加工の最新動向（吉田） <p style="text-align: center;">期末試験</p>				
受講要件	材料力学，材料加工学を修得していることが望ましい				
テキスト	基礎からわかる塑性加工（長田・柳本，コロナ社）				
参考書	塑性加工入門（日本塑性加工学会編，コロナ社） 基礎塑性力学（野田・中村，日新出版）				
予習・復習について	毎週，復習レポートを出すので提出すること。				
成績評価の方法・基準	復習レポートを提出することが期末試験を受ける前提となる。評価の配分は，中間試験50%，期末試験50%である。 「秀、優、良、可、不可」の評価基準は次の通りである。 秀・・・「塑性加工学」の全般が理解に優れ、かつ応用に優れる 優・・・「塑性加工学」の全般が理解でき、かつ応用できる 良・・・「塑性加工学」の全般が理解できる 可・・・「塑性加工学」の基本が理解できる 不可・・・「塑性加工学」の基本が理解できない 再試験：再試験は行わない。				
オフィスアワー	特に定めていない。可能な限り随時受け付ける。				
担当教員からのメッセージ					

授業科目名	基礎電子回路 (Basic Electronic Circuits)				
担当教員名	猪川 洋 (INOKAWA Hiroshi)		所属等	電子工学研究所	
			研究室	光創起棟 406 室	
分担教員名					
クラス	D	学期	前期		必修選択区分
対象学年	2 年	単位数	2	曜日・時限	水 1・2
キーワード	電子回路、ダイオード、接合形トランジスタ、電界効果トランジスタ、増幅回路、バイアス回路、接地方式、等価回路				
授業の目標	電気回路との違い、電子回路の基本要素を学び、身近な電子機器に用いられているアナログ信号処理回路の基本である増幅回路の動作原理を理解する。				
学習内容	1. 電子回路で使用する基本的な部品（抵抗、コイル、コンデンサ、ダイオード、トランジスタ等）の現実の特性と使い方、および能動素子の「等価回路」を理解する。 2. 増幅回路の基本（バイアス、増幅動作）を理解する。				
授業計画	回 内容 1 電子回路の構成要素と解析の基礎 2 半導体素子の概要 3 ダイオードの特性と使い方 4 接合形トランジスタの原理と増幅作用の基本（構造と静特性） 5 同上（ベース接地の増幅動作） 6 エミッタ接地増幅回路（回路構成と静特性） 7 同上（エミッタ接地の増幅動作） 8 接合形トランジスタの等価回路（T形、hパラメータ） 9 等価回路を用いた増幅動作の解析 10 各種バイアス回路と安定指数 11 コレクタ接地増幅回路および各接地方式の比較（まとめ） 12 電界効果トランジスタの原理と増幅作用の基本（構造と静特性） 13 同上（等価回路とバイアス法） 14 同上（各接地方式の増幅動作の解析） 15 増幅回路の設計法の例				
受講要件	「電子物理数学」、「基礎電気回路」を十分に理解している必要がある。				
テキスト	「わかるアナログ電子回路」江間義則 他(著)、日新出版、2006、ISBN 9784817302274				
参考書	「電子情報回路 I」樋口龍雄・江刺正喜(著)、昭晃堂、1989、ISBN 4785611626 「アナログ電子回路」石橋幸男(著)、培風館、1990、ISBN 4563033340				
予習・復習について	授業時間だけでなく予習および復習の時間が必要である。教科書の演習問題は、特に指定しなくても、解答を見ないで自習課題として解くこと。授業でノートを取り、それに基づいて復習を十分に行うこと。				
成績評価の方法・基準	出席率が3分の2以上の学生を成績評価の対象とする。期末試験の得点60点以上を合格とする。				
オフィスアワー	随時（ただし事前に連絡をとり予定の確認をする事）				
担当教員からのメッセージ	本科目で学習する電子回路は、身近なオーディオ・ビジュアル機器や携帯電話などの基本回路にもなっている。興味を持って学習して欲しい。				

授業科目名	センサ工学 (Sensor Engineering)				
担当教員名	坂田 肇 (SAKATA Hajime)		所属等	大学院工学領域	
			研究室	合 401	
分担教員名					
クラス	EJ	学期	前期		必修選択区分 選択
対象学年	4年	単位数	2	曜日・時限	水 3・4
キーワード	物理量変換、センシング、計測技術				
授業の目標	現代社会はいたる所にセンサを含めた計測技術が使用されている。センサは人間に例えれば五感に相当するもので、現在では半導体などを利用した新しい素子の開発やコンピュータの進展にともない、その技術範囲はより広く、よりフレキシブルに発展している。この講義では、これまでに習得した電気電子工学の専門的知識を駆使し、対象の状態を把握するためのセンサの原理と、センサを応用したセンサシステムについて理解することを目標とする。				
学習内容	センサ工学は電気電子工学の重要な応用科目の一つである。学習内容は、センサがどのような物理的効果を利用し、またどのようなシステム技術を使い、現象を最終的にデータに変換するのかを理解する。				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1.センサシステムの基礎 2.センシングデータの処理と評価 3.光のセンサ 4.温度のセンサ 5.磁気に感じるセンサ 6.圧力や歪みのセンサ 7.変位や位置のセンサ 8.回転角度／速度のセンサ 9.イメージセンサ 10.超音波の発信と受信 11.超音波センシング 12.赤外線利用センシング 13.形や色を測る 14.光波センシング 15.画像の利用 				
受講要件	電磁気、回路、計測、光学、物理について復習しておく。				
テキスト	「基礎センサ工学」(稲荷隆彦著、コロナ社)				
参考書	「センシング工学」(新美智秀著、コロナ社)				
予習・復習について	講義内容をより理解するために、テキストについて必ず予習すること。				
成績評価の方法・基準	授業中の演習および期末試験により評価する。講義回数の2/3以上の出席を成績評価の条件とする。				
オフィスアワー					
担当教員からのメッセージ	私たちの身の周りには、数多くのセンサがあふれています。どのようなセンサが私たちの生活を支えているか興味を持ってみてください。				

授業科目名	電気電子材料工学 (Electrical and Electronic Material Engineering)				
担当教員名	喜多 隆介 (KITA Ryusuke)		所属等	学術院工学領域	
			研究室	工学部 E 棟 320	
分担教員名					
クラス	EE	学期	前期		必修選択区分 選択
対象学年	4 年	単位数	2	曜日・時限	木 3・4
キーワード	導電体材料、超伝導体材料、半導体材料、抵抗体材料、誘電体絶縁体材料、磁性体材料、IC プロセス				
授業の目標	電気・電子機器に使われている様々な材料について、その基本的な物性を理解し、その具体的な応用について学習する。				
学習内容	現代社会には様々な電気・電子機器があふれており、これらは電気・磁気・光エネルギー等を様々な形で運用して動いている。それらを支えているのは様々な電気・電子材料である。本講義では、膨大な電気・電子材料を導電体材料、抵抗材料、半導体材料、磁性体材料、誘電体絶縁体材料に大きく分け、その機能と具体的応用例について講義する。				
授業計画	0. 電気電子材料の種類とその機能 1. 電子物性の基礎（電子のエネルギー状態、量子論の基礎、シュレディンガー方程式、状態密度、バンド構造） 2. 導電体材料 <ul style="list-style-type: none"> ・金属の中の電子の運動 ・金属導電体材料の特性（導線材料） ・特殊導電材料（接触子材料、ヒューズ材料等） 3. 超伝導体材料（超伝導現象、金属系超伝導材料、酸化物超伝導体） 4. 抵抗材料 <ul style="list-style-type: none"> ・電流による抵抗体の発熱機構 ・精密抵抗材料、電流調整用抵抗材料、電熱・照明用抵抗材料 ・特殊抵抗材料（サーミスタ、バリスタ、感ガス、感歪、感磁、感光抵抗材料） 5. 磁性体材料 <ul style="list-style-type: none"> ・磁気モーメントと磁性、磁性体の種類 ・磁区と磁化、軟磁性材料と硬磁性材料 6. 誘電体絶縁体材料 <ul style="list-style-type: none"> ・誘電分極とその種類及びメカニズム、誘電分散 ・強誘電体材料の種類、圧電効果、焦電効果 ・コンデンサ材料及び絶縁体材料の種類と特徴 7. その他の材料 <ul style="list-style-type: none"> ・ディスプレイ用材料 ・炭素材料 ・レーザ材料 ・有機電子材料 8. 一般的な電気電子材料の解析技術 9. 半導体材料 <ul style="list-style-type: none"> ・半導体のキャリア濃度 ・FET プロセス 				
受講要件	固体物理の初歩について理解していることが望ましい				
テキスト	特になし。授業中に適宜プリントを配布する。				
参考書	一ノ瀬 昇 編著、電気電子機能材料、オーム社 キッテル著、固体物理入門、丸善				
予習・復習について	授業の十分な理解のために、授業中指示された予習・復習を必ず行うこと。理解度の確認のため授業中適宜演習を行う。レポート提出を課す場合もある。				
成績評価の方法・基準	授業での到達目標が達成され、電気電子材料における基本的な理解がなされたかどうか評価する。評価の配分は、試験 80%、演習・レポート 20%である。評価点が 60 点以上である場合を合格とする。				
オフィスアワー	あらかじめメールでアポイントを取ってから来て下さい。kita.ryusuke@shizuoka.ac.jp				
担当教員からのメッセージ	身の回りの電気電子関係の機器に、どのような電気電子材料が利用されているのか、関心をもって調べてみることを薦めます。				

授業科目名	システム基礎数学 (Basic Mathematics in Systems Engineering)				
担当教員名	宮崎 倫子 (MIYAZAKI Rinko)		所属等	学術院工学領域	
			研究室	システム棟 7 1 7 号室	
分担教員名					
クラス	S	学期	前期		必修選択区分 選択
対象学年	1 年	単位数	2	曜日・時限	木 3・4
キーワード	論理式、集合、位相				
授業の目標	集合と位相に関する基礎的な事項を修得する。同時に、それらを論理的に記述し証明する力を養う。				
学習内容	高等学校までに履修してきた数学的知識のうち、情報系の数学に深く関連する「集合と論理」を基礎として、システム工学の一分野である非線形計画問題や非線形システムの安定性問題などの解析に必要な位相（特に距離空間における位相）の概念を学ぶ。その中で、論理的なものの考え方や数学的な記述方法を身につける。				
授業計画	回 内容 1 証明と論理（高校数学から） 2 命題，論理演算，論理式と真理値 3 論理式と真理値，恒真命題と同値命題 4 命題関数と限定命題 5 2変数命題関数と限定記号の順序交換 6 集合 7 集合と論理式 8 べき集合・直積集合 9 写像 10 ユークリッド空間 11 距離空間 12 ユークリッド空間と距離空間 13 開集合・閉集合 14 距離空間の位相 15 位相空間				
受講要件	特になし				
テキスト	鈴木晋一：「集合と位相への入門」，サイエンス社，2003年，ISBN 978-4-7819-1034-5				
参考書	齋藤正彦：「数学の基礎」，東京大学出版会，2002年，ISBN 978-4-13-062909-6 齋藤正彦：「日本語から記号論理へ」，日本評論社，2010年，ISBN 978-4-535-78554-0 永田雅宜：「集合論入門」，森北出版，1970年，POD版 2003年，ISBN 978-4-627-00219-7				
予習・復習について	授業時間内に予習・復習の項目を指示する。				
成績評価の方法・基準	授業目標が達成されているかを評価する。 評価点数の配分は，授業時間内に実施する小テストまたはレポート課題の合計が40%，期末試験の成績が60%。				
オフィスアワー	「数学の広場」（工学部6号館1階）を利用されたい。				
担当教員からのメッセージ	何事にも言えることであるが，基礎をおろそかにしないこと。推論では必要条件，十分条件を意識すること。				

授業科目名	弾性力学 (Theory of Elasticity)				
担当教員名	島村 佳伸 (SHIMAMURA Yoshinobu)		所属等	学術院工学領域	
			研究室	M229	
分担教員名					
クラス	M i	学期	前期		必修選択区分
対象学年	3年	単位数	2	曜日・時限	選択
キーワード	応力、ひずみ、構成方程式、2次元弾性問題、有限要素法				
授業の目標	<p>材料・部材・構造物に生じる応力・変形を取り扱う弾性力学について学習する。特に、弾性体の力学の基礎知識とその体系について習得する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 応力の概念とその性質の修得 2. ひずみの概念とその性質の修得 3. 構成方程式の修得 4. 弾性問題の解法の理解 5. 応力集中に関する理解 6. 有限要素法の基礎理論の理解 				
学習内容	弾性力学は、材料力学の基礎知識をベースに、固体の応力や変形を正確に求めるための学問である。そのため弾性力学の講義において、応力と変形を求めるための基礎方程式の導出から、実用上重要ないくつかの問題に対する理論解の導出までを通して行なうことで、その理論体系を学習する。さらに、弾性力学に基づいた応力や変形の数値解析手法（有限要素法）についての基礎理論を習得する。				
授業計画	<p>回 内容</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 授業ガイダンス（授業内容，注意点）。緒論（弾性力学とは） 2 基礎理論（応力1） 3 基礎理論（応力2） 4 基礎理論（変形とひずみ1） 5 基礎理論（変形とひずみ2） 6 基礎理論（構成式，降伏条件） 7 基礎理論（弾性基礎方程式と弾性力学の問題の解法） 8 エネルギー原理 9 二次元問題1（2次元問題の基礎，平面ひずみ，平面応力） 10 二次元問題2（諸関係式の極座標表示） 11 二次元問題3（応力関数） 12 二次元問題4（応力集中問題） 13 数値解法1（有限要素法，仮想仕事の原理） 14 数値解法2（ひずみ-変位マトリックス，剛性方程式） 15 数値解法3（境界条件と解の求め方，解析手順） 				
受講要件	材料力学 I，材料力学 II の単位を取得していることが望ましい。				
テキスト	「弾性力学入門—基礎理論から数値解法まで」，竹園 茂男，埜 克己，感本 広文，稲村 栄次郎（共著），森北出版，ISBN：9784627666412				
参考書	「弾塑性力学の基礎」，吉田 総仁（著），共立出版，ISBN：9784320081147				
予習・復習について	関連科目の復習を含め，予習・復習を十分に行うこと。				
成績評価の方法・基準	<ol style="list-style-type: none"> 1. 毎週の小レポートと期末試験により成績を評価する。評価の割合は、期末試験 80%，レポート 20%とする。 2. 評価基準 <ul style="list-style-type: none"> 秀・・・「弾性力学」の全般が理解に優れ、かつ応用に優れる 優・・・「弾性力学」の全般が理解でき、かつ応用できる 良・・・「弾性力学」の全般が理解できる 可・・・「弾性力学」の基本が理解できる 不可・・・「弾性力学」の基本が理解できない 3. 再試験：実施しない。 				
オフィスアワー	毎週木曜日の 9・10 時限にオフィスアワーを設けています。また、オフィスアワー以外でも質問は随時受け付けますが、応じられないときもあることを承知ください。				
担当教員からのメッセージ	この授業は、機械構造設計に不可欠な応力解析、変形解析に関する基本的な学問体系の解説と、その応用である有限要素法の基礎理論の解説を目的としています。興味を持って授業に臨み、基本をきっちり身に付けて下さい。				

授業科目名	博物館概論 (Introduction to Museology)				
担当教員名	高松 良幸	所属等	大学院情報学領域		
		研究室			
分担教員名					
クラス	1 クラス	学期	前期		必修選択区分
対象学年		単位数		曜日・時限	月 1・2
キーワード	博物館、学芸員、生涯学習、パブリック				
授業の目標	博物館が、近・現代社会においてどのような社会的役割を果たしているのかについて、博物館史、博物館の現状等から考察するとともに、博物館において果たすべき学芸員の使命・職務内容等について、総括的な理解を図る。				
学習内容	欧米、アジア、日本などの博物館の歴史を確認するとともに、現代社会の中で、博物館とはいかなる存在か、あるいはどのような機能を果たしているかについて理解を図る。また、学芸員の職に就く場合、どのような心構えと使命感が必要か、一方、例えば学芸員の職に就かない場合でも、学芸員の資格を有するものが社会に対して果たすべき役割とは何か、などについて考察する。				
授業計画	<p>回 内容</p> <p>1 博物館学と博物館学芸員資格 博物館学関連講義、博物館学芸員資格の概要を説明</p> <p>2 博物館の分類 設置形態、館種等による分類をおこなうことで、博物館と称される文化施設はいかなるものかを考察</p> <p>3 博物館の歴史 1 ヨーロッパにおける博物館の歴史を概観し、同社会における博物館の機能、位置づけ等を考察</p> <p>4 博物館の歴史 2 アメリカにおける博物館の歴史を概観し、同社会における博物館の機能、位置づけ等を考察</p> <p>5 博物館の歴史 3 アジア・アフリカにおける博物館の歴史を概観し、同社会における博物館の機能、位置づけ等を考察</p> <p>6 博物館の歴史 4 日本における博物館の歴史を概観し、同社会における博物館の機能、位置づけ等を考察</p> <p>7 博物館関連法規 博物館法その他博物館関連法規の紹介、その現状における問題点の指摘</p> <p>8 学芸員の職務 学芸員の多岐にわたる職務内容とその問題点を指摘。また学芸員資格取得に関する問題を検討</p> <p>9 博物館の組織と設備 博物館における人事・組織とその業務に必要な設備のあり方について考察、ボランティア、友の会などの外部組織と博物館組織の連携についても論及</p> <p>10 博物館の運営 博物館活動を活性化させるための人材、資料、資金、情報等のマネジメントのあり方について考察</p> <p>11 博物館資料の収集と保存 博物館資料の収集、保管について論及</p> <p>12 調査研究機関としての博物館 博物館における調査研究活動のあり方を考察</p> <p>13 博物館における展示 博物館活動の中心である展示のあり方について検討</p> <p>14 生涯学習機関としての博物館 博物館における教育普及活動の諸様態を紹介</p> <p>15 まとめ コミュニティーの拠点としての博物館の役割</p>				
受講要件					
テキスト	必要に応じてプリント等を配布する				
参考書	鈴木真理編『博物館概論』(大堀哲監修『博物館学シリーズ』第1巻) 樹村房 1999				
予習・復習について	授業時間の2倍程度の予習・復習時間が必要である				
成績評価の方法・基準	講義期間中の小レポート(10%)、期末試験(90%)により評価する				
オフィスアワー	授業中に指示する				
担当教員からのメッセージ	受講者には積極的に周辺の各種博物館を見学することを勧めます。				

授業科目名	人間情報処理論 (Human Information Processing)				
担当教員名	竹内 勇剛		所属等	大学院情報学領域	
			研究室		
分担教員名					
クラス	1 クラス	学期	前期		必修選択区分
対象学年		単位数		曜日・時限	月 5・6
キーワード	認知的合理性、身体性、ベイズ統計、ヒューマンエラー、知的インタラクション、生態学的行動				
授業の目標	人間の知的さ、賢さを、個体とその環境との相互作用（インタラクション）の中に位置づけられた存在という観点から考察し、次世代の情報科学の基盤となる人間がもつ知的能力と人工知能とのコラボレーション関係の構築のための指針を得ることを目指します。				
学習内容	<p>人間は知的 (intellectual) であるというアприオリな認識のもとで私たちは自分や他人の行動を理解し、それを疑うことはあまりしません。しかし私たちの日常の中でのさまざまな判断は、論理的・数理的・理性的な視点から見ると、とても知的であるとは言い難いことばかりです。</p> <p>この授業では、人間の認知と行動を個体としてではなく、環境と相互作用（インタラクション）する存在として捉えたとき、人間の知性、知的さ、賢さとは一体どのように定義できるのかを探索的に考察し、実験や議論を通して「情報科学」的観点から人間とは何かを明らかにしていきます。</p>				
授業計画	<p>[0] オリエンテーション</p> <p>[1] 人間という存在 (3回) 人間とはどういう存在であるかを再確認し、システムの振る舞いに対してどのような認識と反応を示す行動特性をもつかを事例を通して理解する。</p> <p>[2] ベイズ統計から見た人間の判断 (6回) 人間にとっての合理的な判断の数学的な妥当性から見た人間の認知過程を理解する。</p> <p>[3] ヒューマンエラーとその背景 (3回) 人間が犯す間違い・事故の背後にある人間の認知と環境とのインタラクションとの関係について事例と実験を通して理解する。</p> <p>[4] まとめ (2回)</p>				
受講要件	特になし。ただし「認知科学」等の認知系の授業を履修してくることが望ましい。				
テキスト	指定しない。				
参考書	適宜授業の中で紹介する。				
予習・復習について	授業の前日までには当日使用するスライドを公開しておくので要予習。復習は授業の中で出題する課題に取り組むことで、当日中に授業の内容を完全に学習する。				
成績評価の方法・基準	数回の小レポート（授業中に行なうものも含む）と中間／学期末の課題レポートによる成績評価。				
オフィスアワー	あらかじめメールでアポイントメントをとってもらえれば、できるだけ互いの都合のいい時間を確保する。				
担当教員からのメッセージ	覚える授業ではなく、考える授業です。				

授業科目名	博物館経営論				
担当教員名	高松 良幸		所属等	大学院情報学領域	
			研究室		
分担教員名					
クラス	1クラス	学期	前期		必修選択区分
対象学年		単位数		曜日・時限	月 9・10
キーワード	博物館組織、マネジメント、ホスピタリティ、NPO、知的財産、教育普及				
授業の目標	博物館の運営に関する基礎的知識、博物館における各種事業に関する現状と、今後のあり方についての理解を図ることを目的とする。				
学習内容	現在日本の博物館が抱える資金、人材、設備等の運営に関する諸問題についての理解を図るとともに、それらに立ち向かって行くための方策を、ミュージアム・マネジメントの立場から検討する。また、コミュニティの文化コアとして、今後求められる博物館像とはいかなるものかについて、博物館の教諸事業のあり方を通して考察する。				
授業計画	回 内容 1 博物館運営戦略Ⅰ－博物館の使命構築 2 博物館運営戦略Ⅱ－使命に基づいた戦略・評価とは 3 博物館資金戦略 4 博物館人材戦略 5 博物館設備戦略 6 ミュージアム・リスクマネジメント 7 ミュージアム・マーケティングⅠ 8 ミュージアム・マーケティングⅡ 9 博物館と知的財産権ビジネス 10 ミュージアム・グッズ論 11 教育普及事業とその運営 12 博物館におけるパブリック－博物館の社会連携のかたち 13 ミュージアム・コミュニケーション－利用者と対話する博物館 14 ハコから飛び出すミュージアム－博物館の地域連携 15 今後の博物館運営に求められるもの				
受講要件					
テキスト	適宜教材資料を配布する				
参考書	授業中に指示する。				
予習・復習について	授業時間の2倍程度の予習・復習が必要である。				
成績評価の方法・基準	レポートにより評価する。 レポートの評価は、講義内容の理解度を50%、応用・発展度を50%で行う。				
オフィスアワー	授業中に指示する。				
担当教員からのメッセージ	博物館や文化財の現場に触れる機会をできるだけ設けられることをお勧めします。				

授業科目名	メディア・デザイン論 (Media Design)				
担当教員名	赤尾 晃一		所属等	大学院情報学領域	
			研究室		
分担教員名					
クラス	1 クラス	学期	前期		必修選択区分
対象学年		単位数		曜日・時限	火 3・4
キーワード	ガバナンス、ジャーナリズム、オルタナティブ・メディア、NPO/NGO、地域メディア、言論の自由、パブリック・アクセス、ソーシャル・メディア、メディア・アクティビズム				
授業の目標	<p>新しい社会(公共)をデザインする場合、メディアは重要なツールとなりうる。逆に、メディアを新しくデザインすることが新しい社会(公共)のガバナンスに通じることもある。その際、どんな中身(酒)をどんなメディア(器:革袋)に盛るかは熟慮する必要がある。古い皮袋に古い酒を注いだのでは、何のインパクトも与えられないからだ。そして、皮袋が新しいからといって(ネットメディアを使ったからといって)、それだけで社会の変革が成し遂げられるわけではない。</p> <p>本講義は、新しい革袋に新しい酒を盛り、その酒が社会を変える契機になるようなメディアデザインの方法論を、受講者が掴み取ることを目標とする。</p>				
学習内容	<p>マスメディア四媒体以外のさまざまな表現・伝達メディアを用いて、ニュースを報道すること、オピニオンを表明すること、パブリック・リレーションズを築くこと、そしてエンタテインメントを与えることを「メディア・アクティビズム」と総称する。また、マスメディア四媒体(とくにテレビ・ラジオ放送)には、市民的言論権の行使として「パブリック・アクセス」の権利がある。1970年代まではそうした活動は「メディアゲリラ」または「オルタナティブメディア」と称されてきた。</p> <p>以上の歴史的経緯を踏まえつつ、メディア・デザインのためのさまざまな「道具箱」について、事例紹介を交えて紹介する。</p> <p>メディアの産業的側面については、傍論として触れることがある程度とする。</p>				
授業計画	<p>※講義項目の順序、取舍選択などについては変更がありうる。また、可能な限り、ドキュメンタリー映像を授業時に参照したい。</p> <p>回 内容</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 導入:オルタナティブ・メディアの思想史(エンツェンスベルガー/ベンヤミン) 2 (第1部)オルタナティブメディア
60年安保闘争と七社共同宣言——「声なき声」をめぐって 3 抵抗の方法論(1)——うたごえ運動・ミニコミ・ビラ・立て看・ティーチイン、デモ、広場と通路(1969年新宿西口地下“広場”) 4 抵抗の方法論(2)——ミニコミ誌・カタログ誌・喫茶店(ホールアース・カタログ/ぴあ/ほんやら洞) 5 抵抗の方法論(3)——フラッシュ・モブ、サウンドデモ、オキュパイド 6 抵抗の方法論(4)——自由ラジオ 7 (第2部)シビルミニマムとしてのメディア
地域メディア総論 8 書店と図書館 9 NPO/NGO とデジタルエンゲイジメント 10 パブリック・アクセス 11 (第3部)大震災との関わりでみるメディアデザインの思想
活字系メディアの役割 12 テレビメディアの役割 13 ラジオメディアの役割 14 ドキュメンタリーの役割 15 ソーシャルメディアの役割 				
受講要件	ID プログラムでメディア系の専門科目群に興味を持つ学生				
テキスト	特になし				
参考書	<p>金山勉・津田正夫編(2011)『ネット時代のパブリック・アクセス』世界思想社 松野良一(2005)『市民メディア論—デジタル時代のパラダイムシフト』ナカニシヤ出版 山田健太(2013)『3・11 とメディア 徹底検証 新聞・テレビ・WEB は何をどう伝えたか』トランスビュー 立入勝義(2011)『検証 東日本大震災 そのときソーシャルメディアは何を伝えたか?』ディスカヴァー・トゥエンティワン 河井孝仁・遊橋裕泰 (2009)『地域メディアが地域を変える』(日本経済評論社)</p>				

予習・復習について	授業で紹介・指定した文献を読むなどの「復習」が要求される
成績評価の方法・基準	大福帳・中間レポート(2~3回, 50%)と試験(50%, 最終レポートの場合もあり)
オフィスアワー	オリエンテーション時に指示する。
担当教員からのメッセージ	情報学部生はともすると、「ネットメディアさえあれば、問題はすべて解決する」という思考パターンに陥りがちである。むしろ、ネットは広報・PRメディアとして欠くことができない存在だろう。しかし、ネット以外の選択肢も含めて、自分が実現(発信)したいことに最も相応しいメディアを選び、そのメディアをデザインしていくことこそが、メディアに対する正しい向き合い方だと確信する。

授業科目名	ジェンダー論 (Gender Studies)				
担当教員名	笹原 恵		所属等	大学院情報学領域	
			研究室		
分担教員名					
クラス	1 クラス	学期	前期		必修選択区分
対象学年		単位数		曜日・時限	火 9・10
キーワード	ジェンダー、セクシュアリティ、セックス、性別役割分業・性別職務分離、女らしさ、男らしさ、性の多様性、セクシュアル・マイノリティ、ジェンダー平等、メディア・家庭・学校・職場、男女平等・男女共同参画				
授業の目標	本講義では、現代社会を考えるにあたって必須の課題、男女平等（ジェンダー平等、ジェンダーエクイティ）をすすめるために必要な社会認識及びそのための方法論（ジェンダー論）を学ぶ。本年度は、ジェンダーの観点から、メディア、学校、職場、家族などさまざまな領域を分析し、男女平等とは何か、男女平等の社会とはどのような社会か、またその実現のためには何が必要なかを考えていくことにしたい。受講生は、本講義を通し、「ジェンダー」の視点からの社会システム構築やコミュニティデザインを考えていくことができる。				
学習内容	<p>1. ジェンダーとは何か ジェンダーgenderとは、社会的・文化的に決定される性の側面を表す概念であり、「女らしさ」「男らしさ」や、性別役割分業（家事・育児・介護の分担のあり方）、性別職務分離（いわゆる「男性」職、「女性」職など）といった社会編成全体に関わる概念である。まずは極めて複雑で、重層的な概念である「性」について、セックスsex（生物学的・解剖学的性）、セクシュアリティsexuality（性自認、性指向）、ジェンダーgender（社会的・文化的性）の3つのレベルにおいて理解する。</p> <p>2. セクシュアリティとジェンダー 性教育や性暴力の問題などセクシュアリティに関わる問題やセクシュアルマイノリティが抱える悩みなどから、身体と精神の両方にかかわるセクシュアリティsexuality概念を深く見つめる。これらの問題から現代社会を照射することによって、近代社会システムの限界やこれからのあるべき姿について考えていくことにしたい。セクシュアルマイノリティとしては、主にトランスジェンダー（性同一性障害を含む）と同性愛者、両性愛者の抱える問題点を考える。</p> <p>3. 現代社会とジェンダー～現状と課題～ 現代社会を「ジェンダー」の視点から分析し、メディア、学校、職場、家族におけるジェンダーの実態をとりあげながら、ジェンダー研究の基礎視角を学ぶ。また女性差別撤廃条約をはじめとする世界的な男女平等の流れを振り返り、日本における男女共同参画政策について概観する。</p>				
授業計画	<p>ガイダンス：ジェンダーを学ぶ意味～なぜ「ジェンダー」を学ぶのか</p> <p>1. ジェンダーを理解するためのワークショップ *日常生活におけるジェンダーの問題を理解するためにグループワークを行う。</p> <p>2. ジェンダーとは何か *女性の人権の歴史：フェミニズムの歴史 *メンススタディズ（男性学）という視角 *多様な性概念 セックス/セクシャリティ/ジェンダー</p> <p>3. セクシュアリティとジェンダー *セクシュアリティの現況 *セクシュアルマイノリティの課題～性同一性障害とは何か、同性愛とは何かなど～ *性暴力と人権</p> <p>4. ジェンダーの現状と課題</p> <p>1) ジェンダーの社会化 ～ひとはどのようにして女/男になるか</p> <p>2) メディアの中のジェンダー *絵本が伝えるジェンダー *アニメ、テレビ番組、CMなどの中のジェンダー</p> <p>3) 学校・教育とジェンダー *進学率とジェンダー *学校におけるジェンダー・セクシュリティ問題</p> <p>4) 職場におけるジェンダー *女性・男性に向いている職業ってあるの？ *性別職域分離とは</p> <p>5) 家族とジェンダー *女性は自然に母親になる？ 男性が父親になるとは？ *家事・育児は誰の仕事？ *夫婦別姓を考える</p>				

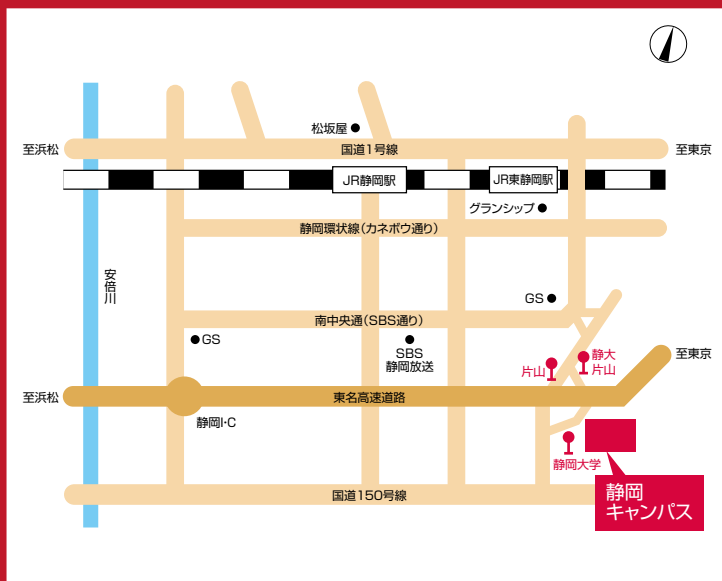
	<p>まとめ：男女平等・男女の対等性とは何か 政策としての男女共同参画社会 ジェンダーの変革のために何が必要か</p>
受講要件	<p>受講要件は特にありませんが、男女平等や人々の関係のあり方、またジェンダーやセクシュアリティに関心を持ち、柔軟な発想ができることが望ましいです。</p>
テキスト	<p>特に用いず、適宜、プリントを配付します。</p>
参考書	<p>授業中に連絡します</p>
予習・復習について	<p>最低限の予習・復習としては、①授業を受けた上での小レポート提出（出席票）、②授業前に読んでくるように指示したプリント講読、レポート作成、③単元毎に課すまとめの中レポート（アサインメント）。このほか、受講生それぞれが自分の関心に応じた予習・復習や関連資料、図書を積極的に読むことを期待します。</p>
成績評価の方法・基準	<p>予習・復習などの小レポート：4割（プレゼンなど授業での発表や発言なども含む） 単元毎のレポート：4割 最終レポート（受講生が関心をもつテーマで作成）：2割</p>
オフィスアワー	<p>授業中に連絡します</p>
担当教員からのメッセージ	<p>「ジェンダー」は女性の問題であると思っている人が大変多いのですが、ジェンダーとは女性と男性の関係性の問題であり、両性にかかわる重要な概念です。私たちは無意識のうちに「ジェンダー」<女らしさ・男らしさ、女だから・男だから>にとらわれており、それは他者だけではなく自分自身の行動や考え方を狭めています。それが社会的に作られてきたものであることに気づくなら（よって作り変えることができることに気づくなら）、もっと自由な発想と行動をすることができるようになると思います。また、性概念の多様性を学ぶことにより、人間観や家族観、社会観もまた違ったものになるかもしれません。そのためには、自身のものの見方・考え方を相対化し、より広い視角から社会や人間を見つめることが必要です。その学びが、皆さんの人生に、豊かさと幸福とをもたらすことを願っています。</p>

授業科目名	コミュニケーション・メディア史 (History of Communication and Media)				
担当教員名	森野 聡子		所属等	大学院情報学領域	
			研究室		
分担教員名					
クラス	1 クラス	学期	前期		必修選択区分
対象学年		単位数		曜日・時限	金 5・6
キーワード	情報伝達、マスメディア、視覚メディア、複製メディア、パノラマ、パノプティコン、VR、近代、歴史、ナショナリズム				
授業の目標	近現代において、さまざまなコミュニケーション・メディアが発展し、社会生活に定着してきた歴史をトピック的にたどることを通じて、現代のメディアの構造と機能について理解を深めることを目的とする。とりわけ、メディアと受け手/送り手の関係に注目し、その通時性を理解するとともに、現代的特質を実証的に考える力を養う。				
学習内容	<p>新聞・出版・放送・レコード・映画などのコミュニケーション・メディアは、近代化の過程において、多くの国の特性に応じて受容が進み社会に定着してきた。コミュニケーション・メディアの歴史に世界共通の〈不変的法則〉を見いだすことは不可能ではないが、〈固有性〉の方が際立つ。</p> <p>また、その〈固有性〉は現代のメディアの在り方にも影響を及ぼしている。その国や民族の基底をなす〈言論の風土〉に変化が乏しい限り、コミュニケーション・メディアを同じ作法で受容しようとする傾向がみられる。これが〈通時性〉と呼ばれる特徴である。本授業では、こうしたコミュニケーション・メディアの歴史的トピックについて講義し、現代との〈つながり〉について受講者と議論しながら考察を深めていきたい。授業の流れとしては、基本的なマスメディアの誕生の経緯と発展について学んだ後、森野担当分では近代イングランドのマスメディアの発達、赤尾担当分では日本のマスメディアの通史を「現実をベースとして再構成された物語の拡散装置」という観点から再構成して考えることで、社会的装置としてのメディアの役割をさらに深く掘り下げて学ぶ。</p>				
授業計画	<p>回 内容</p> <p>1 第 1 部 マスメディアの誕生と近代イングランドにおける発展 (森野)
1. ガイダンス: 「マスメディア」と耳の文化・目の文化</p> <p>2 2. ロンドン万博: 博覧会は「世界」を複製したメディア装置だ</p> <p>3 3. Illustrated London News: 新聞は「世界」をパノラマとして視る欲望を生んだ</p> <p>4 4. 少年冒険小説: 「南洋」「暗黒大陸」「アジア」は物語化された</p> <p>5 5. 推理小説: 謎解きはかくしてディナーのデザートになった</p> <p>6 6. 動画: 動く映像は人類を月へといざなう</p> <p>7 7. 王室: メディアはロイヤル・ファミリーを必要とする</p> <p>8 8. 「オリンピック」: メディア・イベントが「国家」という意識を生んだ</p> <p>9 第 2 部 マスメディアの発達と近代日本 (赤尾)
1. 日本のメディアの原点は江戸時代の「讀賣瓦版」にあった</p> <p>10 2. 明治新聞の「三面記事」がスクランダリズム (断罪報道) と“毒婦”を生んだ</p> <p>11 3. 明治期の自由民権運動と新聞は「誰でも言論人=壮士」の時代の魁だった</p> <p>12 4. 日清・日露の戦争報道で「軍国美談」の創作に新聞が荷担した</p> <p>13 5. 「声だけ」伝えるラジオは、感情に火を付ける煽動装置にもなった</p> <p>14 6. 「流行歌」や「映画」も国策を伝えるための手段 (戦時歌謡) になっていった</p> <p>15 7. 焼け跡闇市に花咲く「カストリ雑誌」はエロ・グロ・ナンセンスの伝道師だった</p>				
受講要件	「ジャーナリズム論」を受講済みであることが望ましい。				
テキスト	なし				
参考書	<p>次の書籍を推奨する。その他、授業時に随時紹介。</p> <p>吉見俊哉『メディア時代の文化社会学』(新曜社, 1994年)</p> <p>佐藤卓己『現代メディア史』(岩波書店, 1998年)</p> <p>ウォルター・オング『声の文化と文字の文化』(藤原書店, 1991年)</p>				
予習・復習について	担当教員より指示				
成績評価の方法・基準	教員ごとの課題 (2回) と参加態度				
オフィスアワー	木曜の昼休み (森野), 担当 1 回目の授業時に指示する (赤尾)				
担当教員からのメッセージ					

■静岡キャンパス

人文社会科学部・教育学部・理学部・農学部

〒422-8529 静岡県静岡市駿河区大谷 836



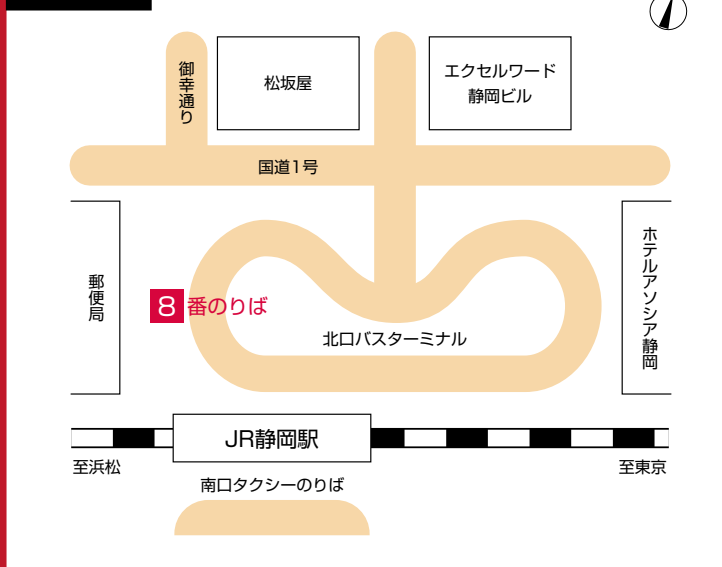
■浜松キャンパス

情報学部・工学部

〒432-8011 静岡県浜松市中区城北 3-5-1

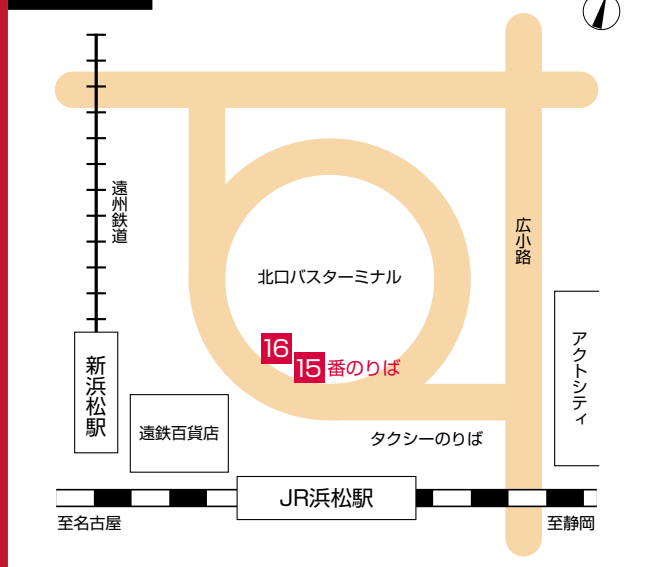


バス停案内図



1. JR静岡駅北口すぐつジャストラインバス8番乗り場から、「静岡大学」または「東大谷」行きに乗車し、「静岡大学」または「静大片山」バス停下車(所要時間約25分、1時間に5~7本運行)。※静岡駅午後発の「東大谷」行きバスは「静岡大学」バス停を経由しないため、「片山」バス停で降りてください。「片山」と「静大片山」バス停は位置が異なりますのでご注意ください。
2. JR静岡駅からタクシーで約15分。

バス停案内図



1. JR浜松駅北口バスターミナルより、遠州鉄道バス15番または16番乗り場から乗車し(全路線)、「静岡大学」バス停下車(所要時間約20分、1時間に10本程度運行)。
2. JR浜松駅からタクシーで約10分。

静岡大学イノベーション社会連携推進機構

Organization for Innovation and Social Collaboration

〒422-8529 静岡市駿河区大谷836

TEL: 054-238-4817 [平日9:30~16:00(4/10~4/21のみ、9:00~16:30)] FAX: 054-238-4295

E-mail: LLC@ipc.shizuoka.ac.jp http://www.Lc.shizuoka.ac.jp/